

茨城県笠間市

寺 上 遺 跡 2  
行 者 遺 跡 2

畑地帯総合整備事業(小原地区)寺上遺跡発掘調査報告書

2013

笠間市教育委員会  
関東文化財振興会株式会社

茨城県笠間市

寺 上 遺 跡 2  
行 者 遺 跡 2

畑地帯総合整備事業(小原地区)寺上遺跡発掘調査報告書

2013

笠 間 市 教 育 委 員 会  
関 東 文 化 財 振 興 会 株 式 会 社



寺上遺跡 調査区全景



行者遺跡 調査区全景

## 序

笠間市は、茨城県のほぼ中央に位置し、北西部には八溝山系が、南西部には吾国山・難台山・愛宕山が連なり、中央を北西部から東部にかけて涸沼川が大地を潤す自然豊かな地域です。また、河川流域や台上地より数多くの埋蔵文化財が確認されていることから、原始・古代より人々が生活を営むうえで最適の地域であったといえます。

今回の調査は県営畠地帯総合整備事業に伴う寺上遺跡の発掘調査であります。この調査の結果、奈良・平安時代の丘陵斜面に立地した集落跡から、住居跡が多数発見されました。また、耕作土中から瓦塔片が出上しました。これらの発掘調査成果によって、地域の歴史を知る上で重要な資料を得ることができました。この報告書を通して郷土の歴史に対する理解を深め、ひいては教育・文化向上の一助として多くの人々に広く活用されることを強く願っている次第です。

最後に、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、多大なるご指導・ご協力を賜りました関係機関並びに関係者に対しまして心より感謝申し上げます。

平成 25 年 3 月

笠間市教育委員会  
教育長 飯 島 勇

## 例　　言

- 1 本書は、茨城県笠間市小原地区に所在する寺上遺跡及び行者遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、畠地帯総合整備事業に伴う、埋蔵文化財発掘調査による記録保存を目的として実施された。
- 3 調査及び報告書作成は、笠間市教育委員会の指導・委託を受けて、関東文化財振興会株式会社が実施した。
- 4 遺跡の所在地、調査面積、調査期間は以下の通りである。

所在地	笠間市小原2320番地ほか
調査面積	17000m <sup>2</sup>
寺上遺跡	寺上遺跡・・・15800m <sup>2</sup> 、行者遺跡・・・1200m <sup>2</sup>
調査期間	平成23年10月25日～平成24年3月15日
整理工期	平成24年9月19日～平成25年3月15日
- 5 調査・整理担当者、筆跡分担については、以下の通りである。

寺上遺跡	宮田 和男（D区調査、D区整理・執筆、遺物撮影・編集）
鹿島 直樹（E・F区調査、E区整理・執筆）	
小野 麻人（F区整理・執筆）	以上、関東文化財振興会株式会社
行者遺跡	加藤 忠（遺構調査、遺構の整理・執筆）笠間市教育委員会
佐々木藤雄（遺物の整理・執筆）	
小野 麻人（執筆、遺物撮影・編集）	関東文化財振興会株式会社
- 6 調査で得られた資料は笠間市教育委員会で保管している。
- 7 調査及び報告書作成に際し、下記の諸氏・機関からご指導・ご協力を賜りました。記して感謝を申し上げます。

能島清光	川崎純徳	枝川永男	川井正一	斎藤弘道	松田政基	桝村宣行	原信田正夫	土生朗治
後藤一成	綿引英樹	宮田忠洋	刈谷崇文	池内寛	大久保豊史	茨城県教育委員会	財団茨城県教育財團	茨城県農林事務所
小原土地改良区	篠原電工	塙田工務店	JT空撮	カワヒロ産業				
8 本書の作成作業にあたっては、青木毅彦	市毛友則	川又恵美子	菊池芳子	木村浩	鈴田典子	佐久間弘美	佐久間憲子	佐久間淳子
弘美	佐久間憲子	田口暁子	田辺伸子	中里ひろみ	萩原宏季	益子光江	村山卓	森高みづ子
9 発掘調査参加者は以下の通りである。								
青木誠	飯田昭	稻見和子	稻見幸子	岩田時彦	枝川幸光	海老沢武	大山年明	小坂部克己
鬼沢勲	大提靜江	小山義則	加藤輝雄	川又恵美子	川又誠二	郡司ゆき子	小久保勝司	今野春雄
今野美登里	斉藤幸一	佐久間亜貴	佐久間頼美	佐久間憲子	佐久間弘美	佐藤武志	佐藤としえ	佐藤利男
塙田勝利	篠原一郎	鈴木潤一	鈴木とし江	鈴木浩	高田李江	高野正行	高安幸旦	高柳悦子
鶴井みどり	豊島英則	中村伊重	根矢稔	野村正子	崎崎よ江	幅増男	吹野昇	蘿倉秋之助
正木信行	益子光江	丸山麻由美	武藤瑞良	八幡省三	山口致辰	山崎正光	横田忠利	吉田豊

## 凡　例

- 1 地区設定は、日本平面直角座標第IX系座標を原点とし、X = +17, 094.606m、Y = +9.221.847mの交点を基準点（A 1）とし、この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々 50m四方の大調査区に分割した。なお、この原点は世界測地系による基準点である。また、調査区は便宜上、A ~ F区の 6 区分に分け、A ~ C区が第1地点、D ~ F区が第2地点と呼称した。以上、本設定は、先行発行された第1地点の設定に準じている。
- 2 本書で使用した地図は、国土地理院発行2万5千分の1地形図、笠間市発行2千5百分の1都市計画図である。
- 3 土層観察と遺物における色調の判定には、「新版標準土色帖」(小山正忠・竹原秀雄著 日本色研事業株式会社)を使用した。
- 4 遺構・遺物実測図の掲載方法については、次のとおりである。

(1) 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は、次のとおりである。

遺構	SI—住居跡	SD—溝跡	SA—柵列	SK—土坑	P—ピット	T—トレンチ
遺物	P—土器	TP—拓本記録土器	Q—石器・石製品	M—金属製品		
	DP—土製品	T—瓦				
土層	K—擾乱					

(2) 遺構全体図は200分の1、遺構実測図は原則として60分の1の縮尺で掲載した。

(3) 遺物実測図は、原則として3分の1の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合もあり、それらについては個々に縮尺をスケールで表示した。

豎穴住居跡・土 坑・柵 列…1/60	溝 跡…1/40, 1/80, 1/160
土 器…1/3・2/3	土製品…1/3・1/5
石製品・疊…1/3	金属製品…1/2
	鉄滓…1/3

(4) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

[■] 窓構築材	[■] 窓火床面	[■] 焼土	[■] 貼り床
[■] 柱当たり痕	[■] 黒色処理	[■] 灰釉陶器	
[■] 自然軸	[■] 煤付着	[■] 鉄製品断面	
● 土器	○ 土製品	□ 石器・石製品	△ 金属製品
		■ 瓦	—— 硬化面

5 遺物観察表・遺構一覧表の表記については、次のとおりである。

- (1) 遺物番号は遺構ごとの通し番号とし、挿図・観察表・写真図版に記した番号と同一とした。
- (2) 計測値の( )内の数値は現存値を、[ ]内の数値は推定値を示した。計測値の単位は、m、cm g で示した。大きさにより異なる場合もあり、それらについては個々に単位を表示した。
- (3) 備考欄は、土器の残存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。
- 6 豊穴住居跡の主軸は、窓を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸(径)方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で示した(例：N -10° - E)。

## 目 次

卷頭写真図版

序

例 言

凡 例

目 次

第 I 章	調査に至る経緯と経過	1
第1節	調査に至る経緯	1
第2節	調査の経過	1
第3節	調査方法	2
第 II 章	遺跡の位置と環境	3
第1節	地理的環境	3
第2節	歴史的環境	3
第 III 章	調査の概要と基本層序	7
第1節	調査の概要	7
第2節	基本層序	7
第 IV 章	寺上遺跡2	13
第1節	竪穴住居跡	13
第2節	構 列	175
第3節	溝 跡	176
第4節	土 坑	181
第5節	遺構外出土遺物	191
第6節	総 括	199
第 V 章	行者遺跡2	203
第1節	竪穴住居跡	203
第2節	溝 跡	209
第3節	土 坑	213
第4節	総 括	214

写真図版

抄 稿

奥 付

## 寺上遺跡2 掃図目次

第1図	遺跡の位置と周辺の遺跡分布図	4	第6図	F区遺構全体図	11
第2図	調査地区の位置図	6	第7図	第1号住居跡	14
第3図	基本土壙図	7	第8図	第1号住居跡出土遺物	15
第4図	D区遺構全体図	9	第9図	第2号住居跡	17
第5図	E区遺構全体図	10	第10図	第2号住居跡出土遺物	18

第11回	第3号住居跡	21	第57回	第26号住居跡	86
第12回	第3号住居跡出土遺物	22	第58回	第26号住居跡出土遺物	87
第13回	第4号住居跡	24	第59回	第27号住居跡	89
第14回	第4号住居跡出土遺物	25	第60回	第27号住居跡出土遺物	89
第15回	第5号住居跡	28	第61回	第28号住居跡	90
第16回	第5号住居跡出土遺物	29	第62回	第28号住居跡出土遺物	91
第17回	第6号住居跡	32	第63回	第29号住居跡	93
第18回	第6号住居跡出土遺物	33	第64回	第29号住居跡出土遺物	94
第19回	第7号住居跡	34	第65回	第30号住居跡	95
第20回	第7号住居跡出土遺物	35	第66回	第30号住居跡出土遺物	96
第21回	第8号住居跡	37	第67回	第31号住居跡	97
第22回	第8号住居跡出土遺物	38	第68回	第31号住居跡出土遺物	98
第23回	第9号住居跡	42	第69回	第32号住居跡	100
第24回	第9号住居跡出土遺物	43	第70回	第32号住居跡出土遺物	101
第25回	第10号住居跡	44	第71回	第33号住居跡	102
第26回	第10号住居跡出土遺物	45	第72回	第33号住居跡出土遺物	103
第27回	第11号住居跡	47	第73回	第34号住居跡	104
第28回	第11号住居跡出土遺物	48	第74回	第34号住居跡出土遺物	105
第29回	第12号住居跡	50	第75回	第35号住居跡	106
第30回	第12号住居跡出土遺物	51	第76回	第35号住居跡出土遺物	107
第31回	第13号住居跡	52	第77回	第36号住居跡	109
第32回	第13号住居跡出土遺物	53	第78回	第36号住居跡出土遺物	109
第33回	第14号住居跡	54	第79回	第37号住居跡	110
第34回	第14号住居跡出土遺物	55	第80回	第37号住居跡出土遺物	111
第35回	第15号住居跡	56	第81回	第38号住居跡	112
第36回	第15号住居跡出土遺物	57	第82回	第40号住居跡	113
第37回	第16号住居跡	58	第83回	第40号住居跡出土遺物	114
第38回	第16号住居跡出土遺物	59	第84回	第41号住居跡	115
第39回	第17号住居跡	60	第85回	第41号住居跡出土遺物	116
第40回	第17号住居跡出土遺物	62	第86回	第42号住居跡	118
第41回	第18号住居跡	65	第87回	第42号住居跡出土遺物	119
第42回	第18号住居跡出土遺物	66	第88回	第43号住居跡	121
第43回	第19号住居跡	68	第89回	第44号住居跡	123
第44回	第19号住居跡出土遺物	69	第90回	第44号住居跡出土遺物	124
第45回	第20号住居跡	70	第91回	第45号住居跡	128
第46回	第20号住居跡出土遺物	71	第92回	第45号住居跡出土遺物	130
第47回	第21号住居跡	72	第93回	第47号住居跡	131
第48回	第21号住居跡出土遺物	73	第94回	第48号住居跡	132
第49回	第22号住居跡	74	第95回	第51号住居跡	133
第50回	第22号住居跡出土遺物	75	第96回	第52号住居跡	134
第51回	第23号住居跡	77	第97回	第52号住居跡出土遺物	134
第52回	第23号住居跡出土遺物	79	第98回	第53号住居跡	136
第53回	第24号住居跡	80	第99回	第53号住居跡出土遺物	138
第54回	第24号住居跡出土遺物	81	第100回	第55号住居跡	142
第55回	第25号住居跡	83	第101回	第55号住居跡出土遺物	142
第56回	第25号住居跡出土遺物	84	第102回	第56号住居跡	144

第103図 第56号住居跡出土遺物	146
第104図 第57号住居跡	149
第105図 第57号住居跡出土遺物	150
第106図 第58号住居跡	152
第107図 第58号住居跡出土遺物	154
第108図 第59号住居跡	158
第109図 第59号住居跡出土遺物	159
第110図 第60号住居跡	161
第111図 第60号住居跡出土遺物	162
第112図 第61号住居跡	164
第113図 第61号住居跡出土遺物	165
第114図 第62号住居跡	167
第115図 第62号住居跡出土遺物	169
第116図 第63号住居跡	171
第117図 第63号住居跡出土遺物	171
第118図 第64号住居跡	172
第119図 第64号住居跡出土遺物	174
第120図 第1号横列	175
第121図 第5・6号溝跡	177
第122図 第7号溝跡	178
第123図 第7号溝跡出土遺物	179
第124図 第9号溝跡	180
第125図 第1号土坑	181
第126図 第1号土坑出土遺物	183
第127図 第2号土坑	185
第128図 第2号土坑出土遺物	185
第129図 その他の土坑	186
第130図 その他の土坑出土遺物	189
第131図 遺構外出土遺物①縄文時代	191
第132図 遺構外出土遺物②古代遺物	193
第133図 遺構外出土遺物③中・近世遺物	194
第134図 寺上遺跡の住居配置（7世紀）	199
第135図 寺上遺跡の住居配置（8世紀）	200
第136図 寺上遺跡の住居配置（9世紀）	201
第137図 寺上遺跡の住居配置（10世紀）	201

## 寺上遺跡2 表目次

表1 第1号住居跡出土遺物観察表	15
表2 第2号住居跡出土遺物観察表	20
表3 第3号住居跡出土遺物観察表	23
表4 第4号住居跡出土遺物観察表	27
表5 第5号住居跡出土遺物観察表	31
表6 第6号住居跡出土遺物観察表	33
表7 第7号住居跡出土遺物観察表	35
表8 第8号住居跡出土遺物観察表	40
表9 第9号住居跡出土遺物観察表	43
表10 第10号住居跡出土遺物観察表	45
表11 第11号住居跡出土遺物観察表	49
表12 第12号住居跡出土遺物観察表	51
表13 第13号住居跡出土遺物観察表	53
表14 第14号住居跡出土遺物観察表	55
表15 第15号住居跡出土遺物観察表	57
表16 第16号住居跡出土遺物観察表	59
表17 第17号住居跡出土遺物観察表	63
表18 第18号住居跡出土遺物観察表	66
表19 第19号住居跡出土遺物観察表	69
表20 第20号住居跡出土遺物観察表	20
表21 第21号住居跡出土遺物観察表	73
表22 第22号住居跡出土遺物観察表	76
表23 第23号住居跡出土遺物観察表	78
表24 第24号住居跡出土遺物観察表	82
表25 第25号住居跡出土遺物観察表	85
表26 第26号住居跡出土遺物観察表	88
表27 第27号住居跡出土遺物観察表	90
表28 第28号住居跡出土遺物観察表	92
表29 第29号住居跡出土遺物観察表	94
表30 第30号住居跡出土遺物観察表	96
表31 第31号住居跡出土遺物観察表	99
表32 第32号住居跡出土遺物観察表	101
表33 第33号住居跡出土遺物観察表	103
表34 第34号住居跡出土遺物観察表	105
表35 第35号住居跡出土遺物観察表	108
表36 第36号住居跡出土遺物観察表	109
表37 第37号住居跡出土遺物観察表	111
表38 第38号住居跡出土遺物観察表	112
表39 第40号住居跡出土遺物観察表	114
表40 第41号住居跡出土遺物観察表	116
表41 第42号住居跡出土遺物観察表	120
表42 第43号住居跡出土遺物観察表	122

表43 第44号住居跡出土遺物観察表	126	表55 第61号住居跡出土遺物観察表	166
表44 第45号住居跡出土遺物観察表	129	表56 第62号住居跡出土遺物観察表	170
表45 第48号住居跡出土遺物観察表	132	表57 第63号住居跡出土遺物観察表	171
表46 第51号住居跡出土遺物観察表	133	表58 第64号住居跡出土遺物観察表	173
表47 第52号住居跡出土遺物観察表	135	表59 第7号溝跡出土遺物観察表	179
表48 第53号住居跡出土遺物観察表	140	表60 第1号土坑出土遺物観察表	182
表49 第55号住居跡出土遺物観察表	142	表61 第2号土坑出土遺物観察表	185
表50 第56号住居跡出土遺物観察表	148	表62 その他の土坑出土遺物観察表	189
表51 第57号住居跡出土遺物観察表	151	表63 その他の土坑一覧表	190
表52 第58号住居跡出土遺物観察表	156	表64 遺構外出土遺物①縄文時代	192
表53 第59号住居跡出土遺物観察表	159	表65 遺構外出土遺物②古代	197
表54 第60号住居跡出土遺物観察表	163	表66 遺構外出土遺物③中・近世	197

## 寺上遺跡2 写真図版目次

### 【遺構写真】

#### PL. 1 寺上遺跡

調査区全景

#### PL. 2 寺上遺跡

D区全景

E区全景

F区全景

#### PL. 3 寺上遺跡

第1号住居跡完掘状況（南東から）

第1号住居跡上層（南から）

第1号住居跡完掘状況（南東から）

第1号住居跡ピット2土層（北東から）

第2号住居跡完掘状況（南から）

第2号住居跡遺物出土状況（南から）

第2号住居跡土層（南東から）

第2号住居跡完掘状況（南東から）

#### PL. 4 寺上遺跡

第2号住居跡竪土層（南東から）

第2号住居跡竪ち割り（南東から）

第2号住居跡ピット5土層（東から）

第2号住居跡ピット3上層（東から）

第3号住居跡完掘状況（南から）

第3号住居跡遺物出土状況（南から）

第3号住居跡上層（南西から）

#### PL. 5 寺上遺跡

第3号住居跡竪ち割り（南から）

第3号住居跡竪土層（南から）

第3号住居跡竪土層（南東から）

第4号住居跡完掘状況（南から）

第4号住居跡遺物出土状況（南から）

第4号住居跡遺物出土状況（南から）

第4号住居跡土層（南西から）

#### PL. 6 寺上遺跡

第4号住居跡竪方土層（南から）

第5号住居跡完掘状況（南東から）

第5号住居跡遺物出土状況（南から）

第5号住居跡土層（南東から）

第5号住居跡土層（南から）

第5号住居跡竪方土層（南から）

第5号住居跡土層（南東から）

第5号住居跡土層（南から）

#### PL. 7 寺上遺跡

第6号住居跡完掘状況（南東から）

第6号住居跡土層（南東から）

第6号住居跡ピット1土層（東から）

第7号住居跡完掘状況（南から）

第7号住居跡遺物出土状況（南から）

第7号住居跡遺物出土状況（南から）

第7号住居跡上層（南東から）

#### PL. 8 寺上遺跡

- 第8号住居跡完掘状況（南から）  
 第8号住居跡遺物状況（南から）  
 第8号住居跡遺物出土状況（北から）  
 第8号住居跡遺物出土状況（南から）  
 第8号住居跡遺物出土状況（北から）  
 第8号住居跡遺物出土状況（南東から）  
 第8号住居跡土層（東から）  
 第8号住居跡土層（南東から）  
**PL.9 寺上遺跡**  
 第8号住居跡竪坑完掘状況（南から）  
 第8号住居跡竪坑土層状況（南から）  
 第8号住居跡竪坑上層（南東から）  
 第8号住居跡竪坑上層（南から）  
 第9号住居跡完掘状況（南から）  
 第9号住居跡ピット1土層（北東から）  
 第9号住居跡ピット2土層（北東から）  
 第9号住居跡竪坑完掘状況（南から）  
**PL.10 寺上遺跡**  
 第10号住居跡完掘状況（南から）  
 第10号住居跡遺物出土状況（南から）  
 第10号住居跡遺物出土状況（南西から）  
 第10号住居跡上層（南から）  
 第11号住居跡完掘状況（南東から）  
 第11号住居跡遺物出土状況（南東から）  
 第11号住居跡遺物出土状況（北東から）  
 第11号住居跡遺物出土状況（北東から）  
**PL.11 寺上遺跡**  
 第11号住居跡土層（南から）  
 第11号住居跡ピット1土層（北東から）  
 第11号住居跡ピット3土層（北東から）  
 第11号住居跡竪坑完掘状況（南東から）  
 第11号住居跡遺物出土状況（南東から）  
 第11号住居跡竪坑上層（南東から）  
 第12・59号住居跡完掘状況（南東から）  
 第12・59号住居跡上層（東から）  
**PL.12 寺上遺跡**  
 第59号住居跡完掘状況（南から）  
 第12号住居跡完掘状況（南東から）  
 第13号住居跡土層（南東から）  
 第14号住居跡完掘状況（南から）  
 第14号住居跡ピット1土層（土層）  
 第14号住居跡竪坑完掘状況（南から）  
 第15号住居跡完掘状況（南東から）  
 第15号住居跡上層（南西から）  
**PL.13 寺上遺跡**  
 第15号住居跡竪坑完掘状況（南東から）  
 第16号住居跡完掘状況（南東から）  
 第16号住居跡上層（南東から）  
 第16号住居跡遺物完掘状況（北東から）  
 第16号住居跡竪坑完掘状況（南東から）  
 第17号住居跡完掘状況（南東から）  
 第17号住居跡遺物出土状況（南東から）  
 第17号住居跡遺物出土状況（北東から）  
**PL.14 寺上遺跡**  
 第17号住居跡土層（北東から）  
 第17号住居跡ピット2土層（北東から）  
 第17号住居跡ピット3土層（北東から）  
 第17号住居跡竪坑完掘状況（南東から）  
 第17号住居跡竪坑土層（西から）  
 第17号住居跡竪坑方土層（南東から）  
 第18号住居跡完掘状況（北東から）  
 第18号住居跡土層（北東から）  
**PL.15 寺上遺跡**  
 第18号住居跡竪坑完掘状況（南東から）  
 第18号住居跡竪坑土層（南から）  
 第19号住居跡遺物出土状況（北東から）  
 第19号住居跡上層（西から）  
 第19号住居跡竪坑遺物出土状況（南東から）  
 第19号住居跡竪坑遺物出土状況（南東から）  
 第19号住居跡竪坑土層（西から）  
 第20号住居跡完掘状況（南東から）  
**PL.16 寺上遺跡**  
 第20号住居跡遺物出土状況（南東から）  
 第20号住居跡上層（南西から）  
 第21号住居跡完掘状況（南東から）  
 第21号住居跡竪坑完掘状況（南から）  
 第21号住居跡竪坑上層（南から）  
 第22号住居跡完掘状況（東から）  
 第22号住居跡遺物出土状況（南東から）  
 第22号住居跡遺物出土状況（南から）  
**PL.17 寺上遺跡**  
 第22号住居跡土層（西から）  
 第22号住居跡竪坑完掘状況（南から）  
 第22号住居跡竪坑土層（南から）  
 第23・24号住居跡完掘状況（南東から）  
 第23・24号住居跡場方完掘状況（南から）  
 第23・24号住居跡上層（南西から）  
 第23号住居跡竪坑完掘状況（南東から）  
 第23号住居跡竪坑土層（北東から）  
**PL.18 寺上遺跡**  
 第23号住居跡ピット2土層（北東から）  
 第23号住居跡ピット3土層（北東から）

- 第24号住居跡完掘状況（南西から）  
 第24号住居跡竪土層（南東から）  
 第24号住居跡土層（西から）  
 第25号住居跡完掘状況（南東から）  
 第25号住居跡土層（南東から）  
 第25号住居跡ビット4上層（北東から）  
**PL.19 寺上遺跡**  
 第25号住居跡竪完掘状況（南東から）  
 第25号住居跡竪土層（東から）  
 第26号住居跡遺物出土状況（南南東から）  
 第26号住居跡土層（北東から）  
 第28号住居跡完掘状況（東から）  
 第28号住居跡遺物出土状況（南東から）  
 第28号住居跡遺物出土状況（北東から）  
 第28号住居跡1層（北東から）  
**PL.20 寺上遺跡**  
 第29号住居跡完掘状況（南西から）  
 第29号住居跡土層（南東から）  
 第29号住居跡ビット3土層（北東から）  
 第29号住居跡ビット4土層（北東から）  
 第29号住居跡土層（西から）  
 第29号住居跡竪完掘状況（南西から）  
 第29号住居跡竪土層（南から）  
 第30号住居跡完掘状況（南東から）  
**PL.21 寺上遺跡**  
 第30号住居跡土層（東から）  
 第30号住居跡竪完掘状況（南東から）  
 第30号住居跡竪土層（南東から）  
 第31号住居跡遺物出土状況（南から）  
 第31号住居跡遺物出土状況（南東から）  
 第32号住居跡完掘状況（南から）  
 第32号住居跡竪完掘状況（南から）  
 第32号住居跡竪土層（南から）  
**PL.22 寺上遺跡**  
 第33号住居跡完掘状況（南から）  
 第33号住居跡上層（東から）  
 第35号住居跡完掘状況（西から）  
 第35号住居跡遺物出土状況（西から）  
 第35号住居跡出土状況（南東から）  
 第35号住居跡土層（南から）  
 第35号住居跡竪完掘状況（西から）  
 第35号住居跡竪土層（南西から）  
**PL.23 寺上遺跡**  
 第36号住居跡完掘状況（南から）  
 第36号住居跡竪完掘状況（南から）  
 第36号住居跡遺物出土状況（南から）  
 第36号住居跡竪土層（南東から）  
 第36号住居跡上層（東から）  
 第37号住居跡遺物出土状況（南から）  
 第37号住居跡土層（南から）  
 第38号住居跡完掘状況（南西から）  
 第40号住居跡遺物出土状況（南から）  
**PL.24 寺上遺跡**  
 第40号住居跡土層（東から）  
 第40号住居跡遺物出土状況（南東から）  
 第40号住居跡竪土層（東から）  
 第41号住居跡遺物出土状況（南から）  
 第41号住居跡遺物出土状況（東から）  
 第41号住居跡上層（西から）  
 第42号住居跡遺物出土状況（南西から）  
 第42号住居跡遺物出土状況（北東から）  
**PL.25 寺上遺跡**  
 第42号住居跡遺物出土状況（南東から）  
 第43号住居跡完掘状況（南から）  
 第43号住居跡土層（東から）  
 第43号住居跡竪完掘状況（南から）  
 第44・45号住居跡完掘状況（南東から）  
 第44号住居跡遺物出土状況（南東から）  
 第44号住居跡遺物出土状況（東から）  
**PL.26 寺上遺跡**  
 第44号住居跡遺物出土状況（北から）  
 第44号住居跡遺物出土状況（北東から）  
 第44号住居跡遺物出土状況（北から）  
 第45号住居跡遺物出土状況（南東から）  
 第45号住居跡遺物出土状況（東から）  
 第45号住居跡土層（南から）  
 第45号住居跡遺物出土状況（南東から）  
 第45号住居跡土層（南から）  
**PL.27 寺上遺跡**  
 第52号住居跡完掘状況（南から）  
 第52号住居跡上層（東から）  
 第53号住居跡完掘状況（南から）  
 第53号住居跡遺物出土状況（南東から）  
 第53号住居跡遺物出土状況（東から）  
 第53号住居跡土層（南東から）  
 第53号住居跡土層（南東から）  
**PL.28 寺上遺跡**  
 第53号住居跡ビット4上層（北東から）  
 第53号住居跡完掘状況（南から）  
 第53号住居跡遺物出土状況（南から）  
 第53号住居跡竪土層（南東から）

第53号住居跡竪方土層（北西から）	第61号住居跡遺物出土状況（南から）
第54号住居跡完掘状況（南東から）	第61号住居跡竪方土層（南東から）
第55号住居跡完掘状況（北東から）	第62・63号住居跡完掘状況（南から）
第55号生居跡土（南東から）	PL.33 寺上遺跡
PL.29 寺上遺跡	第62・63号住居跡遺物出土状況（南から）
第56号住居跡完掘状況（南から）	第62号住居跡遺物出土状況（南から）
第56号住居跡遺物出土状況（南東から）	第63号住居跡竪方土層（南東から）
第56号住居跡遺物出土状況（東から）	第64号住居跡完掘状況（南東から）
第56号住居跡遺物出土状況（東から）	第64号住居跡遺物出土状況（北西から）
第56号住居跡遺物出土状況（東から）	第64号住居跡遺物出土状況（北東から）
第56号住居跡遺物出土状況（北東から）	第64号住居跡竪方土層（東から）
第56号住居跡土層（南東から）	PL.34 寺上遺跡
第56号住居跡ピット2土層（北東から）	第5・6号溝跡完掘状況（東から）
PL.30 寺上遺跡	第5号溝跡土層（南から）
第56号住居跡ピット3土層（北東から）	第7号溝跡完掘状況（北から）
第56号住居跡竪方土層（南から）	第9号溝跡完掘状況（南西から）
第56号住居跡竪方土層（南東から）	第7号溝跡土層（東から）
第57号住居跡完掘状況（南から）	第9号溝跡土層（北東から）
第57号住居跡土層（南東から）	PL.35 寺上遺跡
第57号住居跡完掘状況（南東から）	第1号横列完掘状況（東から）
第58号住居跡完掘状況（南から）	第1号横列ピット1土層（東から）
PL.31 寺上遺跡	第1号土坑完掘状況（北から）
第58号住居跡遺物出土状況（南から）	第1号土坑遺物出土状況（南西から）
第58号住居跡遺物出土状況（南西から）	第1号土坑遺物出土状況（南から）
第58号住居跡土層（南東から）	第1号土坑土層（西から）
第58号住居跡ピット2土層（南東から）	第2号土坑完掘状況（西から）
第58号住居跡完掘状況（南から）	PL.36 寺上遺跡
第58号住居跡竪方土層（北東から）	第3号土坑完掘状況（南東から）
第60号住居跡完掘状況（南から）	第6号土坑完掘状況（南から）
第60号住居跡土層（東から）	第7・8号土坑完掘状況（北から）
PL.32 寺上遺跡	第9号土坑完掘状況（東から）
第60号住居跡竪方土層（南から）	第11号土坑完掘状況（南東から）
第60号住居跡遺物出土状況（南から）	第34号土坑完掘状況（南東から）
第60号住居跡竪方土層（北東から）	第34号土坑土層（南から）
第61号住居跡完掘状況（南東から）	第36号土坑完掘状況（北から）
第61号住居跡遺物出土状況（南から）	

## 【遺物写真】

PL.37 寺上遺跡	遺物43 (第5号住居跡)	遺物94 (第10号住居跡)
遺物1 (第1号住居跡)	遺物44 (第5号住居跡)	遺物95 (第10号住居跡)
遺物2 (第1号住居跡)	遺物46 (第5号住居跡)	遺物96 (第11号住居跡)
遺物3 (第2号住居跡)	遺物47 (第5号住居跡)	遺物97 (第11号住居跡)
遺物4 (第2号住居跡)	PL.42 寺上遺跡	遺物98 (第11号住居跡)
遺物5 (第2号住居跡)	遺物48 (第5号住居跡)	遺物99 (第11号住居跡)
遺物6 (第2号住居跡)	遺物49 (第5号住居跡)	遺物100 (第11号住居跡)
遺物7 (第2号住居跡)	遺物50～52 (第5号住居跡)	遺物102 (第11号住居跡)
遺物8 (第2号住居跡)	遺物53 (第5号住居跡)	PL.47 寺上遺跡
遺物10 (第2号住居跡)	遺物54 (第6号住居跡)	遺物105 (第11号住居跡)
PL.38 寺上遺跡	遺物56 (第6号住居跡)	遺物106 (第11号住居跡)
遺物9 (第2号住居跡)	遺物57 (第6号住居跡)	遺物107 (第12号住居跡)
遺物11 (第2号住居跡)	遺物58 (第6号住居跡)	遺物108 (第12号住居跡)
遺物12 (第2号住居跡)	遺物60 (第7号住居跡)	遺物110 (第12号住居跡)
遺物13 (第2号住居跡)	PL.43 寺上遺跡	遺物111 (第13号住居跡)
遺物14 (第3号住居跡)	遺物63 (第7号住居跡)	遺物112 (第13号住居跡)
遺物16 (第3号住居跡)	遺物64 (第7号住居跡)	遺物113 (第14号住居跡)
遺物17 (第3号住居跡)	遺物65 (第7号住居跡)	遺物114 (第14号住居跡)
遺物18 (第3号住居跡)	遺物66 (第7号住居跡)	PL.48 寺上遺跡
PL.39 寺上遺跡	遺物67 (第8号住居跡)	遺物115 (第14号住居跡)
遺物19 (第3号住居跡)	遺物68 (第8号住居跡)	遺物116 (第15号住居跡)
遺物20 (第3号住居跡)	遺物69 (第8号住居跡)	遺物117 (第15号住居跡)
遺物21 (第3号住居跡)	遺物70 (第8号住居跡)	遺物118 (第15号住居跡)
遺物21 (第3号住居跡)	PL.44 寺上遺跡	遺物119 (第16号住居跡)
遺物22 (第3号住居跡)	遺物71 (第8号住居跡)	遺物120 (第16号住居跡)
遺物24 (第3号住居跡)	遺物72 (第8号住居跡)	遺物121 (第16号住居跡)
遺物25 (第4号住居跡)	遺物74 (第8号住居跡)	遺物122 (第16号住居跡)
遺物26 (第4号住居跡)	遺物75 (第8号住居跡)	遺物123 (第17号住居跡)
遺物27 (第4号住居跡)	PL.47 寺上遺跡	遺物124 (第17号住居跡)
PL.40 寺上遺跡	遺物77 (第8号住居跡)	PL.49 寺上遺跡
遺物28 (第4号住居跡)	遺物78 (第8号住居跡)	遺物125 (第17号住居跡)
遺物29 (第4号住居跡)	遺物79 (第8号住居跡)	遺物126 (第17号住居跡)
遺物30 (第4号住居跡)	遺物80 (第8号住居跡)	遺物127 (第17号住居跡)
遺物32 (第4号住居跡)	PL.45 寺上遺跡	遺物128 (第17号住居跡)
遺物33 (第4号住居跡)	遺物81 (第8号住居跡)	遺物129 (第17号住居跡)
遺物34 (第4号住居跡)	遺物82 (第8号住居跡)	遺物130 (第17号住居跡)
遺物35 (第4号住居跡)	遺物86 (第9号住居跡)	遺物131 (第17号住居跡)
遺物36 (第5号住居跡)	遺物87 (第10号住居跡)	遺物132 (第18号住居跡)
PL.41 寺上遺跡	遺物88 (第10号住居跡)	PL.50 寺上遺跡
遺物37 (第5号住居跡)	遺物89 (第10号住居跡)	遺物133 (第18号住居跡)
遺物38 (第5号住居跡)	遺物90 (第10号住居跡)	遺物135 (第18号住居跡)
遺物39 (第5号住居跡)	遺物91 (第10号住居跡)	遺物136 (第18号住居跡)
遺物40 (第5号住居跡)	遺物92 (第10号住居跡)	遺物137 (第18号住居跡)
遺物41 (第5号住居跡)	PL.46 寺上遺跡	遺物138 (第18号住居跡)
遺物42 (第5号住居跡)	遺物93 (第10号住居跡)	遺物139 (第18号住居跡)

遺物140 (第18号住居跡)	遺物188 (第26号住居跡)	遺物233 (第33号住居跡)
遺物142 (第18号住居跡)	遺物189 (第26号住居跡)	遺物234 (第34号住居跡)
PL.51 寺上遺跡	遺物191 (第26号住居跡)	遺物235 (第34号住居跡)
遺物141 (第18号住居跡)	遺物192 (第26号住居跡)	遺物236 (第35号住居跡)
遺物143 (第18号住居跡)	遺物193 (第26号住居跡)	遺物237 (第35号住居跡)
遺物144 (第18号住居跡)	遺物194 (第26号住居跡)	PL.60 寺上遺跡
遺物145 (第19号住居跡)	遺物197 (第27号住居跡)	遺物238 (第35号住居跡)
遺物146 (第19号住居跡)	PL.56 寺上遺跡	遺物239 (第35号住居跡)
遺物147 (第19号住居跡)	遺物195 (第26号住居跡)	遺物240 (第35号住居跡)
遺物148 (第19号住居跡)	遺物196 (第26号住居跡)	遺物241 (第35号住居跡)
遺物149	遺物195 (第26号住居跡)	遺物242 (第35号住居跡)
PL.52 寺上遺跡	遺物198 (第27号住居跡)	遺物243 (第35号住居跡)
遺物150 (第20号住居跡)	遺物199 (第27号住居跡)	遺物244 (第35号住居跡)
遺物151 (第20号住居跡)	遺物200 (第27号住居跡)	遺物245 (第35号住居跡)
遺物152 (第20号住居跡)	遺物201 (第28号住居跡)	遺物245 (第35号住居跡)
遺物153 (第20号住居跡)	遺物202 (第28号住居跡)	PL.61 寺上遺跡
遺物154 (第21号住居跡)	遺物204 (第28号住居跡)	遺物246 (第36号住居跡)
遺物156 (第22号住居跡)	遺物206 (第28号住居跡)	遺物247 (第36号住居跡)
遺物157 (第22号住居跡)	PL.57 寺上遺跡	遺物248 (第36号住居跡)
遺物158 (第22号住居跡)	遺物205 (第28号住居跡)	遺物249 (第37号住居跡)
遺物159 (第22号住居跡)	遺物208 (第29号住居跡)	遺物250 (第37号住居跡)
遺物160 (第22号住居跡)	遺物209 (第29号住居跡)	遺物251 (第37号住居跡)
PL.53 寺上遺跡	遺物210 (第29号住居跡)	遺物252 (第38号住居跡)
遺物161	遺物211 (第29号住居跡)	遺物253 (第39号住居跡)
遺物161 (第22号住居跡)	遺物212 (第29号住居跡)	遺物254 (第40号住居跡)
遺物162 (第22号住居跡)	遺物213 (第29号住居跡)	PL.62 寺上遺跡
遺物163 (第23号住居跡)	遺物214 (第30号住居跡)	遺物255 (第40号住居跡)
遺物164 (第23号住居跡)	遺物215 (第30号住居跡)	遺物255 (第40号住居跡)
遺物165 (第23号住居跡)	遺物216 (第30号住居跡)	遺物258 (第40号住居跡)
遺物166 (第24号住居跡)	PL.58 寺上遺跡	遺物259 (第41号住居跡)
遺物167 (第24号住居跡)	遺物217 (第30号住居跡)	遺物260 (第41号住居跡)
遺物168 (第24号住居跡)	遺物218 (第31号住居跡)	遺物262 (第41号住居跡)
PL.54 寺上遺跡	遺物219 (第31号住居跡)	遺物262 (第41号住居跡)
遺物169 (第23号住居跡)	遺物220 (第31号住居跡)	PL.63 寺上遺跡
遺物171 (第23号住居跡)	遺物221 (第31号住居跡)	遺物263 (第41号住居跡)
遺物175 (第23号住居跡)	遺物222 (第31号住居跡)	遺物264 (第41号住居跡)
遺物176 (第23号住居跡)	遺物223 (第31号住居跡)	遺物265 (第41号住居跡)
遺物177 (第23号住居跡)	遺物224 (第31号住居跡)	遺物266 (第41号住居跡)
遺物178 (第23号住居跡)	遺物225 (第31号住居跡)	遺物267 (第41号住居跡)
遺物179 (第25号住居跡)	遺物226 (第32号住居跡)	遺物268 (第42号住居跡)
遺物181 (第25号住居跡)	PL.59 寺上遺跡	遺物269 (第42号住居跡)
遺物182 (第25号住居跡)	遺物227 (第32号住居跡)	遺物270 (第42号住居跡)
遺物183 (第25号住居跡)	遺物229 (第32号住居跡)	遺物271 (第42号住居跡)
PL.55 寺上遺跡	遺物229 (第32号住居跡)	遺物272 (第42号住居跡)
遺物186 (第26号住居跡)	遺物230 (第32号住居跡)	PL.64 寺上遺跡
遺物187 (第26号住居跡)	遺物231 (第32号住居跡)	遺物273 (第42号住居跡)

遺物274 (第42号住居跡)	遺物315 (第51号住居跡)	遺物360 (第56号住居跡)
遺物274 (第42号住居跡)	遺物316 (第52号住居跡)	遺物361 (第56号住居跡)
遺物275 (第42号住居跡)	遺物317 (第52号住居跡)	遺物363 (第57号住居跡)
遺物276 (第42号住居跡)	遺物318 (第52号住居跡)	遺物364 (第57号住居跡)
遺物277 (第42号住居跡)	遺物319 (第52号住居跡)	PL.73 寺上遺跡
遺物278 (第42号住居跡)	遺物324 (第53号住居跡)	遺物367 (第58号住居跡)
遺物279 (第42号住居跡)	遺物325 (第53号住居跡)	遺物368 (第58号住居跡)
遺物281 (第44号住居跡)	PL.69 寺上遺跡	遺物369 (第58号住居跡)
遺物281 (第44号住居跡)	遺物320 (第53号住居跡)	遺物370 (第58号住居跡)
PL.65 寺上遺跡	遺物320 (第53号住居跡)	遺物372 (第58号住居跡)
遺物280 (第43号住居跡)	遺物321 (第53号住居跡)	遺物373 (第58号住居跡)
遺物282 (第41号住居跡)	遺物322 (第53号住居跡)	遺物374 (第58号住居跡)
遺物283 (第41号住居跡)	遺物323 (第53号住居跡)	遺物375 (第58号住居跡)
遺物284 (第44号住居跡)	遺物327 (第53号住居跡)	遺物376 (第58号住居跡)
遺物284 (第44号住居跡)	遺物328 (第53号住居跡)	遺物377 (第58号住居跡)
遺物285 (第44号住居跡)	遺物329 (第53号住居跡)	PL.74 寺上遺跡
遺物286 (第44号住居跡)	遺物330 (第53号住居跡)	遺物379 (第58号住居跡)
遺物286 (第44号住居跡)	遺物331 (第53号住居跡)	遺物380 (第58号住居跡)
遺物291 (第44号住居跡)	PL.70 寺上遺跡	遺物381 (第58号住居跡)
遺物292	遺物332 (第53号住居跡)	遺物382 (第58号住居跡)
PL.66 寺上遺跡	遺物333 (第53号住居跡)	遺物383 (第58号住居跡)
遺物287 (第44号住居跡)	遺物334 (第53号住居跡)	遺物384 (第58号住居跡)
遺物287 (第44号住居跡)	遺物335 (第53号住居跡)	遺物385 (第58号住居跡)
遺物288 (第44号住居跡)	遺物336 (第53号住居跡)	遺物386 (第58号住居跡)
遺物289 (第44号住居跡)	遺物337 (第53号住居跡)	遺物387 (第58号住居跡)
遺物290 (第44号住居跡)	遺物339 (第53号住居跡)	遺物388 (第58号住居跡)
遺物290 (第44号住居跡)	遺物339 (第53号住居跡)	PL.75 寺上遺跡
遺物293 (第44号住居跡)	遺物340 (第53号住居跡)	遺物389 (第58号住居跡)
遺物295 (第44号住居跡)	遺物341 (第55号住居跡)	遺物390 (第58号住居跡)
遺物296 (第44号住居跡)	PL.71 寺上遺跡	遺物391 (第58号住居跡)
遺物297 (第44号住居跡)	遺物343 (第56号住居跡)	遺物392 (第58号住居跡)
PL.67 寺上遺跡	遺物344 (第56号住居跡)	遺物392 (第58号住居跡)
遺物298 (第44号住居跡)	遺物345 (第56号住居跡)	遺物393 (第59号住居跡)
遺物300 (第44号住居跡)	遺物346 (第56号住居跡)	遺物394 (第59号住居跡)
遺物303 (第45号住居跡)	遺物347 (第56号住居跡)	遺物395 (第59号住居跡)
遺物304 (第45号住居跡)	遺物348 (第56号住居跡)	PL.76 寺上遺跡
遺物301 (第45号住居跡)	遺物349 (第56号住居跡)	遺物396 (第60号住居跡)
遺物305 (第45号住居跡)	遺物351 (第56号住居跡)	遺物397 (第60号住居跡)
遺物306 (第45号住居跡)	遺物352 (第56号住居跡)	遺物398 (第60号住居跡)
遺物307 (第45号住居跡)	遺物352 (第56号住居跡)	遺物399 (第60号住居跡)
遺物308 (第45号住居跡)	PL.72 寺上遺跡	遺物400 (第60号住居跡)
遺物310 (第45号住居跡)	遺物350 (第56号住居跡)	遺物401 (第60号住居跡)
PL.68 寺上遺跡	遺物353 (第56号住居跡)	遺物402 (第60号住居跡)
遺物311 (第45号住居跡)	遺物354 (第56号住居跡)	遺物403 (第60号住居跡)
遺物313 (第47号住居跡)	遺物355 (第56号住居跡)	遺物404 (第60号住居跡)
遺物314 (第48号住居跡)	遺物359 (第56号住居跡)	

PL.77	寺上遺跡	遺物427（第64号住居跡）	遺物446（第1号土坑跡）
	遺物405（第61号住居跡）	遺物429（第64号住居跡）	遺物447（第1号土坑跡）
	遺物406（第61号住居跡）	遺物430（第64号住居跡）	遺物448（第1号土坑跡）
	遺物407（第61号住居跡）	遺物433（第7号溝跡）	遺物449（第2号土坑跡）
	遺物408（第61号住居跡）	遺物433（第7号溝跡）	遺物450（第2号土坑跡）
	遺物410（第62号住居跡）	遺物464（第5号溝跡）	遺物451（第2号土坑跡）
	遺物411（第62号住居跡）	遺物465（第7号溝跡）	遺物453（第6号土坑跡）
	遺物412（第62号住居跡）	PL.80 寺上遺跡	PL.82 寺上遺跡
	遺物413（第62号住居跡）	遺物434（第1号土坑跡）	遺物454（遺構外）
PL.78	寺上遺跡	遺物435（第1号土坑跡）	遺物455（遺構外）
	遺物414（第62号住居跡）	遺物436（第1号土坑跡）	遺物456（遺構外）
	遺物417（第62号住居跡）	遺物437（第1号土坑跡）	遺物457（遺構外）
	遺物418（第62号住居跡）	遺物438（第1号土坑跡）	遺物458（遺構外）
	遺物419（第62号住居跡）	遺物439（第1号土坑跡）	遺物458（遺構外）
	遺物420（第62号住居跡）	遺物440（第1号土坑跡）	遺物459（遺構外）
	遺物421（第62号住居跡）	遺物440（第1号土坑跡）	遺物463（遺構外）
	遺物422（第63号住居跡）	遺物441（第1号土坑跡）	PL.83 寺上遺跡
	遺物423（第63号住居跡）	遺物442（第1号土坑跡）	遺構外出土遺物（縄文）
PL.79	寺上遺跡	PL.81 寺上遺跡	中3
	遺物424（第64号住居跡）	遺物443（第1号土坑跡）	中6
	遺物425（第64号住居跡）	遺物444（第1号土坑跡）	中8
	遺物426（第64号住居跡）	遺物445（第1号土坑跡）	

## 行者遺跡2 掘図目次

第138図 行者遺跡構全体図	12	第145図 第1号溝跡	210
第139図 第1号住居跡	203	第146図 第1号溝跡出土遺物	211
第140図 第1号住居跡出土遺	204	第147図 第2号溝跡出土遺物	212
第141図 第2号住居跡	205	第148図 第1号土坑	213
第142図 第2号住居跡出土遺	206	第149図 小原城と周辺の堀	217
第143図 第3号住居跡	207	第150図 宍戸荘と主な城館	219
第144図 第3号住居跡出土遺	208		

## 行者遺跡2 表目次

表67 第1号住居跡出土遺物観察表	204	表69 第3号住居跡出土遺物観察表	208
表68 第2号住居跡出土遺物観察表	206	表70 第1号溝跡出土遺物観察表	211

## 行者遺跡2 写真図版目次

### PL.84 行者遺跡

- 第1号住居跡遺物出土状況（南から）
- 第1号住居跡上層（南西から）
- 第1号住居跡遺物出土状況（南西から）
- 第2号住居跡遺物出土状況（北東から）
- 第2号住居跡上層（北から）
- 第2号住居跡遺物出土状況（北から）
- 第2号住居跡遺物出土状況（北から）
- 第3号住居跡遺物出土状況（南から）
- PL.85 行者遺跡
- 第3号住居跡土層（南東から）
- 第3号住居跡遺物出土状況（西から）
- 第3号住居跡遺物出土状況（東から）
- 第1号溝跡完掘状況（西から）
- 第1号溝跡土層（西から）
- 第1号溝跡ピット完掘状況（南から）
- 第2号溝跡完掘状況（西から）

### PL.86 行者遺跡

- 遺物1（第1号住居跡）
- 遺物2（第1号住居跡）
- 遺物3（第1号住居跡）
- 遺物4（第1号住居跡）
- 遺物5（第2号住居跡）
- 遺物8（第2号住居跡）
- 遺物10（第3号住居跡）
- PL.87 行者遺跡
- 遺物9（第3号住居跡）
- 遺物11（第3号住居跡）
- 遺物12（第3号住居跡）
- 遺物14（第1号溝跡）
- 遺物15（第1号溝跡）
- 遺物16（第1号溝跡）
- 遺物17（第1号溝跡）

## 第Ⅰ章 調査に至る経緯と経過

### 第1節 調査に至る経緯

畠地荷総合整備事業は、農業に伴う道路・灌漑施設・農地などの生産基盤を総合的に整備することによつて、作物品質の向上、生産作物の拡大、収支の増加、輸送費の削減、荷害みの防止など、より高い生産性と品質のさらなる向上を目指している。

笠間市では目標となる基本施策を総合計画で定め、農林業の振興を図ることを目的とした産業振興プロジェクトが重点的に進められている。また、農業生産基盤の整備の一環として、平成13年に小原地区土地改良区が設立され、茨城県の指導の下、効率的な畑作農業地域を作るための整備事業が実施されている。

この整備事業の計画地は常磐線をはさんで南北に分かれている。この地区には市内最大級の山王塚古墳を有する一本松古墳群があり、重要な遺跡の包蔵地である。このことから整備事業計画の中で平成15年に三本松遺跡の発掘調査、平成16・17年に小原遺跡の発掘調査、平成20年に瑞谷遺跡・長峰東遺跡・長峰西遺跡の発掘調査、さらに平成21年に行者遺跡の発掘調査が行われ、多大な成果が得られている。

今回の整備事業計画地は寺上遺跡の範囲内であることから、笠間市教育委員会は平成21年度に笠間市文化財保護審議会委員の能島清光氏に試掘調査を依頼した。その結果トレンチから住居跡が確認され、出土遺物などから奈良・平安時代を主とする集落があることが推定された。

工事主体者である県央農林事務所は、茨城県教育委員会教育長に対して、文化財保護法第94条第1項の規定に基づき、土木工事のための揮毫文化財包蔵地の発掘について通知した。茨城県教育委員会教育長は、現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要と判断し、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

これを受け、笠間市教育委員会は入札により関東文化財振興会株式会社と委託契約を締結して調査を依頼した。笠間市教育委員会・県央農林事務所・関東文化財振興会株式会社は三者協議を行い、文化財保護法第92条第1項の規定による発掘調査届出を茨城県教育委員会教育長へ提出、茨城県裡文化財指導員の川崎純徳氏、笠間市文化財保護審議会委員の能島清光氏を指導委員として平成23年11月25日から平成24年3月15日まで、発掘調査を実施することになった。

### 第2節 調査の経過

当遺跡の調査は、発掘調査が平成23年10月25日から平成24年3月15日までの期間、整理作業は平成24年9月19日から平成25年3月15日までの期間、実施した。その経過は、10月25日から調査区の草刈り作業を行い、11月25日から築造作業による遺構確認作業を経たのち遺構調査に取り掛かった。調査区の終了に伴い、ラジコンヘリを用いた調査終了状況の写真撮影を行ったのち、茨城県教育庁文化による終了確認を行った。

発掘調査終了後は、出土遺物・遺構の図面・撮影画像を整理室に移管し、出土遺物の洗浄・注記・接合や遺構図面の整理、撮影画像の整理などを行った。その後、遺物の実測や写真撮影、報告書の原稿紙筆、図版の版下作成などの作業を進めた。出土遺物・遺構図面・遺物図面・撮影画像は整理・分類後、台帳を作成し、これらを笠間市教育委員会に返還した。

### 第3節 調査方法

#### (1) 発掘調査

調査エリアに柵を設け、安全確認を行い、作業員の健康状態の確認、準備体操を十分に行った後、遺構確認面をジョレンを用いて精査し、確認された遺構を移植ゴテで掘り下げ、本格的な遺構調査に入った。豊穴住居跡は、土層観察用のベルトを十字に残し掘り下げ、出土した遺物は出土状態を詳細に記録して取り上げた。土坑及びピットなどは半敷し、遺構の埋没状況などを確認した。

確認した遺構の調査記録は、平面・断面測量及び写真撮影で対応した。測量は世界測地系に基づいた数値をGPS測量により求め、基準点・水準点を設置し、これらをもとにグリットの設置及び平面・断面測量を行った。グリットの設置は、調査区内に5m×5mの方眼を被せ、方眼の交点に4本のグリット杭を基準として設置し、光波測距儀を用いて平面測量を行った。遺構図面は平面・断面図とも1/20縮尺で作成した。

遺構写真は、調査の進捗状況に併せて隨時撮影を行い、撮影機材は35mmの一眼レフカメラとデジタルカメラで撮影し、白黒フィルム・カラーリバーサルフィルムと1200万画素相当のデジタルデータで記録した。

調査終了段階において、ラジコンヘリを使用した終了状況写真を撮影した。



「準備体操」



「表土除去作業」



「遺構調査風景」

#### (2) 整理調査

発掘調査で出土した遺物や撮影した写真、記録した図面は、事前にすべての点数を確認し、その後、遺物洗浄作業や写真の整理、図面の修正などに取りかかった。

遺物の洗浄作業は、土器に二次的な痕跡を加えないよう丁寧に行った。出土遺物への注記はインクジェットプリンターで行い、注記終了後には遺物を時期・器種・部位等に分類し、接合作業に移行した。これらの遺物はセメダインで接合し、補強等が必要な遺物に関しては焼き石膏を使用した。

遺物接合の終了を受け、すべての出土遺物に対し分類を行うとともに、掲載遺物を選定し、実測作業に入った。その後、方眼紙に等倍で実測し、実測原図を600dpiの画素数でスキャンし、デジタルトレースした。

遺構図面は修正作業を行い、その後、報告書に掲載する図面を仮版組みし、トレースを行った。

写真図版は、遺構調査時に撮影した遺構の写真と、洗浄・接合後の遺物の写真をそれぞれ仮版組みし、適切なキャプションを付け、デジタルデータ化した。



「遺物注記作業」



「遺物接合・修復作業」



「図面修正・図版作成」

## 第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

### 第1節 地理的環境

笠間市は茨城県のはば中央にあり、小原地区は笠間市域東部の旧友部地区にある。また当地域を含めた市域北東部は、八溝山系鶴足山塊から連なる友部丘陵域に属している。

寺上遺跡は小原地区的東寄りにあり、潤沼前川から北西方向に延びる小支谷を遡った友部丘陵南東端の緩斜面上、標高40m～70m上に立地する。

行者遺跡はその丘陵の末端の傾斜が緩やかになった台地上にあり、小支谷を挟んで寺上遺跡と対峙している。また行者遺跡の東側には谷津があり、谷津は来た方向に向かって深く入り込んでいる。なお、行者遺跡は小原集落の中心にある小原神社からは北北西方向にあたり、宅地と畑・山林の境界域付近で、現況は畠地と竹林が密生して茂る荒蕪地となっている。

### 第2節 歴史的環境

寺上遺跡及び行者遺跡の立地する小原地区は、先行して調査された高寺古墳群や一本松古墳群、中世小原城跡の存在が知られているが、近年小原地区で行われている発掘調査により、三本松遺跡や小原遺跡、塙谷遺跡、長峰東遺跡、長峰西遺跡など、弥生時代から古墳時代、奈良・平安時代の各集落遺跡を主体にし、中・近世に至るまで、長期に渡って人々の生活跡が残っていることが明らかとなってきた。

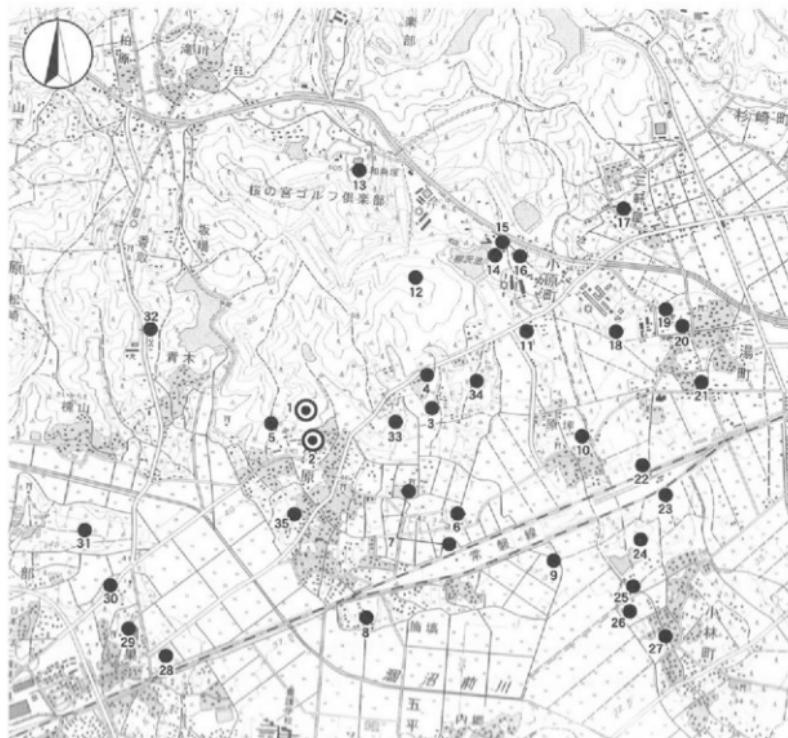
旧石器時代では、長峰西遺跡から珪質頁岩製のナイフ形石器が出土しているが、行者遺跡（土生ほか2011）から瑪瑙製の削器が、塙谷遺跡（土生ほか2011）では数十点の石刃と石核1点、不定形剥片が集中するユニットが確認されている。

縄文時代では、小原地区内における遺構・遺物の出土は少ないものの、塙谷遺跡C地区、長峰東遺跡、小原遺跡において陥穴が確認され、塙谷遺跡では前期の住居跡が1軒確認されている。また、遺構に伴わないものの、長峰東遺跡や寺上遺跡では前期中葉の関山II式や黒浜式等、長峰西遺跡では早期前葉の無文土器および前期中葉・中期後半・後期前半といった縄文土器が報告されている。

弥生時代では、後期後半期に堅穴住居跡の数が非常に多くなり、三本松遺跡で15軒、小原遺跡で2軒、塙谷遺跡C区で10軒、長峰東遺跡で9軒、長峰西遺跡で7軒、行者遺跡で1軒が確認されている。以上から、本遺跡を含めると弥生時代後半の住居軒数は県内でも特に多い地域と見られ、弥生時代後期後半から終末期にいたる生活の痕跡が少しずつ明らかになってきている。

古墳時代では、小原地区内からは古墳時代前期・中期・後期の集落が見られるが、長峰東遺跡からは弥生時代終末から古墳時代前期への移行期と推測できる堅穴住居跡と土器が確認されている。古墳時代前期の時期は塙谷遺跡に住居数が多く、方形周溝墓も造られている。

古墳時代後期には三本松遺跡や小原遺跡、長峰西遺跡等に集落の広がりが見られる。この時期は後期古墳の造成が盛んな時期に対応しているものと思われる。小原地区的古墳群では、一本松古墳群と高寺古墳群があげられが、一本松古墳群には直径約53mの大型墳の山王冢古墳がある。また高寺古墳群は台地上からの丘陵斜面地にかけて8～9基確認されているが、そのうち高寺2号墳は、周溝内径推定25mの円墳と見られ花崗岩の削



第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡分布図 (1:25,000)

1 寺上遺跡	2 行者遺跡	3 長峰東遺跡	4 喜平塚遺跡	5 高寺古墳群
6 小原遺跡	7 一本松古墳群	8 塚崎古墳	9 三本松遺跡	10 原坪古墳群
11 原古墳	12 大日山古墳群	13 和尚塚古墳	14 柳沢古墳群	15 三軒屋塚群
16 三軒屋古墳群	17 杉崎遺跡	18 記山遺跡	19 宮前遺跡	20 三湯館跡
21 舞台遺跡	22 舞台西遺跡	23 向山遺跡	24 新道地北遺跡	25 新道地南遺跡
26 連中前遺跡	27 中の内遺跡	28 田端内遺跡	29 家前遺跡	30 郡部塚古墳群
31 北平遺跡	32 香取、板場遺跡	33 長峰西遺跡	34 塙谷遺跡	35 小原城跡

石積の横穴式石室を持ち、墳丘南東部からは武人埴輪や円筒埴輪が、石室内からは玉類、刀や劍などの鉄製品が出土している。なお、高寺古墳群に属すると見られる行者遺跡からは、高寺2号墳に先行する時期の2基の古墳が確認され、人物・馬形の形象埴輪と多数の円筒埴輪が出土している。

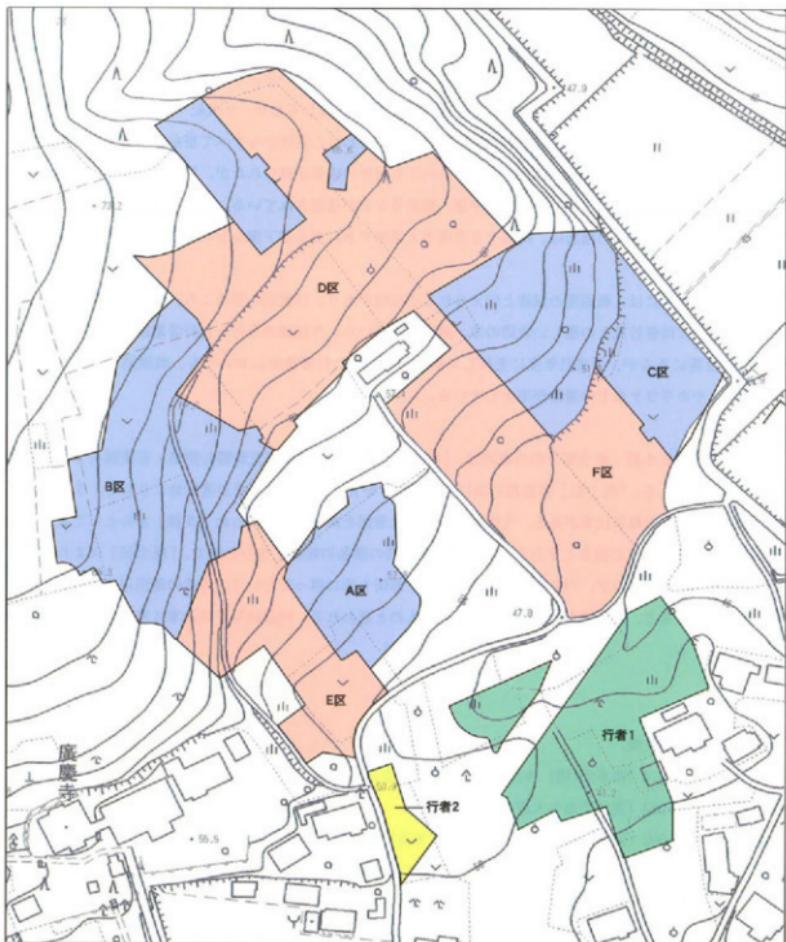
奈良・平安時代には、8世紀中頃から急激に堅穴住居跡が増加しており、9世紀～10世紀にかけて集落が継続している様子が窺え、小原地区内において発掘調査が行われた遺跡からすべて奈良・平安時代の朱漆の跡が確認されている。寺上遺跡A～C区の調査においても同様の成果が得られたが、特に祭祀的要素を感じられる多数の土師器皿、灯明皿、ミニチュア壺や壺、獸齒骨などが確認されている。なお、奈良時代になってからのこのような急激な集落の増加は、隣接する笠間市大瀬窯や水戸市木葉下窯などの須恵器生産地帯の発展との関わりも想定される。

中世のこの地区には、戦国期の城跡と伝えられる小原城があり、16世紀の初めころ、墨見氏の居城として造られ戦国末期には佐竹氏との激しい攻防の末、滅ぼされている。今回調査を行った行者遺跡は小原城跡の北東約1.2kmの位置にあるが、平成21年度に先行して調査がなされた行者遺跡においても、戦国期に比定される遺構（堀跡）やカワラケなどの遺物が出土している。

茨城の地名由来と小原 律令制下の当町域は、「和名抄」に見える常陸国茨城郡石間郷・安候郷および那賀郡茨城郷に比定される。「風土記」那賀郡の条に「茨城丘」が見え、当町の小原が濫称地とされる。また茨城郡の条にも「茨城」の地名伝承が見え、大臣族源坂命が七草式を改めた際に使った「茨城」からとった説、征伐のため茨で城をつくった説などがある。茨城郷は茨城郡の郡名の起源となった地で、「風土記」によれば、古くは茨城郡衙が置かれたが、のち那賀郡に編入され、郡衙も他に移ったという。古代の涸沼川流域を中心に小鶴莊が立莊されると、当町域も河莊域に包括されたものと思われる。同莊は早くは治承4年(1180)の皇廟門院譲状に見える。(『茨城県地名大事典』より抜粋)

#### 参考文献（発行年度順）

- 瓦吹 堅 1976 『高寺2号墳』 当茨城郡友部町教育委員会  
志田詔一他 1983 『茨城県地名大辞典』 角川書店  
広瀬和雄 1992 「前方後円墳の畿内編年」「前方後円墳集成 畿内編」 山川出版社  
江幡良夫 1995 『土浦北工業団地造成地内埋蔵文化財調査報告書 原出口遺跡Ⅲ』  
茨城県教育財團文化財調査報告第9・4集、財團法人茨城県教育財團  
早川 泉 2003 『三本松遺跡』 友部町三本松遺跡発掘調査会  
吉田 寿 2005 『小原遺跡』 友部町小原遺跡発掘調査会 大成エンジニアリング㈱  
大貫 健 2010 『長峰西遺跡』 笠間市教育委員会 南勾玉工房 Mogi  
土生朋浩ほか 2011 『行者遺跡－県営烟地帯総合整備事業に伴う発掘調査報告書－』  
笠間市教育委員会 毛野野考古学研究所  
土生朋浩ほか 2011 『塙谷遺跡2－県営烟地帯総合整備事業に伴う発掘調査報告書－』  
笠間市教育委員会 毛野野考古学研究所  
松井政基ほか 2012 『寺上遺跡－県営烟地帯総合整備事業に伴う発掘調査報告書－』  
笠間市教育委員会 毛野野考古学研究所



- |             |                      |              |                      |
|-------------|----------------------|--------------|----------------------|
| [Blue Box]  | --- 寺上遺跡 1 平成22年度調査区 | [Orange Box] | --- 寺上遺跡 2 平成23年度調査区 |
| [Green Box] | --- 行者遺跡 1 平成21年度調査区 | [Yellow Box] | --- 行者遺跡 2 平成23年度調査区 |

笠間市発行 2千5百分の1都市計画図

第2図 調査区の位置図

## 第Ⅲ章 調査の概要と基本層序

### 第1節 調査の概要

寺上遺跡は小原地区の東寄りにあり、洞沼前川から北西方向に延びる小支谷を遡った友部丘陵南東端の緩斜面上、標高40m～70m上に立地する。今回調査が行われたD～F区の調査面積は15,800m<sup>2</sup>で、調査前の現況は雑木林と畠地である。

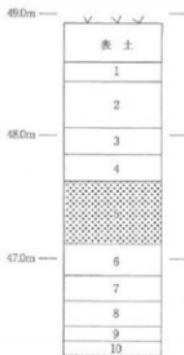
調査によって、奈良時代、平安時代を中心とした遺構と遺物が確認された。確認された遺構は、堅穴住居跡61軒（奈良・平安時代）、溝跡4条（時期不明）、柵列1列（時期不明）、土坑38基である。遺物は遺物コンテナ（60×40×20cm）に78箱出土し、主な遺物は縄文土器（深鉢）、土師器（壺・高台付壺・鉢・甕・壺）、須恵器（壺・高台付壺・高壺・高盤・蓋・壺・甕）、灰釉陶器（碗）、陶磁器（擂鉢など）、土製品（瓦塔）、石器（砥石）、石製品（紡錘車）、金属製品（刀子・釘）、銅製品（耳環・古錢）などである。

行者遺跡は前述した丘陵の末端で傾斜が緩やかになった台地上にあり、小支谷を挟んで寺上遺跡と対峙している。調査前の現況は雑木林と畠地で、調査面積は1,200m<sup>2</sup>である。前回の調査によって、弥生時代から平安時代までの複合遺跡であることが明らかとなった。

今回の調査では弥生時代の堅穴住居跡2軒と古墳時代の堅穴住居跡1軒、中世の堀跡1条、溝跡1条、土坑1基が確認された。遺物は遺物コンテナ（60×40×20cm）に2箱出土し、主な遺物は弥生土器（壺、炉器台）、土師器（高壺）、陶磁器（擂鉢など）、馬歯骨などである。

### 第2節 基本層序

（行者遺跡エリアの基本層序）

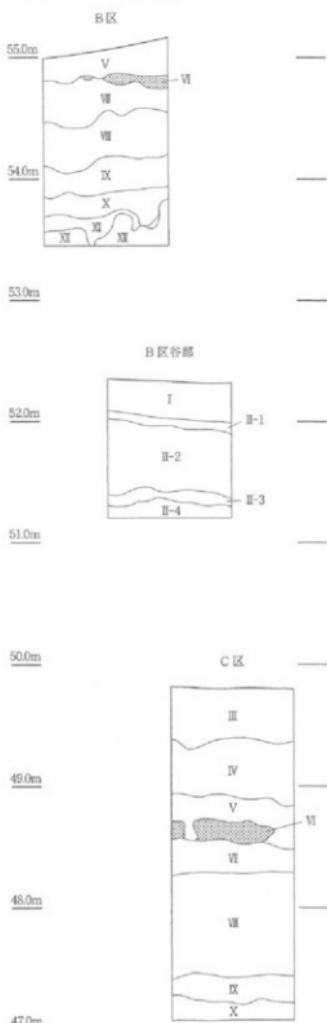


調査区の中央部、標高48.9m地点で、中世の堀跡の断面を利用して記録した。表土は黒褐色の耕作土層で、表土直下の1層はソフトロームの褐色土層で、遺構の確認面は1層上面である。2層以下4層までは黄褐色のハードローム層である。5層は2～3mmの鹿沼バミス純層で、6～8層は再び褐色ローム層で粘性がある。9～10層にかけてはさらに粘性が強い褐色粘質土層である。（行者遺跡報告書抜粋）

1	褐	色	ソフトローム
2	黄	褐色	褐色小ブロック上層に少量、1・3層と比べ明るい褐色で非常に固いブロック状のハードローム
3	黄	褐色	3層よりもやや柔らかく、やや暗いハードローム
4	黄	褐色	鹿沼バミス少量
5	黄	褐色	2～3mmの粒径の純粋な鹿沼バミス層、固く織まりあり
6	褐	色	黒色粒や多い、粘性有り
7	褐	色	黒色粒少量、粘性有り
8	褐	色	褐色粒多量、黒色粒少量、明褐色中ブロック中量、粘性有り
9	褐	色	黒色粒や多い、粘性強い
10	褐	色	黒色粒多量、粘性非常に強い

第3-1図 基本土層図（行者遺跡）

〈寺上遺跡エリアの基本層序〉



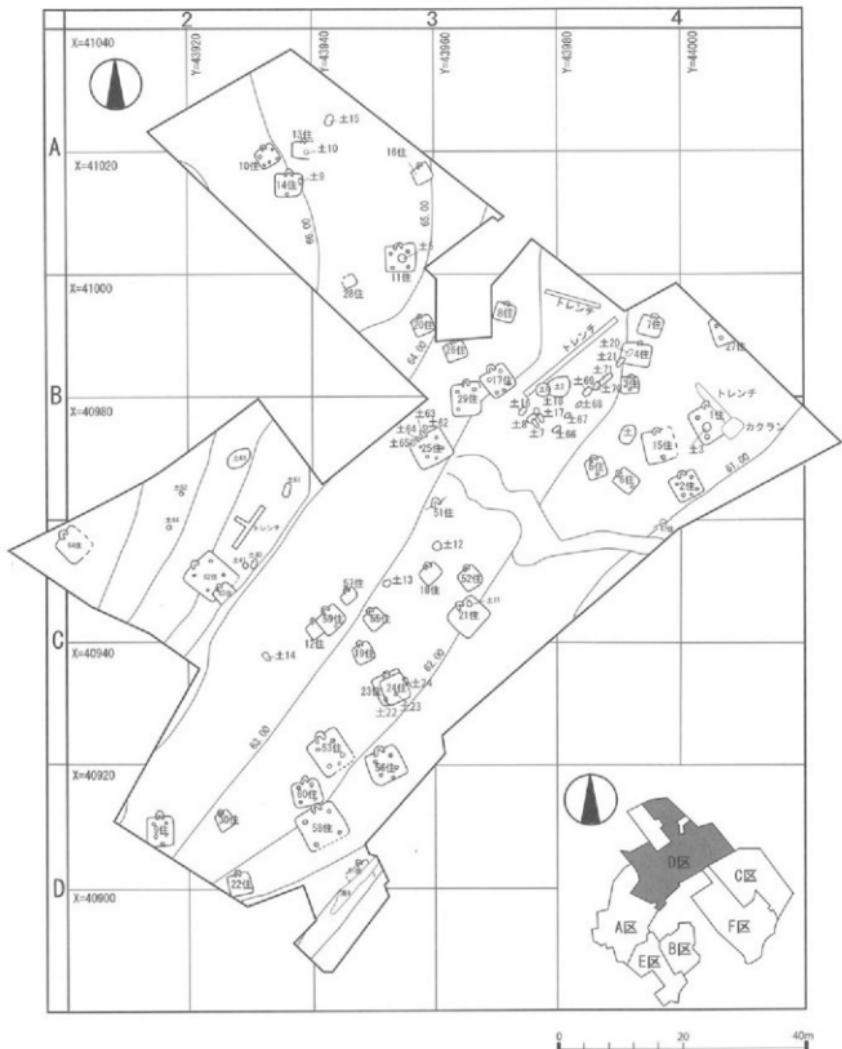
基本層序は標高55m地点と、傾斜地から平地に移る崖面の標高50m地点及び谷部で記録している。

層序はIからXII層まで認められ、I層は表土層、II層は谷部の黒褐色土層で、II-1～4層に分かれている。II-1層は谷部において古代の遺構確認面となっている。III～V層は黄褐色ハードローム層で、VI層はIV・V層に比べて色調が明るい。V・VI層には赤城-鹿沼テフラ(Ag-KP: 31,000～32,000年前)が混入する。とくにVI層で多量に包含され、一部に窪み状の層位が見受けられた。VII層は赤城-鹿沼テフラの一次堆積層に相当し、複数のフォールユニットが認められる。VIII～X層は粘性があり締まりの強い褐色土で、混入物が少ない。XI～XII層は粘性のある明褐色土で、XI層は黒色粒の含有量が多く、XII層は礫を多量に含んでいる。(寺上遺跡報告書抜粋)

I	暗褐色	締まり弱い。表土層
II-1	黒褐色	ローム小ブロック微量、ローム粒多量、しまり強い
II-2	黒褐色	ローム中ブロック多量、ローム粒多量、しまり強い
II-3	黒褐色	ローム小ブロック微量、ローム粒中量、しまり強い、粘性強い
II-4	黒褐色	ローム大ブロック微量、ローム粒中量、焼土粒微量、しまりやや軟らかい、粘性強い
III	黄褐色	IV層よりもやや明るいハードローム、非常に硬い
IV	黄褐色	III層よりもやや暗いハードローム
V	黄褐色	テフラKP少量、ハードローム
VI	明黄褐色	テフラKP純層、しまり普通
VII	褐色	軽石粒少量、しまり非常に強い、粘性あり
VIII	褐色	軽石粒少量、しまり非常に強い、粘性あり
IX	褐色	黑色粒微量、軽石粒や目立つ、しまり非常に強い、粘性強い
X	明褐色	黑色粒少量、ローム小ブロック微量、粘土少量、テフラ小ブロック微量、軽石粒、しまり非常に強い、粘性あり
XI	明褐色	ローム小ブロック少量、黒色粒多量、軽石粒、しまり非常に強い、粘性強い
XII	明褐色	粘土多量、黒色粒微量、テフラ小ブロック少量、礫多量、乳白色の軽石粒多量、しまり普通、粘性あり

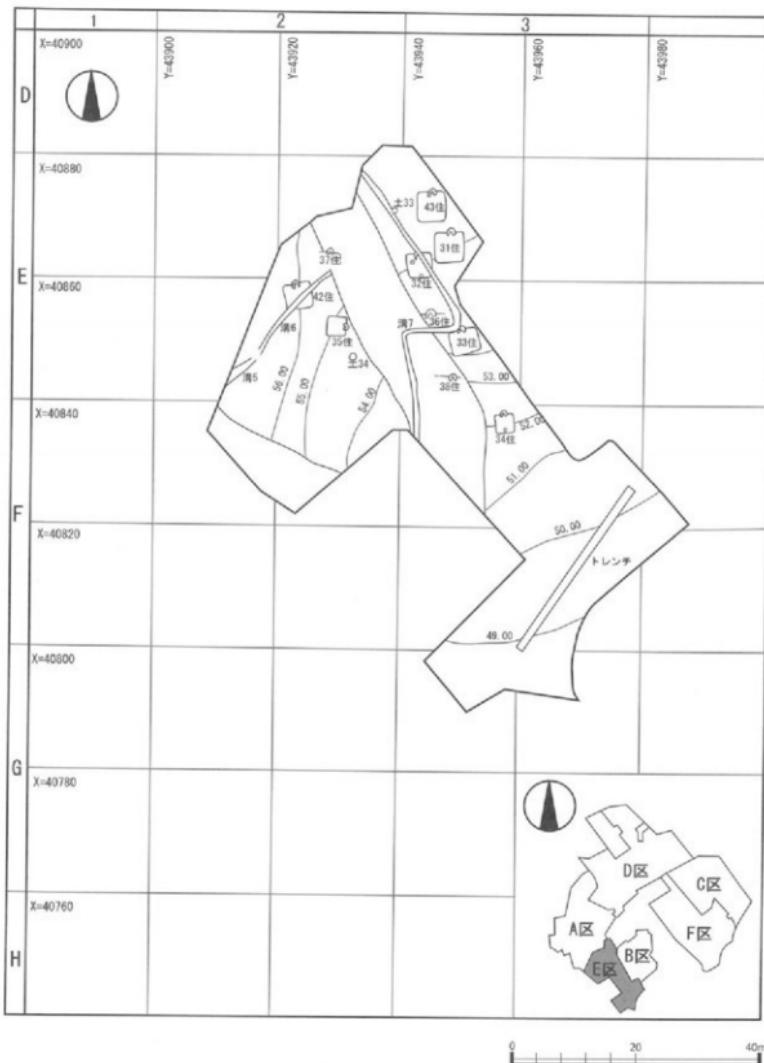
第3-2図 基本土層図(寺上遺跡)

## 寺上遺跡



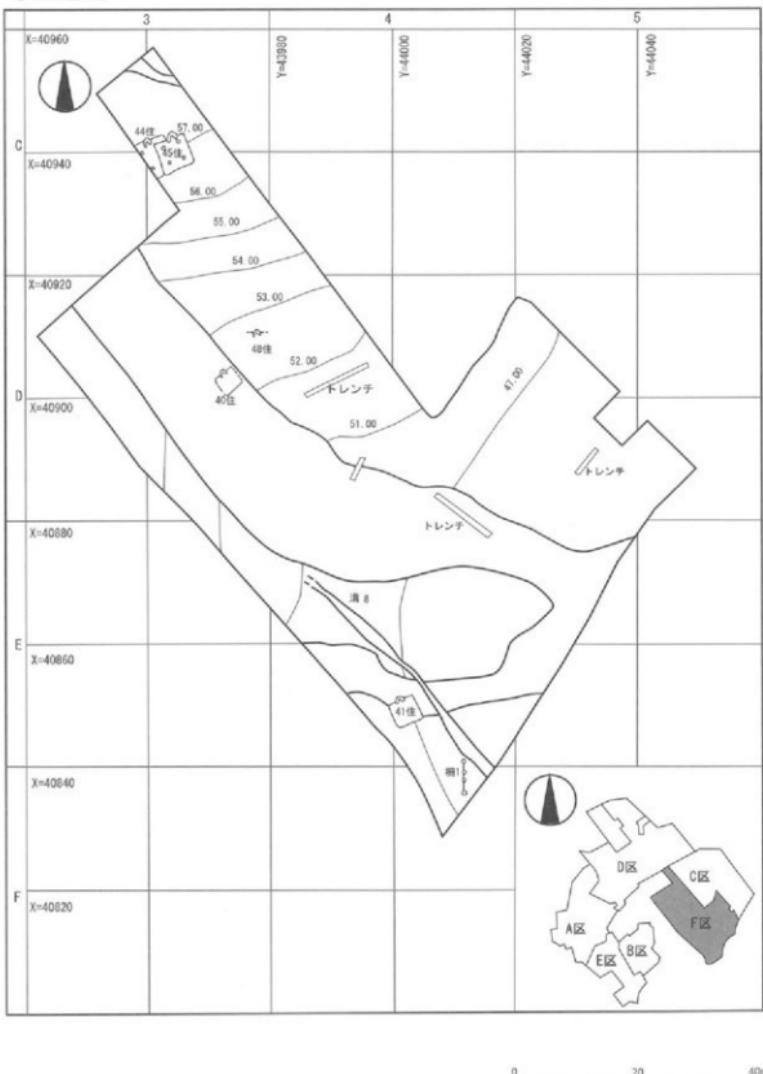
第4図 寺上遺跡D区遺構全体図

## 寺上遺跡



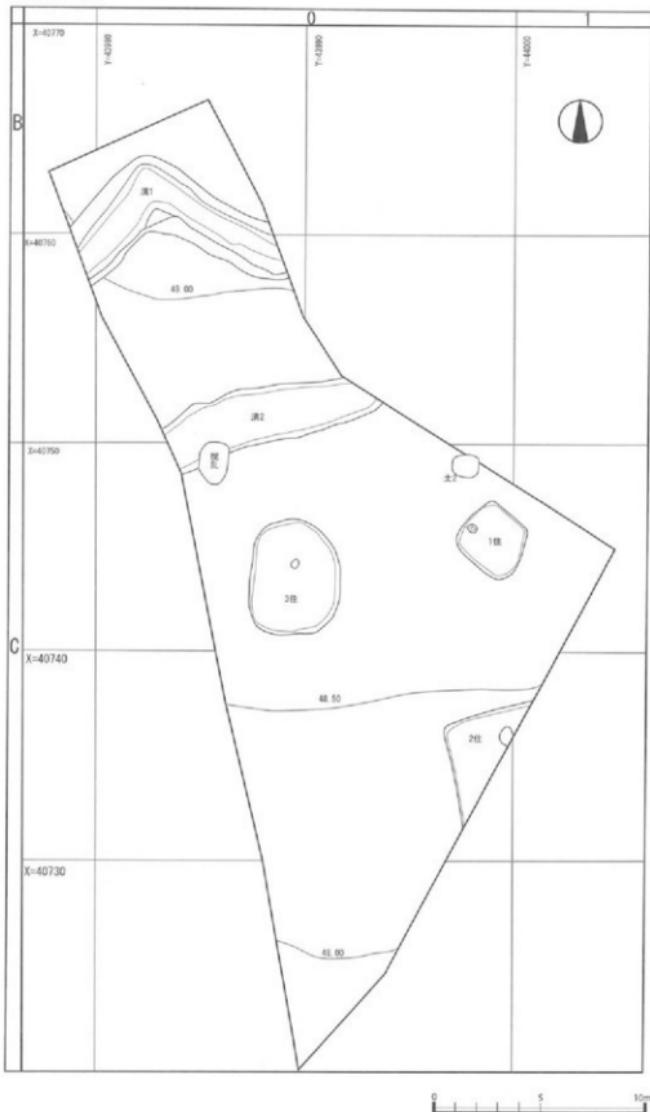
第5図 寺上遺跡 E区遺構全体図

## 寺上遺跡



第6図 寺上遺跡F区遺構全体図

### 行者遺跡



第 138 図 行者遺跡遺構全体図

## 第IV章 寺上遺跡2

### 第1節 壇穴住居跡

壇穴住居跡は、D区から46軒、E区から10軒、F区から3軒確認された。時期的には7世紀後半から9世紀後半に比定される住居である。

#### 第1号住居跡（第7・8図、第1表、PL3・37）

位置：D段南区B4グリッド、標高59.8m地点にある。

重複関係：中央部を第3号土坑に掘り込まれている。

規模・平面形：長軸(9.0)m、短軸(7.7)mで、主柱穴の位置から方形もしくは長方形を呈していたものと推測される。

主軸方向：N-27°-W

残存壁高：確認面から最大高20cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：検出されていない。

床：大半は削平されており、詳細は不明であるが、遺存している壇前面部分は、礎構築材と推測される砂質の粘土塊が床面に飛散している状態であった。

ピット：3箇所で確認され、いずれも主柱穴と考えられる。また本來主柱穴が設置されていたと推測される本跡南東部は後世の擾乱により破壊されており、主柱穴は検出されなかった。なお、P3とP4で柱抜き取りの痕跡が確認された。P1：55×48cm、深さ49cm、P2：50×45cm、深さ47cm、P3：92×89cm、深さ53cmである。

#### P1土壘解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量、炭化粒子少量、縛まり弱い
- 2 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、鹿沼バミスブロック少量、やや縛まりあり

#### P2土壘解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、鹿沼バミス微弱、縛まり弱い
- 2 褐褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化粒子少量、縛まり弱い
- 3 黑褐色 炭化物少量、炭化粒子微量、縛まり弱い（柱抜き取り痕）
- 4 褐色 ロームブロック少量、鹿沼バミスブロック少量、やや縛まりあり

#### P3土壘解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、鹿沼バミス微弱、縛まり弱い
- 2 褐褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、鹿沼バミス微量
- 3 黑褐色 炭化物少量、炭化粒子微量、縛まり弱い（柱抜き取り痕）
- 4 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、鹿沼バミスブロック少量、やや縛まりあり

竈：北壁中央部東寄りにあり、砂質粘土上で構築されている。焚口部から煙道部までは98cmである。本跡は大半が削平されているため堆積層厚は薄く、都部も基部のみの検出となつたが、袖部の最大幅は約76cmを測り、内壁の一部が突然により亦変形化していることが確認された。火床部は床面から8cmほど掘りくぼめて火床面としており、ゾツゾツと赤く発化している。煙道部は壁外へ10cmほど取り出して造られ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がり、上部で段状となる。

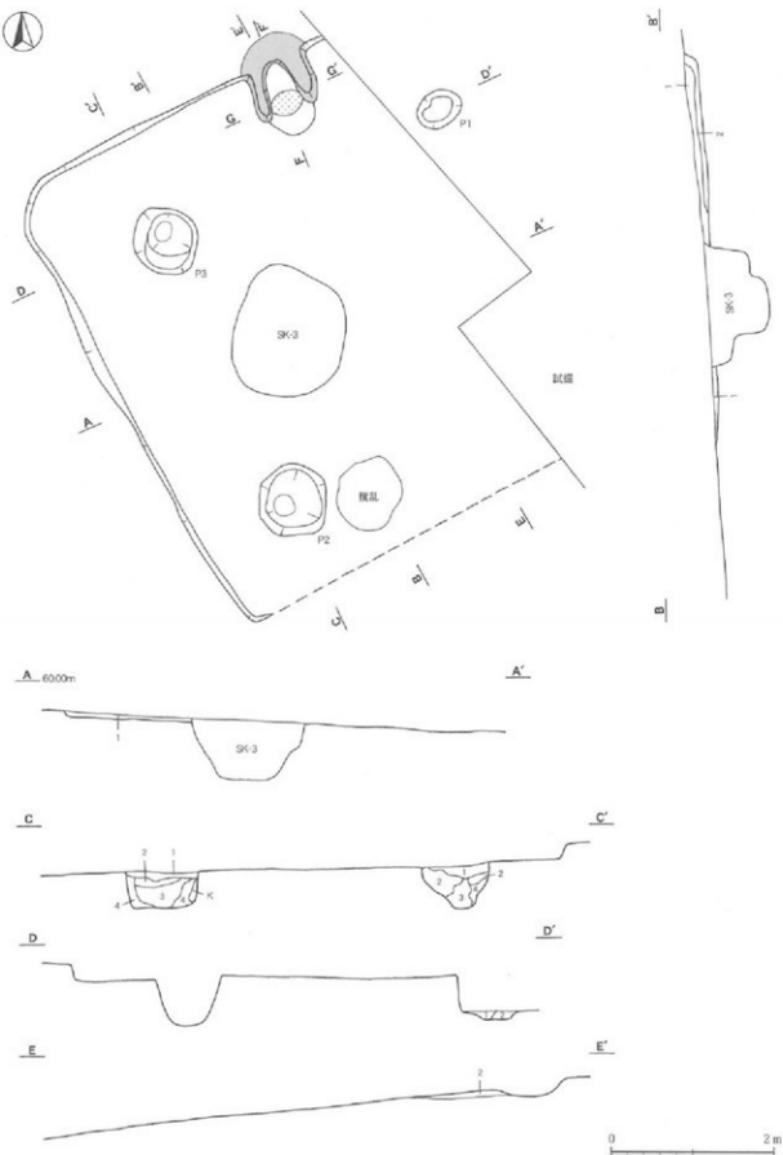
#### 土壘解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、鹿沼バミスブロック少量、縛まり弱い
- 2 褐褐色 ロームブロック微量、焼土粒子微量、炭化粒子微量、鹿沼バミスブロック少量、縛まりあり
- 3 黑褐色 ロームブロック微量、砂質粘土上ブロック少量、炭化粒子微量
- 4 黑褐色 焼土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化物少量、炭化粒子少量、粘性あり、縛まり弱い
- 5 赤褐色 施工ブロック中量、焼土粒子中量、炭化物少量、炭化粒子少量、粘性・縛まりともに弱い

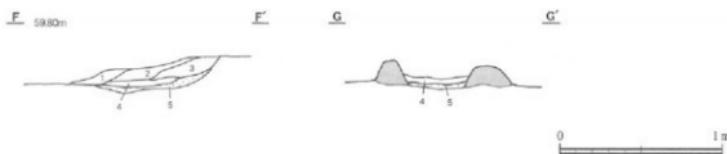
遺構埋没状況：本跡の大半は削平されており、埋没状況は不明である。

#### 土壘解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、砂質粘土ブロック少量、粘性弱い
- 2 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量、炭化粒子微量、縛まりあり



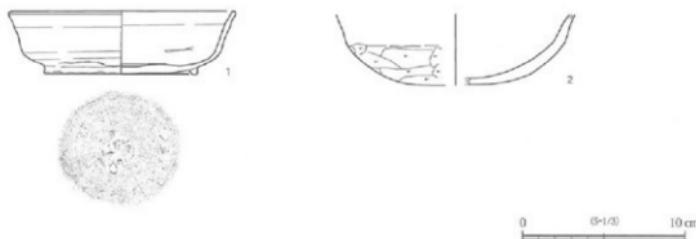
第7-1図 第1号住居跡①



第7-2図 第1号住居跡②

遺物：須恵器片6点（壺・高台付壺類4点、甕類2点）、土師器片75点（壺・高台付壺類8点、甕類67点）。本跡は斜面部に面し覆土も薄く、耕作地であるため混入したものが多く、遺物に時期差があった。圓化した1・2の遺物はいずれも北西部から出土しているものであるが、1の須恵器高台付壺は床面から、2の非ロクロ壺は床面に近い覆土下層から出土したものである。

所見：出土遺物数は少なく、遺物も7世紀後半から8世紀後葉に比定されるものまで様々で、遺物だけでは本跡の時期を特定するには至らなかったが、わずかに出土した遺物が8世紀前葉から中葉に比定されるものが比較的多いことから、住居廃絶時期は8世紀前葉と推測される。



第8図 第1号住居跡出土遺物

第1号住居跡（表1）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	高台付壺	138	41	93	長石、石英 オリーブ灰褐色	SGY6/1 スミテラコナデ	体部内外面ロクロナデ/底部回転ハラケ ノダ	No.1	100% PL37
2	土師器	壺		(45)		白色、長石、 石英、小礫	SGY4/1 灰色	口縁部内外面ヨコナデ/底部下半手持ち ハラケスリ	4区1層	40% PL37

第2号住居跡（第9・10図、第2表、PL3・4・37）

位置：D調査区B 4グリッド、標高59.6m地点にある。

規模・平面形：長軸4.8m、短軸4.6mで方形を呈する。

主軸方向：N-25°-W

残存壁高：確認面から最大高44cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：ほぼ全周し幅12~24cmで巡る。断面はU字形である。

床：ほぼ平坦で、本跡中央部がよく硬化している。竈全面には竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックが散見された。

ピット：5箇所確認され、P1～P4は主柱穴でP5は出入口1ピットと考えられる。また、P3とP4で柱抜き取りの痕跡が確認された。P1：65×59cm、深さ44cm、P2：58×46cm、深さ44cm、P3：108×75cm、深さ75cm、P4：95×79cm、深さ55cm、P5：48×33cm、深さ25cmである。

P1土層解説  
1. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量  
2. 灰褐色 ロームブロック少量、鹿沼バニスブロック中量、縫まりあり  
3. 黄褐色 ロームブロック微量、17. ム粒子少軽

P2土層解説  
1. 暗褐色 ローム粒子少量、鹿沼バニス微量  
2. 灰褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量、鹿沼バニスブロック少量

P3土層解説  
1. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量  
2. 灰褐色 ロームブロック中量、ローム粒子少量、鹿沼バニスブロック少量、縫まりあり  
3. 黑褐色 ローム粒子微量、炭化物微量、炭化粒子少量、粘性・縫まりともに弱い（柱抜き取り痕）

P4土層解説  
1. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量  
2. 灰褐色 ロームブロック少軽、ローム粒子少軽、鹿沼バニスブロック少量、炭化粒子微量  
3. 黄褐色 ローム粒子少量、鹿沼バニスブロック少量、炭化粒子微量（柱抜き取り痕）

P5土層解説  
1. 海兔色 ロームブロック微量、ローム粒子微量、炭化粒子微量、縫まり弱い  
2. 塔場褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量、縫まり弱い

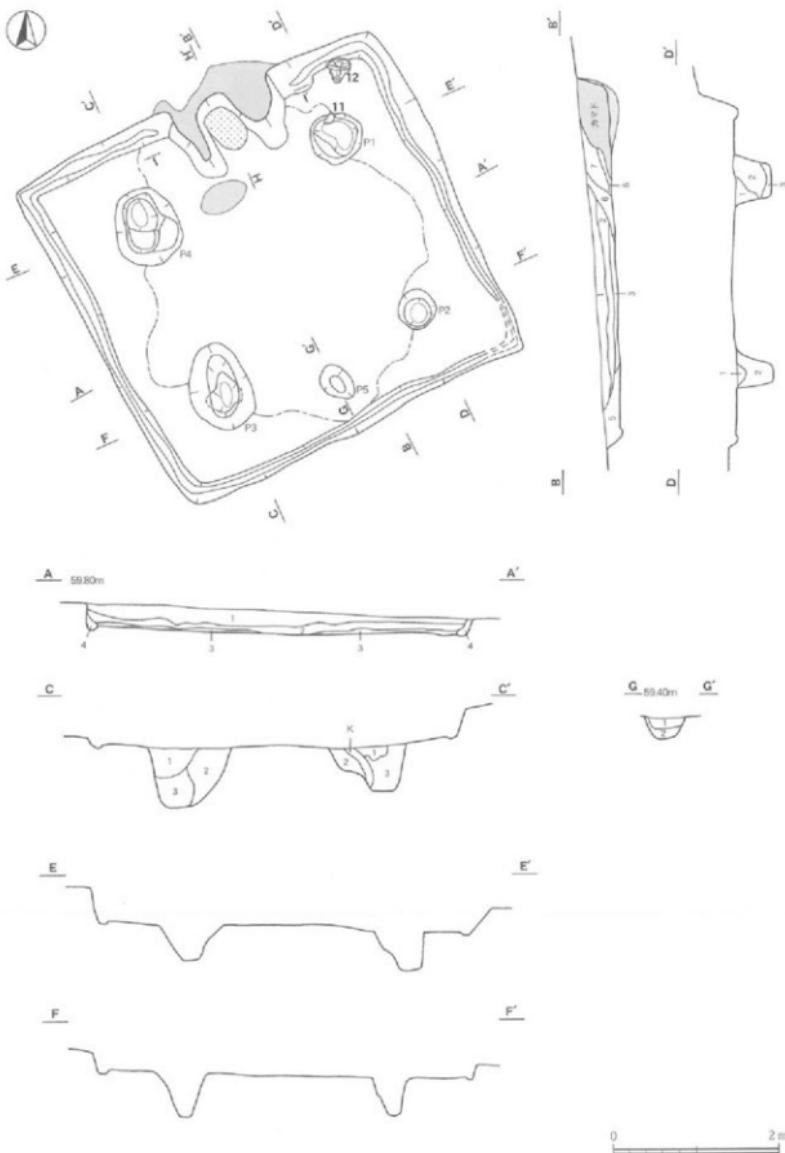
竈：北壁中央部やや東寄りにあり、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは108cmである。天井部は崩落しており、竈土層断面図中、第1・3層に含有される砂質粘土ブロックが崩落土の一部と考えられる。また袖部は比較的良好に遺存しており、内壁は被熱により赤変している。袖部の最大幅は約120cmで、火床部は床面から10cmほど掘りくぼめて火床床としている。煙道部は壁外へ20cmほど削り出して造られ、火床部から外傾して立ち上がる。

土層解説  
1. 灰褐色 ロームブロック少軽、砂質粘土ブロック少量、炭化粒子微量、鹿沼バニスブロック少量、縫まりあり  
2. 灰褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、鹿沼バニスブロック少軽、縫まりあり  
3. 灰褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、砂質粘土ブロック少軽、鹿沼バニスブロック少軽  
4. 砂質粘土色 混十粒子中量、燒土ブロック少軽、炭化粒子少軽、縫まり弱い  
5. 紫褐色 烧土ブロック中量、砂土中量、炭化粒子少軽、炭化粒子微量、粘性・縫まりともに弱い  
6. 灰褐色 砂質粘土ブロック多量  
7. 灰褐色 ローム粒子微量、砂質粘土ブロック中量、炭化粒子少量  
8. 灰褐色 ロームブロック微量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック少軽  
9. 灰褐色 烧土ブロック少軽、砂質粘土粒子中量  
10. 灰褐色 ロームブロック微量、砂質粘土ブロック中量、砂質粘土粒子中量  
11. 灰褐色 砂質粘土ブロック焼土、焼土ブロック少軽  
12. 灰褐色 砂質粘土ブロック多量、焼土ブロック微量、炭化物少量  
13. 灰褐色 ロームブロック微量、砂質粘土ブロック少軽、縫まり弱い  
14. 海兔色 ロームブロック少軽、ローム粒子少軽、炭化物微量

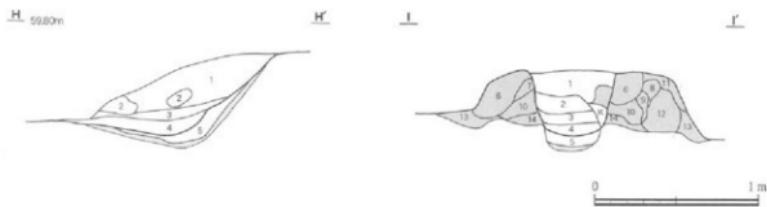
遺構埋没状態：ロームブロック主体の入窓的な堆積状況を示している。第8層には遺構築材と考えられる砂質粘土ブロックが確認された。

土層解説  
1. 海兔色 ロームブロック少軽、ローム粒子少量、鹿沼バニス少軽  
2. 海兔色 ロームブロック少軽、ローム粒子少量、鹿沼バニスブロック少軽  
3. 海兔色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化粒子微量  
4. 灰褐色 ロームブロック少軽、炭化物少軽、縫まり弱い  
5. 砂質粘土色 ロームブロック微量、ローム粒子微量、炭化物微量、炭化粒子少量、鹿沼バニスブロック少軽  
6. 海兔色 ロームブロック少軽、鹿沼バニスブロック微量  
7. 海兔色 砂質粘土ブロック少軽、ロームブロック微量、炭化物少量、炭化粒子少軽  
8. 塔場褐色 ローム粒子少量、砂質粘土ブロック少軽、燒土ブロック微量、粘性弱い

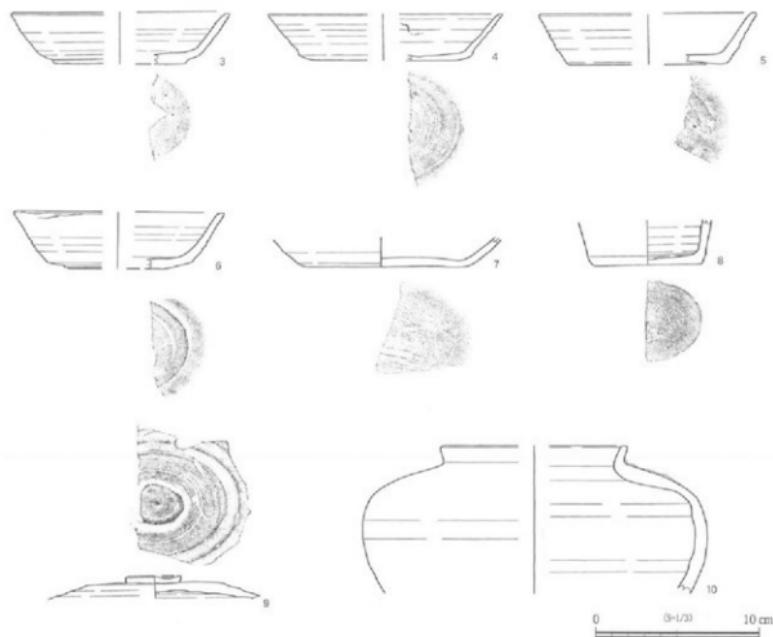
遺物：須恵器片96点（坏・高台付坏類72点、蓋5点、盤2点、甕類17点）、土師器片196点（坏・高台付坏類33点、甕類183点）、土製品1点（支脚）。床面あるいは床面に近い面から確認された遺物の多くは竈東側から出土しており、11の須恵器壺や12の土師器壺が相当する。また、埋め戻しの段階で投棄または混入したと考えられる遺物は甕土上層のものが多い傾向にあり、7の須恵器壺や9の須恵器蓋などである。なお、13の土製支脚は、砂質粘土ブロックと共に竈袖部前から確認されたもので、竈が壊された時に共に崩れ落ちたものと推測される。所見：時期は住居跡発掘後に投棄された遺物からみて8世紀中葉と考えられる。



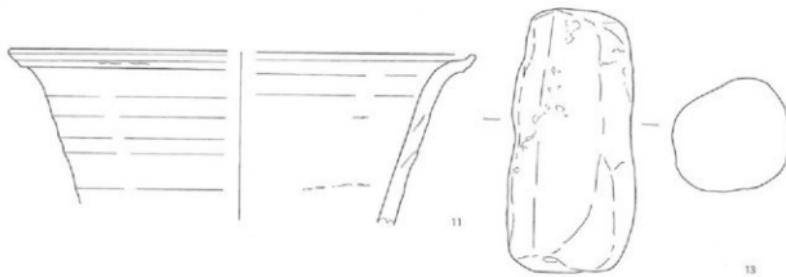
第9-1図 第2号住居跡①



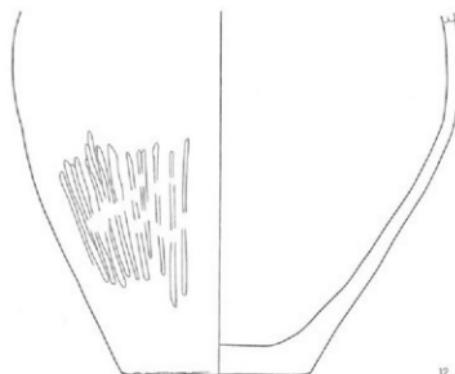
第9-2図 第2号住居跡②



第10-1図 第2号住居跡出土遺物①



13



12



0 5-1/3 10 cm

第10-2図 第2号住居跡出土遺物②

第2号住居跡（表2）

番号	種別	面積	口径	高さ	床跡	粘土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
3	灰窓器	坪	(13.4)	42	(8.0)	白石、青銅色、小鏡	SGY灰褐色	体部内外面クロロナデ/底面切り出し後 調和小刀跡/口縁部及び底面部磨耗	1区2層	40%
4	灰窓器	坪	(14.3)	38	(8.7)	長石、石英、小鏡、骨灰	10GV6/1 綠灰色	体部内外面クロロナデ/底面凹凸ヘラグ P.3	4区1層	PL37
5	灰窓器	坪	(13.4)	42	(9.3)	長石、石英、小鏡	10GV6/1 綠灰色	体部内外面クロロナデ/底面凹凸ヘラグ 後脚部ヘラクスリ/口縁部及び底面部	4区2層	30%
6	灰窓器	坪	(12.8)	46	(6.5)	白色、青銅色	SGY灰褐色	体部内外面クロロナデ/底面凹凸ヘラグ	3区2層	40%
7	灰窓器	坪	(2.4)	94	(6.5)	長石、石英、小鏡	2.5Y6/3 オリーブ色	体部内外面クロロナデ/底面凹凸ヘラグ P.3	1区1層	PL37
8	灰窓器	コップ形 土器	(3.6)	66	11	白色	SGB暗青灰褐色	体部内外面クロロナデ/底部下端背板へ クレタ/底面凹凸ヘラグ	2区1層	30%
9	灰窓器	蓋		(1.9)		長石、石英、針状結晶物、小鏡	7.5GY4/1 綠灰色	体部内外面クロロナデ/火舟部凹版ヘク スリツ/アミ郡都付	3区1層	50%
10	灰窓器	窓	(11.5)	(12.1)		長石、石英、小鏡	2.5GY6/1 オリーブ色	内外曲面クロロナデ/内外面自然粒	1区2層	10%
11	灰窓器	窓	(28.0)	(10.4)		白色、真打、石英	10GV6/1 綠灰色	調和板模み/内外面クロロナデ	No.2	10%
12	主柱跡	空		(22.0)	11.4	白色、長石、小鏡	2.5YR5/4 白色	調和内面ナデ/外径を反転方向ヘラケズ リ/上位の凹部底面ヘクスガル	No.1	30%
										PL38
番号	芯種	最小径 (cm)	最大径 (cm)	高さ (cm)	重量 (kg)	粘土	特 性	型上位置	備考	
13	支柱	58	7.9	16.4	935	黄母、小碎	2bYRS/4に付い青褐色	カマド右袖部	100%	PL38

第3号住居跡（第11・12図、第3表、PL.4・5・38・39）

位置：D調査区B4グリッド、標高60.9m地点にある。

規模・平面形：長軸3.08m、短軸2.68mの長方形を呈する。

主軸方向：N - 2° - W

残存壁高：確認面から最大高38cmを測り、垂直に立ち上がる。

壁構：東壁の南部を除き全底し、幅15 ~ 23cmで巡る。断面はU字形である。

床：ほぼ平らで、中央部が硬化している。

ピット：1箇所確認され、P1 ~ P4は主柱穴でP5は当入口ピットと考えられる。P.1 : 24×24cm、深さ28cmで、  
出入口ピットである。

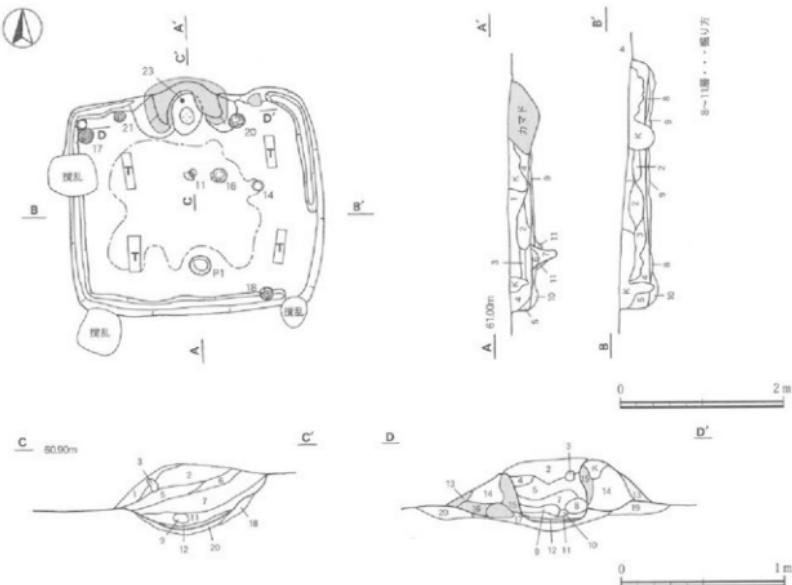
#### P1主層解説（住居跡地盤剖面に準じる）

6. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
7. 海褐色 ローム粒子微量、炭化物微量、炭化粒子少量、焼け目弱い
11. 噴褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化粒子微量、粘性あり

竈：北壁中央部にあり、砂質粘土で構築されている。また焚口部から煙道部までは62cmである。天井部は崩落しており、粘土断面図中、砂質粘土ブロックを含む第5・7・9層が崩落土と考えられる。袖部は比較的良好に保存しており、袖部内面は被熱により赤変しているのが確認された。袖部の基礎はロームブロックを袖部中央に据えて周囲を砂質粘土で構築したもので、袖部最大幅は約126cmである。また火床部の西袖部側から出土した石塊は、赤く被熱しており、本来支脚として据えられていたものと考えられる。この火床部は床面から8cmほど掘りくぼめて火床面としており、ツヅツツと赤く硬化している。・煙道部は壁外へ18cmほど削り出して造られ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

#### 土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化物微量、焼け目弱い
2. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、堺沼バシス微量
3. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量
4. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子微量、炭化物微量



第11図 第3号住居跡

5. 間 色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック少量、焼土ブロック少量、炭化物微量  
 6. 灰黄褐色 ローム粒子微量、炭化物微量、砂質粘土ブロック中量、粘性弱く締まりあり  
 7. 黒褐色 ローム粒子微量、砂質粘土ブロック少量、炭化物微量、炭化粒子少量、締まり弱い量、炭化粒子少量、粘性弱く締まりあり  
 8. 暗褐色 焼土粒子微量、炭化粒子少量、締まり弱い  
 9. ぬら褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子少量、砂質粘土ブロック少量、しまりややあり  
 10. 灰褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック少量、焼土粒子少量、炭化物微量  
 11. カバ褐色 焼土粒子少量、炭化物微量、炭化粒子少量、締まり弱い  
 12. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化物微量  
 13. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化物微量  
 14. 黒褐色 ロームブロック多量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック少量、焼土ブロック少量  
 15. 灰褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土粒子中量、粘性あり  
 16. 黑褐色 ロームブロック少量、砂質粘土粒子中量、粘性あり  
 17. 墓赤褐色 焼土ブロック少量、焼土粒子少量、炭化粒子少量  
 18. 間 色 ロームブロック多量、ローム粒子中量、粘性弱い  
 19. 間 色 ロームブロック中量、ローム粒子中量、焼土ブロック微量、締まりあり  
 20. 間 黑褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、焼土ブロック微量

**遺構埋没状態:** ロームブロックと鹿沼バミスブロック主体の人为的な堆積状況を示している。なお、第4層のロームブロックは、壁部の崩落土と推測される。

## 土層解説

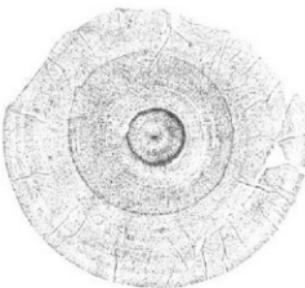
- 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量、締まり弱い
- 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量
- 褐色 ロームブロック中量、ローム粒子微量、焼土ブロック微量、鹿沼バミスブロック微量
- 褐色 ロームブロック中量、ローム粒子微量、炭化物微量、焼土ブロック微量、鹿沼バミスブロック微量、粘性弱い
- 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化物微量、鹿沼バミスブロック少量、粘性弱い
- 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量、粘性あり
- 褐色 ローム粒子微量、炭化物微量、炭化粒子少量、締まり弱い
- 暗褐色 ローム粒子微量、炭化物微量、炭化粒子少量、締まり弱い
- 褐色 ローム粒子微量、炭化物微量、炭化粒子少量、締まり弱い
- 褐色 ロームブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量、粘性あり



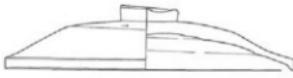
14



15



16



17



18



19



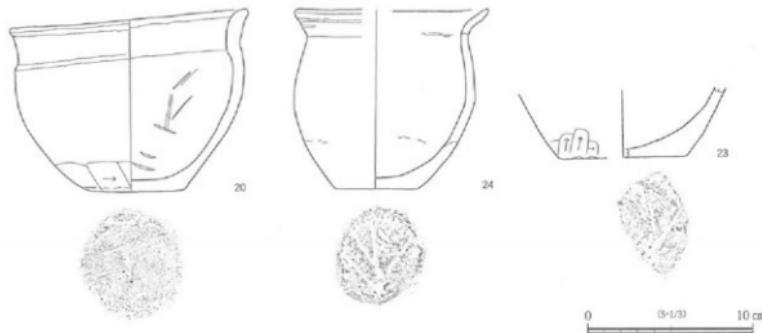
21



— 22 —

0 5-1/2 10 cm

第12-1図 第3号住居跡出土遺物①



第12-2図 第3号住居跡出土遺物②

遺物：須恵器片13点（环・高台付坏類1点、蓋4点、壺類8点）、土師器片41点（环・高台付坏類3点、壺類38点）。床面から確認された遺物の多くは北壁付近と竈前面を主体に散見され、17の須恵器蓋、20の土師器鉢、21の土師器壺が相当する。その他、住居中央部からは14の新治窯産の須恵器環、16の須恵器蓋などが出土している。

所見：図化した遺物は床面あるいは床面に近いレベルで出土したものであり、住居跡廃絶時に遺棄あるいは投棄されたものと推測される。これらの遺物からみて本跡の時期は8世紀後葉頃と考えられる。なお、本跡から新治窯産の須恵器環が確認されたが、当集落跡からは数点出土しているだけで、大半が木葉下・大淵窯産である。

第3号住居跡（表3）

番号	種別	器種	口径	縦高	底径	胎土	色調	手造の特徴はか	出土位置	備考
14	須恵器	环		48	81	雲母、黒色、白色、灰色、石英、石英	5Y6/3 25YR3/1 5YR7/3 10G6/1 5B5/2	体部内外面クロナデ/底部回転ヘラ切 り後、一部手持ちヘラケズリ/体部下端及 び側面周縁削減	No.2 HE1層	PL38
15	土師器	环	(125)	(27)		白色	25YR3/1 5YR7/3 10G6/1 5B5/2	口縁部内外面ヨコナデ/底部下半手持ち ヘラケズリ	3E2層	10%
16	須恵器	蓋	18.0	4.0		長石、石英	5YR7/3 10G6/1 5B5/2	体部内外面ヨコナデ/天井部回転ヘラ ケズリ/～まみ部添付	No.3	100% PL38
17	須恵器	蓋	15.9	(3.0)		長石、石英、針状鉱物	10G6/1 5B5/2	体部内外面ヨコナデ/天井部回転ヘラ ケズリ/～まみ部添付	No.5	90% PL38
18	須恵器	蓋	16.0	(2.0)		長石、石英、針状鉱物	5B5/2	体部内外面ヨコナデ/天井部回転ヘラ ケズリ/～まみ部添付	No.4	90% PL38
19	須恵器	壺	(5.9)			長石、石英、小繊維	5Y6/3 オリーブ黄色	口縁部内外面ヨコナデ、外腹肩縁文	3E1層	5% PL39
20	土師器	鉢	15.4	11.6	6.5	長石、石英、小繊維	5YR6/6褐色	底部内外面ヨコナデ/側部外腹ナデ、内 面ヘラナデ/底部多方向の手持ちヘラケ ズリ	No.1	95% PL39
21	土師器	壺		(5.2)	8.1	長石、石英、小繊維	5YR6/4 25YR4/2 5YR5/4	側部内外面ナデ、外腹一部擬似ヘラケ ズリ/底部外腹くぐり部横位ナデ、底部木 蓋板	No.7	30% PL39
22	土師器	壺	(23.4)	(5.2)		雲母、白色、長石、石英	25YR4/2 5YR5/4 5YR5/2	口縁部・側部外腹ヨコナデ、頭部内面機 位ナデ	カマド 2/4段土	5% PL39
23	土師器	壺	(4.3)	(8.0)		長石、石英、小繊維	25YR5/4 5YR5/2 5YR5/2	側部内外面ヘラナデ、内腹ナデ/底部木蓋 板	No.8	5%
24	土師器	小形壺	(11.9)	11.3	5.1	雲母、長石	5YR5/2 5YR5/2	口縁部内外面ヨコナデ、外腹肩縁文の凹 み・羽状輪縫、外腹ナデ/底部木蓋板	No.9	PL39

第4号住居跡（第13・14図、第4表、PL 5・6・39・40）

位置：D調査区B 4グリッド、標高60.9m地点にある。

重複関係：西部を第20・21号土坑に掘り込まれている。

規模・平面形：長軸4.76m、短軸3.88mの長方形を呈する。

主軸方向：N-9°-E

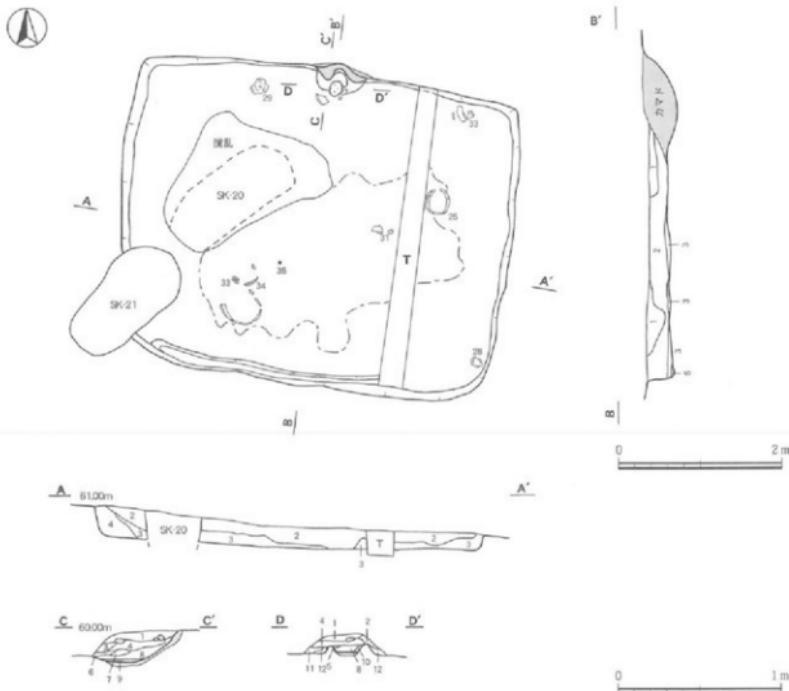
残存壁高：確認面から最大高38cmを測り、垂直に立ち上がる。

壁溝：南部のみ確認され、幅16～20cmで断面はU字形である。

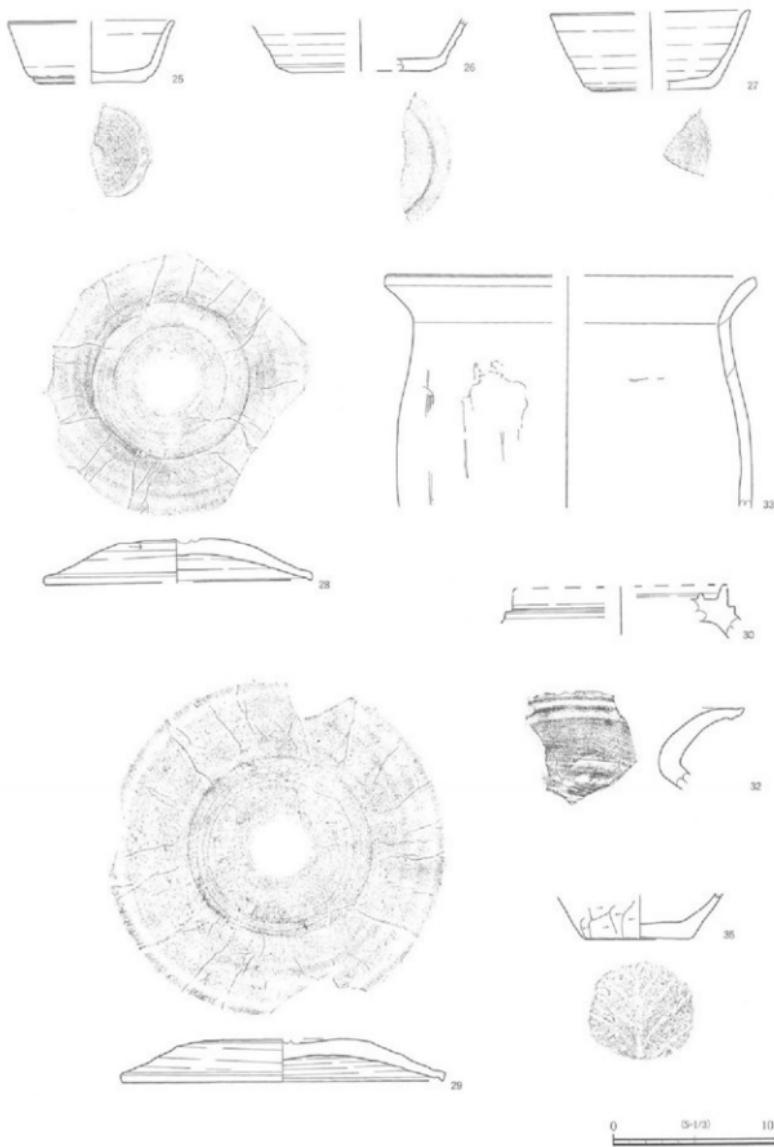
床：ほぼ平坦で、住居中心部がよく硬化している。

ピット：床面からは、主柱穴、出入口ピットとともに検出されていない。

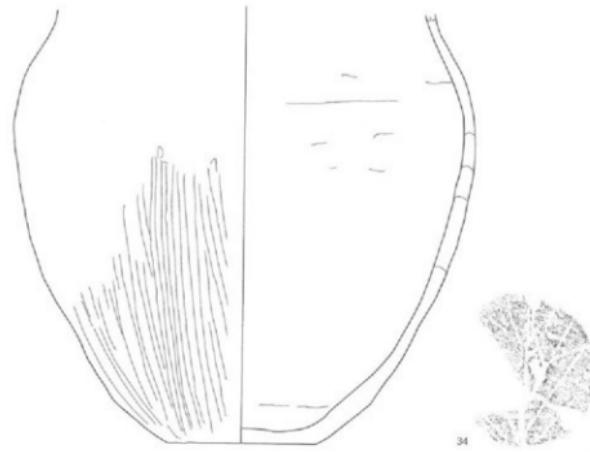
竈：北壁中央部にあり、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは40cmである。袖部の遺存状態は非常に悪く、袖部の基部と推測される砂質粘土ブロックが幅約50cmほど確認された程度であり、内壁の被熱による硬化面等の情報は得られなかった。火床部は床面から4cmほど掘りくぼめて火床面としており、被熱により硬化した部分が認められた。煙道部は壁外へ12cmほど削り出して造られ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がり、上部で段状となる。



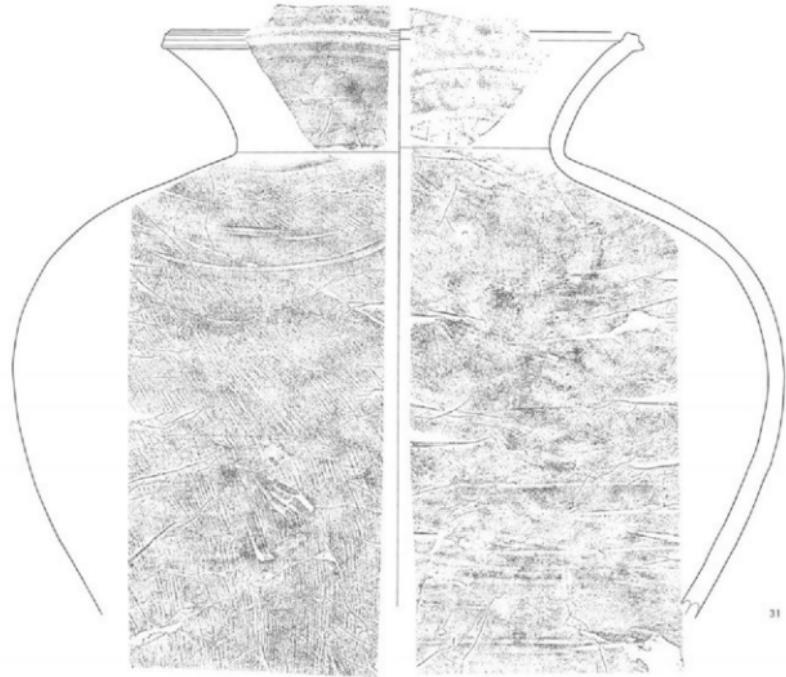
第13図 第4号住居跡



第 14-1 図 第 4 号住居跡出土遺物①



34



31

第14-2図 第4号住居跡出土遺物②

## 土層解説

1. 黄褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック少量
2. 灰褐色 ロームブロック少々、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック少量、焼土ブロック少量
3. 灰褐色 ローム粒子少々、砂質粘土ブロック少量、砂質粘土粒子中量
4. 灰褐色 焼土ブロック多量、焼土粒子中量、炭化粒子微量、粘性高く締まりあり
5. 灰褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック少々
6. 灰褐色 ローム粒子少々、砂質粘土ブロック少々、砂質粘土粒子少々
7. 灰褐色 焼土粒子中量、炭化物少量、炭化粒子少々
8. 灰褐色 砂質粘土粒子少量、炭化物少量、焼土ブロック微量
9. 灰褐色 焼土ブロック少量、焼土粒子少量、炭化粒子少量、締まり弱い
10. 灰褐色 ロームブロック微量、ローム粒子微量
11. 灰褐色 ロームブロック少々、ローム粒子微量、焼土ブロック少量、炭化物微量
12. 灰褐色 ロームブロック少々、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック少量、焼土ブロック少量、炭化物微量

遺構埋没状態：ロームブロック主体の人为的な堆積状況を示している。

## 土層解説

1. 青褐色 ローム粒子少々、碧泥灰少量
2. 灰褐色 ローム粒子少量、炭化物微量、壳泥灰微量、締まり弱い
3. 海褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
4. 灰褐色 ローム粒子少々、炭化物微量
5. 黄褐色 ローム粒子微量、炭化物微量、炭化粒子少々、締まり弱い

遺物：須恵器片144点（壺・高台付坏類68点、蓋17点、蓋17点、盤4点、円面鏡1点、甕類37点）、土師器片226点（壺・高台付坏類2点、甕類224点）。遺物の多くは屢々下最下層から出土しており、住居廃絶直後に投棄あるいは壇主中に混入したものと推測され、25・27の須恵器坏、28の須恵器蓋、34・35の土師器壺が相当する。なお、本層の床面直上から出土した遺物は29の須恵器蓋と31の須恵器甕の2点であるが、いずれも逆位で確認されたものである。特に31は最大胴径46cmを割り、比較的大きなものであり、当遺跡から出土した甕の中では最大である。しかし床面には33を据え置いた痕跡はどこにも見えず、床面出土の遺物ではあるものの、本跡に伴うものか否かは不明である。なお、30の円面鏡の破片は、北西部の壇下最下層から出土したもので、混入したものと考えられる。

所見：床上に柱を持たない遺物構造であることや、住居廃絶時に遺棄あるいは投棄された遺物から判断して、時期は8世紀中葉～後葉と考えられる。

第1号住居跡（表4）

番号	種別	基盤	口径	若高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
25	須恵器	杯	(105)	39	(70)	灰石、石英、小礫、其状物	10G5/1 砂灰色	体部内外面ロクロナデ/基盤凹部へラグズリ後ロクリナデ、高台を量する	No.12	40% PL39
26	須恵器	杯		63.2	(86)	墨色、白色、石英、石英、小礫	5BGS6/1 碧灰色	体部内外面ロクロナデ、外縁下端凹部へラグズリ並基盤凹部へラグズリ	3区2層	15% PL39
27	須恵器	杯	(114)	49	(70)	灰石、石英、小礫	5DGS6/1 碧灰色	体部内外面ロクロナデ/基盤凹部へラグズリ	4区1層 4区2層	20% PL39
28	須恵器	蓋	(166)	(27)		灰石、白瓦、其状物	7SGV6/1 綠灰色	体部内外面ロクロナデ/天井部底紙へラグズリ	No.6	80% PL40
29	須恵器	蓋	294	(27)		墨色、白色、石英、小礫	10GG6/1 碧灰色	体部内外面ロクロナデ/天井部底紙へラグズリ	No.11	95% PL40
30	須恵器	円面鏡	(184)	(3.5)		墨石、石英	SGS3/1 碧灰色	内面切削輪ヘラグズリ	4区2層	3%
31	須恵器	蓋	272	36.0		灰石、小礫	10BG6/1 碧灰色	口縁部・縁部ロクロナデ/縁部上外縁タグギー・内縁部底紙へラグズリ下外縁タグギー	No.7	70%
32	須恵器	甕		(5.5)		白色、石英	10BG6/1 碧灰色	内外面ロクロナデ/底部外縁ヘラグズリ・下部に側壁へラグズリ/口縁部底紙へラグズリ	4区1層	3%
33	土師器	甕	(234)	(144)		青色、白色、灰石、石英、小礫	25YR4/3 灰褐色	側面内面ナデ/外縁下半部底紙へラグズリ/内面内面ナデ/口縁部内外面ロクロナデ/二次焼成	No.1 No.8	10% PL40
34	土師器	甕		(268)	90	土色、白色、灰石、石英	25YR6/6 灰褐色	側面内面ナデ/外縁下半部底紙へラグズリ/内面内面ナデ/外縁下部底紙へラグズリ	No.8	30% PL40
35	土師器	甕		(239)	66	青色、白色、灰石、石英	25YR6/6 灰褐色	側面内面ナデ/外縁下部底紙へラグズリ/底紙集塵/二次焼成	No.10	10% PL40

第5号住居跡（第15・16図、第5表、PL 6・40・41・42）

位値：D調査区B4グリッド、標高60.8m地点にある。

規模・平面形：長軸3.36m、短軸3.30mの方形を呈する。

主軸方向：N-19°-W

残存壁高：確認面から最大高36cmを測り、外傾して立ち上がる。

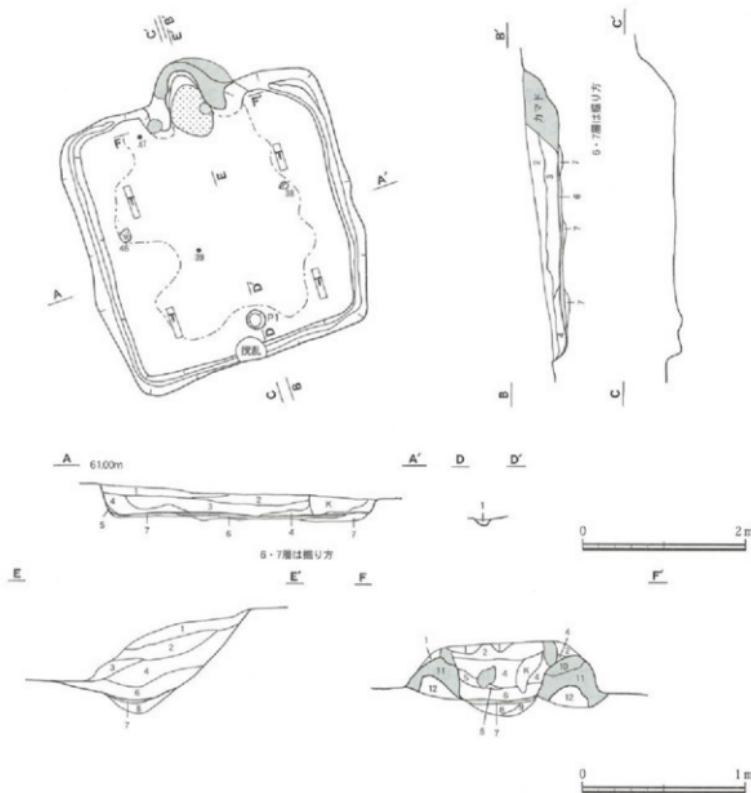
壁溝：ほぼ全周し、幅12~30cmで巡る。断面はU字形である。

床：ほぼ平坦で、竈前面部分と住居中央部がよく硬化している。

ピット：1箇所確認され、P1~P4は主柱穴でP5は出入口ピットと考えられる。P1: 32×22cm、深さ45cmで、出入口ピットである。

P1土層解説

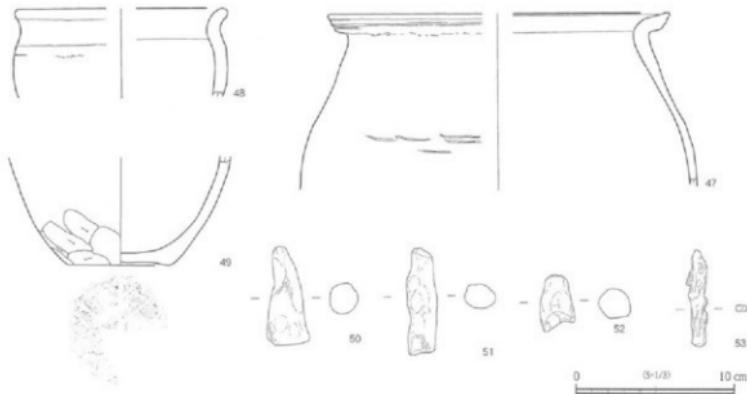
1. 塗膜色 ローム粒子少量、炭化粒子微量



第15図 第5号住居跡



第16-1図 第5号住居跡出土遺物①



第16-2図 第5号住居跡出土遺物②

竈：北壁中央部にあり、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは80cmである。袖部は比較的良好に遺存しており、袖部内面は被窯により赤変している。また、袖部の基礎は地山（第12層）を造り出し、上部に砂質粘土（第11層）で構築されたもので、袖部の最大幅は約48cmである。火床部は床面から11cmほど掘りくぼめて火床面としているが、硬化している感じはなかった。煙道部は壁外へ42cmほど削り出して造られ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

#### 土層解説

1. 焙 楂 色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、鹿沼バミスブロック少量、締まりあり
2. 焙 楂 色 ロームブロック微量、燒土粒子微量、炭化粒子微量、鹿沼バミスブロック少量、締まりあり
3. 焙 楂 色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、鹿沼バミスブロック少量
4. 焙赤褐色 燃土粒子中量、燒土ブロック少量、炭化物少量、炭化粒子少量、締まり弱い
5. 焙赤褐色 燃土粒子中量、燒土ブロック少量、炭化物少量、炭化粒子少量
6. 焙 褐 色 燃土ブロック中量、燒土粒子中量、炭化物少量、炭化粒子微量
7. 焙 褐 色 燃土ブロック中量、燒土粒子中量、炭化物少量、炭化粒子微量
8. 焙 褐 色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化物微量
9. 焙 褐 色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、鹿沼バミス微量
10. 焙 褐 色 燃土ブロック少量、燒土粒子少量、炭化物少量、炭化粒子少量、締まり弱い
11. 赤黄褐色 砂質粘土ブロック微量、燒土粒子少量、炭化物微量
12. 黒 色 ロームブロック。竈袖部の芯材として活用（地山ではあるが分層表記した。）

遺構埋没状態：ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。第3層には竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックが竈付近から確認されている。第6・7層はロームブロックを主体としており、住居床下の掘り方層である。

#### 土層解説

1. 焙 楂 色 ロームブロック微量、ローム粒子少量
2. 焙 楂 色 ロームブロック中量、ローム粒子微量、燒土ブロック微量、鹿沼バミス微量
3. 焙 楂 色 ロームブロック中量、砂質粘土ブロック微量、燒土ブロック微量、鹿沼バミス微量
4. 焙 褐 色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化物微量、鹿沼バミス微量
5. 焙 褐 色 ローム粒子少量、鹿沼バミス微量
6. 焙 褐 色 ロームブロック微量、炭化物微量、炭化粒子微量
7. 焙 褐 色 ロームブロック中量、ローム粒子少量

遺物：須恵器片95点（坏・高台付坏類73点、蓋7点、盤5点、甕類10点）、土師器片132点（坏・高台付坏類1点、甕類131点）、鐵製品1点（釘）。本跡中央部を主体に散見されるが、大半が覆土下層から出土したものである。36～46は共軸具であるが、いずれも須恵器製品である。43の須恵器坏の体部外面には、鳥のような模様が墨書きされており、南東部の覆土上層から出土している。44の坏は底部内間に漆の跡が窺える。なお、47～49は土師器煮炊き具で47は常総窓の破片である。

所見：当遺跡からは、本跡のように共軸具が須恵器製品で占める時期が主体で、新たに土師器坏（糸切り）・灰陶陶器が共存する時期の住居も確認されている。時期は、共軸具の特徴から8世紀中葉～後葉と考えられる。

第5号住居跡（表5）

番号	種別	直径	口径	高さ	底径	施上	色調	丁法の特徴ほか	出土位置	備考
36	須恵器	坏	141	46	81	白色、石英、赤褐色、小理	25GV4/1 暗	体部内外両面クロナダ/底部近縁ヘラ削り	1区1号	50% PL41
37	須恵器	坏	1430	46	(78)	白色、石英、石英、赤褐色、オリーブ灰色	57V6/3 暗	体部内外両面クロナダ/体部下端及び底部斜面ヘラケズリ	3区1号	40% PL41
38	須恵器	坏	131	44	58	白色、石英、小理、斜状模	1024/1 暗	体部内外両面クロナダ/底部近縁ヘラ削り	4区2号	20% PL41
39	須恵器	坏	(142)	48	(96)	白色、石英、小理	50Y5/1 暗	体部内外両面クロナダ/体部下端斜面ヘラ削り	No.5	40% PL41
40	須恵器	坏	146	45	106	白色	6BG6/1 青灰色	体部内外両面クロナダ/底部下端及び底部斜面ヘラ削り	3区裏上	25% PL41
41	須恵器	坏	(168)	38	(72)	白色、石英、石英、赤褐色	10Y4/1 赤灰色	体部内外両面クロナダ/底部近縁ヘラ削り	3区裏上	30% PL41
42	須恵器	坏	142	47	(82)	白色、石英、小理	6BG6/1 暗	体部内外両面クロナダ/底部近縁ヘラ削り	1区2号	40% PL41
43	須恵器	灰		(38)		白色、石英、小理	50Y6/1 暗	体部外縁魚鱗壓	2区1号	30% PL41
44	須恵器	坏		(21)		白色、石英、小理	50Y7/1 暗	体部外縁魚鱗壓	1区1号	55% PL41
45	須恵器	灰		(54)		白色、石英、小理	6BG4/1 暗	体部外縁平行タタキ、内面ササ	4区2号	25%
46	須恵器	灰	201	39		白色、石英、小理、黒色のセリロノ下灰の欠け出し	50Y6/1 暗	体部内面クロナダ/つまみ部付/体部外側及び口縁部に墨書き	No.5	60% PL41
47	土師器	灰	(216)	(108)		白色、石英	5YR6/4 暗	觸頭内外面ヘラナダ/LJ縫部内外面ヨコナダ/口縁外側はヘラ削りにより凹凸化	No.7	50% PL41
48	土師器	灰	(132)	(58)		白色、白毛	25YR5/4 暗	觸頭内外面ヨコナダ、内面側付着/口縁部外側ヨコナダ	2区2号	55% PL42
49	土師器	灰		(68)	64	白色、石英	5YR6/4 に赤い擦色	觸頭内ナデ、外表面焼付痕のヘラケズリ	2区1号	10% PL42
								後ナダ、下端無調整/底部木炭痕	3区裏土	PL42
									1区1号	

番号	器種	大きさ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	胎土	特徴	出土位置	備考
50	不明品	6.9	2.0	1.6	17.0	赤土、白色模子、黒色模子	25YR6/6暗赤、赤質の鉢土質を揉った形狀	3区裏土	PL42
51	不明品	2.6	2.2	1.9	13.2	赤土、白色模子	25YR6/6暗赤	3区裏土	PL42
52	不明品	6.1	2.8	1.9	23.6	赤土、石英	5YR6/3に赤い擦色	2区2号	PL42

番号	器種	大きさ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	胎土	特徴	出土位置	備考
53	灰	6.2	1.4	0.4	56	赤土	赤土表面	3区裏土	PL42

第6号住居跡（第17・18図、第6表、PL 7・42）

位置：D調査区B4グリッド、標高60.2m地点にある。

規模・平面形：長軸〔435〕m、短軸〔3.56〕mで圓丸形もしくは長方形を呈するものと推測される。

主軸方向：N-52°-W

残存壁高：覆土の大半が削平されており、わずかに遺存している部分の壁高は確認面から8cmである。

壁溝：検出されていない。

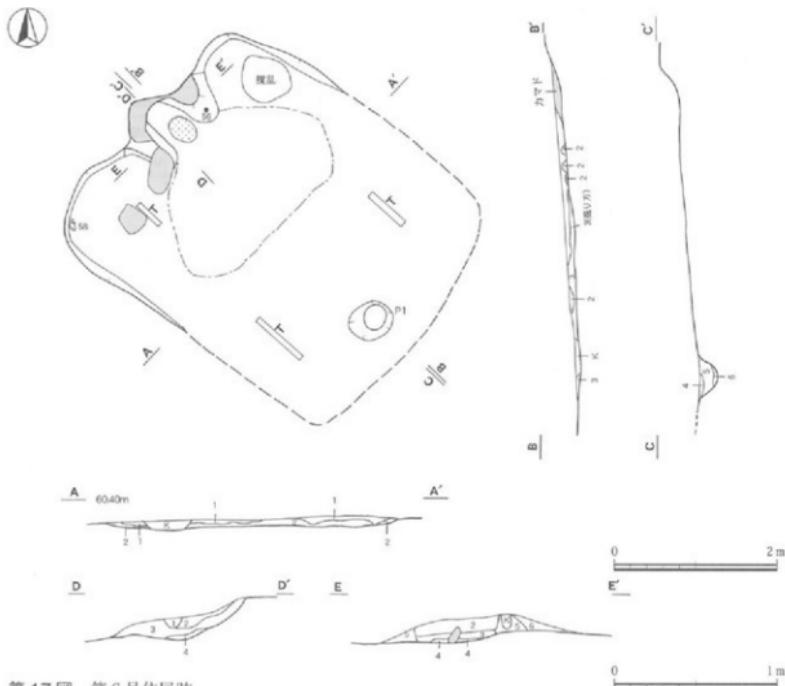
床：遺存していた竈前面部分では、よく踏み固められ硬化していた。

ピット：1箇所確認され、出入口ピットと考えられる。P1：50×44cm、深さ22cmで、出入口ピットである。

P1土層解説 葦跡堆積層の4～6層)

- 4. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量、締まりあり
- 5. 桃色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、炭化粒子微量、締まり弱い
- 6. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

竈：北西壁中央部にあり、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは〔116〕cmである。大半が削平されており、袖部の基部と火床部および煙道部の一部が確認されただけであった。袖部の最大幅は〔100〕cmであり、袖部はロームブロック（第5層）を芯材としている。火床面は判然とせず、被熱により硬化したプロック状の焼土の広がりが床面から4cmほど下がった位置にわずかに認められたため、この面を火床面と判断した。煙道部は壁外へ10cmほど削り出して造られ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がり、上部で段状となる。



第17図 第6号住居跡

## 土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子微量、炭化粒子微量、鹿沼バミスブロック少量
2. 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、鹿沼バミスブロック少量
3. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量
4. 灰褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、焼土ブロック少量、焼土粒子微量、炭化物微量
5. 褐色 ロームブロック多量、鉛まりあり
6. 灰褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質土ブロック中量、焼土ブロック少量

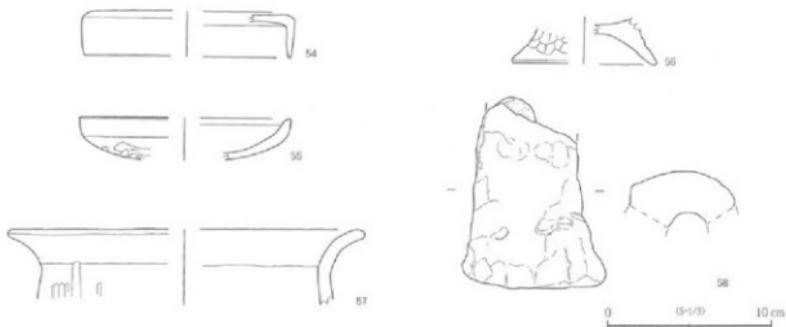
遺構埋没状態：削平により遺存している土層は2層のみであるが、覆土に焼土粒子や炭化粒子が含まれております。人為的な埋没が見られる。第3層はロームブロックを主体としており、住居床下の堆積層と考えられる。

## 土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量、鹿沼バミス微量
2. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化物微量、鹿沼バミスブロック少量
3. 褐色 ロームブロック中量、ローム粒子少量
4. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
5. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、炭化粒子微量、鉛まり弱い
6. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

遺物：須恵器片10点（环・高台付环類5点、蓋5点）、土師器片34点（环・高台付环類2点、甕類32点）、土製品1点（支脚）。本跡南部の床面は削平されており、確認された遺物はすべて北部から出土したものである。図化した中では56の土師器碗と58の土製支脚は床面から出土しているが、覆土が薄く、遺物も破片のため、遺棄されたものか投棄されたものかは不明である。

所見：出土遺物が少なく、大半が細片であるため時期を特定するだけの根拠に乏しいが、7世紀後葉頃と推測される。また当遺跡で本跡のように主軸が50度以上西に振れた住居は3軒あるが、時期差は大きい。



第18図 第6号住居跡出土遺物

第6号住居跡（表6）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法	特徴ほか	出土位置	備考
54	須恵器	蓋	[126]	(3.0)	[13.0]	白色、長石、石英	50G3/1 暗青灰色	内外面ロクロナダ/黒包墨突		251層	2%
55	土師器	环	[128]	(2.8)		雲母、白色、	25YR5/3 長石	口縁部内外面ヨコナダ・内面墨色処理 にぶい赤褐色	底部持持ちハラケズリ/二次焼成	418層	15%
56	土師器	甕		(3.1)	(8.8)	黒色、白色、	25YR5/4 にぶい赤褐色	内外面ロクロナダ・外面紙位ハラケズリ に込み盤とギャル/二次焼成		No1	5%
57	土師器	蓋	[220]	(5.0)		雲母、白色、 長石、石英、 小理、針状結 晶物	5YR6/6褐色	頭部外面墨位ヘラナダ・内面ナダ/頭部、 口縁部内外面ヨコナダ			2%
58	支脚		8.8	(12.7)	33.0	露母、小理	5YR4/6褐色	外表面崩落あり		No4	40%

番号	器種	最小径 (cm)	最大径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	胎土	等級	出土位置	備考	
58	支脚		8.8	(12.7)	33.0	露母、小理	5YR4/6褐色	外表面崩落あり	No4	40% PL42

第7号住居跡（第19・20図、第7表、PL 7・42・43）

位置：D調査区B 4グリッド、標高60.3m地点にある。

規模・平面形：本跡の東部分が削平されていたが、床部硬化面の範囲から長軸〔3.60〕m、短軸〔3.20〕mで北壁に窓が付設された方形または長方形を基調としたプランが想定される。

主軸方向：N-20°-E

残存壁高：確認面から最大高18cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：検出されていない。

床：ほぼ平坦で、住居中心部がよく硬化している。

ピット：床面からは、主柱穴、出入口ピットとともに検出されていない。

窓：北壁中央やや西寄りにあり、砂質粘土で構築されている。大半が削平され、火床部と袖部の基部及び煙道部のみが確認されただけである。袖部の基礎は地山を造り出し、その周囲に砂質粘土で構築されている。火床部は床面から4cmほど掘りくぼめて火床面としており、ゴツゴツと赤く硬化している。煙道部は壁外へ42cmほど削り出して造られ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

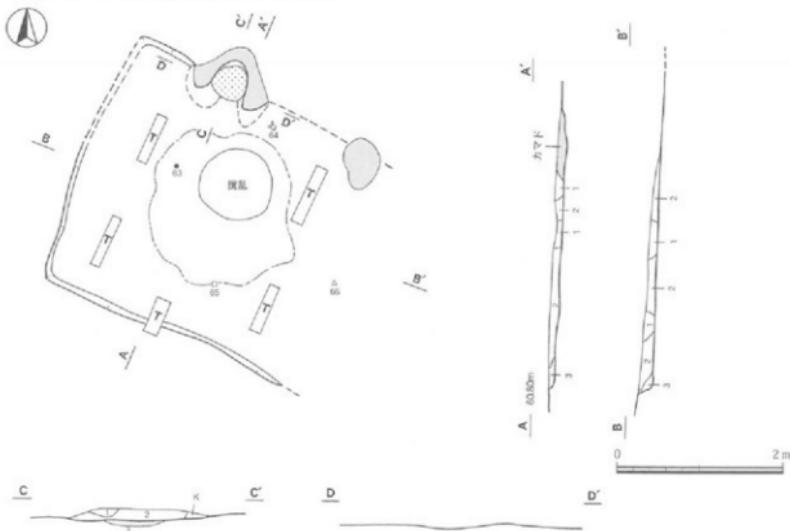
土層解説

1. 喜 葵 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
2. 灰 葵 色 ローム粒子微量、炭化物微量、炭化粒子少量、砂質粘土粒子少量、縮まり・粘性ともに弱い
3. 灰 壤 橙 色 燃土ブロック少量、桃土粒子少量、炭化物少量、炭化粒子少量、粘性・縮まりとともに弱い

遺構埋没状態：本跡の大半は削平されており、判然としない部分も多いが、覆土に焼土粒子や炭化粒子が含まれており、人為的堆積の可能性が高い。

土層解説

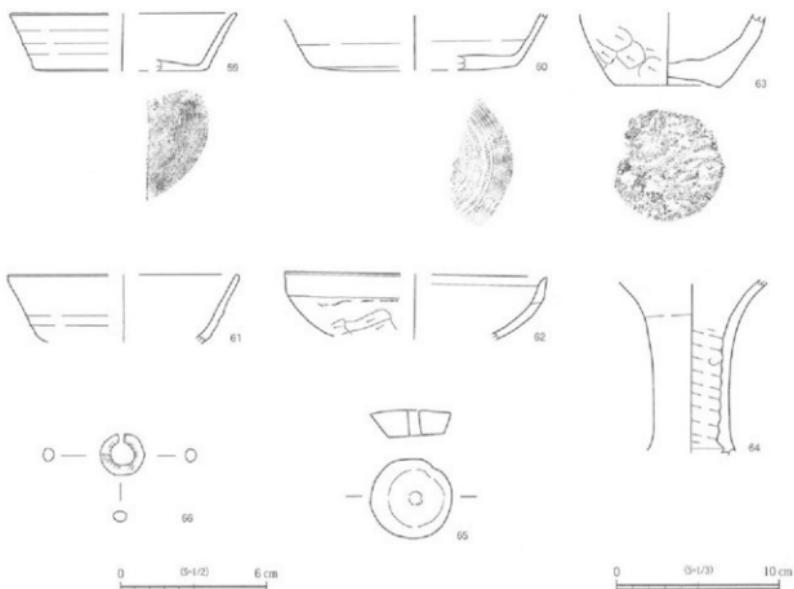
1. 喜 葵 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
2. 灰 葵 色 ローム粒子微量、炭化物微量、炭化粒子少量
3. 草 色 ロームブロック中量、ローム粒子少量



第19図 第7号住居跡

遺物：須恵器片7点（坏・高台付坏類7点）、土師器片40点（坏・高台付坏類8点、壺類32点）、灰釉陶器1点（長頸瓶）、金属製品1点（耳環）、石製品1点（紡錘車）。床面から確認された遺物は、竈袖部付近から出土した64の須恵器長頸瓶と東部から確認された66の銅製耳環である。耳環は金メッキ製で、一部合金が遺存している。

所見：銅製耳環が確認されたが、本跡の東部から南部にかけて大きく削平されており主柱穴や出入口ビットも確認できないため、本跡に伴うものかどうかは判然としなかった。ただ本跡床面と同レベルで出土したことから、本跡出土の可能性が高いと判断し取り上げたものである。時期は住居跡廃絶時に投棄された遺物からみて8世紀前半と考えられる。



第20図 第7号住居跡出土遺物

第7号住居跡（表7）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	手 法 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
59	須恵器	坏	(142)	37	(166)	黑色、白色、黒色のセルロイド状の吹き出し	6GY7/1明 オリーブ灰	体部内外面クロナデ/底部回転ヘラケズリ	1区1号	25%
60	須恵器	坏		(16)	(126)	雲母、小窓	6GY6/1 オリーブ灰	体部内外面クロナデ・内面黒色付着物/底部回転ヘラケズリ	3区 壁土 4区1号	15% PL42
61	須恵器	坏	(144)	(4.3)		灰石、石英、小窓	N6/0灰色	体部内外面クロナデ	1区1号	10%
62	土師器	坏	(162)	(4.0)		雲母、黒色、白色、灰石、石英	5YR7/4 にぶい橙色	口縁部内外面ヨコナデ/底部下半手持ちヘラケズリ・施ナデ二次焼成	3区1号	25%
63	土師器	壺		(4.6)	64	灰石、石英、小窓	25YR6/6 粉色	胴部外面手持ちヘラケズリ/底部内外面指ナデ	No.2	5%
64	須恵器	長颈瓶		(10.8)		白色	10G6/1 錫灰色	裏面内外面クロナデ	No.1	10% PL43

番号	學 種	大きさ(cm) <sup>†</sup>	幅(cm)	孔径(cm)	重さ(g)	材 質	特 殊	出土地點	備 考
66	筋錐	49	51	0.8	467	流紋岩	外凸欠損後、揃って底形	No.3	100% PL43

番号	學 種	大きさ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	材 質	特 殊	出土地點	備 考
66	斜整 質理	1.70	1.75	0.5	53	玄武岩	全体に鉄青が頭端/一部に赤メキシ透存	No.1	100% PL43

### 第8号住居跡（第21・22図、第8表、PL8・9・43・44・45）

位置：D調査区B3グリッド、標高63.4m地点にある。

規模・平面形：長軸4.68m、短軸4.26mの方形を呈する。

主軸方向：N-11°-E

残存壁高：確認面から最大高66cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：検出されていない。

床：ほぼ平坦である。焼失による住居の構築材と考えられる炭化材が多数見受けられ、また、窓構築材と考えられる砂質粘土ブロックが竈前面に多量確認された。

ピット：床面からは、主柱穴、出入口ピットとともに検出されていない。

電：北壁中央部にあり、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは約120cmである。内壁は被熱により赤変している。また袖部の最大幅は約150cmで、ロームブロックを芯材として砂質粘土で構築されている。

火床部は床面から14cmほど掘りくぼめて火床面とし、火床部奥には土製の支脚が正位で遺存していた。煙道は壁外へ96cmほど削り出して造られ、火床部から煙道部へは一旦段をなしその後、外傾して立ち上がる。

#### 土壤解説

1. 晴 極 色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、鹿沼バニス微量
2. 晴 極 色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、縫まりあり
3. 黒 極 色 ロームブロック少々、ローム粒子微量、燒土粒子微量、炭化物微量
4. 晴 極 色 ロームブロック少々、砂質粘土ブロック少々、燒土ブロック少々
5. 晴 極 色 炭化物中量、炭化粒子中量、燒土粒子微量
6. 晴 極 色 炭化物微量、炭化粒子少量、燒土粒子微量
7. 晴 極 色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化物微量
8. 晴 極 色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化物微量
9. 黒 極 色 炭化物多量、炭化粒子多々、燒土ブロック少々、砂質粘土ブロック少々、燒土粒子微量
10. 晴 極 色 炭化物中量、炭化粒子少量、燒土粒子微量
11. 晴 極 色 ロームブロック微量、炭化物中量、炭化粒子少々、燒土ブロック微量、燒土粒子微量
12. 黒 極 色 炭化物微量、炭化粒子多量、燒土粒子微量、縫まりとも弱い
13. 黑 極 色 炭化物微量、炭化粒子多量、燒土ブロック微量、燒土粒子微量
14. 黒 極 色 砂質粘土ブロック微量、燒土ブロック少々
15. 深 褐 色 ロームブロック微量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック中量
16. 雜 一 色 ロームブロック多量、燒土ブロック微量、縫まりあり（竈前部芯材）

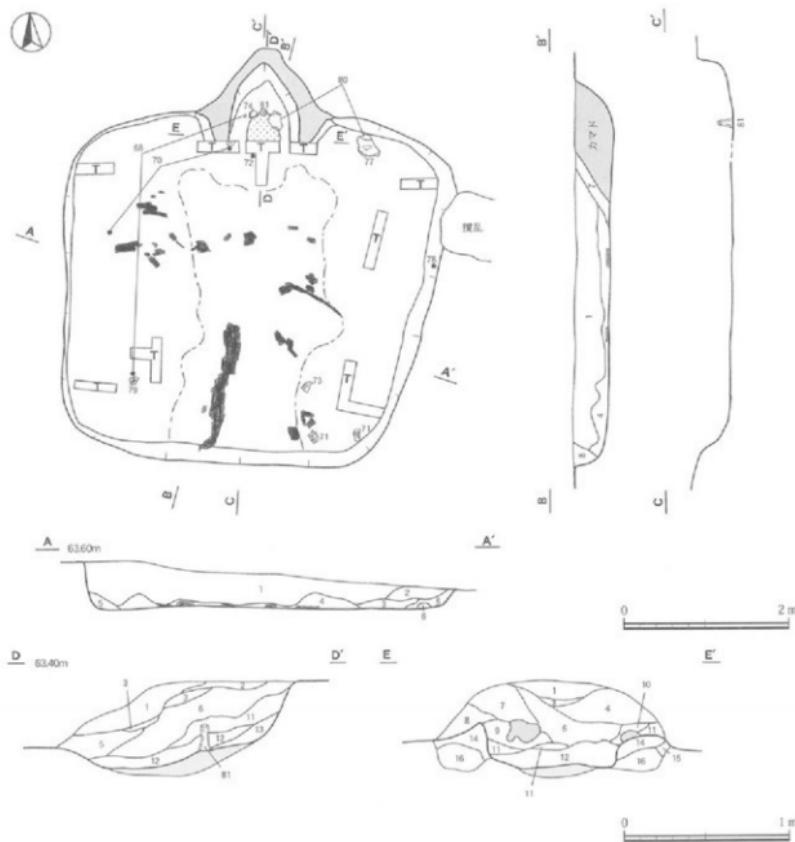
造塗埋没状況：第1層はロームブロック主体の層で厚く堆積しており、住居焼失直後の一括投棄と考えられる。なお、床面だけでなく覆土下層中にも住居跡構築材と考えられる炭化材や炭化物が確認されている。また第7層は窓構築材の砂質粘土ブロックを含有している層で、竈材が流れたものと考えられる。なお、第8層は第1・4層を掘り込んでいるように見え、後世の擾乱的可能性があったが、明確な根拠を持てなかつたため層位に含めた。

#### 土壤解説

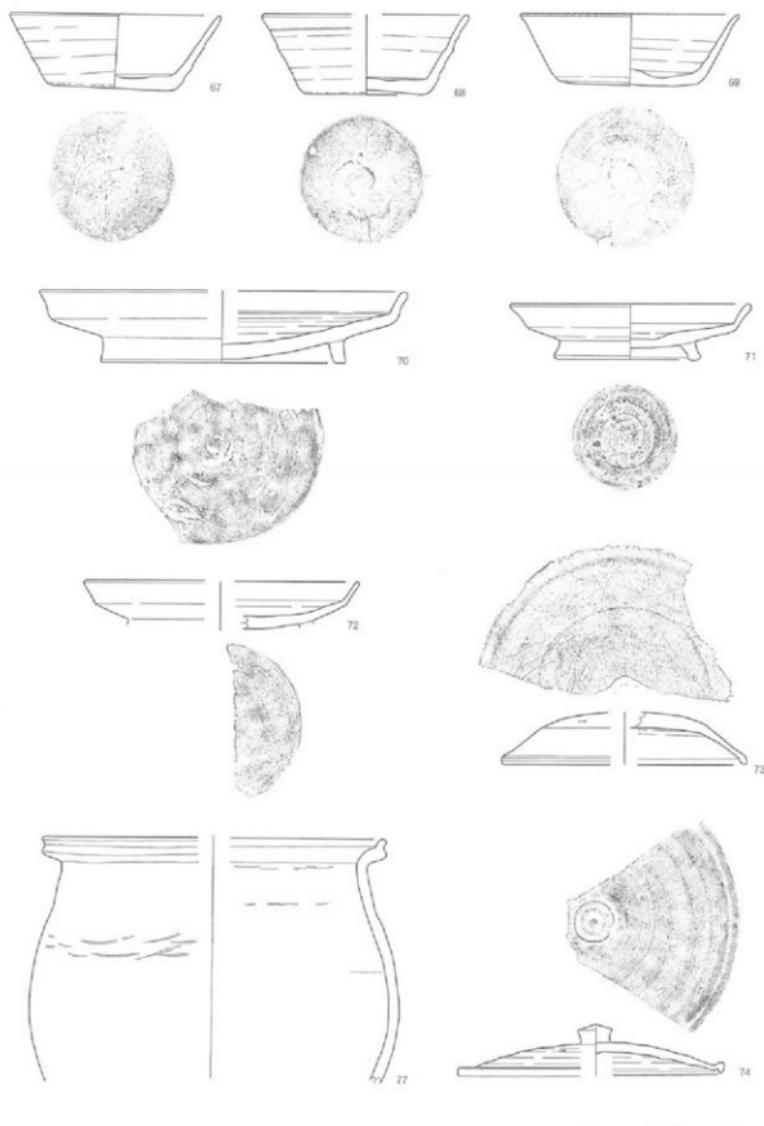
1. 晴 極 色 ロームブロック中量、ローム粒子少量、鹿沼バニスブロック少々
2. 晴 極 色 ロームブロック微量、炭化物中量、鹿沼バニスブロック微量
3. 晴 極 色 ロームブロック微量、炭化物中量、
4. 晴 極 色 ロームブロック少々、炭化粒子多量、炭化物中量、鹿沼バニス粒子少量
5. 晴 極 色 ロームブロック少々、ローム粒子微量、炭化物微量、鹿沼バニスブロック少々
6. 晴 極 色 ロームブロック少々、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック少々
7. 晴 極 色 ロームブロック微量、ローム粒子微量、鹿沼バニス微量
8. 晴 極 色 ロームブロック微量、ローム粒子微量

遺物：須恵器片170点（杯・高台付環頬92点、蓋24点、盤18点、甕類36点）、土師器片34点（杯・高台付环頬10点、甕類24点）、石製品1点（不明）、鐵製品1点（鉗）。住居の構築木材が放射線状に炭化した状態で多數確認されているが、床面から確認された土器片はない。また覆土下層から確認された土器片は、住居前面から挿り鉢状に出土しており、投棄されたものと考えられる。68の須恵器杯は、竈内と南壁際から出土した破片が接合したもので、同じく70の須恵器盤も竈内と住居西部の破片が接合している。

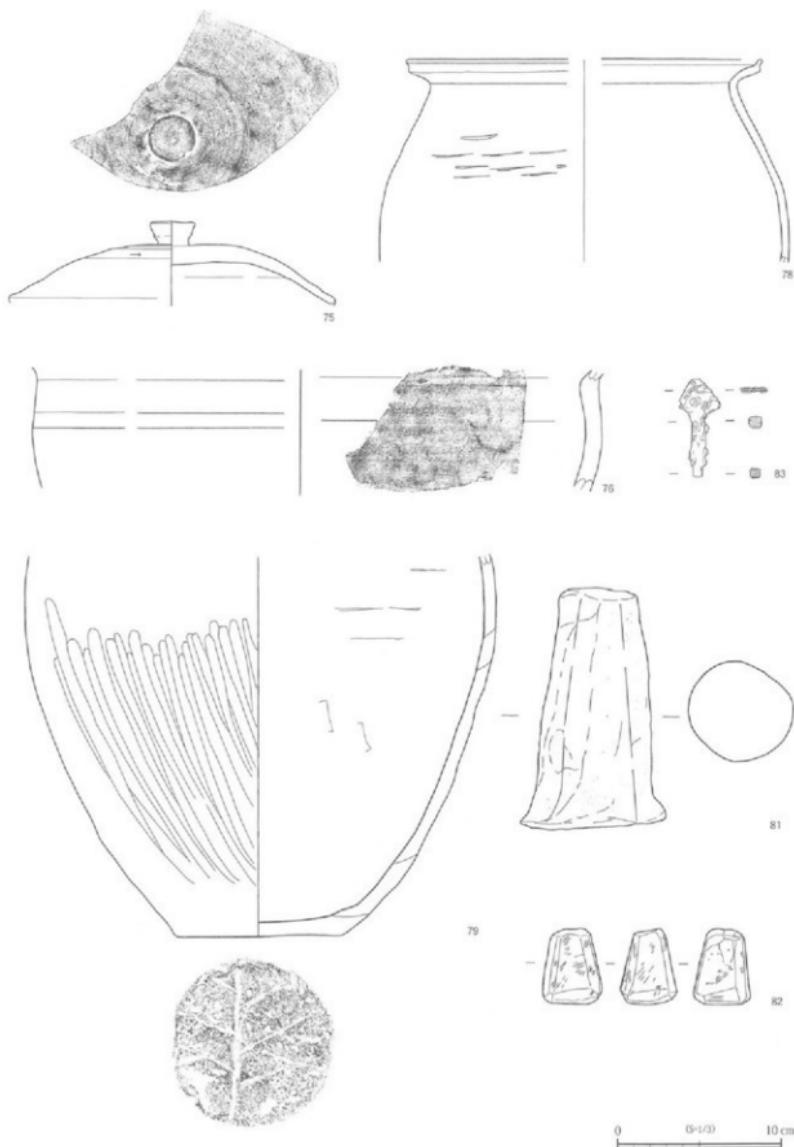
所見：焼失住居である。住居の構築材が放射線状に炭化した状態で確認されており、焼失時に上部が崩落したものと推測される。また確認された土器類はすべて覆土中から出土したもので被災の痕跡もないことから、失火ではなく住居跡廃絶時あるいは廃絶直後に意図的に焼失させた住居であると推測できる。時期は投棄された遺物からみて8世紀後葉～9世紀前葉と考えられる。



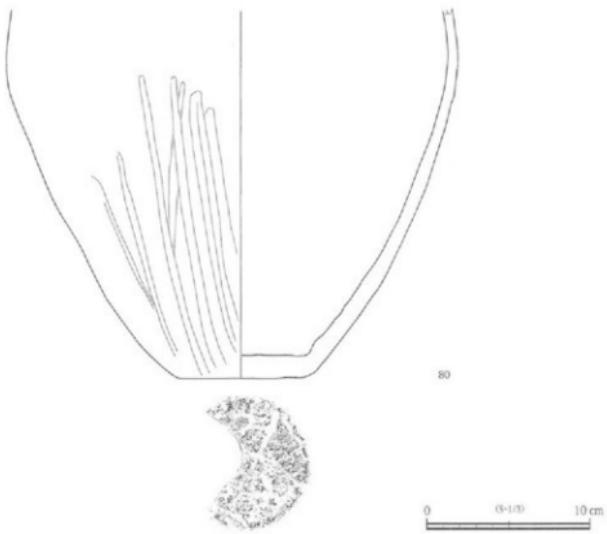
第21図 第8号住居跡



第22-1図 第8号住居跡出土遺物①



第22-2図 第8号住居跡出土遺物②



第22-3図 第8号住居跡出土遺物③

第8号住居跡（表8）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
67	須恵器	坏	13.6	4.7	8.2	長石、石英、小穂、針状鉱物	5BG5/1 青灰色	体部内外面クロナデ/底部回転ヘラ切 り/口縁部及び底部無線削成	1区1号 1区2号 3区2号	80% PL43
68	須恵器	坏	(13.4)	5.0	7.6	白色、長石、石英、針状鉱物	25GY2/1 オリーブ灰色	体部内外面クロナデ/底部回転ヘラ切 り後一部手持ちヘラケズリ・底部ヘラ記 号	No.7 No.19	50% PL43
69	須恵器	坏	14.1	4.6	8.9	白色、長石、石英、小穂、針状鉱物	10G5/1 緑灰色	体部内外面クロナデ/底部回転ヘラ切 り後無開窓・ヘラ記号	3区2号 3区3号	90% PL43
70	須恵器	盤	(23.8)	4.5	[15.6]	長石、石英、小穂	5BG5/1 青灰色	体部内外面クロナデ/底部回転ヘラカ ズリ後ヘラナダ/付高台・接合部回 転ヘラケズリ	No.16 No.28	25% PL43
71	須恵器	盤	15.6	3.6	9.4	長石、石英、小穂、黒色のセラロイド状の吹き出し	25GY5/1 オリーブ灰色	体部内外面クロナデ/底部回転ヘラケ ズリ・ヘラ記号/付高台・接合部ナデ	No.5	60% PL44
72	須恵器	盤	(17.6)	(3.1)	[11.8]	白色、長石、石英	5BG5/1 青灰色	体部内外面クロナデ/底部回転ヘラケ ズリ/付高台・接合部ナダ/高台欠損後、 欠損部を握り直して再利用	No.12	30% PL44
73	須恵器	蓋	(15.8)	(3.9)		長石、石英	10G5/1 緑灰色	体部内外面クロナデ/天井部回転ヘラ ケズリ後クロナデ	No.4	40%
74	須恵器	蓋	(18.6)	3.3		長石、石英、小穂、黒色のセラロイド状の吹き出し	10G3/1 暗緑灰色	体部内外面クロナデ/天井部回転ヘラ ケズリ/つまみ部泥付	No.17	25% PL44
75	須恵器	蓋	(19.6)	(5.1)		長石、石英、小穂	5G4/1 暗緑灰色	体部内外面クロナデ/天井部回転ヘラ ケズリ/つまみ部泥付	No.27	30% PL44
76	須恵器	裏		(7.7)		白色、長石、石英	5GY7/1明 オリーブ灰色	体部内外面クロナデ	2E1号	2%
77	土師器	裏	(21.8)	(15.1)		白色、長石、小穂	25YR6/4 にふい鉛色	胴部内外面ナデ・外面上半部ヘラナダ/ 口縁部内面凹コナダ/二次焼成	No.1	10% PL44
78	土師器	裏	(21.2)	(12.9)		白雲母、白色、小穂	5YR6/6橙色	胴部外面観凹コナダ、凸面ナダ/頭部・ 口縁部内面凹コナダ	No.2	5% PL44
79	土師器	裏		(23.9)	9.8	白雲母、赤色、石英	5YR5/3 にふい鉛色	胴部外面ナダ・下半部ヘラミガキ、内面 ヘラナダ/底部木製模	No.7	50% PL44
80	土師器	裏		(23.1)	8.2	雲母、長石、石英	25YR5/3 にふい赤褐色	胴部外面ナダ・下半部ヘラミガキ、内面 ヘラナダ/底部木製模	No.1 No.8 2区覆土	30% PL44

番号	器種	長さ(cm)	最大径(cm)	高さ(cm)	重量(g)	胎土	特徴	出土位置	備考
81	支脚	4.5	8.7	15.3	750	SYR5/1層 灰・25SYR5に近い緑色、25YR5/6墨青色を呈する/外側 赤茶色あり		PL45	
82	不明系	4.6	3.1	3.0	70.0	無焼岩		覆土	100% PL45
83	鉢	6.1	2.5	0.5~0.6	11.8	灰	鋸歯状裏面正方形	36x2号	

## 第9号住居跡（第23・24図、第9表、PL9・45）

位置：D調査区D2グリッド、標高63.5m地点にある。

規模・平面形：本跡の大半は削平されており詳細は不明であるが、主柱穴の位置や当集落跡の住居跡形態からみて、長軸〔5.04〕m、短軸〔4.40〕mで北壁に竈が付設された方形または長方形を基調としたプランが想定される。

主軸方向：N=0°

残存壁高：削平されており不明である。

壁溝：検出されていない。

床：わずかに竈前から住居跡中央部にかけて確認されたが、遺存部は平坦でよく踏み固められていた。

ピット：5箇所確認され、P1～P4は主柱穴でP5は出入り口ピットと考えられる。またP1・P2・P4で柱抜き取りと柱当たり面の痕跡が確認された。P1：50×33cm、深さ64cm、P2：38×31cm、深さ82cm、P3：60×45cm、深さ20cm、P4：65×55cm、深さ38cm、P5：55×39cm、深さ36cmである。

## P1土層解説

1. 番 茶 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量、締まりあり
2. 番 茶 色 ローム粒子少し、焼泥バニス微量
3. 番 茶 色 炭化物微量、炭化粒子少且、締まり弱い（柱抜き取り痕）
4. 番 茶 色 ローム粒子少且、炭化粒子微量

## P2土層解説

1. 番 茶 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
2. 番 茶 色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、焼泥バニス微量
3. 番 茶 色 ローム粒子微量、炭化粒子少且、締まり弱い（柱抜き取り痕）

## P3土層解説

1. 番 茶 色 ローム粒子微量、炭化粒子微量、炭泥バニス微量
2. 番 茶 色 ロームブロック微量、炭化粒子微量

## P4土層解説

1. 番 茶 色 P-ム絆子微量、炭化物微量、炭化粒子少且、粘性あり
2. 番 茶 色 ローム粒子微量、炭化物微量、締まり弱い
3. 番 茶 色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、焼土粒子微量（柱抜き取り痕）

## P5土層解説

1. 番 茶 色 ローム粒子微量、炭化粒子微量
2. 番 茶 色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、焼泥バニス微量
3. 番 茶 色 ローム粒子少且、炭化粒子微量

竈：北壁中央部にあり、砂質粘土で構築されている。大半が削平され、火床部と煙道部のみの確認となった。火床部から煙道部までは114cmあったものと推測されるが、袖部は後世の搅乱により壊されており、竈構築材の砂質粘土ブロックが散在している程度であった。また袖部の基部の最大幅は約120cmである。煙道部は壁外へ70cmほど削り出して造られ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

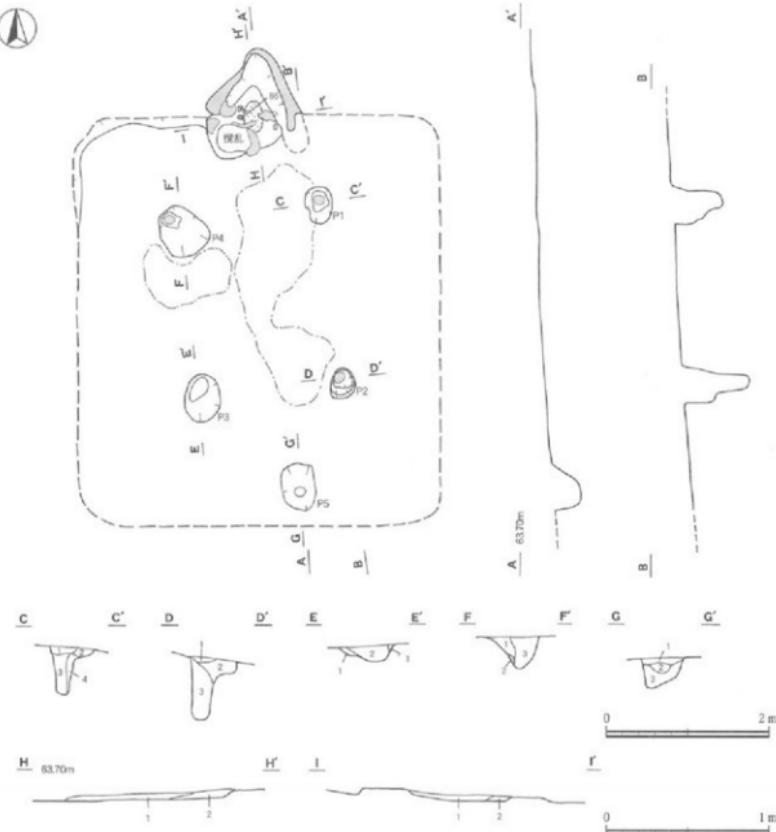
土器解説

1. 細灰色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、燒土ブロック微量
2. 灰青褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック中量、燒土ブロック少量

遺構埋没状態：本跡の大半は削平されており、埋没状況は不明である。

遺物：須恵器片8点（坏・高台付坏類5点、蓋3点）、土師器片19点（坏・高台付坏類1点、甕類18点）。床面が露出した状態で確認されており、出土した遺物は窓内あるいは主柱穴内で確認されたもので、いずれも細片である。85の須恵器蓋はP4内から、86の須恵器坏は窓火床面上から出土している。

所見：出土した遺物の大半は9世紀代のものである。しかし出土数が少なくいずれも細片であるため、本跡の時期を詳細に特定するには至らなかった。



第23図 第9号住居跡



第24図 第9号住居跡出土遺物

第9号住居跡（表9）

番号	種別	番号	口径	溝幅	底深	胎土	色調	手 江 の 特 診 は か	出土位置	備考
86	須恵器	董	(156)	(15)		灰白、石英、1066/1 柱状鉢物	褐色	内側由ロクロナデ	P4	2%
86	須恵器	环	(148)	(45)		白色、灰石、1076/2 石舟	オリーブ灰色	外側内側由ロクロナデ	No.2	1%

第10号住居跡（第25・26図、第10表、PL10・45）

位置：D調査区 A 2グリッド、標高66.0m地点にある。

規模・平面形：長軸3.56m、短軸3.20mで長方形を呈する。

主軸方向：N - 34° - W

残存壁高：確認面から最大高28cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：ほぼ全周し、幅24~36cmで巡る。断面はU字形である。

床：ほぼ平坦で、中央部がよく硬化している。

ピット：5箇所確認され、P1～P4は主柱穴でP5は出入口ピットと考えられる。P1: 28×28cm、深さ18cm、P2:

46×36cm、深さ12cm、P3: 40×34cm、深さ18cm、P4: 50×44cm、深さ22cm、P5: 36×30cm、深さ34cmである。

## P1土層解説

1. 緑 海 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量、鹿沼バミス微量、縫まり弱い  
2. 緑 海 色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、鹿沼バミスブロック少量、やや縫まりあり

## P2土層解説

1. 黄 海 色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、炭化粒子少希、粘性・縫まりとともに弱い  
2. 緑 海 色 ローム粒子少量、鹿沼バミス微量

## P3土層解説

1. 緑 海 色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、鹿沼バミスブロック少量  
2. 灰 海 色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化粒子少希、縫まり弱い

## P4土層解説

1. 緑 海 色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、鹿沼バミスブロック微量  
2. 緑 海 色 ロームブロック微量、ローム粒子微量、鹿沼バミスブロック微量

## P5土層解説

1. 緑 海 色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、鹿沼バミスブロック微量  
2. 灰 海 色 ロームブロック微量、鹿沼バミス微量

庵：北壁中央部にあり、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部まで120cmである。大半が削平されており埋没過程の判断はできなかった。袖部の基礎は地山を造り出し、上部に砂質粘土で構築されたもので、袖部の最大幅は約108cmである。煙道部は壁外へ50cmほど突り出して造られ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

## 土層解説

1. 灰 海 色 ロームブロック微量、ローム粒子微量、鹿沼バミスブロック微量  
2. 灰 海 色 ローム粒子微量、鹿沼バミスブロック微量、縫まり弱い

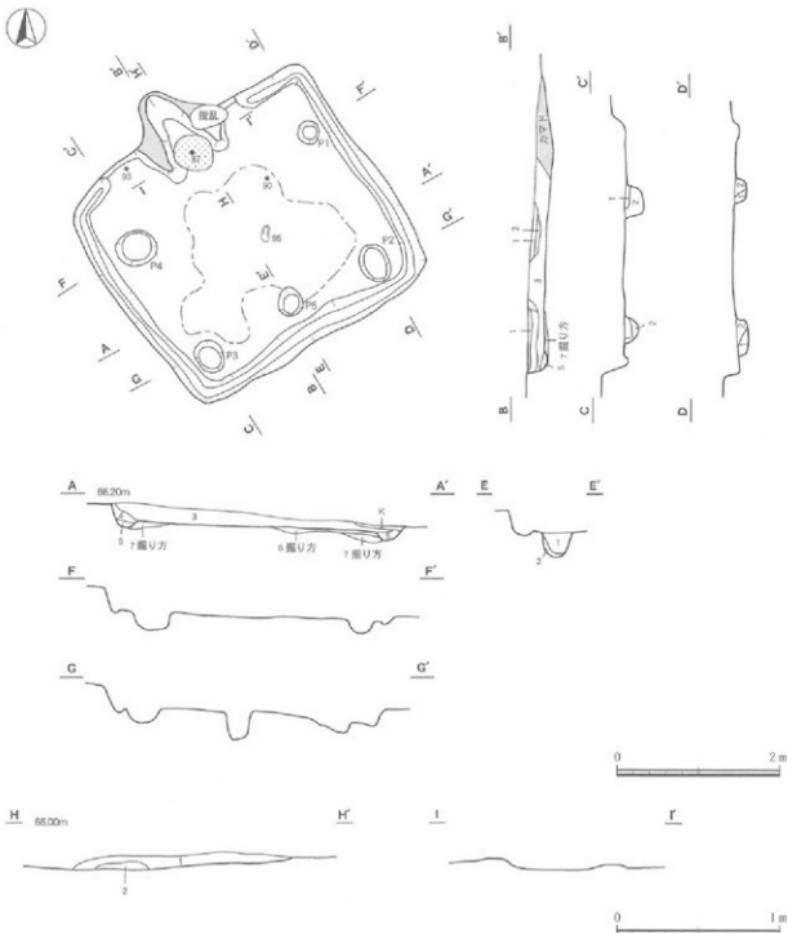
遺構埋没状態：ロームブロックを主体とした人为的な堆積状況を示している。第6・7層は住居の振り方層である。

## 土層解説

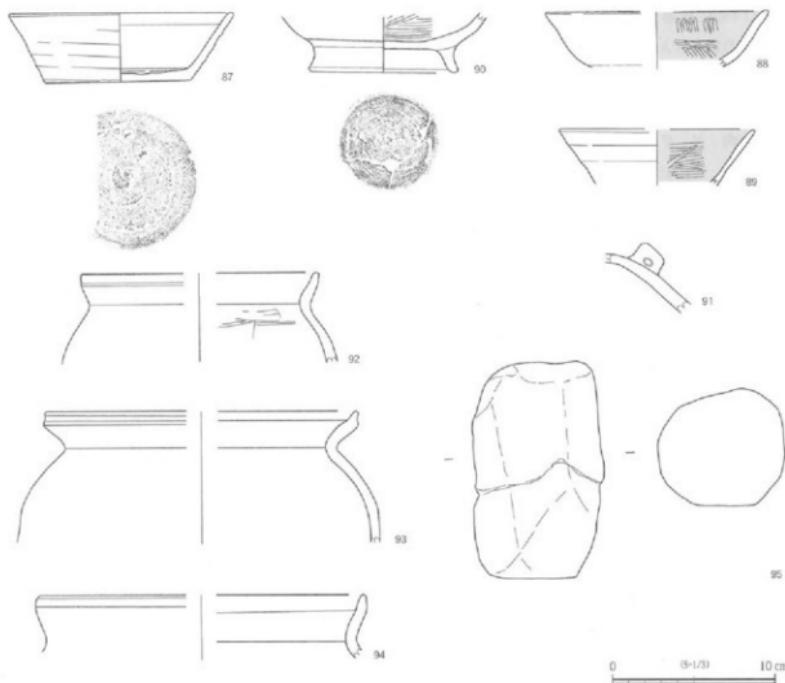
1. 緑 海 色 ロームブロック微量、ローム粒子少希、鹿沼バミスブロック微量  
2. 緑 海 色 ローム粒子少量、鹿沼バミス少量  
3. 緑 海 色 ローム粒子少量、炭化物微量、鹿沼バミス微量、縫まり弱い  
4. 灰 海 色 ロームブロック微量、炭化物微量  
5. 緑 海 色 ローム粒子少希、炭化物微量  
6. 灰 海 色 ロームブロック微量、ローム粒子少希、炭化物微量  
7. 緑 海 色 ロームブロック中量、ローム粒子少希

遺物：須恵器片38点（坏・高台付坏類15点、蓋9点、壺類14点）、土師器片120点（坏・高台付坏類12点、壺類108点）。窓内及び窓周辺を主体に散見されるが、破片が多く被然の痕跡もないことから、住居廃絶後に投棄されたものと考えられる。87須恵器坏は窓内から、88・89の土師器坏は住居南東部の覆土下層から、95の土製支柱は中央部床面から出土している。

所見：本跡出土の遺物は投棄されたものが大半を占めるが、國化した遺物は廃絶直後に投棄あるいは遺棄されたものである。時期は遺物の形状から、9世紀前葉と考えられる。



第25図 第10号住居跡



第26図 第10号住居跡出土遺物

## 第10号住居跡（表10）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
87	須恵器	环	13.6	4.4	9.2	白色	SGG5/1 青灰色	体部内外面クロナデ/底部回転ヘラ切 り放熱調整/口縁部及び底部周縁磨滅	No.5	PL45
88	土師器	环	(13.8)	(3.5)		青母、白色、 長石、石英、 叶状結晶	7.5YR 6/4 にぶい橙色	体部外面クロナデ・下端削輪ヘラケズ リ、内面ヘラミガキ後黑色處理	3区2号	10% PL45
89	土師器	环	(12.0)	(3.5)		青母、白色、 長石、石英、 赤褐色	5YR 6/4 にぶい橙色	体部外面クロナデ、内面ヘラミガキ後 黑色處理	3区2号	5% PL45
90	土師器	碗		(3.5)		白色、長石、 石英、小種、 石英	2.5YR5/6 明赤褐色	体部外面削輪ヘラナデ、内面ヘラミガキ 後底部回転ヘラケズリ/付高台、ロクロナ デ/二次焼成	No.1	30% PL45
91	須恵器	瓶原器		(4.0)		黒色粒子、白 色粒子、白色 粒子、白褐色	10GY5/1 黒褐色	内外面クロナデ/耳はヘラ整形	2区2号	5% PL45
92	土師器	甕	(14.6)	(5.5)		青母、黑色、 白色、長石、 石英	2.5YR5/6 明赤褐色	肩部外面ナデ、内面ヘラナデ/頭部、口 縁部内外面ヨコナデ	2区2号	5% PL45
93	土師器	甕	(18.8)	(8.1)		白色、長石、 石英、赤褐色、 小種	5YR6/4 にぶい橙色	肩部内外面ナデ/頭部、口縁部内外面ヨ コナデ	No.2	10% PL46
94	土師器	甕	(19.8)	(4.0)		白色、長石、 石英、赤褐色、 小種	5YR3/1 黒褐色	頭部、口縁部内外面ヨコナデ	カマド甕土	5% PL46

番号	器種	最小径 (cm)	最大径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	胎土	特徴	出土位置	備考
95	支脚	5.4	6.6	13.7	650	青母、赤褐色 ロッカ、黒色	5YR5/3にぶい赤褐色		PL46

### 第11号住居跡（第27・28図、第11表、PL11・46・47）

位置：D調査区A3グリッド、標高64.8m地点にある。

重複関係：北東部を第5号土坑に囲まれている。

規模・平面形：長軸5.10m、短軸5.08mの方形を呈する。

主軸方向：N-6°-W

残存壁高：確認面から最大高40cmを測り、ほぼ外傾して立ち上がる。

壁溝：検出されていない。

床：ほぼ平扣で、遮構築材と推測される砂質の粘土塊が窓前部の床面に飛散していた。

ピット：5箇所確認された。P1～P4は主柱穴と考えられるが、P5は位置的に出入口ピットかどうか判然としなかった。P1：35×29cm、深さ46cm、P2：47×42cm、深さ46cm、P3：46×30cm、深さ46cm、P4：45×44cm、深さ36cm、P5：28×21cm、深さ6cmである。

#### P1土層解説

1. 植 色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、灰泥バミス少量、やや締まりあり
2. 植 色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化物微量、灰泥バミスブロック少量
3. 塗 色 ローム粒子少量、炭化物微量
4. 塗 色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化物微量、焼土ブロック微量

#### P2土層解説

1. 壁 色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化物微量、灰泥バミスブロック少量
2. 壁 色 ローム粒子微量、炭化物微量、炭化粒子少量、閉まり弱い
3. 壁 色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、やや締まりあり

#### P3土層解説

1. 壁 色 ロームブロック少量、灰泥バミスブロック少量、やや締まりあり
2. 壁 色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化物微量、灰泥バミスブロック少量
3. 壁 色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、灰泥バミスブロック少量
4. 塗 壁 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

#### P4土層解説

1. 植 色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化物微量、焼土ブロック微量
2. 植 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量、灰泥バミスブロック少量、やや締まりあり

#### P5土層解説

1. 黒 植 色 ローム粒子微量、炭化粒子少量、締まり弱い

竈：北壁中央部にあり、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは110cmである。大井部は崩落しており、竈土層断面図中、砂質粘土ブロックを多量に含む第1層が崩落土と考えられる。袖部は良好に遺存しており、袖部内面は被熱により赤変している。袖部の最大幅は約140cmである。火床部は床面から10cmほど掘りくぼめて火床面としており、赤く硬化している。煙道部は壁外へ22cmほど削り出して造られ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がり上部で段状となる。

#### 土門解説

1. 灰青褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック多量、焼土ブロック少量
2. 墓 植 色 ローム粒子少量、砂質粘土ブロック少量
3. 墓 植 色 焼土ブロック多量、墓土粒子中量、炭化粒子微量、粘性弱く締まりあり
4. 深灰褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、焼土ブロック少量

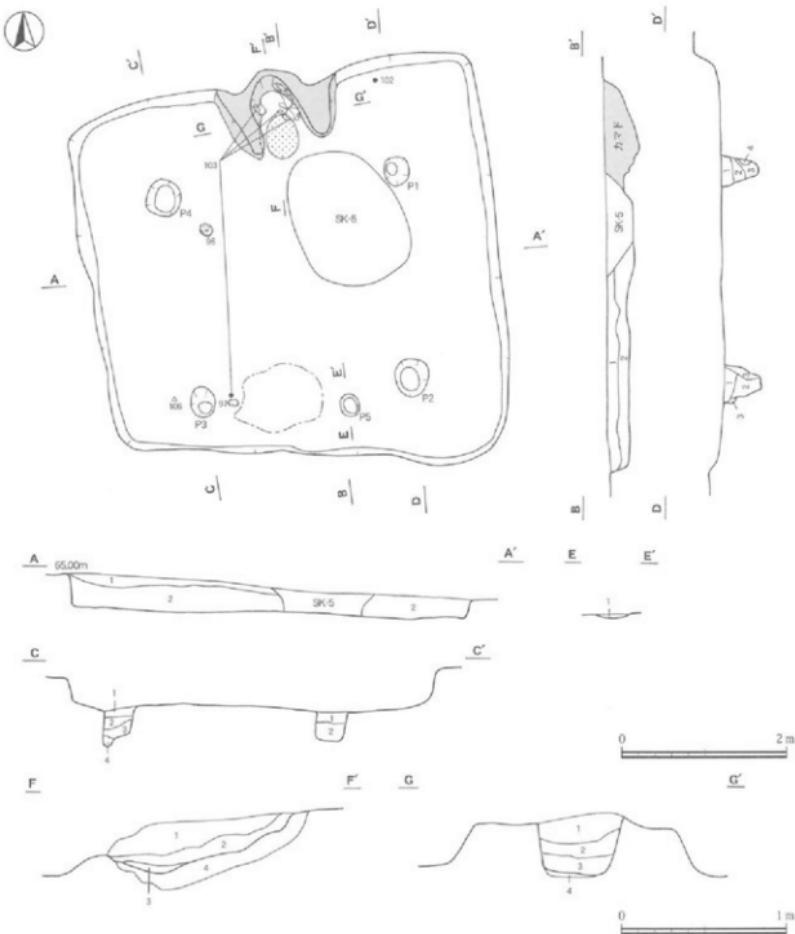
遺構埋没状態：環土下層（第2層）はロームブロック主体の人為的な堆積状況を示しているが、環土上層（第1層）は粒子が細かく均一的な堆積状況を示しており、山頂側からの自然堆積である。

#### 土器解説

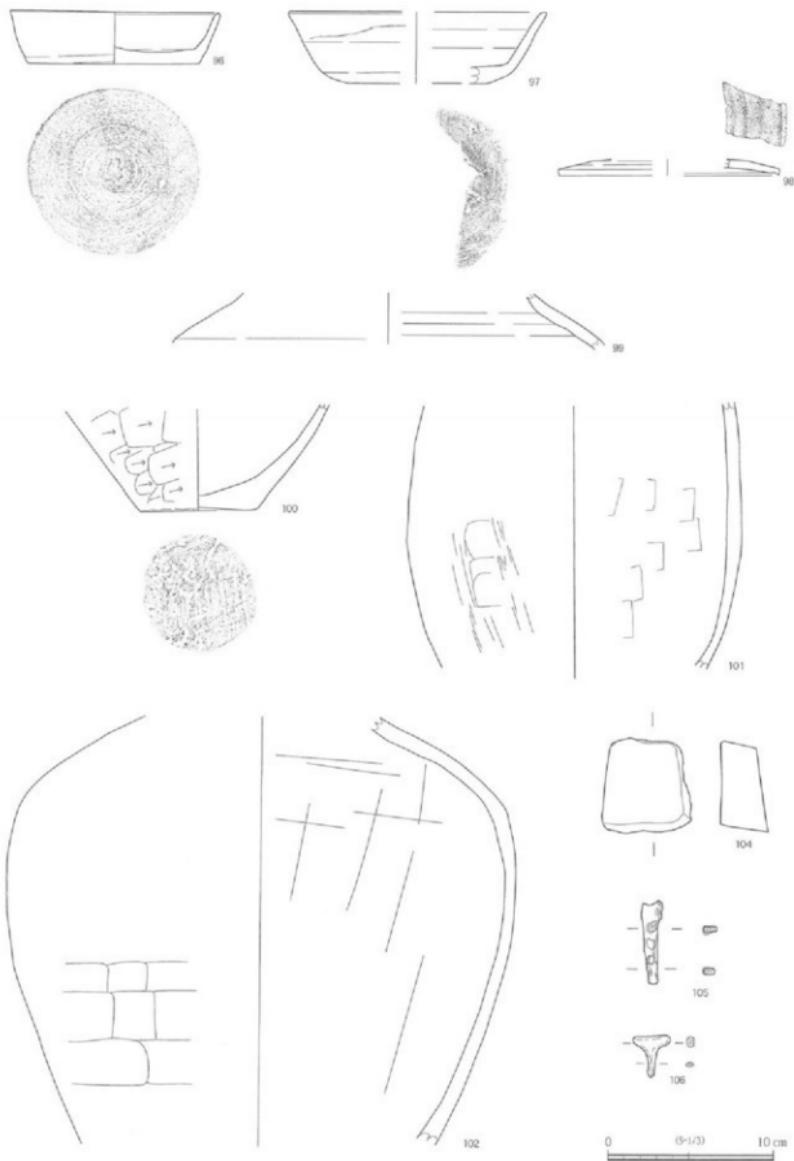
1. 破 壁 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
2. 墓 壁 色 ロームブロック少量、ローム粒子少量

遺物：須恵器片75点（环・高台付环類51点、蓋12点、壺類12点）、土師器片253点（环・高台付环類15点、壺類238点）、土製品2点（支脚片2点）、石製品1点（砥石）。炭化した遺物は竈内と生層全体から確認されたものであるが、主に覆土最下層から出土しており、本跡に伴う遺物は少ない。また103の土師器瓶は竈内とP3近くから出土した破片が接合したものである。なお、104の砥石と105の鉄製品はいずれも覆土上層から確認されたもので、埋土中に混入したものである。

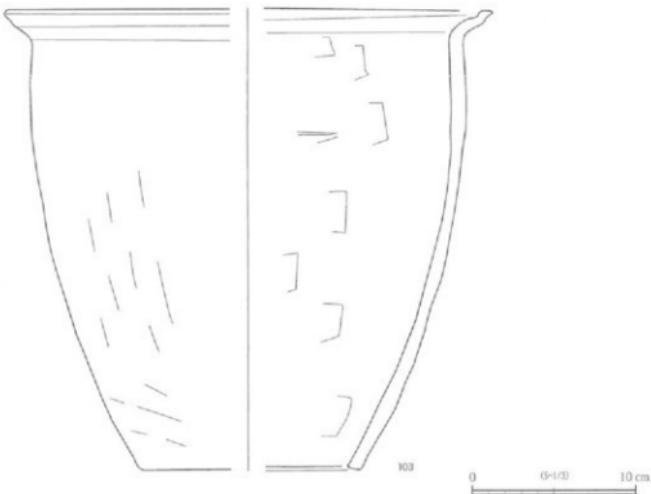
所見：本跡に伴う遺物は少なく、時期は明確ではないが、覆土下層や竪内から出土した遺物には8世紀前葉に比定されるものが多い。なお、床上に主柱をもつ建物構造であることため、8世紀代に造られた住居と推測される。



第27図 第11号住居跡



第28-1図 第11号住居跡出土遺物①



第28-2図 第11号住居跡出土遺物②

第11号住居跡（表11）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	断土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
96	厨窓器	环	12.8	3.4	10.3	白色、長石、石英、小礫	5G6/1緑灰色 入り	体部内外面クロコロナデ/底部回転ヘラナデ	No.4	30% PL46
97	厨窓器	环	[15.8]	4.4	(8.4)	白色、長石、石英	5DGS/1 青灰色	体部内外面クロコロナデ/底部周縁磨滅	No.3	30% PL46
98	厨窓器	瓶	[13.4]	(1.0)		白色、長石、石英	10GV5/1 緑灰色	体部内外面クロコロナデ	1区1層	3%
99	厨窓器	甕		(3.6)		白色	10RK25/1 青灰色	体部内外面クロコロナデ	2区1層	2%
100	土鍋器	甕		(6.4)	7.0	赤褐色、小礫	5YR4/1 黒灰色	胴部外面手持ちハラケズリ、内面ヘラナデ/底部ヘラナデ	1区覆土	5% PL46
101	土鍋器	甕		(16.3)		青緑、赤褐色、小礫、叶状植物	5YR4/1 黒灰色	胴部外面上半部ナデ、外面下半部ヘラケズリ後ナデ・内面下半部ヘラナデ	1区覆土	5%
102	土鍋器	甕		(28.4)		青緑、黑色、白色、針状植物	7.5YR8E/4 にぶい橙色	胴部外面ケズリ後ナデ、内面ヘラナデ 胴部外面上半部ナデ/頭部ヨコナデ	No.1 1区覆土 No.7 焼出面 カマド覆土	30% PL46
103	土鍋器	甕	[29.5]	28.7	[13.4]	白色、小礫	7.5YR8E/4 にぶい橙色	胴部外面上半部ナデ・下半部ケズリ後ナデ、内面ヘラナデ/頭部、口縁部内外面 ヨコナデ	No.3 No.5 No.6	50%

番号	器種	高さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	特徴	出土位置	備考
104	砥石	(5.9)	5.5	2.8	148	硬質砂岩	1面のみ使用	4区1層	

番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	特徴	出土位置	備考
105	不明品	(5.2)	(1.3)	0.4	28	鉄	断面扁平な長方形	1区1層	PL47

番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	特徴	出土位置	備考
106	不明品	2.8	2.4	0.6	68	銅	T字型を呈する	No.10	PL47

### 第12号住居跡（第29・30図、第12表、PL11・12・47）

位置：D調査区C 2, C 3グリッド、標高63.4m地点にある。

重複関係：東部を第59号住居跡に掘り込まれている。

規模・平面形：住居跡東部が第59号住居跡に掘り込まれているため明確ではないが、遺存部の形態から長軸(2.6) m、短軸(2.20) の方形または長方形と推定される。

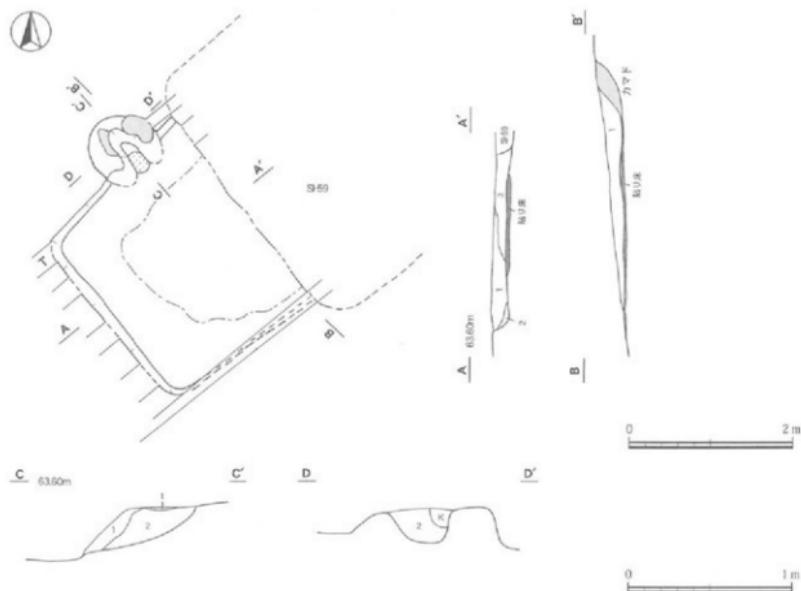
主軸方向：N - 42° - W

残存壁高：確認面から最大高20cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：検出されていない。

床：ほぼ平坦で、中央部がよく硬化している。

ピット：床面からは、主柱穴、出入口ピットとともに検出されていない。



第29図 第12号住居跡

窓：北壁にあるものと推測され、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは〔84〕cmである。耕作用トレンチャーにより大半が壊されている。袖部は構築材である砂質粘土ブロックが散在しており範囲は明確ではないが、最大幅は約〔80〕cmである。煙道部は窓外へ〔52〕cmほど削り出して造られ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

## 土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量、炭化粒子微量、鐵錫パミスブロック少量、縋まりあり
2. 暗赤褐色 焼土ブロック少量、燒土粒子少量、炭化物少量、炭化粒子少量、粘性あり

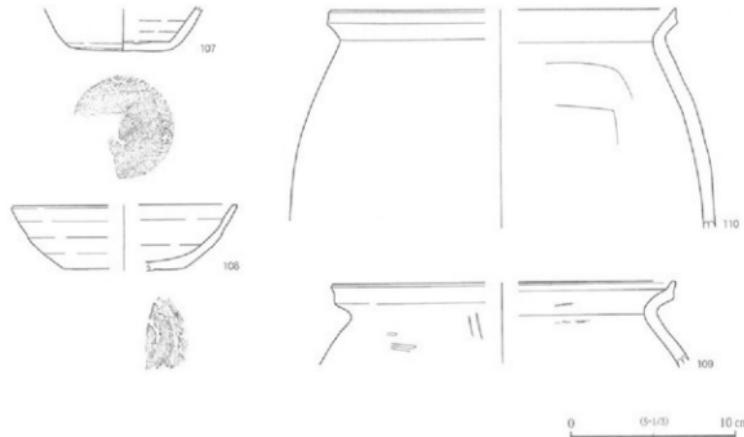
遺構埋没状態：覆土にロームブロックや焼土粒子や炭化粒子を含む人為的な埋没状況が見られる。

## 土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
2. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
3. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化物微量、炭化粒子少量、縋まり弱い

遺物：須恵器片42点（环・高台付环類35点、甕類7点）、土師器片80点（环・高台付环類12点、甕類68点）遺物はすべて窓内または覆土中から出土したもので、床面上から確認されたものはなかった。またいずれの遺物も細片であるため、埋土中に混入したものと考えられる。

所見：時期は住居跡に伴う遺物が多く、また遺物年代も様々であり判然としないが、覆土中の遺物の多くが8世紀中葉から後葉に比定されるものであることや、住居内に主柱穴をもたない造りであることから、8世紀後葉あるいは9世紀前葉と推測される。



第30図 第12号住居跡出土遺物

第12号住居跡（表12）

番号	種別	器種	口径	高さ	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
107	須恵器	环	〔9.2〕	〔2.9〕	6.2	褐色、白色、SBG6/1 瓦石、石英 青灰色		体部内外面クロナダ/底部頭輪ヘラ切 り後一部手持ちヘラケズリ/高台の丘直 角	35E1層 PL47	30% PL47
108	土師器	环	〔13.6〕	4.0	〔7.4〕	紫母、白色	5YR6/2微色	体部内外面クロナダ/底部頭輪ヘラ切 り	亂	20% PL47
109	土師器	甕	〔21.2〕	〔5.0〕		青母、白色、25YR5/6 瓦石、石英 明赤褐色		底部外面ヨコナダ	1区覆土	5%
110	土師器	甕	〔20.8〕	〔13.3〕		青母、瓦石、5YR6/4 石英、小磯 に赤褐色	底部外面ナダ、箭頭痕、内面ヘラナダ/ 底部、口段部外面ヨコナダ	1区覆土 4区覆土	5% PL47	

第13号住居跡（第31・32図、第13表、PL12・47）

位置：D調査区A 2, A 3グリッド、標高65.3m地点にある。

重複関係：南東部を第10号土坑に掘り込まれている。

規模・平面形：住居跡東部が削平されているが、硬化した床面の範囲から、長軸〔3.30〕m、短軸〔2.92〕mで方形もしくは長方形を呈するものと推測される。

主軸方向：N - 5° - W

残存壁高：確認面から最大高14cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：検出されていない。

床：ほぼ平坦で、中央部がよく硬化している。

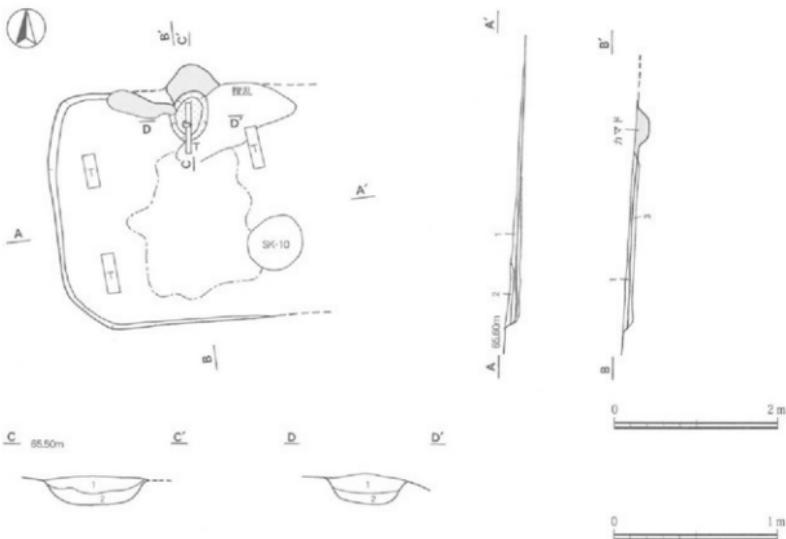
ピット：床面からは、主柱穴、出入口ピットとともに検出されていない。

窓：北壁にあったと推測されるが、大半が削平され、後世の擾乱もあり、火床部のみの調査となった。火床部は床面から5～10cmほど掘りくぼめて火床面を造り出しており、被熱により赤く硬化している。通路部は削平されており、窓外への削り出しや火床部からの立ち上がり等の情報は得られなかった。

土層解説

1. 砂褐色 ロームブロック微量、焼土粒子微量、炭化粒子微量
2. 砂赤褐色 焼土粒子中量、炭化物少量、灰化粒子少量、粘性あり、締まり弱い

遺構埋没状態：本跡の大半は削平されており埋没状況は不明であるが、住居掘り方層は遺存しており、ロームブロックを主体とした第3層が相当する。



第31図 第13号住居跡

## 土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化物微量、鹿沼バミス微量、縫まり弱い
2. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
3. 棕褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物：須恵器片5点（坏・高台付坏類1点、蓋1点、壺類3点）、土師器片20点（坏・高台付坏類3点、壺類17点）。遺物数は少なく、いずれも細片である。竈内からは土師器の壺片が1点確認されたのみで、他は住居跡の覆土内からのものである。

所見：床面がほぼ露出した状態で確認されたため、遺物から時期を特定するには至らなかった。しかし床上に4本の主柱を持たない小振りな住居跡であることや、竈が北壁に埋め込まれたように附設されているなど、住居形態は9世紀代の特徴をもつ。



第32図 第13号住居跡出土遺物

第13号住居跡（表13）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
111	土師器	坏	(160)	(38)		黑色、石英	5YR6/4 にぶい滑色	体部外面ヨコナダ、下端部側板ベラケズ リ、内面黒色処理/二次焼成	1区1層	5% PL47
112	須恵器	壺			(20)	黒色、白色、 長石、石英 黒色のセルロ イド状の吹き 出し	5D06/1 青灰色	体部内外面クロナダ/天井部側板ヘラ ケズリ	1区1層	5% PL47

第14号住居跡（第33・34図、第14表、PL12・47）

位置：D調査区A2、A3グリッド、標高66.2m地点にある。

重複関係：東部を第9号土坑に掘り込まれている。

規模・平面形：本跡の大半は削平されておりその規模は明確に把握できなかったが、当集落跡の住居跡形態からみて、北壁に竈が付設された長軸 [4.04] m、短軸3.96mの方形または長方形を基調としたプランが想定される。

主軸方向：N - 0° - W

残存壁高：覆土の大半が削平されているため詳細は不明である。

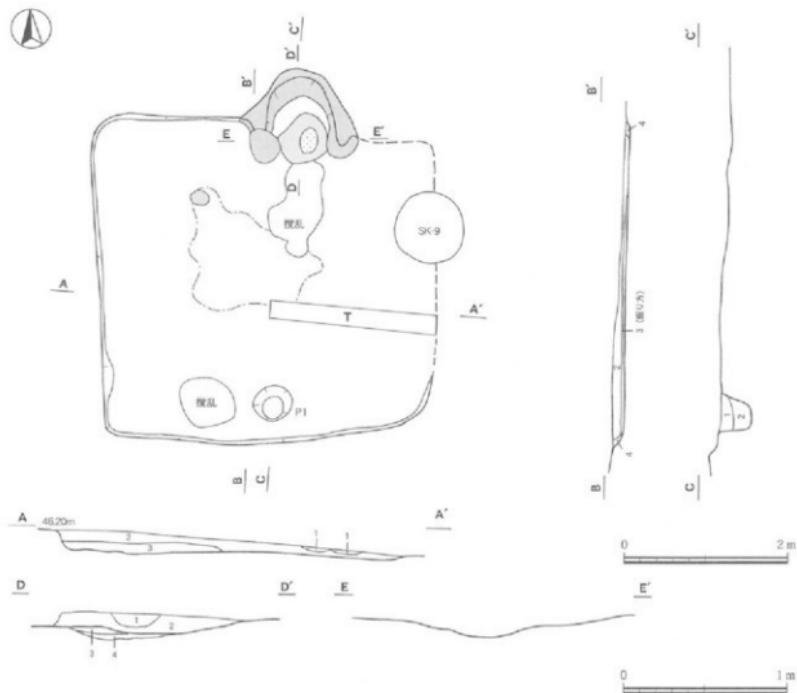
壁溝：検出されていない。

床：遺存部はほぼ平坦であり、中央部がやや硬化している。

ピット：1箇所確認され、出入口ピットと考えられる。P1：48×42cmで深さ38mである。

## P1土層解説

1. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、鹿沼バミスブロック少量、やや縫まりあり
2. 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、鹿沼バミスブロック微量、縫まり弱い



第33図 第14号住居跡

竈：北壁中央部やや東に附敷されていたと推測されるが、大半が削平されておりまた後世の搅乱も見られるため、情報はあまり得られなかった。焚口部から煙道部までは〔104〕cmで、最大幅は約〔130〕cmである。なお、西袖部は搅乱で壊されていたが、東袖部の基礎は地山を造り出していることが確認された。また火床部は床面から5cmほど掘りくぼめて次床面としており、わずかに赤く硬化している。煙道部は壁外へ60cmほど削り出して造られ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

#### 土層解説

1. 暗褐色 混土ブロック微量、縫まりあり
2. 黄褐色 ロームブロック微量、焼土ブロック微量
3. 暗赤褐色 ローム粒子微量、焼土ブロック少量、炭化粒子少量、縫まり弱い
4. 黄褐色 ローム粒子微量、焼土ブロック微量、炭化粒子微量

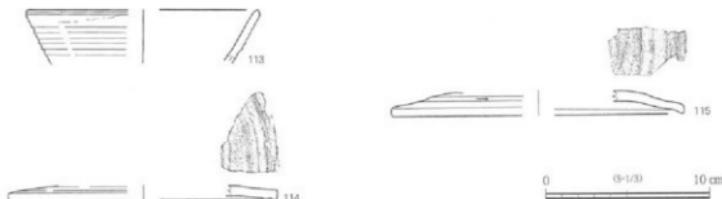
遺構埋没状態：覆土に焼土粒子や炭化粒子が含まれており人為的な埋没が見られるが、本跡の大半は削平されしており、明確な埋没状況は不明である。

#### 土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子少量、鹿沼バシス少量
2. 褐色 ローム粒子少量、炭化物微量、鹿沼バシス微量、縫まり弱い
3. 褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量
4. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

遺物：須恵器片11点（坏・高台付坏類6点、蓋3点、甕類2点）、土師器片26点（坏・高台付坏類2点、甕類24点）。遺物数は少なく、いずれも細片である。大半が住居跡の覆土内からのものである。

所見：床面がほぼ露出した状態で確認されたため、遺物から時期を特定するには至らなかった。しかし床上に4本の主柱を持たない小振りな住居跡であることや、竈が北壁に埋め込まれたように附設されているなど、住居形態は9世紀代の特徴をもっている。また本跡周辺には他に2軒の住居跡が確認されたが、隣接する第13号住居跡と主軸方向がほぼ同じであることから、双方の住居跡が同時期に営まれた可能性がある。



第34図 第13号住居跡出土遺物

第14号住居跡（表14）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
113	須恵器	坏	[14.0]	(3.3)		黒色、白色、青灰色 針状鉢物	10RG5/1 10Y5/2	体部内外面ロクロナデ	2区1層	5% PL47
114	須恵器	蓋	[16.2]	(0.9)		白色、針状鉢物	オリーブ灰色	体部内外面ロクロナデ/天井部回転ヘラ ケズリ	3区1層	5% PL47
115	須恵器	蓋	[17.6]	(1.4)		黒色、白色、青灰色 黒色のセルロイド状の吹き出し	10G6/1 10Y5/2	体部内外面ロクロナデ/天井部回転ヘラ ケズリ	4区1層	3% PL48

第15号住居跡（第35・36図、第15表、PL12・48）

位置：D調査区B4グリッド、標高60.2m地点にある。

規模・平面形：本跡の大半は削平されておりその規模は把握できなかったが、竈や出入口ピットの位置から長軸[5.14]m、短軸[5.10]mで方形もしくは長方形を呈するものと推測される。

主軸方向：N-20°-W

残存壁高：確認面から最大高18cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：検出されていない。

床：ほぼ平坦で、中央部の東寄り部分に硬化面が認められた。

ピット：1箇所確認され、出入口ピットと考えられる。P1: 60×45cm、深さ11cmである。

#### P1土層解説

L 塗 褐 色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、鹿沼バミス微量、繊維弱い

竈：北壁部にあり、焚口部から煙道部までは142cmである。袖部の最大幅は約130cmで、袖部内壁と火床面は被熱により赤く硬化していることが確認された。煙道部は壁外へ34cmほど削り出して造られ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

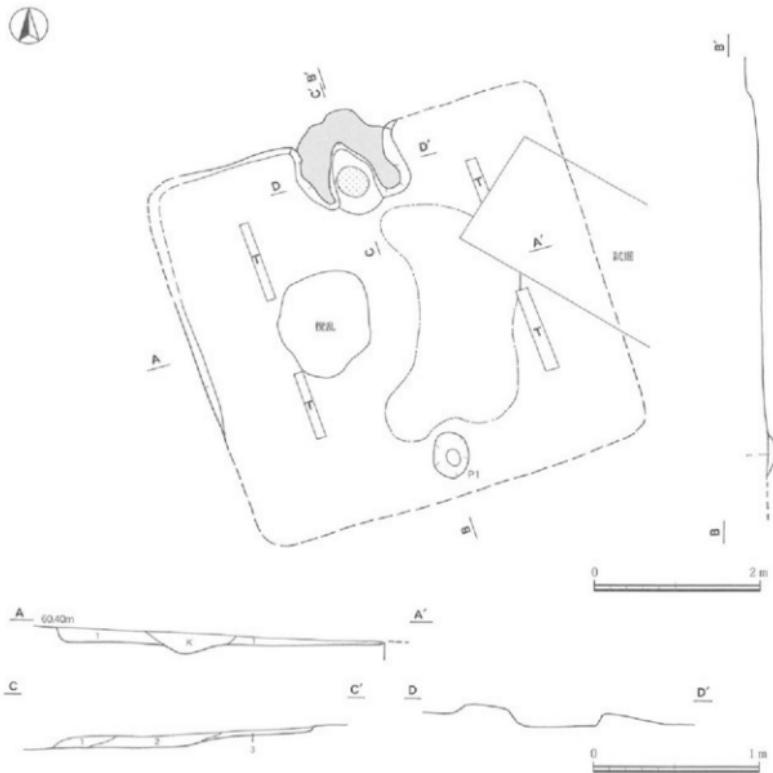
土層解説

1. 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化物少量、炭化粒子少量、粘性あり、繊まり弱い
2. 赤褐色 焼土ブロック中量、焼土粒子中量、炭化物少量、炭化粒子微量
3. 暗赤褐色 焼土ブロック中量、焼土粒子少量、炭化物微量

遺構埋没状態：本跡の大半は削平されており、埋没状況は不明である。

土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量、鹿沼バニス少量



第35図 第15号住居跡

遺物：須恵器片6点（环・高台付环類5点、壺類1点）、土師器片99点（环・高台付环類21点、壺類78点）。遺物数は少なくいずれも細片であるが、共臘具は土師器非クロ坏が多く、須恵器製品は客体的である。

所見：床面がほば露出した状態で確認されたため遺物数が少なく、時期を特定するのは困難であるが、非クロクロ坏の形状などから、時期は7世紀後半と推測される。



第36図 第15号住居跡出土遺物

#### 第15号住居跡（表15）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
116	土師器	环	12.3	4.0		黒色、白色	25YR6/6稍色	底部外面ハラケズリ、内面滑文状のヘラジガキ/口縁部内外面ヨコナデ	6区1層 PL48	90% PL48
117	土師器	环	[12.5]	(3.0)		墨色、黑色	75YR6/4 にぶい褐色	底部外面ハラケズリ、内面ナダ/口縁部内外面ヨコナデ、外面に沈底織紋2条	カマド覆土 PL48	29% PL48
118	土師器	环	[14.4]	(4.4)		白色	5YR3/1 黒褐色	底部外面ハラケズリ後ナダ、内面ナダ/ 口縁部内外面ヨコナデ/内外面とも黒色 55型	6区1層 1区1層	29% PL48

#### 第16号住居跡（第37・38図、第16表、PL13・48）

位置：D調査区A3グリッド、標高68.2m地点にある。

規模・平面形：長軸3.24m、短軸3.02mで方形を呈する。

主軸方向：N-33°-W

残存壁高：確認面から最大高54cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：検出されていない。

床：ほば平坦である。硬化面は認められない。

ピット：床上からは、主柱穴、出入入口ピットともに検出されていない。

竈：北壁中央部にあり砂質粘土で構築されているが、煙道部と両袖部が後世の搅乱により壞されている。また天井部は崩落しており、竈土層断面図中、砂質粘土ブロックを含む第2～4層が崩落土と考えられる。なお、袖部は搅乱を受けており、竈構築材と考えられる砂質粘土が北壁に貼り付いている様子が確認されただけであった。火床部は床面から6cmほど掘りくぼめて火床面としているが、被熱して硬化している部分はわずかであった。火床部から煙道部へは緩やかに立ち上がっていったものと推測される。

##### 土層解説

1. 喧褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、鹿沼バミス微量
2. 喧褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、砂質粘土ブロック少量、粘性弱い
3. 灰褐色 ローム粒子微量、焼土ブロック少量、燒土粒子微量、炭化物微量、砂質粘土粒子少量
4. 灰褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック少量、焼土ブロック微量、炭化物微量
5. 暗灰色 ローム粒子少量、焼土ブロック少量、炭化物微量、鹿沼バミスブロック微量

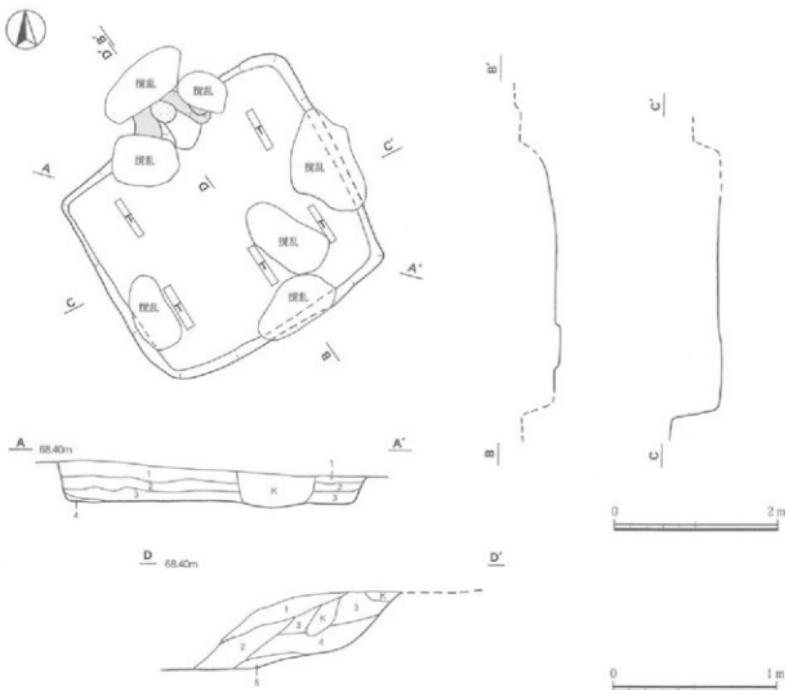
遺構埋没状態：覆土下層（第4層）はロームブロック主体の人为的な堆積状況を示しているが、覆土上層（第1～2層）は粒子が細かく均一的な堆積状況を示しており、山頂側からの自然堆積である。

#### 土層解説

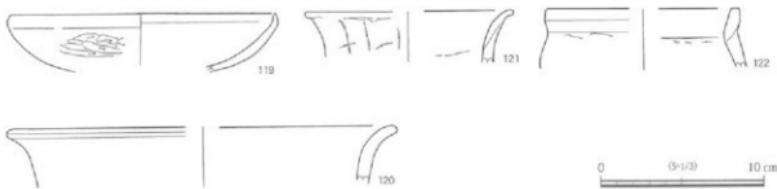
1. 斑褐色 ローム粒子微量（粒子はすべて微粒子）
2. 斑褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
3. 褐色 ロームブロック中量、ローム粒子少量、炭化物微量、炭化粒子少量
4. 褐色 ロームブロック中量、ローム粒子少量、焼土ブロック少量

遺物：須恵器片35点（壺・高台付壺類22点、蓋1点、盤1点、甕類11点）、土師器片80点（壺・高台付壺類31点、甕類49点）。遺物は住居北西部から確認されたものが多く、大半が覆土上層から出土したもので、図化した遺物が相当する。また共膳具には土師器非口クロ壺が多く見られたが、須恵器製品は少なく、客体的な時期である。他にも後世の耕作作業によって混入したと推測される須恵器製品が多数見られる。

所見：本跡は後世の擾乱により竈を中心各所が壊され調査が難航した。竈を壊した擾乱は芋坑であろうか。時期は、遺物数が少なくいずれも細片であるため判然としないが、7世紀後葉から8世紀前葉にかけての特徴を示す遺物がいくつか見られた。



第37図 第16号住居跡



第38図 第16号住居跡出土遺物

第16号住居跡（表16）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
119	土器部	环	[15.8]	(3.1)		雲母、白色、長石、石英	75Y6/6褐色	直部外面手持ちヘラケズリ、内面ヨコナデア/口縁部内面ヨコナデ	4区1層	20% PL48
120	土器部	裏	[23.4]	(3.0)		白色	5YR5/3 にぶい赤褐色	頭部、口縁部内面ヨコナデ	4区1層	2% PL48
121	土器部	裏	(12.8)	(2.9)		雲母、黑色、白色、長石、石英	5YR7/2 明褐色	輪模み板/頭部、口縁部内外面ヨコナデ	4区1層	2% PL48
122	土器部	裏	(12.1)	(3.8)		雲母、白色	5YR5/4 にぶい赤褐色	頭部外面ヘラナデ、内面ナデ/頭部、口縁部内外面ヨコナデ	4区2層	2% PL48

第17号住居跡（第39・40図、第17表、PL13・14・48・49）

位置：D調査区B3グリッド、標高62.9m地点にある。

規模・平面形：長軸4.74m、短軸4.72mの方形を呈する。

主軸方向：N-33°-W

残存壁高：確認面から最大高70cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：検出されていない。

床：ほぼ平坦で、竈構築材と推測される砂質の粘土塊が床面に飛散していた。竈前面と住居中心部がよく硬化している。

ピット：5箇所確認され、P1～P4は主柱穴でP5は出入口ピットと考えられる。また、P1～P4で柱抜き取りの痕跡と柱当たり面が確認された。P1：40×30cm、深さ56cm、P2：38×40cm、深さ30cm、30m×30m、深さ50m、P3：55×39cm、深さ30cm、P4：52×49cm、深さ60cm、P5：28×23cm、深さ22cmである。

## P1土層解説

- 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量
- 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、跡まり弱い（柱抜き取り痕）
- 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、窓沼バミスブロック少量、やや跡まりあり

## P2土層解説

- 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、窓沼バミス微量、跡まり弱い
- 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量
- 黒褐色 炭化物少量、炭化粒子微量
- 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量、跡まり弱い（柱抜き取り痕）
- 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、やや跡まりあり

## P3土層解説

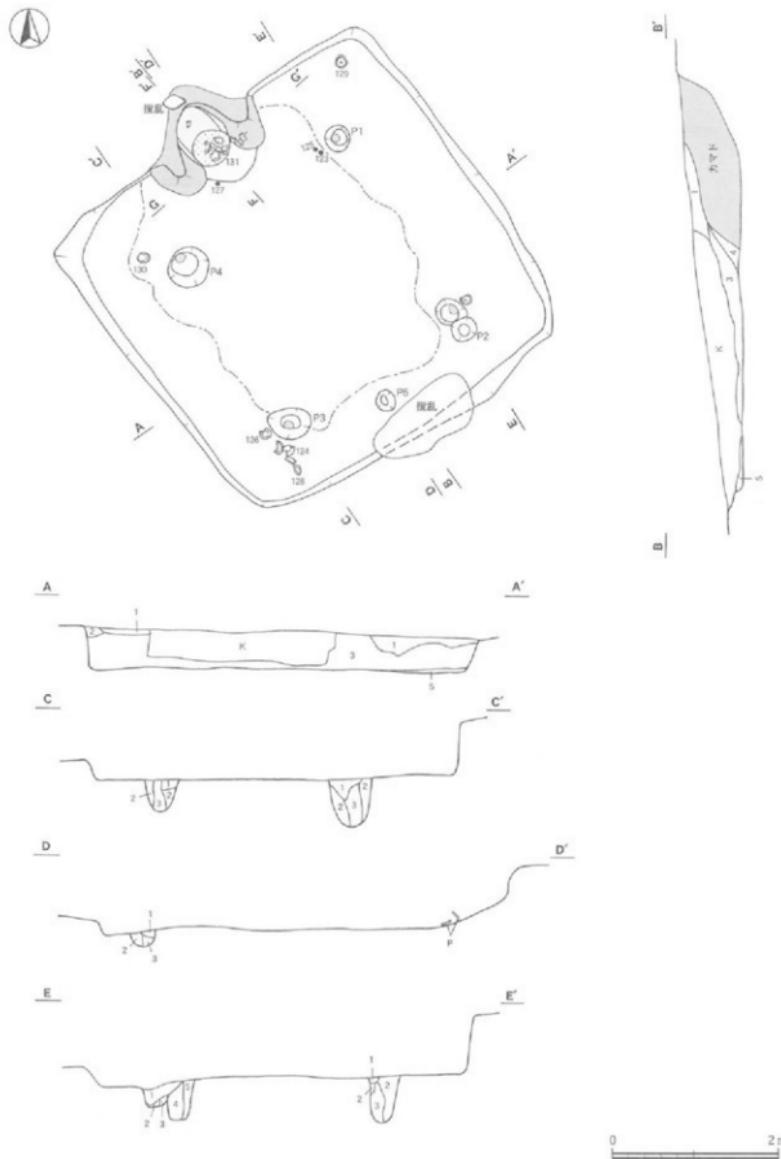
- 黒褐色 炭化物少量、炭化粒子微量
- 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量
- 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量、跡まり弱い（柱抜き取り痕）

## P4土層解説

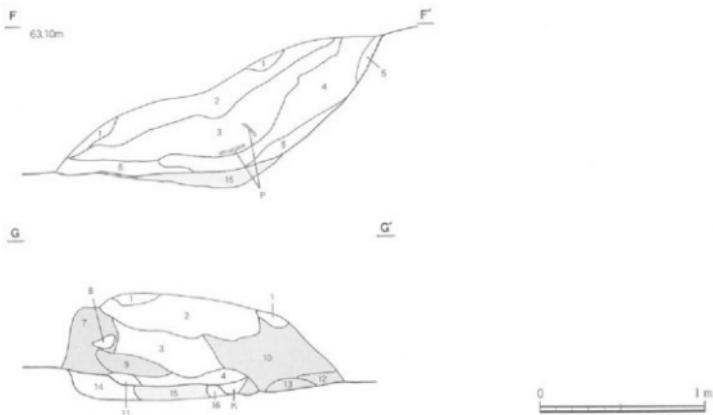
- 黒褐色 炭化物微量、炭化粒子微量
- 暗褐色 ロームブロック微量、ローム炭化粒子微量
- 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量、跡まり弱い（柱抜き取り痕）

## P5土層解説

- 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子微量
- 暗褐色 ローム粒子微量、跡まり弱い（柱抜き取り痕）



第39-1図 第17号住居跡①



第39-2図 第17号住居跡②

竈：北壁中央部にあり、砂質粘土で構築され、焚口部から煙道部までは138cmである。天井部は崩落しており、竈土層断面図中、砂質粘土ブロックを多量に含む第2・3層が崩落土と考えられる。袖部は比較的良好に遺存しており、袖部の最大幅は約150cmである。なお、内壁は被熱により赤変している。火床部は床面から12cmほど掘りくぼめて火床面としており、ゴツゴツと赤く硬化している。煙道部は壁外へ58cmほど削り出して造られ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

## 土層解説

1. 風化色 ロームブロック少量、炭化粒子微量、鹿沼バニスブロック少量、締まりあり
2. 灰褐色 砂質粘土ブロック多量、炭化粒子少量、焼土ブロック少量
3. 灰青褐色 ローム粒子微量、砂質粘土ブロック多量、焼土ブロック少量
4. 植灰色 ローム粒子少量、砂質粘土ブロック少量、焼土ブロック少量
5. 灰青褐色 ローム粒子微量、砂質粘土ブロック中量
6. 灰色 砂質粘土ブロック多量
7. 灰青褐色 ローム粒子微量、砂質粘土ブロック中量、炭化粒子少量
8. 灰褐色 ロームブロック微量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック少量、砂質粘土粒子中量
9. 灰青褐色 砂質粘土ブロック微量、砂質粘土粒子中量
10. 灰褐色 ロームブロック微量、砂質粘土ブロック中量、砂質粘土粒子中量
11. 灰青褐色 砂質粘土ブロック焼土、焼土ブロック少量
12. 灰青褐色 砂質粘土ブロック多量、焼土ブロック微量、炭化物少量
13. 灰褐色 ロームブロック微量、砂質粘土ブロック少量、焼土粒子微量、炭化物微量
14. 灰色 ロームブロック中量、ローム粒子少量、炭化物微量
15. 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化物少量、炭化粒子少量、粘性弱い
16. 灰褐色 ロームブロック少量、砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、炭化物微量

遺構埋没状態：ロームブロック主体の入為的な堆積状況を示している。第4層には竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックが確認されている。

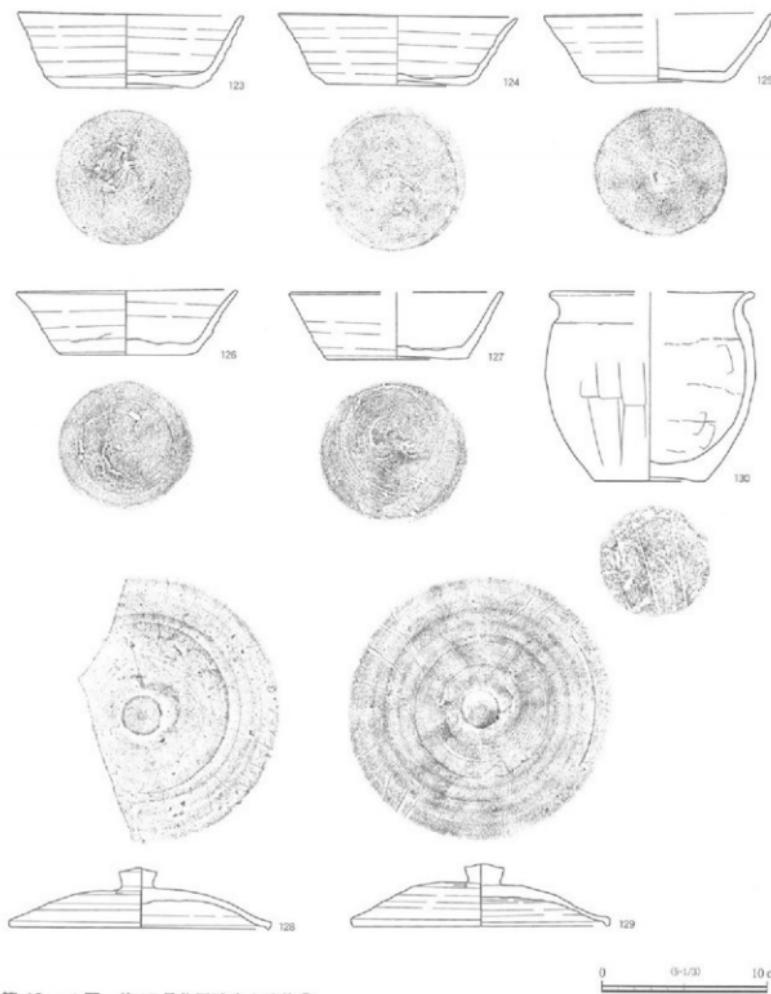
## 土層解説

1. 風化色 ローム粒子微量、炭化物微量
2. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量
3. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化物微量、鹿沼バニスブロック少量
4. 褐色 ローム粒子少量、砂質粘土ブロック少量
5. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化物微量、鹿沼バニス微量、締まり弱い

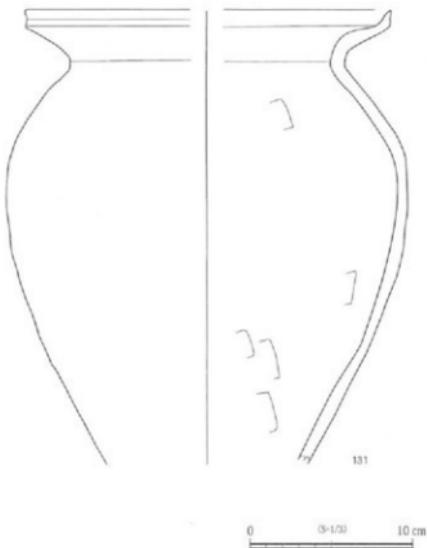
遺物：須恵器片194点（壺・高台付杯類96点、蓋8点、盤2点、甕類88点）、土師器片268点（壺・高台付杯類5点、甕類263点）。窓内及び窓周辺と住居南西部を主体に散見される。共軸具は須恵器製品で占め、床面から

確認された環類（123・125）もすべて須恵器製品である。131の土師器壺は窓内から横位で出土したものであるが、破片を接合しても残存率は50%にも達していないため、住居廃絶後に投棄されたものと推測される。

所見：本跡出土の須恵器壺の中には、底部調整法として底部ヘラ切り後にヘラ跡を目立たなくするために軽く押さえているものが多い。底部切り離し後無調整となる段階直前の時期と考えられる。また、共財具の大半が須恵器製品であることも加味し、時期は8世紀後葉と推測する。



第40-1図 第17号住居跡出土遺物①



第40-2図 第17号住居跡出土物②

第17号住居跡(表17)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	手 法 の 特 殊 は か	出土位置	備 考
123	須恵器	环	14.0	47	8.2	黑色、白色、 長石、石英、 小穢、黒色の セルロイドの 吹き出し	5DG4/1 暗青灰色	体部内外面口クロナデ・外下面下端ケズリ 後ナデ/底部回転ヘラ切り	No.3	96% PL48
124	須恵器	环	[14.6]	44	8.6	黒色、白色、 小穢	5DG5/1 青灰色	体部内外面口クロナデ・外下面下端ヘタケ メリ/底部回転ヘラ切り後多方角ヘタケ メリ、而緑部ヘタケズリ薄削/口緑部及 び底部周縁削減	No.7	90% PL48
125	須恵器	环	[14.1]	42	7.8	白色、長石、 石英	10GY5/1 暗灰色	体部内外面口クロナデ・外下面下端削除へ タケメリ、内面下端跳狀工具による沈痕 削除/底部回転ヘタケズリ	No.3 1K2層 2K2層	50% PL48
126	須恵器	环	13.6	41	7.7	黒色、白色、 小穢	5DG5/1 青灰色	体部内外面口クロナデ/底部回転ヘタケ メリ後底削ヘタケズリ、ヘラ記号/口部部 及び底部周縁削減	No.9	90% PL48
127	須恵器	环	[13.0]	42	9.0	黒色、白色、 小穢、針状鉱物	7.5GY5/1 暗灰色	体部内外面口クロナデ、足込み凸巻き状 の様/底部回転ヘラ切り後回転ヘタケズ リ、ヘラ記号/口部部及び底部周縁削減	No.11	70% PL49
128	須恵器	壺	15.9	37		黒色、白色、 小穢、黒色の セルロイド状 の吹き出し	5GY6/1 オリーブ灰	体部内外面口クロナデ/天井部回転ヘタ ケズリ/口まみ部付後口クロナデ	No.5	100% PL49
129	須恵器	壺	15.7	3.8		長石、石英、 針状鉱物	5BG5/1 青灰色	体部内外面口クロナデ、内面ヘラ記号/ 天井部回転ヘタケズリ/口まみ部添付後 クロナデ	No.1	100% PL49
130	須恵器	壺	[12.5]	11.8	6.6	雲母、白色、 白色	5YRS/4 にぶい赤褐色	腹部外面上半部縱鋸ヘタケズリ・下半部 ナデ、内面ヘラナデ/頭部、口縫部内外 面ヨコナデ、頭部外縫ヘタ先による沈痕 削除/底部木葉灰	No.10	70% PL49
131	土蔵器	壺	[22.5]	(28.3)		雲母、白色、 長石、石英、 小穢	5YRS/3 にぶい橙色	脚部外面ナデ、内面ヘラナデ/頭部、口 縫部ヨコナデ	No.12	40% PL49

### 第18号住居跡（第41・42図、第18表、PL14・15・49～51）

位置：D調査区C3グリッド、標高62.2m地点にある。

規模・平面形：住居跡南部が農作用トレンチャーより壊されているため不明な点は多いが、長軸3.42m、短軸(2.76)mで方形もしくは長方形を呈するものと推測される。

主軸方向：N-42°-W

残存壁高：確認面から最大高58cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：遺構遺存部ではほぼ全周し、幅20～32cmで巡る。断面はU字形である。

床：ほぼ平坦であるが、硬化面は認められない。

ピット：床面からは、主柱穴、出入入口ピットとともに検出されていない。

電：北壁中火部やや東寄りにあり、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは89cmである。天井部は崩落しており、竪土層断面図中、砂質粘土ブロックを多量に含む第4層が崩落上と考えられる。袖部は比較的良好に遺存しており、袖部内面は被熱により赤変している。袖部の最大幅は約118cmである。なお、火床部に遺存している石塊は被熱を受けており、本来支撑として据えられていたものと考えられ、火床面もまた被熱して赤変している。煙道部は焼外へ62cmほど削り出して造られ、火床部から煙道部へは一旦段をなして立ち上がる。

#### 土層解説

1. 焙 燥 色 レンガブロック微量、ローム粒子少量、炭化物微量
2. 烟 道 色 ロームブロック多量、砂質粘土粒子中量、縮まりあり
3. 竖土層色 ローム粒子微量、焼土ブロック少量、炭化物微量
4. 火 床 色 ロームブロック微量、砂質粘土ブロック少量、炭化物微量、蒸溜バニスブロック少量
5. 断 层 色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
6. 壁 槽 色 ロームブロック中量、ローム粒子少量、炭化バニス微量
7. 砂 質 粘 土 色 砂質粘土ブロック少量、焼土ブロック中量、炭化物少量
8. 焙 热 粘 土 色 砂質粘土中量、焼土ブロック少量、炭化物少量、炭化粒子少量

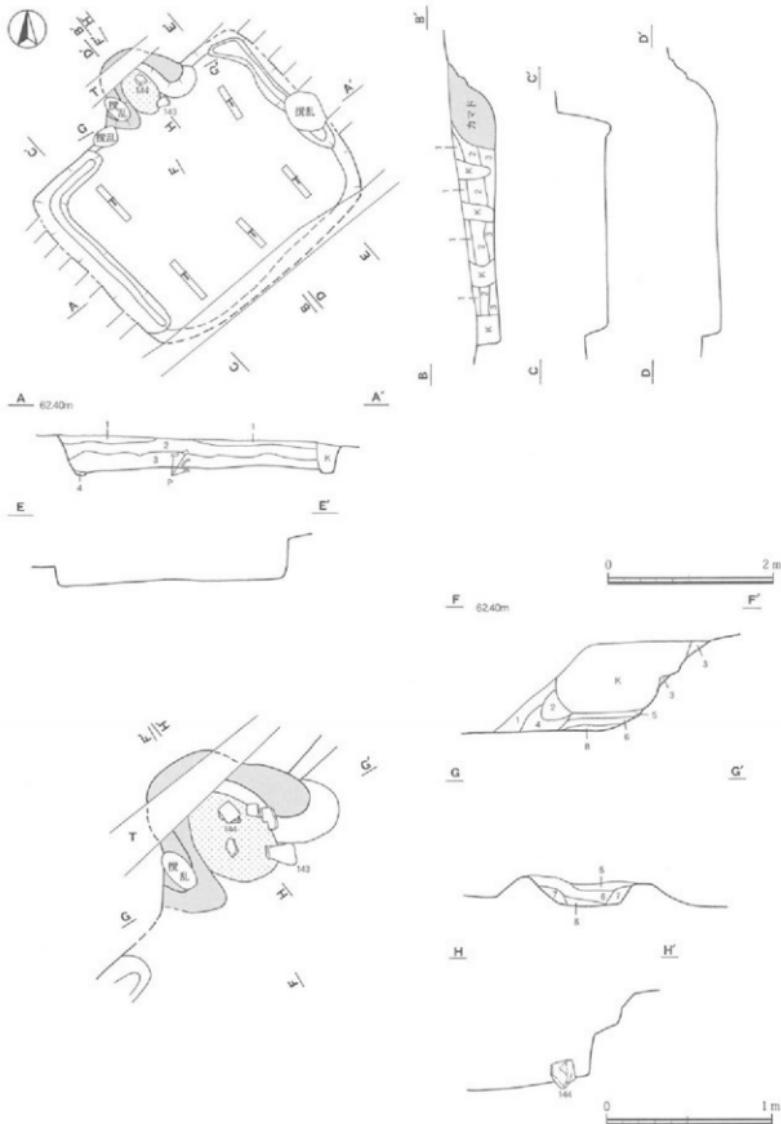
遺構理没状態：ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。

#### 土層解説

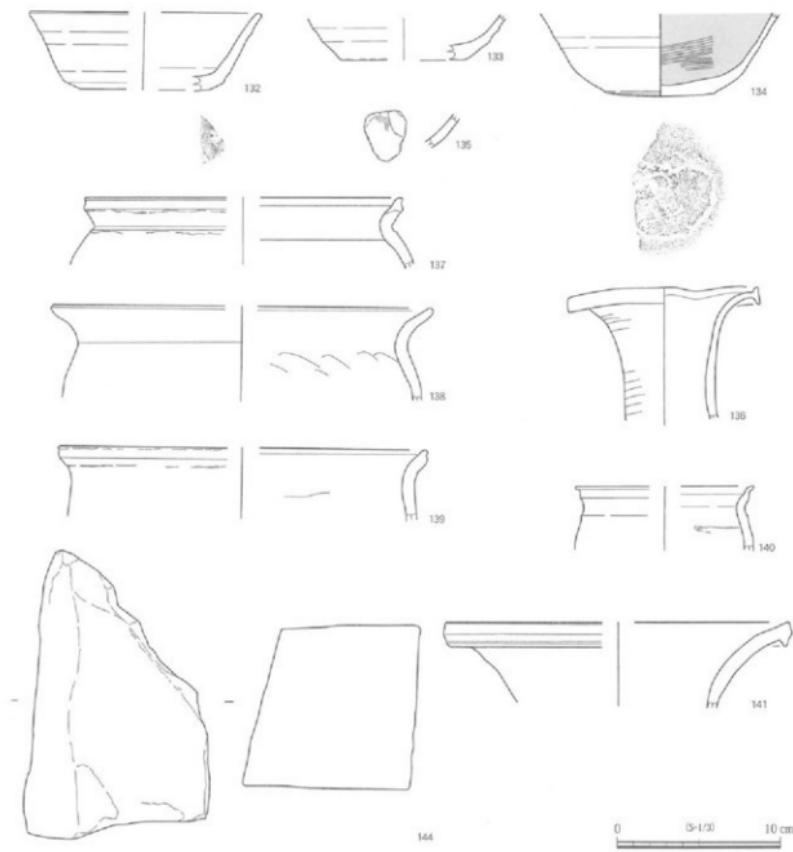
1. 焙 燥 色 レンガブロック微量、炭化粒子微量
2. 烟 道 色 ロームブロック少量、レンガブロック微量、炭化物微量、炭化粒子少量
3. 竖 土 色 ロームブロック中量、ローム粒子少量、炭化物少量
4. 壁 槽 色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、縮まりあり

遺物：須恵器片70点（环・高台付环類41点、蓋点・高盤1点、甕類28点）、土器器片235点（环・高台付环類55点、甕類180点）。覆土中から確認された遺物が大半を占め、また破片が多く、残存率50%を超える遺物は竪内から出土した143の土器器変片と144の石塊のみであった。135の土器器环の外側には墨書きの痕跡が見えた。また竪内床部から出土した144は被熱の痕跡があり、支脚として転用されていたと推測される。

所見：農作用トレンチャーより大半の遺物は粉碎され、残存率50%を超える遺物は1点のみである。そのため遺物の出土位置や形状等は不明な点が多いが、須恵器环の破片や常緑窓のJ縁部の形状などから、時期は8世紀後葉と推測される。



第41図 第18号住居跡



第42図 第18号住居跡出土遺物

第18号住居跡（表18）

番号	種別	器種	口径	縦高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
132	須恵器	环	(14.4)	4.8	(7.9)	黒色、白色、 長石、石英、 斜状鉱物	SBGS/1 青灰色	内外面ロクロナゲ/内面はていねいに粒 を消す/口脇部・底部下端削減	1区2号	20% PL49
133	須恵器	环		(2.5)	(7.6)	黒色、白色、 長石、石英	SGY7/1明才 リーブ灰色	内外面ロクロナゲ/内面はていねいに粒 を消す/底部斜削ヘラ切り	Na9	20% PL50
134	土器	环		(5.2)	6.8	青母、白色、 長石、石英、 小理	SYBa/1 青灰色	底部内面ヘラミガキ、黑色処理/外面ロ クロナゲ/底部/回転ヘラ切り	2区床面2	40%
135	土器	环		(2.3)		青母、白色、 長石、石英、 小理	SYB6/3 にぼい橙色	底部外面墨付	3区2号	PL50
136	須恵器	長漿瓶	11.8	(8.3)		長石、石英、 斜状鉱物	10G5/1 緑灰色	内外面ロクロ口が擴張(右回転)/口縁 部ゆがみ	2区床面1	15% PL50

番号	種別	沿神	日付	基準	床深	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	性名
137	上階部	東	(19.2)	(4.1)		算母、黒色、白色	SYHS/3 に赤い赤褐色	11鍵部・頭部内外面ヨコナナ/口唇部外 面・頭部外側下端にヘラ丸をむけヨコナ、3段1層 アーチ型内面ヨコナナ	SL18 5% PL50	
138	上階部	東	(24.8)	(5.7)		算母、白色、石英、石英	SYHS/3 に赤い赤褐色	口唇部・頭部内外面ヨコナナ/頭部内面 ヘラナナ/外面アーチ	2段 PL50	
139	上階部	東	(22.0)	(4.3)		黑色、白色、石英87/2 小窓	SYHS/4 に赤い赤褐色	11鍵部・頭部内外面ヨコナナ/頭部内面 ヘラナナ/外側内面に施ほどこ裏 面ナナ/衝撃的内面に施ほどこ裏	1段1層 PL50	
140	上階部	東	(11.0)	(4.0)		算母、白色、石英、石英	SYHS/4 に赤い赤褐色	11鍵部・頭部内外面ヨコナナ/頭部内面 ヘラナナ/衝撃的内面に施ほどこ裏 面ナナ/衝撃的内面に施ほどこ裏	浪上 5% PL50	
141	須恵器	東	(21.0)	(4.8)		算母、白色、口紅、竹松柄 物	SYHS/4 2SY3G/G褐色 ア	内外面ヨコナナ/口縁外面凹凸ヘラナ 内面ヨコナナ	1段2層 2% PL51	
142	土器部	東	(20.8)	(21.0)		算母、黄有、石英	SYHS/4 に赤い赤褐色	口鍵部・頭部外側内面ヨコナナ/頭部内面 ヘラナナ/外面上ナナ・底深くト下へ カケズリ	SL-18 SI-19 No.3 浪上	50% PL50
143	上階部	東	(20.2)	(26.9)		算母、長い石英	SYHS/3 に赤い赤褐色	口鍵部・頭部内外面ヨコナナ/外凹にヘ ナナあてて頭部ヨコナナを削断/頭部内 ヘラナナ/外側ナナ	SL-18 SI-19 カマド底上2 1段上	69% PL51

番号	器種	大きさ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	年	製	出土位置	性名
144	文拂	17.7	11.1	10.1	2800	花崗岩		自然石を先端として利用	カマドNo.1 61.83	PL51

### 第19号住居跡（第43・44図、第19表、PL15・51）

位置：D調査区C3グリッド、標高626m地点にある。

規模・平面形：長軸3.50m、短軸(3.44) mで方形もしくは長方形を呈するものと推測される。

主軸方向：N - 25° - W

残存壁高：確認面から最大高42cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：西半分のみ幅4 ~ 16cmで巡る。断面はJ字形である。

床：ほぼ平坦で、窓前面と住居中心部がよく硬化している。

ピット：1箇所確認され、出入口ピットと考えられる。P1：30×23cm、深さ16cmである。

#### P1土層解説

1. 算母色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、泥沼バミスブロック少部、やや繊維あり
2. 磨擦色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、繊維あり

竈：北壁中央部にあり、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは108cmであるが、耕作用トレーナーにより大半が壊され、火床部のみ残る。竈上層断面図中、砂質粘土ブロックを含む第2層が天井崩落上と考察される。神部は壊され明確ではないが、北壁に貼り付けられた砂質粘土の範囲から最大幅は約110cmと推測される。火床部は床面から6cmほど掘りくぼめて火床面としており、土製の支脚が正位で遺存している。煙道部は壁外へ60cmほど削り出して造られ、火床部から外傾して立ち上がる。

#### 土層解説

1. 算母色 ロームブロック微量、焼土粒子微量、炭化粒子微量、泥沼バミスブロック少部、繊維あり
2. 磨擦色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、焼土粒子微量、炭化粒子微量、繊維あり
3. 磨擦色 ローム粒子少量、灰化粒子微量
4. 磨擦色 焼土粒子中量、焼土ブロック少部、炭化物微量、炭化粒子少量、繊維あり

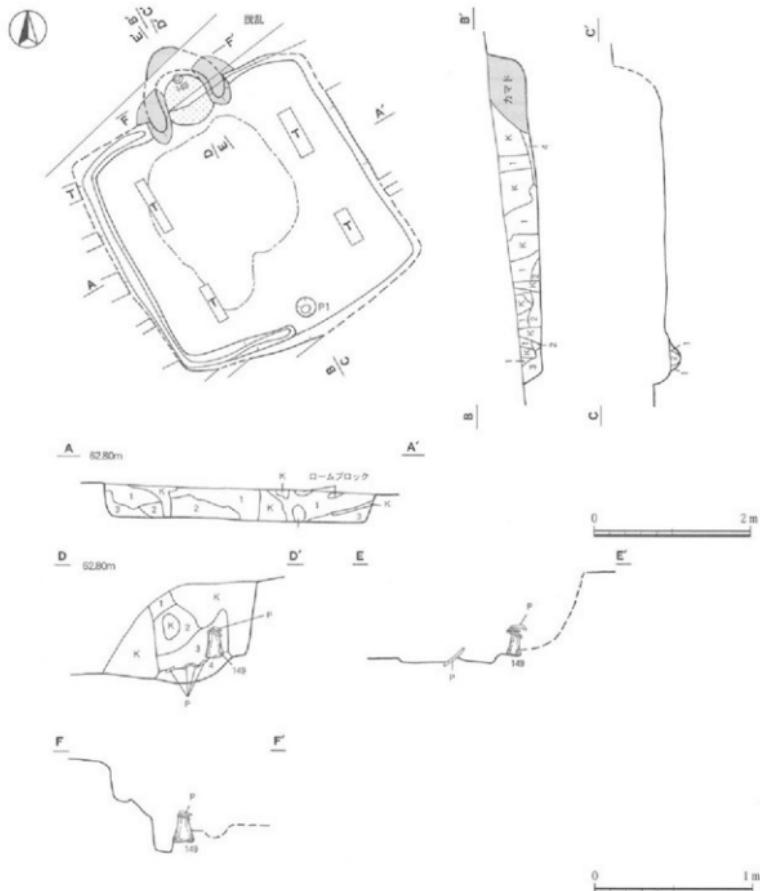
遺構埋没状態：ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。

#### 土層解説

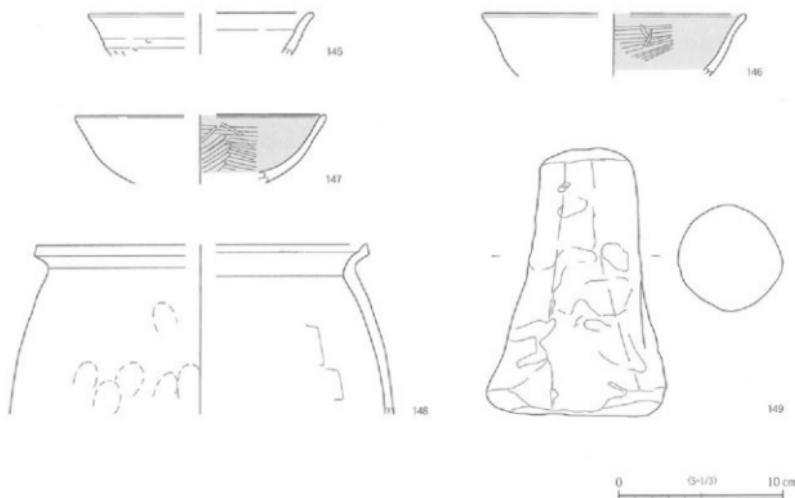
1. 算母色 ロームブロック微量、ローム粒子少量
2. 磨擦色 ロームブロック微量、炭化粒子微量
3. 磨擦色 ローム粒子少量、灰化粒子微量
4. 磨擦色 ローム粒子微量、砂質粘土ブロック少部、炭化物微量、炭化粒子少部、繊維あり

遺物：須恵器片81点（环・高台付环類56点、蓋4点、高盤1点、壺類20点）、土師器片231点（环・高台付环類5点、壺類225点）。共膳具は須恵器製品で占め、壺はいわゆる常総壺が主流を占める。大半の遺物は窓内と覆土中から出土したものである。窓内からは149の土製支脚が出土しているが、煮炊き具の熱効率の調整を図るために、支脚上に土師器壺5片が積み重ねられていた。なお、床面から確認された遺物はなかった。

所見：共膳具は須恵器製品が主体的で壺はいわゆる常総壺が主流を占める時期の住居である。時期は、住居内に主柱を持たないことや遺物の形状などから9世紀後葉と考えられる。



第43図 第19号住居跡



第44図 第19号住居跡出土遺物

第19号住居跡（表19）

番号	種別	器種	口径	高さ	底径	胎土	色調	手法の特徴	出土位置	備考
145	瓶	环	[13.6]	(25)		栗母、白色 赤褐色、射出 鉢形	3YR6/4 に赤い褐色	内外面口クロナデ	1区1層	5% PL51
146	土師器	环	[16.2]	(39)		栗母、白色 赤褐色	2.5YR6/6褐色 ナデ	内面ヘラミガキ。黒色処理/外面口クロ ナデ	1区1層	5% PL51
147	土師器	环	[15.4]	(42)		黒色、白色 小織	5YR6/3 に赤い褐色	内面ヘラミガキ。黒色処理/外面口クロ ナデ	3区1層	5% PL51
148	土師器	壺	[20.1]	(10.3)		栗母、白色 石英	5YR4/1 褐色	口縁部・腹部内外面クロナデ/腹部内面 ヘラナデ/外面ナデ・凹頭痕	覆土	10% PL51

番号	器種	最小径 (cm)	最大径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	胎土	特徴	出土位置	備考
149	支脚	5.4	10.8	16.3	10660	栗母、黑色粒 子、小織	5YR4/1褐色/外面に鉢底痕	No.11	PL51

第20号住居跡（第45・46図、第20表、PL16・52）

位置：D調査区B3グリッド、標高64.3m地点にある。

規模・平面形：長軸3.10m、短軸2.94mで方形を呈する。

主軸方向：N-21°-W

残存壁高：確認面から最大高26cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：検出されていない。

床：ほぼ平坦で、中央部がよく硬化している。

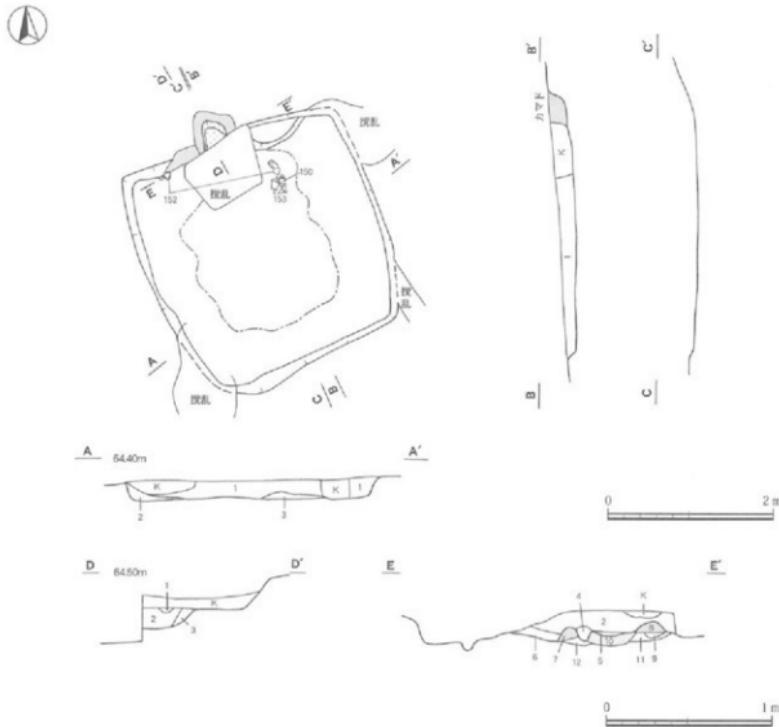
ピット：床面からは、主柱穴、出入口ピットとともに検出されていない。

竈：北壁中央部にあり、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは (45) cmである。後世の搅乱により袖部と火床部の南半分が壊されている。遺存している袖部の内壁と火床面は被熱により赤変している。

煙道部は壁外へ38cmほど削り出して造られている。

#### 土層解説

1. 断褐色 ロームブロック微量、焼土ブロック微量、炭化粒子微量
2. 赤褐色 ロームブロック微量、焼土粒子微量、炭化粒子微量、鹿沼バミスブロック少量、縛まりあり
3. 赤褐色 焼土ブロック微量、炭化粒子微量、鹿沼バミスブロック少量、縛まりあり
4. 赤褐色 焼土粒子中量、焼土ブロック微量、炭化粒子少量
5. 灰褐色 ロームブロック微量、ローム粒子中量、焼土ブロック微量、炭化粒子微量、縛まりあり
6. 灰褐色 ロームブロック多量、ローム粒子中量、焼土ブロック微量、縛まりあり
7. 灰褐色 ロームブロック微量、砂質粘土ブロック多量、縛まりあり
8. 灰褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック多量、縛まりあり
9. 黑褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、焼土粒子少量、炭化物微量



第45図 第20号住居跡

10. 灰黄褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック少量  
 11. 灰褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化物微量  
 12. 灰褐色 ロームブロック微量、燒土粒子微量、炭化物微量

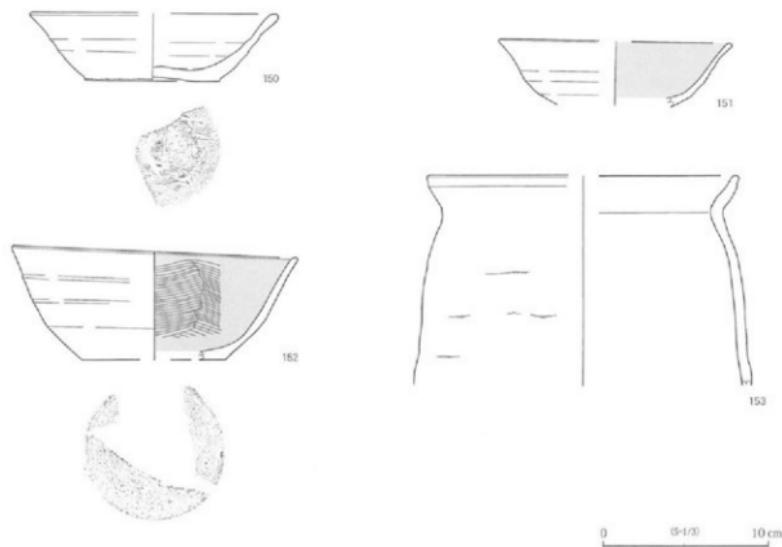
遺構埋没状態：ロームブロック主体の人为的な堆積状況を示している。

土層解説

1. 断開色 ローム粒子少量、炭化粒子微量  
 2. 黄褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化物微量  
 3. 灰褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量

遺物：須恵器片42点（坏・高台付坏類24点、蓋7点、盤2点、壺類9点）、土師器片161点（坏・高台付坏類20点、壺類141点）。壺前面とその西側を主体に散見されるが、大半は覆土中から確認されたものである。152の土師器坏は、壺の前側と北縁際から出土した破片が接合したものである。

所見：時期は床上に主柱を持たない建物構造であることや、住居廃絶時に遺棄あるいは投棄された遺物の時期から判断して、9世紀後葉と考えられる。



第46図 第20号住居跡出土遺物

第20号住居跡（表20）

番号	種別	各種	口径	咎高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
150	須恵器	坏	(15.2)	4.2	(8.1)	雲母、白色、針状鉢物	25YR6/6橙色	内面クロコナデ/底部回転ヘラ切り/底部へラ記号(+)	No.1 No.2	25% PL52
151	土師器	坏	(14.2)	(4.0)		雲母、白色、石英、小礫	25YR6/3 にぶい橙色	内面クロコナデ底ヘラミガキ・黒色処理	1区1層	15% PL52
152	土壙器	坏	19.6	7.2	7.7	雲母、白色、小礫、針状鉢物	5YR4/1 暗灰色	内面ヘラミガキ・黑色処理/外面クロコナデ/底部アッシュ斑ヘラケズリ(右)/底部回転ヘラカズリ(右)	No.3	90% PL52
153	土師器	蓋	(19.2)	(13.0)		白色、石英、小礫	25YR5/4 にぶい赤褐色	口縁部・頭部内外面ミコナデ/胴部内面ヘラナデ/外面ナデ・擦痕	No.1 1区1層	10% PL52

第21号住居跡（第47・48図、第21表、PL16・52）

位置：D調査区C 3 グリッド、標高61.1m地点にある。

重複関係：東部を第11号土坑に掘り込まれている。

規模・平面形：長軸 [5.80] m、短軸 [4.96] mである。住居跡覆土が削平され壁部が遺存していないため形状は不明であるが、床部の硬化面の範囲から方形または長方形と推定される。

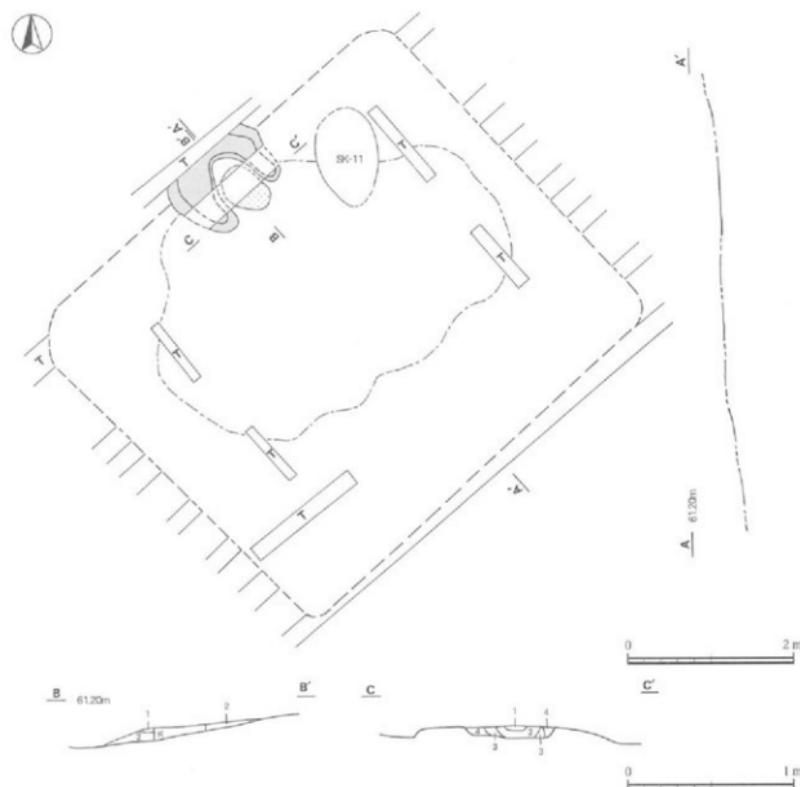
主軸方向：N -45° - W

残存壁高：遺存していない。

壁溝：検出されていない。

床：ほぼ平坦で、住居中央部に硬化している部分が認められる。

ピット：床面からは、主柱穴、出入口ピットとともに検出されていない。



第47図 第21号住居跡

竈：北壁部にあるが、耕作用トレントレーナーにより大半が壊されている。袖部は遺存部が少ないものの、竈構築材と考えられる砂質粘土が一部確認された。火床部と推測される部分には焼土粒子や焼土ブロックが散在している。なお、煙道部は搅乱が激しく、壁外への掘り込み等は不明である。

## 土層解説

1. 開 色 ロームブロック少量、ローム粒子少量
2. 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化物少量、炭化粒子少量
3. 赤褐色 焼土ブロック中量、焼土粒子中量、炭化物少量、炭化粒子微量
4. 暗赤褐色 ローム粒子微量、焼土ブロック中量

遺構埋没状態：大半は削平されており、埋没状況は不明である。

遺物：須恵器片18点（环・高台付杯類13点、甕類5点）、土師器片22点（环・高台付杯類9点、甕類13点）。遺物はすべて細片で、竈内とその西側を主体に散見される。

所見：出土遺物が少なく、また耕作用トレントレーナーによる混入もあり、遺物から時期を特定するには至らなかった。なお、当遺跡の住居跡の特徴として、山頂部に比較的近いA区北部やD区西部の住居跡は、主軸が山頂へ向いており、本跡もまた同様である。また、本跡のように床上に主柱を持たない住居は8世紀後葉から認められることから、本跡の時期もまた当該期以降である可能性が示唆される。



第48図 第21号住居跡出土遺物

第21号住居跡（表21）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
154	土師器	环	(8.6)	(2.6)		白色	2SYR6/4 にぶい赤褐色	口縁部内外面ヨコナデ/内面ヘラミガキ/ 外面ケズリ痕ナデ	2区1層	2% PL52
155	土師器	环		(2.0)		黒色、黒色	SYR7/3 にぶい褐色	内面ヘラミガキ/外面ケズリ痕ナデ	2区1層	2%

第22号住居跡（第49・50図、第22表、PL16・17・52）

位置：D調査区C3グリッド、標高63.5m地点にある。

規模・平面形：長軸3.78m、短軸3.72mで方形を呈する。

主軸方向：N-16°-W

残存壁高：確認面から最大高30cmを測り、外傾して立ち上がる。

盤溝：検出されていない。

床：ほぼ平坦で、竈前面から南壁部にかけてよく硬化している。

ピット：床面からは主柱穴、出入口ピットともに検出されていない。

竈：北壁中央部にあり、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは133cmである。天井部は崩落しており、竈土層断面図中、砂質粘土ブロックを多量に含む第5層が崩落土と考えられる。袖部は比較的良好に遺存しており、内壁から奥壁のかけて被熱により赤変硬化している。袖部の最大幅は約30cmである。また火床

面は床面とはほぼ同レベルとなっており、火熱を受けて赤変していたが、はっきりとした硬化は認められなかつた。煙道部は壁外へ60cmほど削り出して造られ、火床部から外傾して立ち上がる。

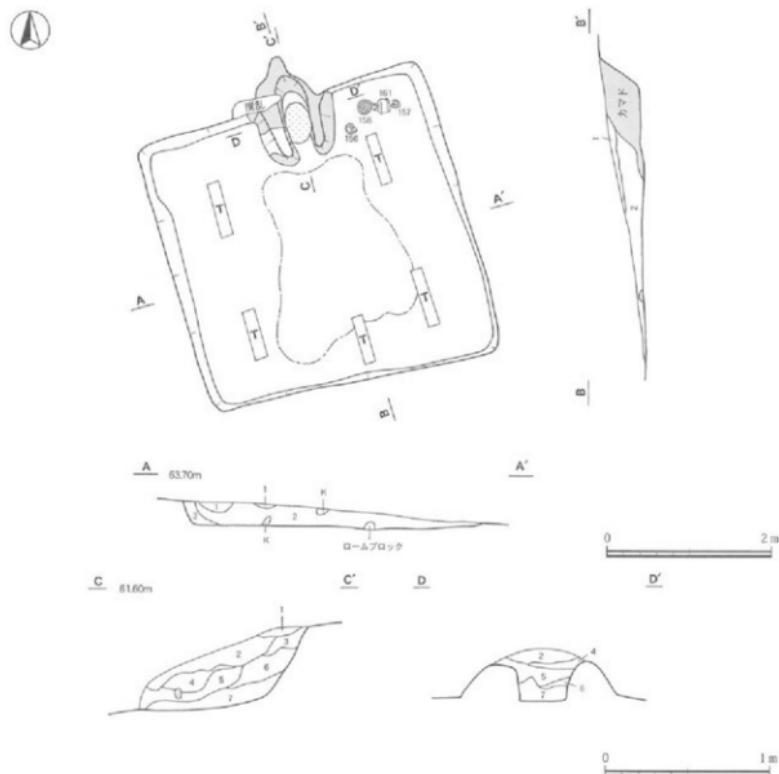
#### 土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量、鹿沼バミスブロック少量
2. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、鹿沼バミスブロック少量
3. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化物微量、鹿沼バミスブロック微量
4. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化物微量
5. 灰褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック多量、締まりあり
6. 暗褐色 焼土ブロック微量、炭化粒子微量、締まりあり
7. 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土ブロック微量、炭化物微量、炭化粒子微量

遺構埋没状態：ロームブロック主体の人为的な堆積状況を示している。第3層のロームブロックは壁部崩落土と推測される。

#### 土層解説

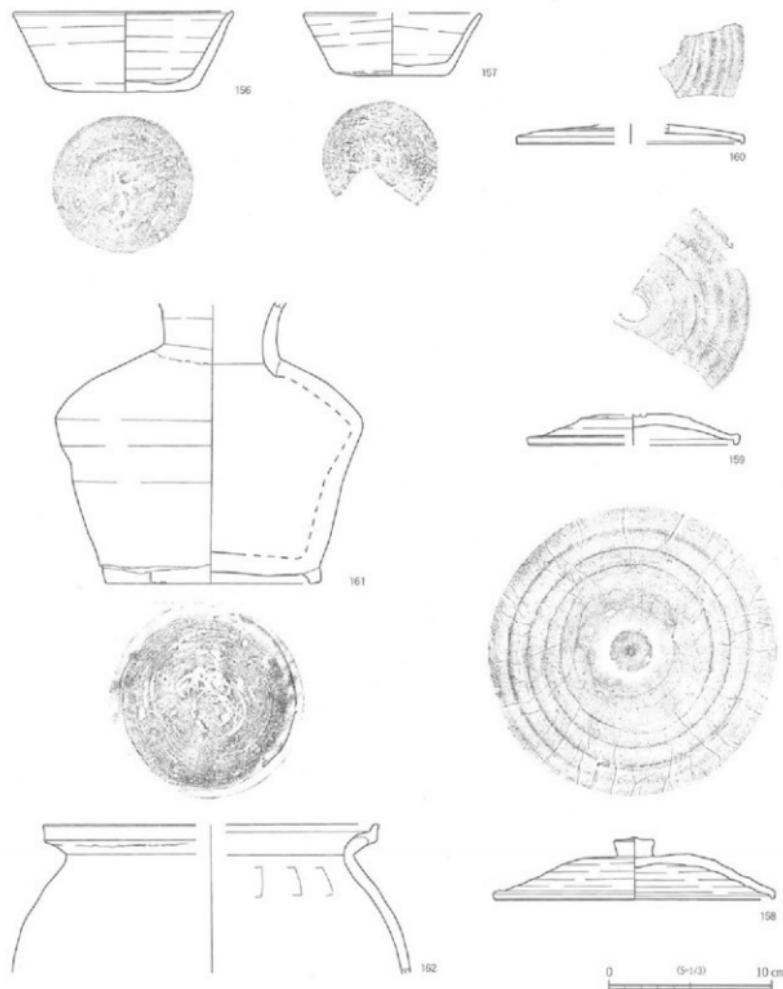
1. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
2. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量
3. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化物微量



第49図 第22号住居跡

遺物：須恵器片27点（坏・高台付坏類14点、蓋8点、甕類5点）、土師器片47点（坏・高台付坏類2点、甕類45点）。本跡に伴う遺物は少いものの、甕東側から集中して確認されており、156・158須恵器蓋、161須恵器長颈瓶が相当する。特に156と158はほぼ完形で出土している。その他の遺物は覆土中から確認された遺物が大半である。

所見：床上に主柱を持たない住居である。時期は住居跡に遭棄された遺物から8世紀後葉と考えられる。



第50図 第22号住居跡出土遺物

第22号住居跡（表22）

番号	種別	面積	口径	高さ	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	場所位置	編号
156	灰窓器	坪	137	50	85	灰白、灰黄	SGY6/1 オリーブ灰色	内外面クロコナジ/底部凹凸ハラ切り 「石」へア型号（-）/ルビ横・内面・半・No4	PL55 PL52	
157	灰窓器	坪	(114)	39	71	灰石、石英、小石	10GY4/1 暗緑灰色	内部クロコナジ/底部凹凸ハラ切り 「石」・台面・横・内面・全・No1	PL56 PL52	
158	灰窓器	坪	175	39		長石、石英、白色 セメント 赤みの入込し	GBG6/1 白色セリュード・青灰色	体内外面クロコナジ/底部凹凸ハラ切り 「石」/つまみ器添付後コトコナ No3 ア・内面焼成時の特徴・び炎色	100% PL52	
159	灰窓器	坪	(132)	19		黒色、白色、小 塊、粒状物	76GY5/1 黒色	体内外面クロコナジ/天井堅固網ハラ クズリ（石）/つまみ器添付後クロナガ・2X1型 ア・内面ハラ型号（+）	26% PL52	
160	灰窓器	坪	(140)	11		白色、粗状物	10YS5/1 オリーブ灰色	体内外面クロコナジ/天井堅固網ハラ クズリ	5% PL52	
161	灰窓器	坪		(17.8)	13.2	長石、石英、黑色 セメント 赤みの入込し	7.5GY8/1 暗灰色	外底ロコナジ/鍋底合併・底部凹凸ハ ラクリ（石）/底台結合部の豊形（重 量加減法、底盤削円内凹）	80% PL53	
162	土陣器	坪	(21.7)	9.7		砂、灰、石英	5V15/4 青石、灰石 にびい赤褐色	口部端・瓶筋内側ヨコナジ・瓶筋内面 ハラナゲ・外底トア・瓶筋に縦構み丸 No16	10% PL53	

第23号住居跡（第51・52図、第23表、PL17・53・54）

位置：D調査区C3グリッド、標高616.6m地点にある。

重複関係：本跡発掘後、第24号住居跡へ造り替えが行われたと推測される。また南部を第22～24号土坑に埋り込まれている。

規模・平面形：長軸5.60m、短軸5.24mで方形を呈する。

主軸方向：N-28°-W

残存壁高：確認面から最大高53cmを有り、外傾して立ち上がる。

壁溝：北壁際から西半際にかけて、幅16～36cmで巡っている。断面はU字形である。

床：ほぼ平坦地、貼り床を施している。この貼り床は造り替えられた第24号住居跡住居においても使用されていたと推測される。

ピット：5箇所確認され、P1～P4は主柱穴でP5は出入口ピットと考えられる。P1：38×30cm、深さ50cm、  
P2：48×35cm、深さ52cm、P3：25×21cm、深さ64cm、P4：31×29cm、深さ50cm、P5：64×43cm、深さ30cmで、  
P5は出入口ピットである。なお、P1・P4には柱抜き取りの痕跡が、P1～P4には柱の当たりと推測される痕跡が認められている。

#### P1土層解説

1. 灰褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、浅沼バミスブロック微量、縮まり弱い
2. 灰褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量
3. 黑褐色 炭化物少量、炭化粒子微量（柱抜き取り痕）

#### P3土層解説

1. 灰褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量、縮まり弱い
2. 灰褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量

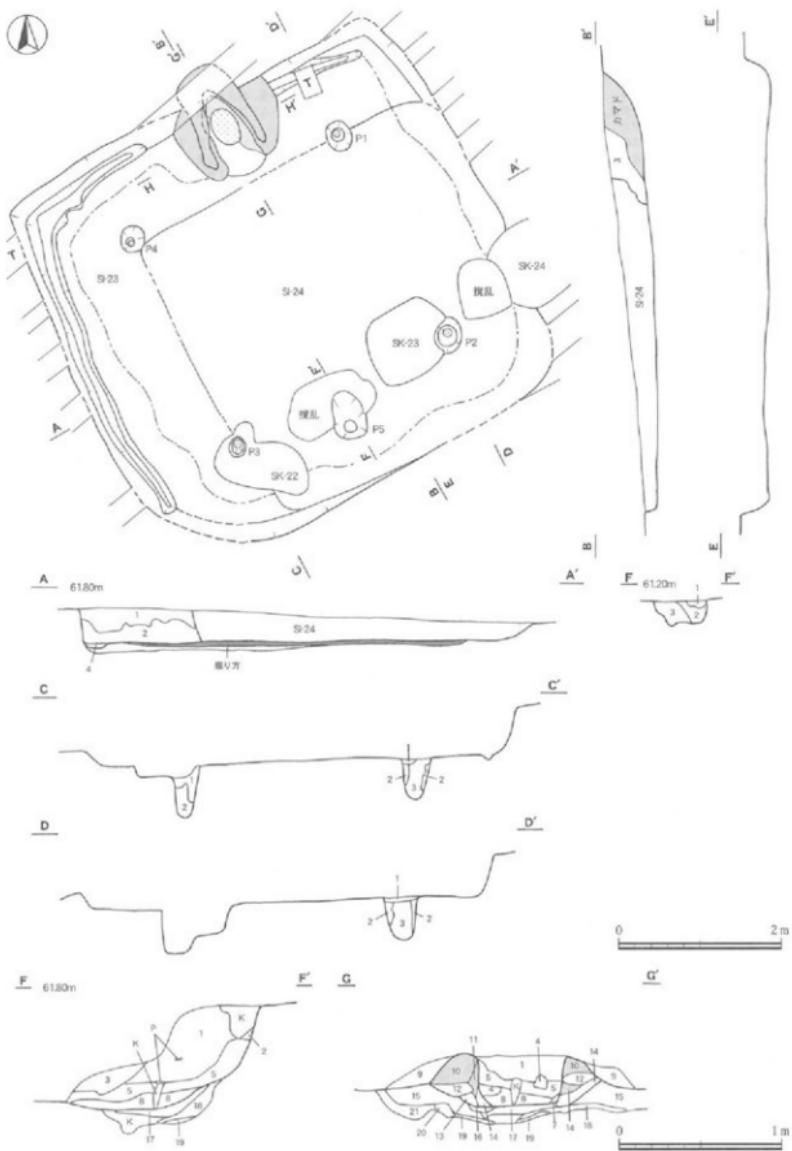
#### P4土層解説

1. 黑褐色 炭化物少量、炭化粒子微量
2. 灰褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
3. 灰褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、縮まり弱い（柱抜き取り痕）

#### P5土層解説

1. 灰褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、縮まりあり
2. 灰褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量
3. 灰褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量

竈：北壁中央部からやや東寄りにあり、砂質粘土上で構築されている。耕作用トレレンチャーにより一部破されていて、火口部から煙道部までは140cmである。天井部は崩落しており、竈土層断面因中、砂質粘土ブロックを多量に含む第8層が崩落上で、焼土ブロックは天井部の内壁と推測される。また袖部の最大幅は約52cmで、袖部の基礎は白色粘土ブロック（第12層）を芯材にし周囲を砂質粘土（第10～14層）で構築している。火床部は床面から10cmほど掘りくぼめて火床面としており、ゴツゴツと赤く硬化している。なお、煙道部は壁外へ34cmほど削り山して造られ、火床部から煙道部へは一旦段をなして緩やかに立ち上がる。



第51図 第23号住居跡

### 土層解説

1. 黄 色	ロームブロック少量、ローム粒子少量、鐵鉻バミス微量	12. 白 色	白色粘土ブロック中量、燒土ブロック少量（燒結芯材）
2. 棕 色	ロームブロック少量、褐色あり	13. 灰 色	ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック多量
3. 暗 色	ロームブロック少量、ローム粒子微量、燒土ブロック微量、焼了粘土微量、灰化物微量	14. 灰 黑色	ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック少量
4. 灰 色	ロームブロック少量、赤土ブロック微量、灰化物微量	15. 灰 色	ロームブロック少量、ローム粒子微量、燒土ブロック少量
5. 第 4 層	灰色化物微量、燒土粒子微量、しまら青い	16. 灰 黑色	ロームブロック少量、ローム粒子中量、燒土ブロック微量
6. 灰 黑色	ロームブロック中量、燒土粒子微量	17. 灰 色	ロームブロック微量、ローム粒子中量、燒土ブロック微量
7. 灰 黑色	ロームブロック微量、ローム粒子微量、灰化物微量	18. 灰 色	ロームブロック微量、ローム粒子中量、燒土ブロック微量、褐色あり
8. 灰 黑色	砂質粘土ブロック微量、燒土ブロック微量	19. 灰 色	ロームブロック中量、ローム粒子中量、燒土ブロック微量
9. 灰 黑色	ロームブロック微量、灰化物微量、鐵鉻バミスブロック少量	20. 灰 色	ロームブロック少量、ローム粒子少々、燒土ブロック微量
10. 灰 黑色	ローム粒子微量、砂質粘土ブロック中量、燒土ブロック少量		
11. 灰 黑色	ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック微量		

遺構埋没状態：大半が第24号住居跡に埋されているが、遺存部からはロームブロック主体の人为的な堆積状況が看取される。また第3層には廃構築材と考えられる砂質粘土ブロックが確認されている。なお、第5層は住居掘り方の堆積層で、ロームブロックを主体としている。

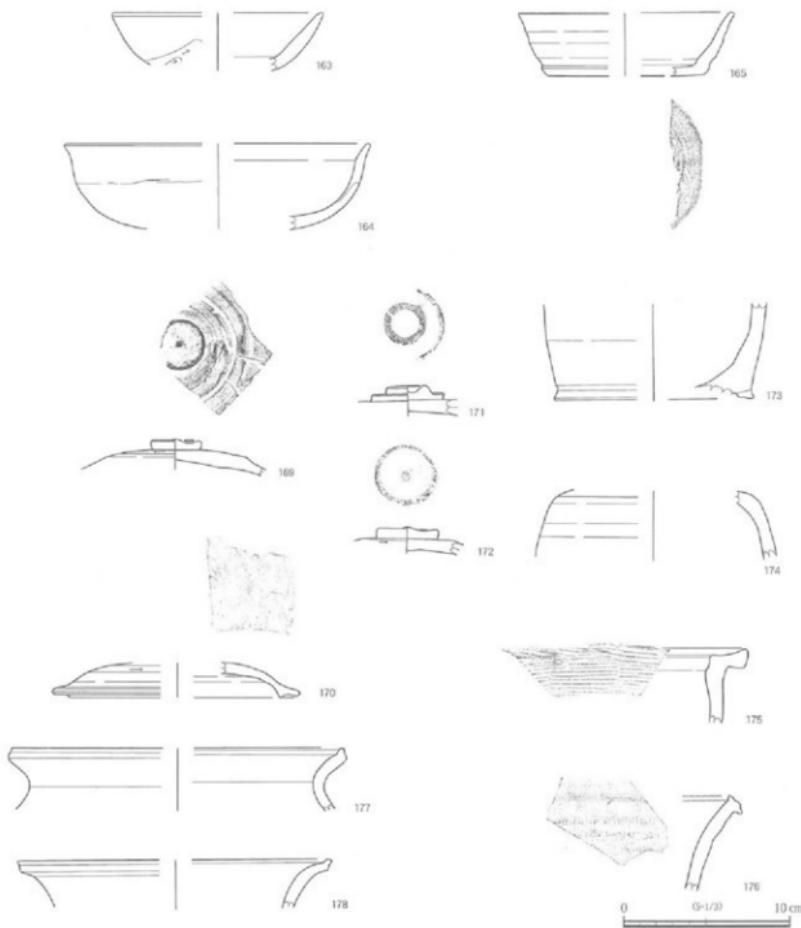
### 土層解説

1. 棕 色	ロームブロック少量、ローム粒子微量、灰化物微量
2. 棕 色	ロームブロック少量、灰化物少少、褐色より多い
3. 墓 機器	ロームブロック放置、鐵鉻バミスブロック少量、灰化物少少
4. 棕 色	ロームブロック微量、ローム粒子微量
5. 灰 色	ロームブロック少量、灰化物微量

遺物：須恵器片20点（壺・高台付壺類8点、蓋2点、壺類10点）、土師器片60点（壺・高台付壺類2点、壺類58点）。大半が第24号住居跡に波されており、遺物の多くは窓から出土しているが、すべて細片である。また、図下した遺物の中には後世の擾乱により入り込んだ遺物もあり、165の須恵器壺や175の須恵器壺などが相当する。なお、窓から出土した163の須恵器壺や、窓土から出土した164の須恵器壺は、古い様相を示している。所見：本跡は第24号住居跡と重複しているが、本跡床部はそのまま第24号住居跡でも使用されていることから、造り替えが行われたと判断した。なお第23・24号土坑は、調査当初、主柱穴の補助柱穴の可能性があると考査を行っていたが、本跡より新しい遺構であることが判明し、土坑番号を付けて処理した。また本跡の廃絶時期は遺存部が少なく判然としないが、造り替えられた第24号住居跡の時期が8世紀後葉と考えられることや窓内から確認された須恵器壺から、7世紀後葉から8世紀前葉と推測される。

### 第23号住居跡（表23）

号	種 别	容積	口径	高さ	底径	施 土	色 調	手 法 の 特 徴 は か	出土位置	棟 零
165	須恵器	不 〔130〕	(3.6)	白色	SPGR/1 黄褐色	内面墨クロナガ、脚部下手持ちヘラ ケズリ	ガマド	15% PL53		
165	須恵器	不 〔132〕	4.0 〔96〕	白色、赤褐色、 灰褐色	10GV/1 深灰色	内面ヨコナガ/側面凹面は縁を削り、外縁下端 唇部の削れ部ハサナギ/底面内面ハサナギ/外 縁ケズリ後ナガ	2E PL53	30%		
164	壺類	不 〔186〕	(5.3)	青白、白色 石灰	25TR/6褐色 石灰	口部墨クロロナガ/底面内面ハサナギ/底面内面 ケズリ後ナガ	ガマド ガマド腹口1E PL53	15% 20%		
169	須恵器	壺 〔18〕		白色、小罐	SGY/1 オリーブ灰褐色	ロクロナガ/天井部凹面削除ハサナギ(左) 内面墨クロロナガ/つまみ添付後底面にハ ケズリ	1E1M PL54	20% 20%		
170	須恵器	壺 〔15.1〕	(2.2)	青白、黑色、 白色	10Y7/2 灰白色	内外面墨ロロナガ/天井部正筋ハサケズ リ/底面墨ロロナガ/退化したかえり	灰土	10%		
171	須恵器	壺 〔2.0〕		黑色、白色、 小罐	SGY/7/3 リーフ灰褐色	内面墨クロナガ/つまみ添付後底面にハ ケズリ	1E1M PL54	2%		
172	須恵器	壺 〔1.8〕		白色、黑色、 白色	GGY/1 オリーブ灰褐色	内面墨クロナガ/天井部凹面削除ハサナギ (左)/つまみ添付後底面にロロナガ ケズリ(右)/高台会合部削除ハサナギ/西面	3E PL54	2%		
173	須恵器	壺 〔6.0〕	(12.2)	白色、小罐、 针状装饰物	1CY/1/灰褐色	側面墨墨クロナガ/外側削除部底面ハサ ナギ(左)/高台会合部削除ハサナギ/西面	2E1M PL54	2%		
174	須恵器	壺 〔4.3〕		黑色、白色	TSV7/2 灰白色	内面墨クロナガ/底に1条の崩	2E PL54	2%		
175	須恵器	壺 〔2.7〕		白色、小罐、 针状装饰物	10Y5/1 鐵錆灰褐色	側面ヨコナガ/側面叩印津め	1E1M PL54	2%		
176	須恵器	壺 〔5.9〕		白色、針状装 饰物	10S/1/緑灰褐色	内面墨クロナガ/外側削除部底面ハサ ナギ(右)/高台会合部削除ハサナギ/西面	2E PL54	2%		
177	土師器	壺 〔20.6〕	(3.8)	青白、白色、 小罐	SYR6-6褐色 石灰	口部墨/脚部内外墨ヨコナガ/口縁下位 に加筋ハサナギ	灰土 PL54	2%		
178	土師器	壺 〔19.4〕	(2.3)	青白、白色、 小罐、针状装 饰物	SYR6-4 石灰	口部墨/脚部内外墨ヨコナガ/口縁下位 に加筋ハサナギ	1E1M PL54	2%		



第 52 図 第 23 号住居跡出土遺物

第24号住居跡（第53・54図、第24表、PL17・54）

位置：D調査区C 3 グリッド、標高61.6m地点にある。

重複関係：第23号住居跡廃絶後に造り替えが行われ、後世に、南部を第22～24号土坑に掘り込まれている。

規模・平面形：長軸4.14m、短軸3.88mで方形を呈する。

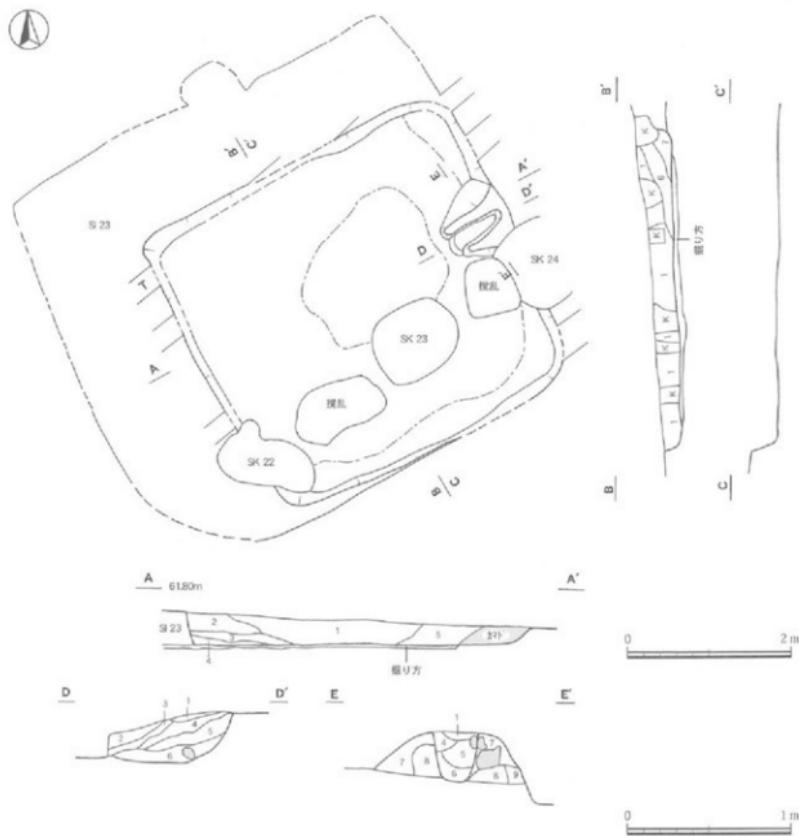
主軸方向：N-62°-E

残存壁高：確認面から最大高40cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：検出されていない。

床：ほぼ平坦で、第23号住居跡の貼り床を本跡でも使用している。

ピット：床面からは主柱穴、出入口ピットともに検出されていない。



第53図 第24号住居跡

竈：東壁中央部やや北寄りにあり砂質粘土で構築されているが、竈南東部が第24号土坑に壊されている。焚口部から煙道部までは80cmである。天井部は崩落しており、竈土層断面図中、砂質粘土ブロックを含む第5層が崩落土と考えられる。また袖部はロームブロックを芯材（第8層）にし、砂質粘土で構築され最大幅は約20cmである。火床部は床面から6cmほど掘りくぼめて火床面としており、わずかに赤く硬化している。煙道部は様外へわずかに8cmほど削り出して造られ、火床部から外傾して立ち上がる。

## 土層解説

1. 黒 色 廃物中量、炭化粒子中量、焼土粒子微量
2. 黒 褐 色 廃物中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
3. 黑 褐 色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
4. 黑 褐 色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
5. 黑 褐 色 炭化物微量、炭化粒子少量、焼土ブロック少量
6. 黑 褐 色 炭化物微量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
7. 灰 黄褐色 ローム粒子微量、砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック少量
8. 黑 色 ロームブロック多量、練まりあり（抽芯材）
9. 灰 黄褐色 ローム粒子微量、砂質粘土ブロック中量

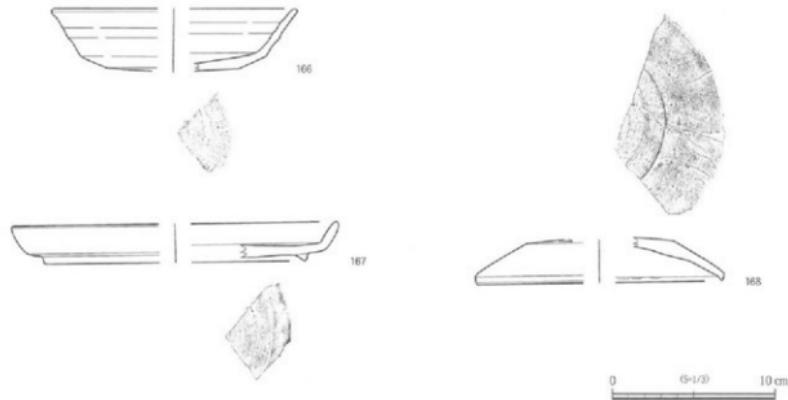
遺構埋没状態：ロームブロック主体の人の為的な堆積状況を示している。第5層には竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックが確認されている。なお、覆土上層（第1層）は粒子が細かく均一な堆積状況を示しており、自然堆積である。

## 土層解説

1. 黑 褐 色 ローム粒子少量、炭化物微量、炭化粒子微量、練まり弱い
2. 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
3. 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
4. 褐 色 ロームブロック少量、炭化物微量、炭化粒子少量、練まり弱い
5. 灰 黄褐色 砂質粘土ブロック中量、ローム粒子少量
6. 褐 色 ロームブロック中量、ローム粒子微量、焼土ブロック微量
7. 褐 色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量

遺物：須恵器片16点（壺・高台付壺類7点、蓋2点、壺類7点）、土師器片67点（壺・高台付壺類2点、壺類65点）。竈内とその東側を主体に散見されるが、後世の搅乱と農作用トレンチャーによって壊されており、大半の遺物は細片で占められている。また本跡に混入したものも多いとみられる。

所見：本跡は第23号住居跡の床部をそのまま使用していることから造り替えと推測される。また土層観察の結果、本跡廃絶後すぐに一部埋め戻しが行われているが、その後しばらくは放置されていたものと考えられる。時期は遺物が細片で特定できないが、8世紀後葉と推測される。



第54図 第24号住居跡

第24号住居跡（表24）

番号	種別	基盤	口径	標高	底径	地 質	色 調	手 法の特 徴ほか	出土量	備考
165	調査窓	环	(15.2)	39	(8.1)	白糸、石英、 小砾	10Y3/1 4リーフ銀色	内外面クロナデ/体部下端及び底部 面・ラケツリ(右)	壁上	20% PL53
167	積石室	高窓	(20.4)	24	(16.2)	白色、赤褐色、 針状鉄物	10GG/1銀灰色	内外面いわいなロクロナデ/窓古接合	3区	5% H153
168	調査窓	盒	(15.4)	(27)	-	白色、小砾、 針状鉄物	5BG5/1 銀灰色	内外面クロナデ/窓井部面輪ハラケツ リ(右)	3区	20% PL53

第25号住居跡（第55・56図、第25表、PL18・19・54）

位置：D調査区B3グリッド、標高63.4m地点にある。

重複関係：北西部を第63～65号土坑に、竪を62号土坑に掘り込まれている。

規模・平面形：本跡の南部は削平されており、明確にその規模を断定するに至らなかつたが、遺存している主柱穴や出入口ピットから、長軸6.30m、短軸(5.42)mで北壁に竪が付設された方形または長方形を基調としたプランが想定される。

主軸方向：N-30°-W

残存壁高：確認面から最大高20cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：検出されていない。

床：ほぼ平坦で、窓の前面部が硬化している。

ピット：5箇所確認され、P1～P4は主柱穴でP5は出入口ピットと考えられる。P1：34×32cm、深さ64cm、P2：16×[12]cm、深さ20cm、P3：55×45cm、深さ40cm、P4：22×20cm、深さ20cm、P5：80×60cm、深さ30cmである。なお、P1とP4で柱抜き取りの痕跡が確認された。

#### P1土層解説

1. 時 稲 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
2. 時 稲 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量、締まり弱い（柱抜き取り底）
3. 稲 色 ローム粒子微量、炭化粒子微量
4. 稲 色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、炭化粒子微量

#### P3土層解説

1. 時 稲 色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化粒子少量、締まり弱い
2. 時 稲 色 ロームブロック微量、焼泥バシス微量

#### P4土層解説

1. 時 稲 色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、焼泥バシス微量、締まり弱い
2. 時 稲 色 ローム粒子微量、炭化粒子微量、締まり弱い（柱抜き取り底）
3. 黒 稲 色 炭化粒子少量、炭化粒子微量
4. 稲 色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、焼泥バシスブロック少量

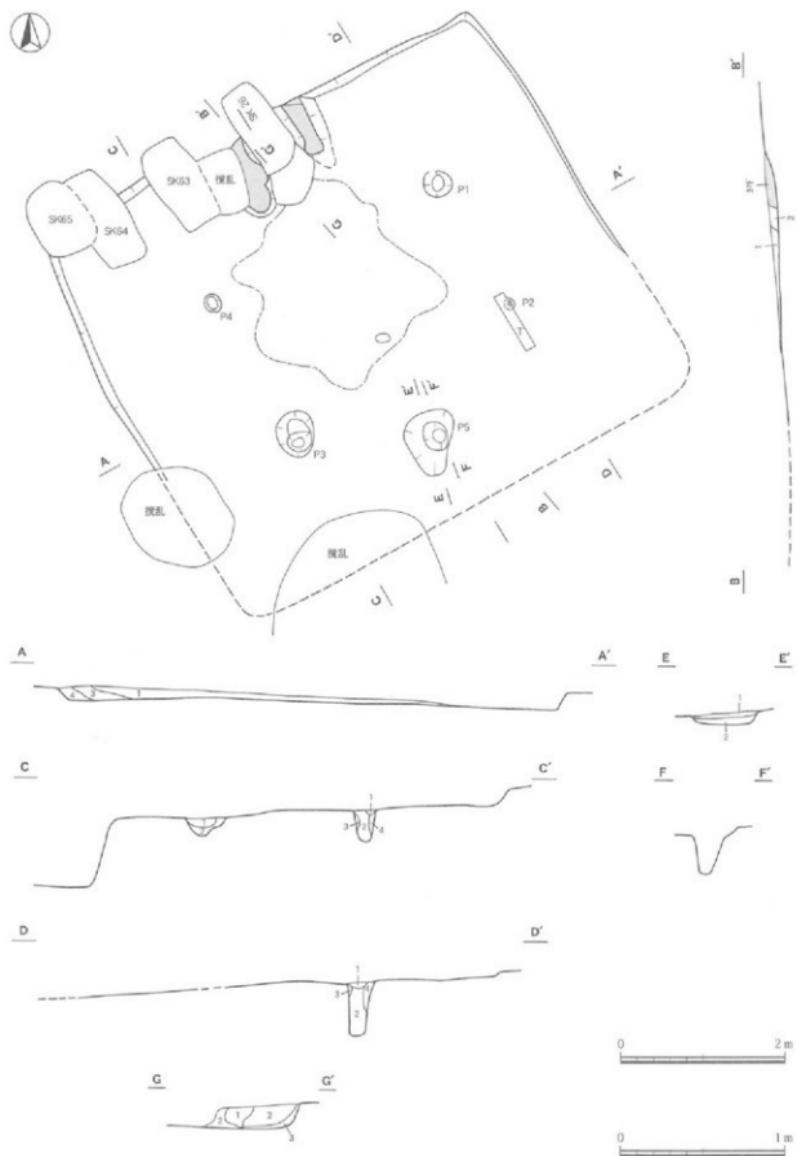
#### P5土層解説

1. 黑 稲 色 ローム粒子微量、炭化粒子少量、締まり弱い
2. 稲 色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、やや締まりあり

竪：北壁中央部からやや京寄りにあり砂質粘土で構築されているが、第62号土坑に壊され、確認できたのは袖

部のみ解説ある。しかしその袖部も一部被熱により赤変している部分が確認されただけであった。

1. 稲 稲 色 ロームブロック微量、焼泥バシス微量、炭化粒子微量、焼泥バシスブロック微量（複数）
2. 稲 稲 色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、焼泥バシスブロック微量
3. 稲 稲 色 烧土粒子少量、枕ナックル少量、炭化粒子微量



第 55 図 第 25 号住居跡

遺構埋没状態：各層にロームブロックを含み人為的な堆積状況を示しているものの、堆積層厚が薄く判然としなかった。また第2層には窓構築材と考えられる砂質粘土ブロックが、第4層には壁部の崩落と推測されるロームブロックが認められた。

土層解説

1. 鳥 色 ロームブロック少量、ローム粒子微量
2. 鳥 灰 色 砂質粘土ブロック少量、ロームブロック微量
3. 鶴 色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、鹿沼バミスブロック少量
4. 鶴 色 ロームブロック少量、ローム粒子少量

遺物：須恵器片5点（坏・高台付坏類2点、壺類3点）、土師器片50点（坏・高台付坏類13点、壺類37点）。本跡南部は削平されており、遺物は窓内と北壁周辺でわずかに確認された程度で、床上から確認された遺物はなかった。

所見：堆積層厚が薄く、後世の擾乱も受けしており、十分な情報を得ることはできなかった。また時期は、遺物が少なく細片であるため特定できなかったが、埋土中から確認された数点の土師器坏は7世紀後葉段階のものである。



第 56 図 第 25 号住居跡出土遺物

第25号住居跡（表25）

番号	種別	面積	口径	高さ	直径	船上	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
179	土器器	坪	(11.5)	(2.8)		素面、赤褐色	SY85/3 に赤い赤褐色	口縁部外側ヨコナゲ/底部内面ヘラツグ ノ外手持ちヘケゼリ	4区	10% PL54
180	土器器	壁	(23.8)	(25.3)		素面、良石、 石英、小礫	2.5YR5/4 に赤い赤褐色	口縁部・頭部内外面ヨコナゲ/脚部内面 ヘラナゲ/外面上半ナゲ/丁半ヘラミガモ	複数 (P)	10%
181	土器器	壁	(25.2)	(4.8)		がゆ、白、 石英、針状物	5YR6/3 に赤い赤褐色	口縁部・頭部内外面ヨコナゲ/口縁外面 に直筋ヘラナゲ	4R	2% PL54
182	土庫器	壁	(16.8)	(1.8)		白色	SYR5/4 に赤い赤褐色	内外面ヨコナゲ	3R	2% PL54
183	土加器	穴		(5.3)	(7.0)	土母、白色、 石英、小礫	SYR5/4 に赤い赤褐色	頭部内面ヘラナゲ/脚部外側及び底部分	西北	5% PL54

第26号住居跡（第57・58図、第26表、PL19・55・56）

位置：D調査区B3グリッド、標高63.7m地点にある。

規模・平面形：長軸3.66m、短軸3.12mで方形を呈する。

主軸方向：N-21°-W

残存壁高：確認面から最大高40cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：検出されていない。

床：ほぼ平床で、中央部がよく硬化している。

ピット：1箇所確認され、出入口ピットと考えられる。P1：50×45cm、深さ26cmである。

#### P1土壤解説

1. 砂褐色　コーム粒子微量、ローム粒子少量
2. 砂褐色　ローム粒子微量、炭化粒子微量、縮まり弱い
3. 黄褐色　ロームブロック少量、ローム粒子少量

竈：北壁中央部にあり、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは86cmで、兼部幅は約30cmである。竈北東部は擾乱によって壊され残存状態は悪く、内壁に一部板熱による赤変部分が認められただけである。火床部には厚い焼土層が認められ、火床面はゴツゴツと赤く硬化している。煙道部は窓外へ52cmほど削り出して造られ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。なお、第2層の焼土ブロックは天井部内塗材が被熱したもので、第3層の焼土ブロックは火床部の燃焼土と推測される。

#### 土層解説

1. 砂褐色　ロームブロック少量、ローム粒子少量
2. 暗赤褐色　焼土ブロック少量、炭化粒子微量、砂質粘土ブロック少量
3. 黄褐色　焼土ブロック中量、焼土粒子少量、粘性弱い

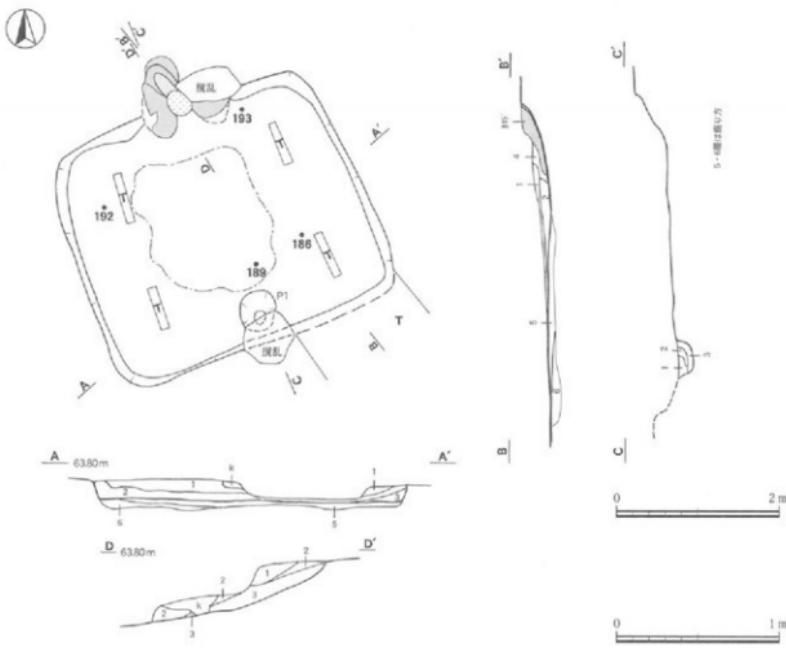
遺構埋没状態：ロームブロック主体の人为的な堆積状況を示している。第4層には竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックが確認されている。第5・6層はロームブロックを主体とした住居床下の堆積層と考えられる。

#### 土層解説

1. 海褐色　ロームブロック少量、炭化粒子微量
2. 暗褐色　ロームブロック微量、ローム粒子少量
3. 海褐色　ロームブロック中量、ローム粒子微量、炭化粒子微量
4. 鳥灰色　ロームブロック中量、炭化粒子微量、砂質粘土ブロック少量、粘性弱い
5. 海褐色　ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化物微量、泥沼バミスブロック少量（掘り方層）
6. 海褐色　ローム粒子少量、泥沼バミスブロック少量（掘り方層）

遺物：須恵器片78点（環・高台付環類57点、蓋9点、盤6点、甕類6点）、土師器片279点（環・高台付環類22点、甕類257点）、土製品1点（紡錘車）。すべて覆土中から確認されたもので、床面から出土した遺物はなく、床面に近い最下層から出土した遺物は186土師器片、192土師器だけである。

所見：時期は遺物からみて9世紀前葉と考えられる。なお、9世紀代に比定される住居跡の主軸方向は、大型住居がほぼ真北を示すのに対し、本跡のような小型の住居は北西方向を示している。この傾向は、当集落の特徴のひとつとして挙げられる。



第57図 第26号住居跡



第 58 圖 第 26 号住居跡出土遺物

第26号住居跡（表26）

番号	種別	深さ	口径	高さ	底径	地	色	判別	手法の特徴	ほか	出土位置	備考
184	須恵器	环	134	37	75	黄土、黒色、白灰、石英	SGS/1緑灰色	内外面でいねいなロクロナデで底を削す /底部細部ヘラカズリ(右)	内面ロクロナデ(底が直面) /底部削 新ヘラ切り	カマド一筋 48.1m	90%	
185	須恵器	环	[141]	45	70	黄土、黒色、白灰、赤褐色、 灰白色、小塵	7SGV6/1 绿灰色	内外面ロクロナデ(底が直面) /底部削 新ヘラカズリ(右)	内外面ロクロナデ(底が直面) /底部削 新ヘラカズリ(右)	1区1層	20%	
186	土師器	环	[141]	42	68	黄土、黑色、白灰、石英、 小塵	SYRK6/0轉角	内面ヘラミガキ/外面ロクロナデ/底部削 新ヘラカズリ(右)	内面ヘラミガキ/外面ロクロナデ/底部削 新ヘラカズリ(右)	No.2	30%	PL55
187	土師器	环	[136]	38		黄土、黑色、白灰、石英、 小塵	GVRN/4	内面ヘラミガキ/外面ロクロナデ	内面ヘラミガキ/外面ロクロナデ	1区1層	10%	PL55
188	須恵器	壺		33		白色	10G/1縦縫灰 色	内面ロクロナデ/マツキは消す後にロク ナデで清拭	内面ロクロナデ/マツキは消す後にロク ナデで清拭	4区1層-1	3%	PL55
189	須恵器	壺		62	[121]	白色、石英、 小塵	SGVS/1 オリーブ灰色	内外面ロクロナデ/内面ロクロナデ 内面ヘラミガキ	内外面ロクロナデ/内面ロクロナデ 内面ヘラミガキ	No.3	5%	PL55
190	須恵器	壺		179	[116]	黄土、石英、 小塵を含む 小塵	SGS/1緑灰色	内外面ロクロナデ	内外面ロクロナデ	1区1層-1 2区1層	10%	
191	土師器	壺	[225]	[105]		黄土、黑色、 白色、石英、 小塵	7SVR6-6緑色	口縁部・瓶頸内外面ロクロナデ/瓶底内外 面ロクロナデ	口縁部・瓶頸内外面ロクロナデ/瓶底内外 面ロクロナデ	3区1層-2	9%	PL55
192	土師器	壺	[225]	[128]		黄土、 小塵	7SVR5/4 にぶい褐色	口縁部・瓶頸内外面ロクロナデ/瓶底内外 面ロクロナデ	口縁部・瓶頸内外面ロクロナデ/瓶底内外 面ロクロナデ	No.5 4区1層-1	10%	PL55
193	土師器	壺	[194]	[117]		本白、白色、 小塵	SYRK/4 にぶい褐色	口縁部内外面ロクロナデ/瓶底内外面 ロクロナデ/瓶底内外面ロクロナデ/外面 ロクロナデ	口縁部内外面ロクロナデ/瓶底内外面 ロクロナデ/瓶底内外面ロクロナデ/外面 ロクロナデ	No.1	15%	PL55
194	土師器	壺	[211]	[51]		黄土、黑色、 白色、石英、 小塵	7SYR6-6緑色	口縁部内外面・瓶底内外面ロクロナデ/削 削面内面ヘラミガキ/外面ロクロナデ	口縁部内外面・瓶底内外面ロクロナデ/削 削面内面ヘラミガキ/外面ロクロナデ	1区1層-1	5%	PL55
合計												
195	切妻車		53	17	0.95	45.6		一部欠損		1区1層-1	90%	PL55

第27号住居跡（第59・60戸、PL55・56）

位置：D調査区B4グリッド、標高58.9m地点にある。

規模・平面形：本跡南北分が調査区外にいると推測され、調査できた部分は長軸5.12m、短軸（2.88）mの範囲である。調査できた範囲から、方形もしくは長方形を基調としたプランが想定される。

主軸方向：N-23°-W

残存壁高：確認面から最大高50cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：調査できた部分ではほぼ全溝し、幅38~44cmで巡る。断面はU字形である。

床：ほぼ平坦で、P2付近では発掘構材と推測される砂質の粘土塊が床面に飛散していた。また住居中心部と推測される部分でよく硬化している。

ピット：2箇所確認された。いずれも三柱穴と考えられ、P1：57×57cm、深さ42cm、P2：56×52cm、深さ40cmである。またいずれのピットからも柱抜き取りの痕跡が認められた。

## P1土質解説

1. 植 色 ロームブロック中量、ローム粒子微量、炭化粒子微量、鹿沢バミスブロック微量
2. 动 粒 1- ムネ粒子少量、炭化粒子微量（柱抜き取り痕）

## P2土質解説

1. 植 色 ロームブロック少量、ローム粒子微量
2. 动 粒 ローム粒子微量、炭化粒子微量（柱抜き取り痕）

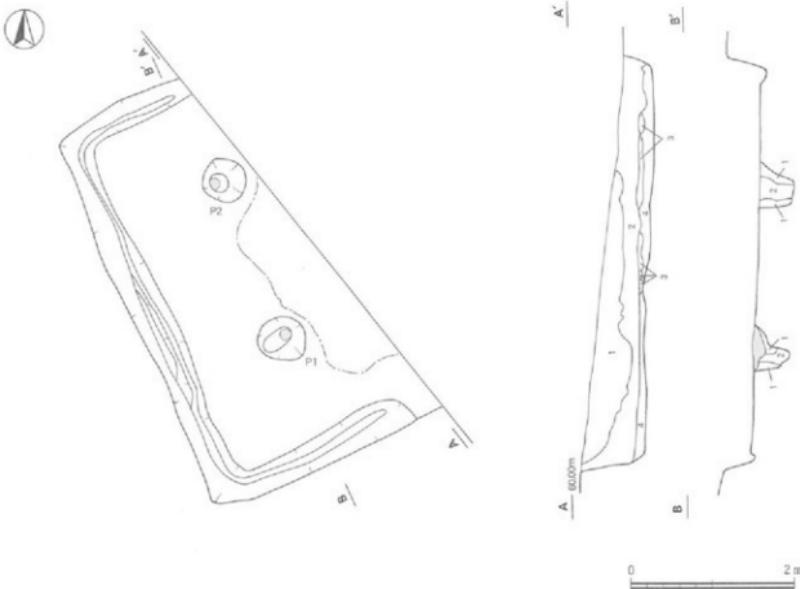
遺構埋没状態：覆土に焼土粒子や炭化粒子が含まれており、人為的な埋没が見られる。

## 土層解説

1. 噴褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化物微量、炭化粒子微量
2. 噴褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量、焼土ブロック少量
3. 楊色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化粒子少量、焼土ブロック微量
4. 楊色 ロームブロック中量、ローム粒子少量、炭化物微量、砂質粘土ブロック少量

遺物：須恵器片15点（壺・高台付壺類8点、高盤1点、甕類6点）、土師器片92点（壺・高台付壺類21点、甕類71点）。本跡の東半分が調査区外にあるため遺物数は少ない。また床面から出土した遺物ではなく、すべて投棄、あるいは覆土中に混入したものである。

所見：本跡の時期は、南半分が調査区外にあるため明確ではないが、土師器壺の形状から7世紀後葉と考えられる。



第59図 第27号住居跡

第60図 第27号住居跡出土遺物

第27号住居跡（表27）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴はか	出土位置	備考
197	土師器	环	13.6	3.5		黄母、黒色、 白色	25YR5/6 明赤褐色	口縁部内外面ヨコナデ/底部内面粗い暗 文状ヘリガキ/外面ケヌリ後ナダ	No.1 覆土	90% PL55
198	土師器	环	[12.6]	[2.8]		白色	5YR3/1 黒褐色	口縁部内外面・底部内面ヨコナデ/底部 外面ケズリ往ナダ	覆土-1	10% PL56
199	須恵器	高盤		(3.2)		黑色、白色	50R05/1 青灰色	内外面ヨコナデ/外面上にヘラ状工具に よる汎造が確認する	カマド覆土	5% PL56
200	土師器	壺	[15.5]	[5.9]		黄母、白色	5YR 6/4 [=]青い褐色	口縁部内外面ヨコナデ/側部内面ヘラナ デ/外面ナダ	覆土-1 カマド	10% PL56

## 第28号住居跡（第61・62図、第28表、PL19・56・57）

位置：D調査区A3、B3グリッド、標高65.6m地点にある。

規模・平面形：長軸2.30m、短軸2.60mで方形を呈する。

主軸方向：[N - 30° - W]

残存壁高：確認面から最大高45cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：検出されていない。

床：ほぼ平坦で、中心部がよく硬化している。

ピット：床面からは、主柱穴、出入口ピットとともに検出されていない。

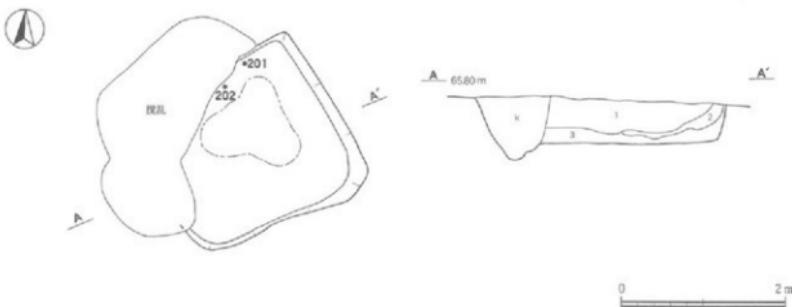
遺構埋没状態：ロームブロック主体の人为的な堆積状況を示している。また第3層には竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックが確認されている。

## 土層解説

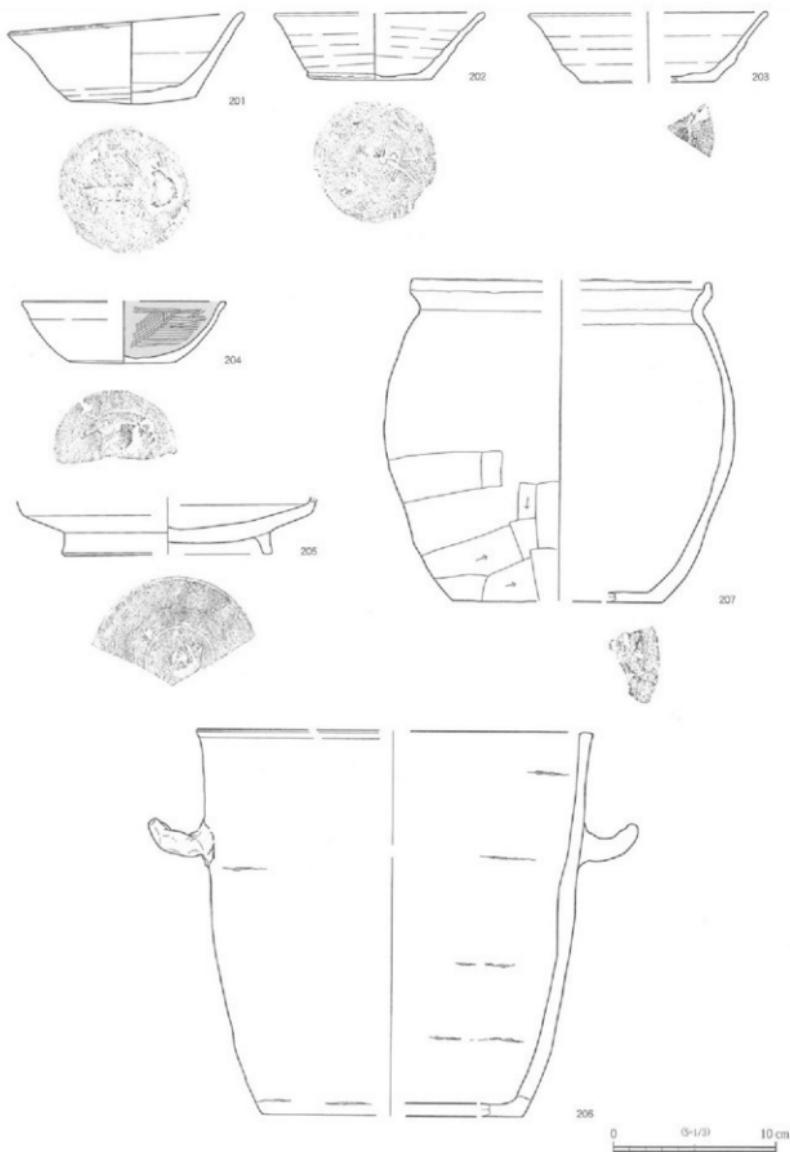
1. 塗 裂色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
2. 塗 裂色 ロームブロック微量、ローム粒子少量
3. 褐 色 ロームブロック中量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック少量、鹿沼バミスブロック少量

遺物：須恵器片105点（环・高台付环類67点、蓋10点、盤6点、高盤2点、瓶9点、壺類11点）、土師器片185点（环・高台付环類11点、壺類174点）。床面から確認された遺物は201須恵器环で、床面に伏せた状態で出土している。その他は覆土中から出土した遺物である。なお、共膳具は須恵器製品が、煮炊き具は土師器製品が主体となっている。

所見：大きく述べており、竈は確認できなかったが、竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックが検出されたことや、床の一部が硬化していたことなどから、住居であると判断した。なお、時期は遺物からみて9世紀中葉から後葉と考えられる。



第61図 第28号住居跡



第 62 図 第 28 号住居跡出土遺物

第28号住居跡（表28）

番号	種類	断面	口径	高さ	底径	胎土	色調	手状の特徴ほか	出土位置	備考
201	須恵器	环	146	57	7.7	小繩	SGY5/L オリーブ色	内外面クロナデ/見込みに仕上げナデ/底面凹凸切り・ヘラ跡号(二)	No.4	90% PL56
202	須恵器	环	(131)	42	7.7	白色、赤褐色、 小繩	SYR6S/4 にぶい黒色	内外面クロナデ/底面凹凸切り・ヘラ跡号(一)	No.3	50% PL66
203	須恵器	环	(148)	44	(8.2)	白色、真石	SGY6/L オリーブ色	内外面クロナデ/底面凹凸切り・ヘラ跡号(一)	1・2区段上	15%
204	土器	环	(126)	39	6.6	小繩	2SY15S/6 明示黒色	内面黒くガキ・黒色焼成・外面クロナデ/底面凹凸切り・ヘラ跡号(一)	4区 段上	80% PL56
205	須恵器	瓶		33	(129)	黑色、白色、 小繩	10GY6/I 緑茶色	内外面クロナデ/底面凹凸切り・ヘラグリ	壁上	30%
206	須恵器	罐	(242)	23.2	(160)	小繩	2GY7/I 墨緑色	口縁部・瓶体内部面ヨコナデ/側面内面 四へタナデ/取っ手板巻き下段隠	1・2区段上	20% PL56
207	土器	奉	(188)	17.2	(112)	赤褐色、小繩	SYH6/S にぶい小繩	口縁部・瓶体内部面ヨコナデ/側面内面 四へタナデ/外面上半ナデ/T字へタケメリ	カマド周土	30%

第29号住居跡（第63・64図、第29表、PL20・57）

位置：D調査区33グリッド、標高63.1m地点にある。

規模・平面形：長軸5.32m、短軸4.84mである。住居跡南東部が削平されているため断定できないが、遺存部の形態から方形または長方形と推定される。

主軸方向：N-6° - W

残存盤高：確認面から最大高36cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：遺存部では幅20～44cmで巡っていることが確認された。断面はU字形である。

床：ほぼ平坦で、主柱穴で囲まれた範囲がよく硬化している。

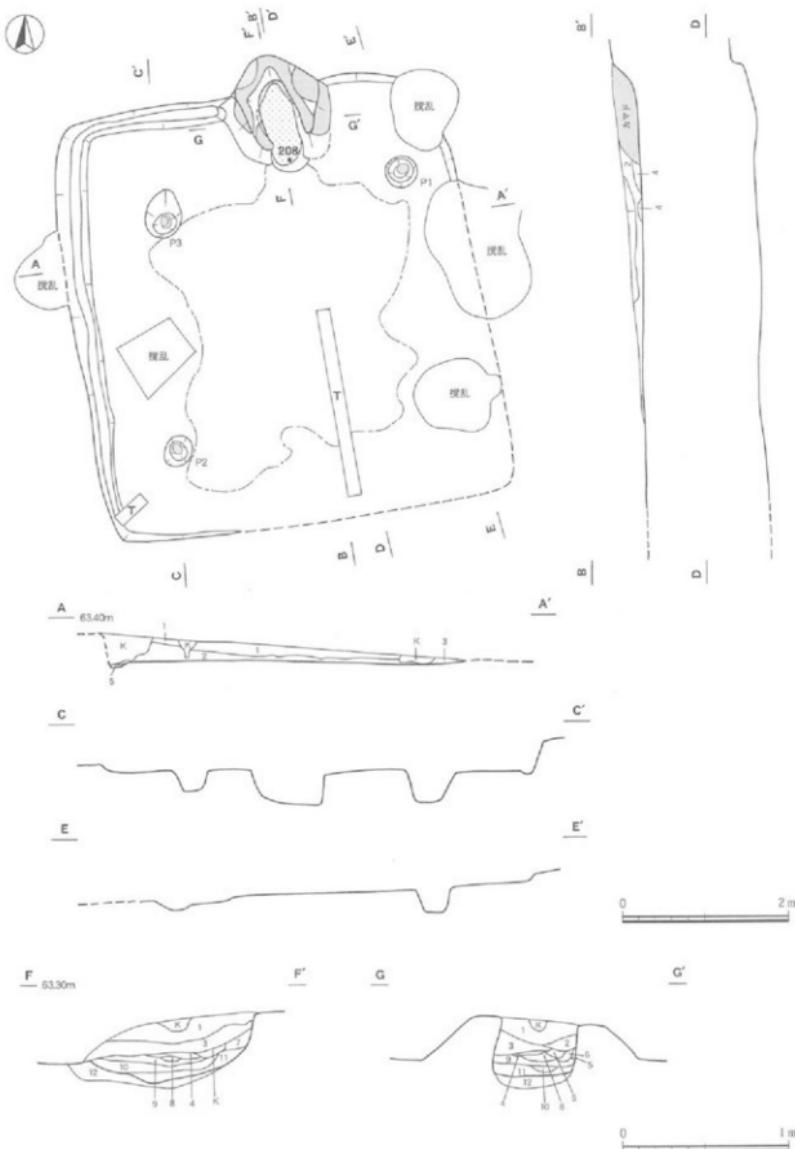
ピット：3箇所確認され、いずれも主柱穴である。P1：38×37cm、深さ30cm、P2：38×33cm、深さ28cm、P3：58×45cm、深さ40cmである。

窓：北壁中央部やや東寄りにあり、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは150cmである。天井部は崩落しており、竪土層断面図中、砂質粘土ブロックや粒子を含む第5層が崩落土と考えられる。袖部は比較的良好に遺存しており、袖部内面は被熱により赤焼している。袖部の最大幅は約38cmである。火床部は床面から13cmほど掘りくぼめて火床面としており、ゴツゴツと赤く硬化している。煙道部は壁外へ42cmほど削り出して造られ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

土着解説	
1.	暗褐色
2.	褐色
3.	褐色
4.	褐色
5.	黄褐色
6.	暗褐色
7.	褐色
8.	暗褐色
9.	暗褐色
10.	暗褐色
11.	褐色
12.	褐色
	ロームブロック微量、ローム粒子少量、砂質粘土ブロック微量
	ロームブロック中量、ローム粒子微量、燒上アブロック微量、鐵治バミス微量
	ロームブロック中量、燒上アブロック微量、鐵治バミス微量
	ローム粒子少量、燒化物微量、鐵治バミス微量
	ローム粒子少量、燒化物微量、鐵治バミス微量
	ロームブロック中量、燒化物中量、砂質粘土ブロック中量
	ローム粒子少量、燒化物多量、燒化物中量、燒土粒子少量
	ロームブロック少量、ローム粒子少量、燒土ブロック少量、燒化物微量、燒化物少量
	ロームブロック少量、ローム粒子少量

遺構埋没状態：ロームブロック主体の入為的な準積状況を示している。第4層には竪構築材と考えられる砂質粘土ブロックが、第5層には灰溶部の堆積土が確認されている。

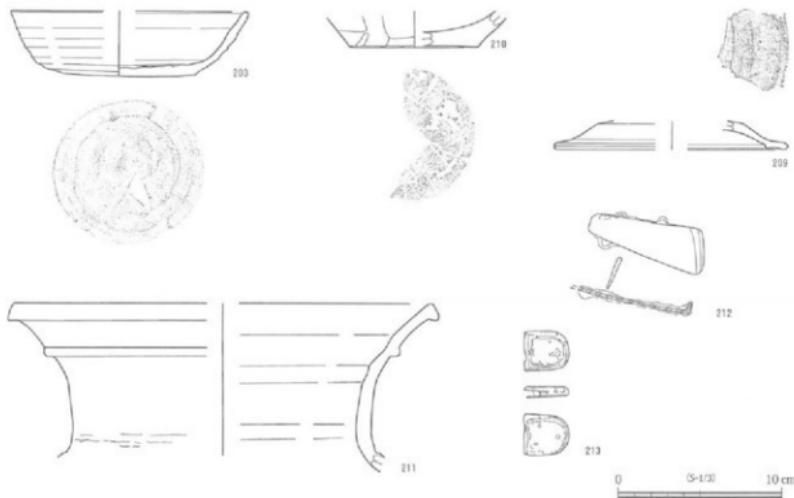
土着解説	
1.	褐色
2.	褐色
3.	褐色
4.	褐色
5.	褐色
	ロームブロック少量、焼化粒子微量
	ロームブロック少量、ローム粒子少量
	ロームブロック中量、ローム粒子微量、燒土ブロック微量、鐵治バミスブロック微量
	ロームブロック中量、燒化物微量、燒土ブロック微量、鐵治バミスブロック微量
	ロームブロック微量、ロームブロック微量、燒化粒子少量



第63図 第29号住居跡

遺物：須恵器片104点（坏・高台付坏類48点、蓋11点、甕類45点）、土師器片311点（坏・高台付坏類22点、甕類289点）、鉄製品2点（鎌1点、蛇尾1点）。竈前面部と中央部を主体に散見される。また床面から出土した遺物はすべて細片である。212の鎌と213の蛇尾は覆土中から出土したもので、投棄あるいは埋土に混入していたと考えられる。

所見：本跡は、竈の位置が北壁の中央部よりかなり東へ寄っている住居である。この傾向は8世紀代に比定される住居で特に多く、第1・60号住居跡などが相当する。竈を東方向へ寄すことによって竈西側に空間域を設け、その空間を何らかの用途で活用したのであろう。時期は遺物からみて8世紀前葉から中葉と考えられる。



第64図 第29号住居跡出土遺物

第29号住居跡（表29）

番号	種別	器種	口径	基高	底径	胎土	色調	手法の特徴	出土地質	備考
208	須恵器	坏	(14.6)	4.1	9.2	白色、石英、小釋、針状纖維物	25GY6/1 オリーブ灰色	内外面クロナゲ/見込みは酒巻状の粗い複数の棱/底部回転ヘタケズリ(右)	No.1 4区1層 覆土	50% PL57
209	須恵器	蓋	(14.0)	(1.8)		白色、石英	6GY5/1 オリーブ灰色	内外面クロナゲ/舟形回転ヘタケズリ(右)/口縁内側に退化したかえり	4区1層	9% PL52
210	土師器	甕		(2.2)	7.9	黒色、石英	25YR5/6 明赤褐色	内面ナゲ/外縁ケズリ後ナゲ/底部木漿痕	3区1層	9% PL57
211	須恵器	甕	(32.8)	(10.4)		白色	7.5GY6/1 緑灰色	内外面クロナゲ	1区1層 4区1層 カマツ1/4	5% PL57

番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	特徴	出土地質	備考
212	鎌	(7.1)	2.9	0.2	19.4	鉄	先端部欠損	覆土	PL57

番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	特徴	出土地質	備考
213	蛇尾	27.7	25.8	0.8	14.4	銅	3か所鋸留め	覆土	PL57

第30号住居跡（第65・66図、第30表、PL20・21・57・58）

位置：D調査区D2グリッド、標高12.6m地点にある。

規模・平面形：南西部が削平されているが、遺存部から長軸〔3.24〕m、短軸2.78mで長方形を呈するものと推測される。

主軸方向：N-33°-W

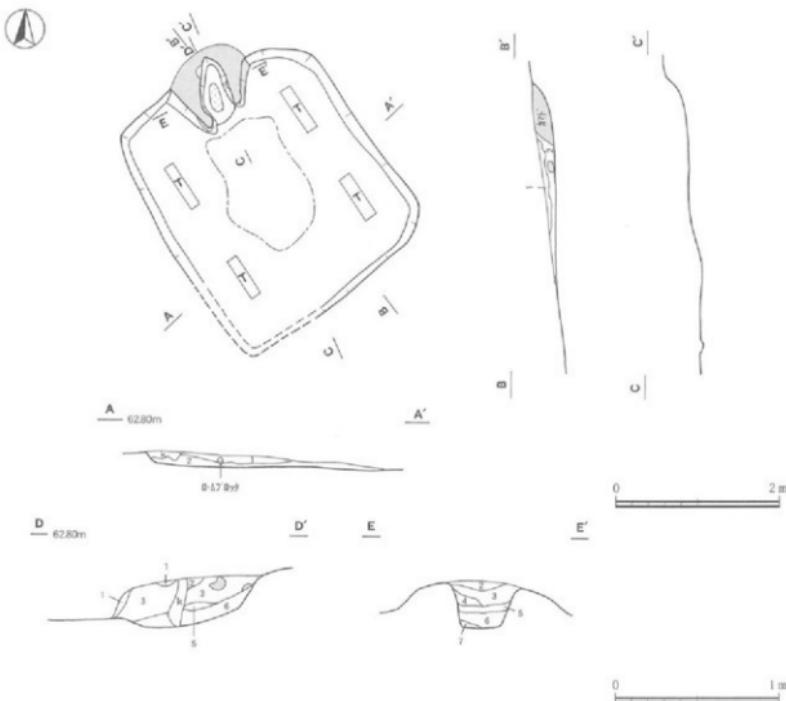
残存壁高：確認面から最大高12cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：検出されていない。

床：ほぼ平坦で、住居中心部がよく硬化している。

ピット：床面からは主柱穴、出入口ピットとともに検出されていない。

竈：北壁中央部にあり、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは82cmである。天井部は崩落しており、竈土層断面図中、砂質粘土ブロックを含む第3層が崩落土と考えられる。袖部は良好に遺存しており、袖部内壁は被熱により赤変している。袖部の最大幅は約70cmである。火床部は床面から10cmほど掘りくぼめて火床面としており、火熱を受けているが硬化してはいない。なお、煙道部は壁外へ20cmほど削り出して造られ、火床部から外傾して立ち上がる。



第65図 第30号住居跡

## 土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量
2. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、焼土ブロック微量、炭化物微量
3. 灰褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、炭化物微量
4. 黄褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化物微量、底沼バミスブロック微量
5. 斑赤褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック少量、焼土粒子少量、炭化物微量、縦まり弱い
6. 斑赤褐色 ロームブロック微量、焼土ブロック少量、焼土粒子少量、炭化物微量、底沼バミスブロック微量
7. 褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化物微量

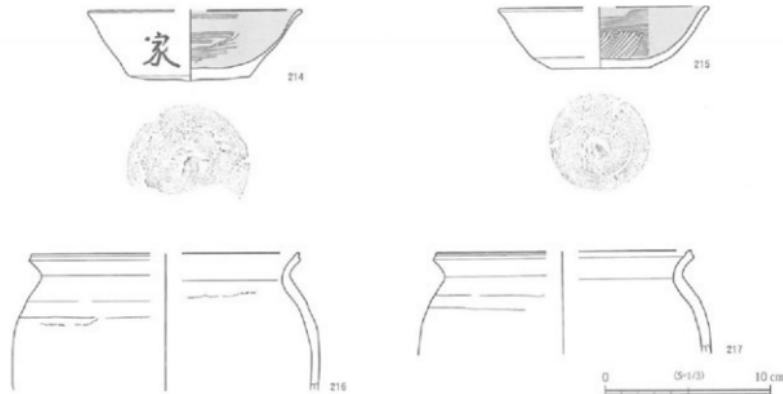
遺構埋没状態：覆土の厚層が薄く明確ではないが、遺存層ではロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。また第2層には遺構構造と考えられる砂質粘土ブロックが確認されている。

## 土層解説

1. 黄褐色 ロームブロック中量、ローム粒子少量
2. 灰褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック少量

遺物：須恵器片9点（坏・高台付坏類5点、蓋1点、盤1点、壺類2点）、土師器片43点（坏・高台付坏類5点、壺類38点）214の土師器坏、216・217の土師器甕は本跡北部の覆土中から、215の土師器坏は窓内覆土上層から出土したものである。床面直上から確認された遺物はないものの、共膳具も煮炊具も須恵器製品が主体となっている。また、214の土師器坏には墨書「家」が記されている。

所見：本跡出土の墨書土器には、「家」と記されているものが4点確認されている。本跡以外ではA区第10号住居跡から1点、あと2点は第44号住居跡からである。いずれも内黒の土師器坏の体部外面に記されていたものだが、記された方向には相違が見られ、坏を正位で置いた状態から見ると、縦方向に記したもの1点、横方向2点、斜め方向1点であった。なお、本跡の時期は、墨書土器等の遺物から9世紀後葉と考えられる。



第66図 第30号住居跡出土遺物

第30号住居跡（表30）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴	出土位置	備考
214	土師器	坏	[13.4]	4.4	7.4	黄褐色、長石、小粒	5YR7/4 に並い褐色	内面ヘラミガキ・黑色処理/体部外面クロナダ/底部削除ヘラ切り/体部外面削除（底）	覆土	50% PL57
215	土師器	坏	[12.9]	3.8	6.0	赤褐色、石英、小粒、針状結晶物	5YR6/4 に並い褐色	内面ヘラミガキ・黑色処理/体部外面クロナダ/底部削除及び底部削除ヘラクズリ（底）	カマド上層	60% PL57
216	土師器	甕	[16.6]	(8.5)		白色、石英、小粒、針状結晶物	5YR5/4 に並い赤褐色	口縁部・底部ヨコナダ/底部内面ヘラナダ/外側ヨコナダ後クリ	1区	20% PL57
217	土師器	甕	[15.8]	(6.3)		石英、小粒、針状結晶物	2.5YR6/4 に並い褐色	口縁部・底部ヨコナダ/底部内面ヘラナダ	1区 下部	10% PL58

## 第31号住居跡（第67・68図、第31表、PL21・58）

位置：E調査区E3グリッド、標高55.60m地点にある。

規模・平面形：南西部が削平されているが、遺存部から、長軸5.04m、短軸5.00mで方形を呈するものと推測される。

主軸方向：N-4° - W

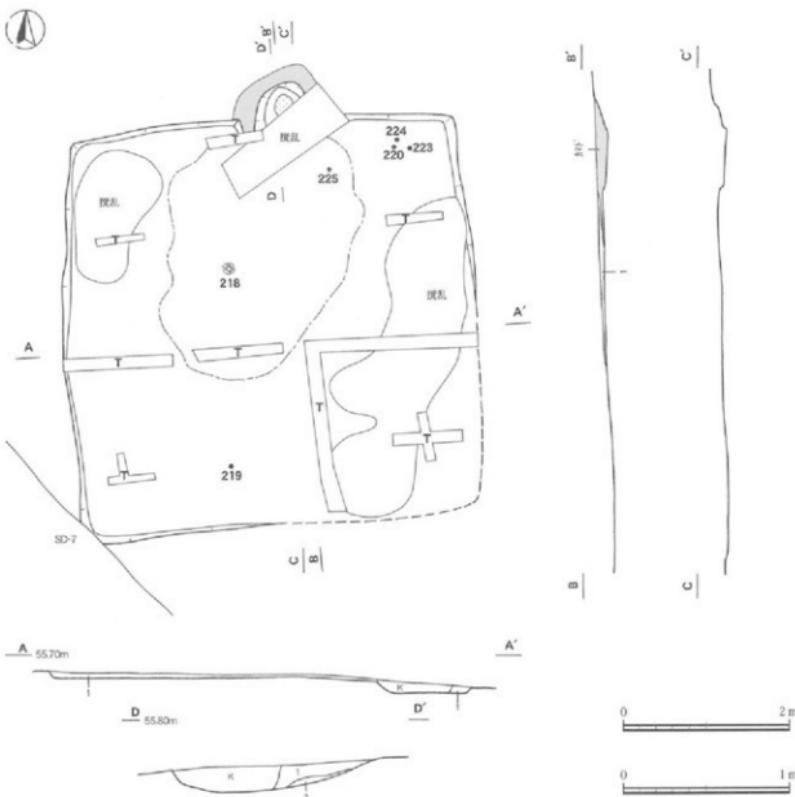
残存壁高：覆土の大半が削平されているため詳細は不明であるが、依存部は確認面から最大で高8cmを測る。

壁溝：検出されていない。

床：ほぼ平坦で、竈周辺部が硬化している。

ピット：床面からは、主柱穴、出入口ピットともに検出されていない。

竈：北壁中央部やや東寄りにあり、砂質粘土で構築されている。擾乱によって焚口部から次床部南部と東袖部が壊されており、遺構全体も削平されているため土層の層厚も薄く情報はあまり得られなかった。遺存してい



第67図 第31号住居跡

る火床部は床面から16cmほど掘りくぼめて火床面としており、一部に赤く硬化している部分が認められた。煙道部は壁外へ56cmほど削り出して造られている。

土層解説

1. 墓 地 色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、鹿沼バニスブロック少量
2. 墓地色 焼土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化物少量、炭化粒子少量、締まり弱い

遺構埋没状態：本跡の大半は削平されており、埋没状況は不明である。

土層解説

1. 墓 地 色 ローム粒子微量、炭化物微量、炭化粒子少量、締まり弱い

遺物：須恵器片49点（坏・高台付坏類44点、盤1点、壺類4点）、土師器片148点（坏・高台付坏類1点、壺類147点）。覆土の層厚は薄く、出土した遺物の大半は床面直上から確認されたものである。床面から出土した遺



第68図 第31号住居跡出土遺物

物は218～220の須恵器坏、223の須恵器高台付坏で、218は中央部や北側の硬化面状から伏せた状態で、219は南端近くから正位で、220と223は東隅コーナー部からそれぞれ出土している。しかし、220や223は覆土中の破片と接合関係にあり、住居跡発掘後もなく投棄されたと考えられる。

所見：時期は住居跡発掘時に遭棄された遺物からみて9世紀前葉と考えられるが、遺構全体が削半されているため覆土の層厚が薄く十分な調査結果は得られなかった。なお、隣接する第32号住居跡とは規模や形状が酷似しており、時期も第32号住居跡が8世紀後葉から9世紀初頭に比定されることから、建て替えの可能性が示唆される。

第31号住居跡（表31）

番号	種別	蓋板	口径	蓋高	底径	胎土	色調	手 法 の 特 訴 は か	出土位置	参考
218 須恵器	坏		14.1	4.2	8.0	白色、小縫 粗灰陶	SG4/1 焼締灰色	体部内外面ロクロナジ/底部内面ヘラ切 り後、一部手挖らへタケズリ	No.4	98% PL58
219 須恵器	坏			3.8	7.6	白色、小縫 オリーブ灰色	2SGY6/1 オリーブ灰色	体部内外面ロクロナジ/底部内面ヘラ切 り後、一部手挖らへタケズリ、底部ヘラ	No.3	60% PL58
220 須恵器	坏	(132)	4.5	6.6	白色、小縫 オリーブ灰色	SGY6/1 オリーブ灰色	体部内外面ロクロナジ/底部多方向手挖 ちハラフツリ、底部ヘラ切	No.1	50% PL58	
221 須恵器	坏	(152)	4.1	(8.7)	小縫 粗灰陶	白色、石井 <sup>1</sup> -10G4/1 焼締灰色	体部内外面ロクロナジ/底部手待ちヘラ <sup>2</sup> カズリ	4区	40% PL58	
222 須恵器	坏	(14.0)	4.1	(7.6)	石英、小縫 粗灰陶	白色、石井 <sup>1</sup> -10G4/1 焼締灰色	体部内外面ロクロナジ	1B.1時	30% PL58	
223 須恵器	高台坏	(13.8)	4.8	5.8	白色、小縫 石英	白色、白色、Y6G5/1 焼締、小縫 芯は、白色、2STB5/6 石英	付高台、付内縁含都アテ、沈縁下のナジ が特徴二箇所 付内縁ヘラナテ、外縁ナテ/付高・壁 P1.8	No.1 1区覆土 No.8	60% PL58	
224 上海器	壳	(19.8)	(11.9)			白色、白色、YSR5/4 小縫	体部内面ヘラナテ、外縁上部ナテ、ドリ	No.2	10% PL58	
225 上海器	壳		8.4	6.8		白色、白色、YSR5/4 小縫	内面ヘラナテ、底部木製裏 ヘラカズリ/底部木製裏	覆土	40% PL58	

第32号住居跡（第69・70図、第32表、PL21・58・59）

位置：E調査区E-3グリッド、標高55.7m地点にある。

規模・平面形：本跡の大半は削平されており、その規模は明確に把握できなかつたが、当集落跡の住居跡形態からみて、北壁に窓が付設された、長軸4.50m、短軸4.32m方形または長方形を基調としたプランが想定される。

主軸方向：[N -9° - W]

残存壁高：遺存部では鋸歯面では鋸歯面から最大高16cmを測る。

壁溝：検出されていない。

床：搅乱により状態は不明である。

ピット：搅乱のため2箇所のみ確認された。P1は主柱穴でP2は出入口ピットと考えられる。P1：50×50cm、深さ50cm、P2：46×39cm、深さ29cmである。

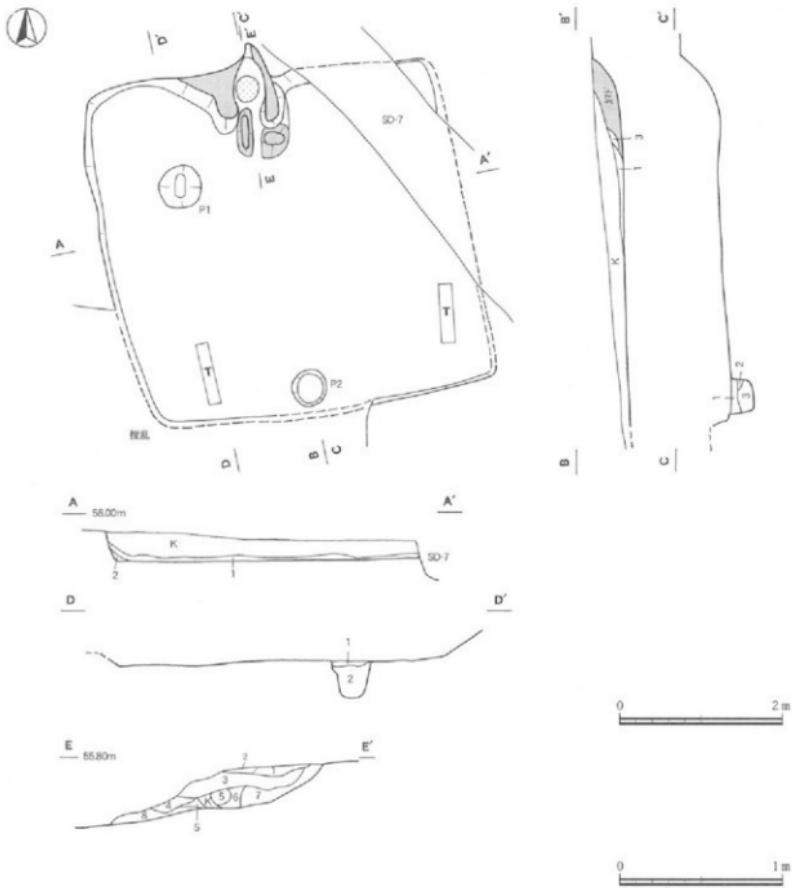
#### P1土壤解説

1. 無褐色 ロームブロック微量、灰化粒子微量、表面バニス微量
2. 無褐色 ロームブロック微量、ローム粒子微量

#### P2土壤解説

1. 無褐色 P1・ムブロック微量、ローム粒子微量
2. 無褐色 ローム粒子微量、P1・ム粒子少
3. 無褐色 ロームブロック微量、ローム粒子微量

竈：北壁中央部にあり、砂質粘土で構築されている。焚口部から爐道部までは140cmである。天井部は崩落しており、竈上層断面図中、砂質粘土ブロックを含む第7層が崩落土と考えられる。袖部の最大幅は約84cmで、内壁は被熱により赤変している。火床部は炭化物と焼土が混じった縮まりの弱い層で、火床面は硬化していない。なお、爐道部は壁外へ30cmほど削り出して造られ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。



第69図 第32号住居跡

**土層解説**

1. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量
2. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム微量
3. 桂褐色 ロームブロック微量、桃土ブロック少量、桃土粒子微量、炭化物微量
4. 桂褐色 ロームブロック微量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック少量、桃土ブロック少量、炭化物微量
5. 桂灰色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、砂質粘土ブロック微量、炭化物微量、鹿沼バミスブロック微量
6. 灰褐色 桃土粒子少量、桃土ブロック少量、桃土粒子少量、炭化物微量、縫まり弱い
7. 灰灰色 ロームブロック微量、砂質粘土ブロック中量、桃土ブロック少量、炭化粒子微量、鹿沼バミス少量
8. 棕褐色 桃土ブロック多量、炭化粒子少量、粘性弱い

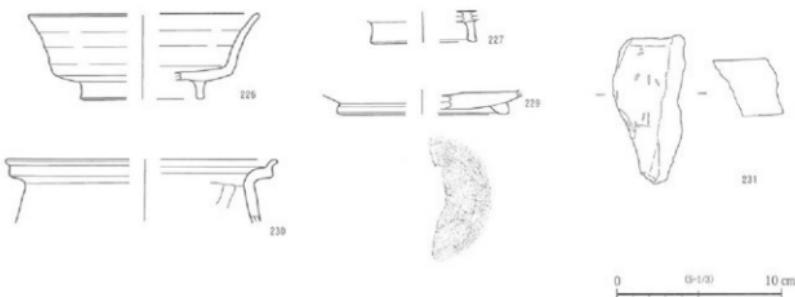
遺構埋没状態：搅乱により遺存している部分は少ないが、覆土に焼土粒子や炭化粒子が含まれており、人為的な埋没が見られる。

## 土器解説

1. 開 色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、焼土ブロック少量、焼土粒子微量、炭化物微量
2. 暗 黒 色 ロームブロック少量、焼土ブロック少量、焼土粒子少量、炭化物微量
3. 閉 色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック少量

遺物：須恵器77片点（环・高台付环40点、蓋4点、盤5点、高盤1点、鉢2点、壺類25点）、土師器片201点（环・高台付环33点、壺類168点）。本跡中央部から南部にかけて搅乱で壊されているため、遺物は北西部を中心に確認されている。しかし床面直上から出土した遺物はなく、摩滅しているものや接合しない遺物も多いため、投棄あるいは埋土に混入したものと考えられる。なお、煮炊具は土師器製品が圧倒的に多く、須恵器製品は客体的である。

所見：時期は遺物から8世紀後葉から9世紀初頭と考えられる。なお、本跡は北東部で接している第31号住居跡へと建て替えられた可能性が高い。



第70図 第32号住居跡出土遺物

## 第32号住居跡（表32）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 调	手 法 の 等 級 は か	出土位置	備 考
226	須恵器	高台付环	[14.2]	53	[7.5]	黑色、白色、石英、小釋、暗色のセルロイド状の吹き出し	10G5/1緑灰色	体部内外面クロナダ。体部下端屈転へラケズリ/付高台、内外面クロナダ	4区1層	25% PL58
227	須恵器	高台付环		[1.9]	[6.4]	白色、石英、小釋	10GY4/1 暗色灰	底部内面クロナダ/付高台、内外面クロナダ	覆土	3% PL59
229	須恵器	壺		[1.5]	[10.4]	黑色、白色、石英、黒色のセルロイド状の吹き出し	10GY6/1 緑灰	底部内面クロナダ、外部回転ヘラケズリ、底部ヘラ記号/付高台、内外面クロナダ	2区1層	5% PL59
230	土師器	壺	[16.2]	[4.0]		雲母、白色、石英、小釋	25YR4/3 にぶい赤褐色	底部外側ナダ、内面ヘラケズリ/口縁部 内外面クロナダ	4区1層	5% PL59

番号	形 种	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材 質	特 徴	出土位置	備 考
231	砥石	(8.9)	(3.1)	3.5	200	砂質砂岩	1面のみ使用	3区1層	PL59

第33号住居跡（第71・72図、第33表、PL22・59）

位置：E調査区F3グリッド、標高54.4m地点にある。

規模・平面形：調査中、火床面と砂質粘土ブロックの検出により住居跡の竈であると断定したが、竈以外は確認できなかったため、詳細は不明である。

主軸方向：竈のみの判断によるため断定できないが、N-18°~22°-Wと推測した。

残存壁高：削平されているため詳細は不明である。

壁溝：検出されていない。

床：検出されていない。

ピット：検出されていない。

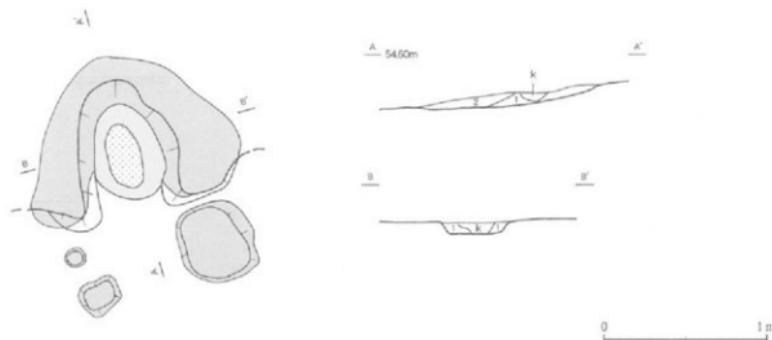
竈：焼土が検出されたが、砂質粘土ブロックを含んでいることや地山の逆U字形の掘り込みが認められたため、竈と判断した。また、火床面と推測される面は赤変硬化しており、火熱を受けた地山がブロック化している様子が窺えた。

土層解説

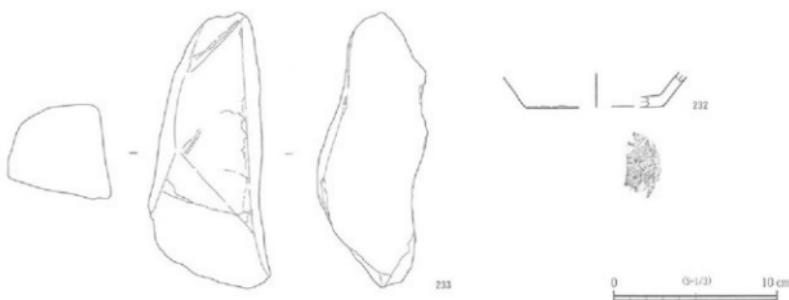
1. 灰褐色 砂質粘土ブロック中量、燒土ブロック少量
2. 灰黃褐色 ローム粒子微量、燒土ブロック少量、砂質粘土ブロック中量、粘性・練まりとともに弱い

遺物：須恵器片2点（环・高台付环類）、土師器片12点（环・高台付环類4点、壺類8点）。これらの遺物はすべて竈内出土の遺物である。また細片が多く図化できた遺物はこの2点のみである。

所見：本跡の大半が削平されているため十分に情報を得ることができなかった。時期は判然としないが、出土遺物は8世紀～9世紀に比定されるものである。



第71図 第33号住居跡



第72図 第33号住居跡出土遺物

第33号住居跡（表33）

番号	種別	容積	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
232	壺形器	环		(22)	(84)	白色、石英、小繊、針状鉱物	SG4/1 碧綠灰色	体部内外面、底部クロナゲ	覆土	5%

番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	特徴	出土位置	備考
233	砾石	18.6	8.0	7.5	1090	硬質砂岩	支脚に転用か。	カマド覆土	PL59

第34号住居跡（第73・74図、第34表、PL・59）

位置：E調査区F3グリッド、標高52.6m地点にある。

規模・平面形：長軸3.26m、短軸3.18mで方形を呈する。

主軸方向：N-9°-W

残存壁高：確認面から最大高40cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：検出されていない。

床：ほぼ平坦で、竈周辺から住居中心部がよく硬化している。

ピット：1箇所確認され、出入口ピットと考えられる。P1: 24×21cm、深さ24cmである。

#### P1土層解説

- 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化粒子少量、練まり弱い
- 暗褐色 ロームブロック微量、焼土粒子微量、炭化粒子微量、鹿沼バニスブロック少量

竈：北壁中央部にあり、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは64cmである。袖部は比較的良好に遺存しており、袖部の基礎は砂質粘土ブロックを芯材として構築されている。袖部の最大幅は約90cmで、内壁から奥壁にかけて被熱により赤変しているのが確認された。火床部は床面からわずかに掘りくぼめて火床面としており、赤く硬化している。煙道部は壁外へ54cmほど削り出して造られ、火床部から外傾して立ち上がる。

#### 土層解説

- 暗褐色 ロームブロック微量、焼土ブロック微量、炭化粒子微量
- 暗褐色 ロームブロック微量、焼土粒子微量、炭化粒子微量、鹿沼バニスブロック少量
- 暗褐色 焼土ブロック微量、炭化粒子微量、鹿沼バニスブロック少量
- 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化粒子少量
- 褐灰色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック多量、練まりあり

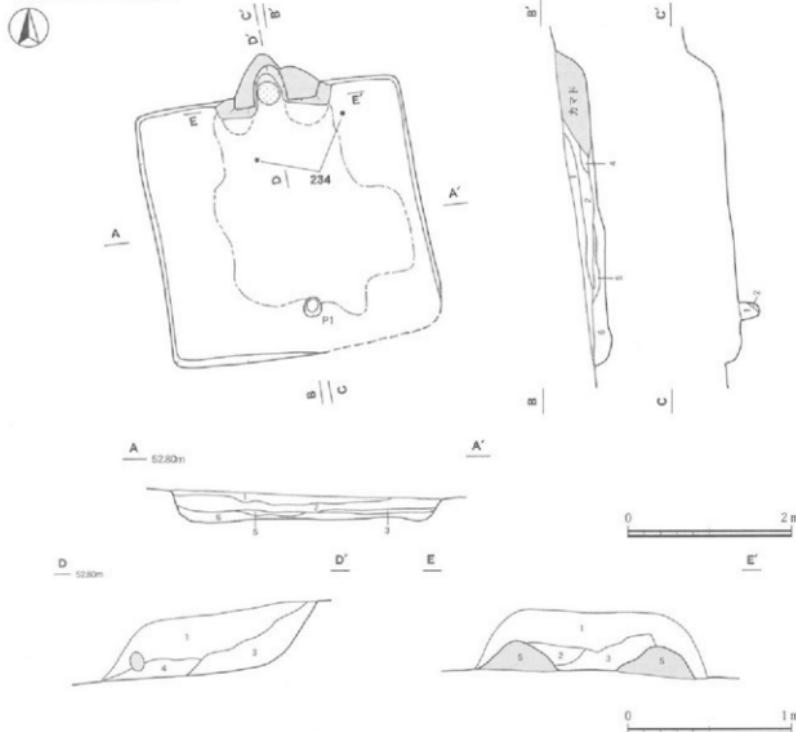
遺構埋没状態：ロームブロック主体の人为的な堆積状況を示している。第4層には竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックが確認されている。また、第5・6層はロームブロックを主体とした住居床下の堆積層と考えられる。

#### 土層解説

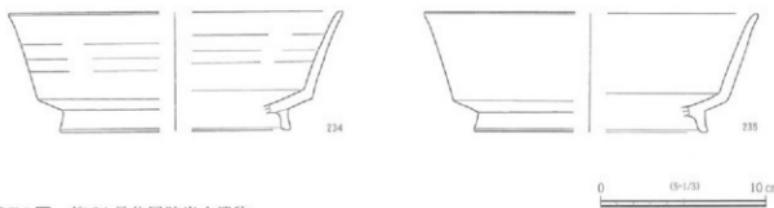
1. 鳥色 ローム粒子微量、炭化物微量、炭化粒子少量、締まり弱い
2. 紺色 ロームブロック中量、ローム粒子少量
3. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量
4. 鳥灰色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、砂質粘土ブロック中量、炭化粒子微量
5. 墓褐色 ロームブロック微量、ローム粒子微量
6. 鳥色 ロームブロック中量、ローム粒子微量、締まり弱い

遺物：須恵器片13点（坏・高台付坏類8点、壺類5点）、土師器片14点（坏・高台付坏類1点、壺類13点）。窓前面とその東側を主体に散見される。遺物はすべて窓内あるいは覆土中のもので、すべて細片である。固化した遺物は窓内から確認されている高台付坏であるが、火熱を受けた痕跡はなく、住居跡廃絶後に投棄されたものと考えられる。

所見：遺物はすべて細片で、床面から確認できた遺物もないことから、明確に断定することはできなかった。しかし、埋土中の遺物は8世紀代のものが多く、また住居内に主柱を持たない新しい建物構造であるため、8世紀後葉頃と推測した。



第73図 第34号住居跡



第74図 第34号住居跡出土遺物

## 第34号住居跡（表34）

番号	種別	容積	口径	高さ	底径	胎土	色調	手法の脊椎ほか	出土位置	備考
234	頸壺器	高台付环	(304)	7.4	[142]	黒色、白色、石英、小石、針状 状葉、褐色、淡色 のセルロイド 状の吹き出し	10G5/1緑灰色	体部内外面ロクロナダ/付高台、内外面 ロクロナダ	4区1号 カマ F2/4 No.1 No.3	30% PL59
235	頸壺器	高台付环	(304)	7.4	[142]	黒色、白色、 石英、針状葉、 褐色のセ ルロイド状の 吹き出し	10G5/1緑灰色	体部内外面ロクロナダ/付高台、内外面 ロクロナダ	No.2 カマ F3/4	5% PL59

## 第35号住居跡（第75・76図、第35表、PL22・59・60）

位置：E調査区F2グリッド、標高56.7m地点にある。

規模・平面形：長軸3.30m、短軸3.00mで方形を呈する。

主軸方向：N-92° - E

残存壁高：確認面から最大高44cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：検出されていない。

床：ほぼ平坦で、竈前面部から出入口ピット周辺にかけてよく硬化している。

ピット：3箇所確認された。P1・P2は本跡に伴うものか否か明確にはできなかった。P3は出入口ピットと考えられる。P1：32×28cm、深さ50cm、P2：52×46cm、深さ26cm、P3：22×16cm、深さ16cmである。

## P1土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量
2. 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量

## P2土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量
2. 暗褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化粒子少量

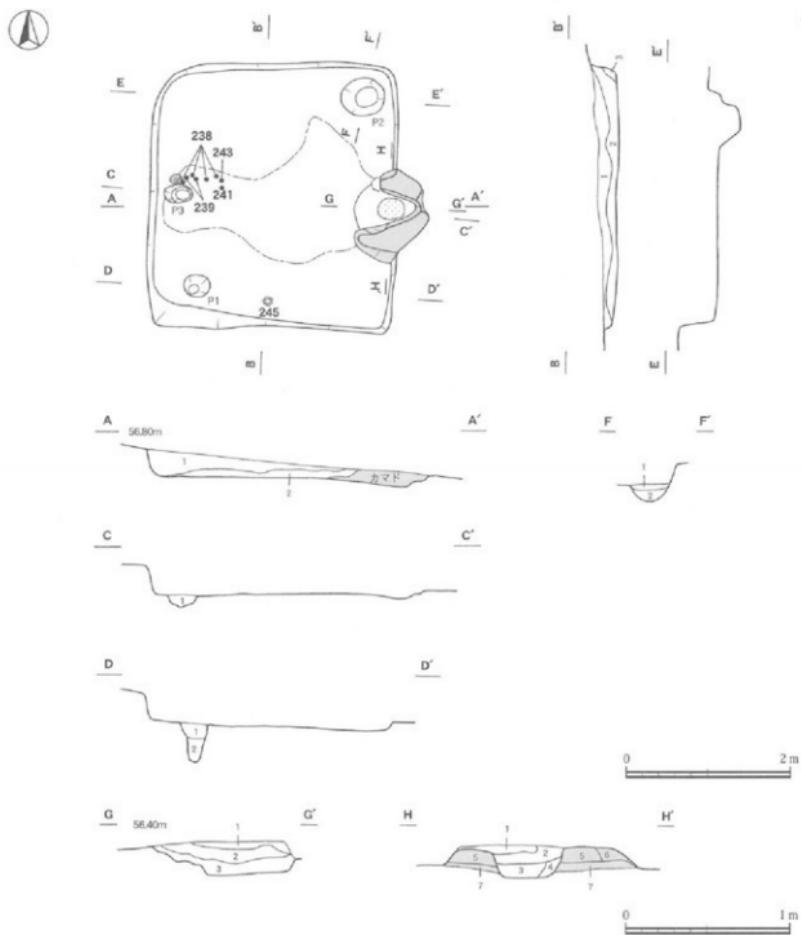
## P3土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、やや積まりあり

竈：東壁中央部からやや南寄りにあり、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは92cmである。袖部は比較的良好に遺存しており、袖部の最大幅は約104cmである。火床部は床面から20cmほど掘りくぼめて火床面としており、ゴツゴツと赤く硬化している。煙道部は壁外へ42cmほど削り出して造られ、火床部から外傾して立ち上がる。袖部の基部は、砂質粘土ブロックを多量に含む第7層である。

## 土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量
2. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、鹿沼バミス微量
3. 灰褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック微量、炭化物微量
4. 暗褐色 炭化物少量、炭化粒子中量、焼土ブロック少量、粘性・持まりとともに弱い
5. 灰褐色 ロームブロック微量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック多量、持まりあり
6. 灰褐色 ロームブロック少量、砂質粘土ブロック多量、持まりあり
7. 灰褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック多量、持まりあり



第75図 第35号住居跡

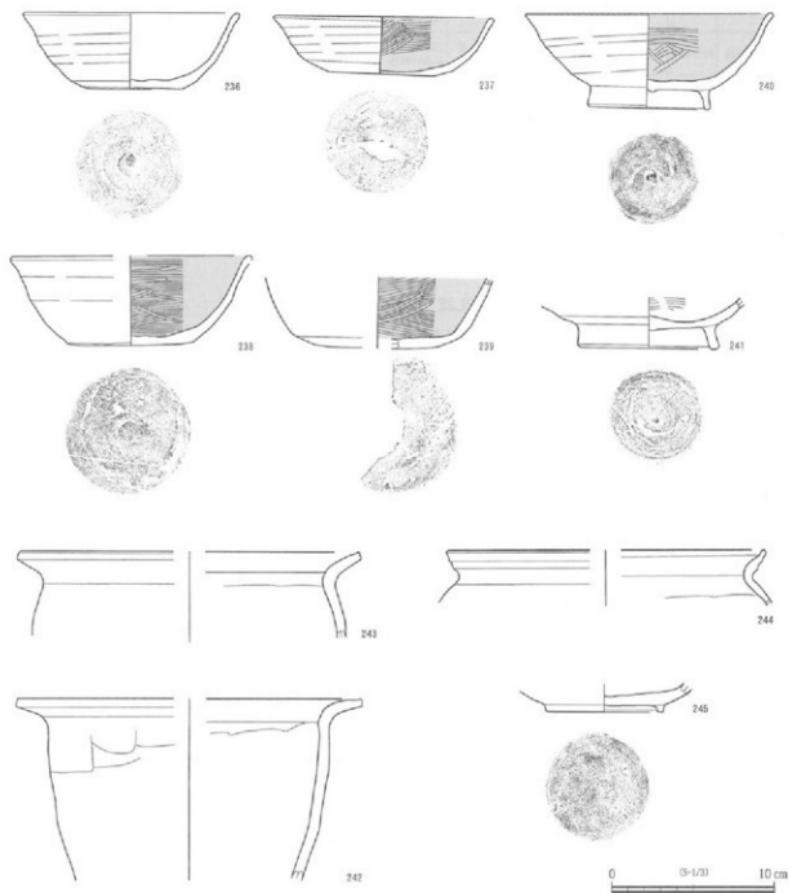
遺構埋没状態：ロームブロック主体の人为的な堆積状況を示している。第3層は壁部崩落土と考えられる。

土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
2. 暗褐色 ロームブロックブロック少量、ローム粒子少量、焼土ブロック微量
3. 開色 ロームブロック中量、ローム粒子微量

遺物：須恵器片20点（壺・高台付壺類14点、蓋3点、壺類3点）、土師器片204点（壺・高台付壺類24点、壺類180点）、灰陶陶器1点（長頸瓶）。竪内から中央部にかけてと西壁周辺からの出土が目立つが、特に床面直上から確認されたものはなかった。なお239の土師器片は、埋め戻しの段階で投棄あるいは埋土中に混入したものである。

所見：時期は、東壁に竪をもつ建物構造であることや出土遺物からみて9世紀後葉と考えられる。なお本跡のように東壁に竪をもつ住居跡は、当遺跡では本跡を含め7軒確認されている。時期は、8世紀代1軒、9世紀前半代1軒、9世紀後半～10世紀前半にかけて5軒であった。



第76図 第35号住居跡出土遺物

第35号住居跡（表35）

番号	種別	番號	山徑	番地	块径	断面	色調	手 痕 の 特 徴 は か	出土位置	緯 度
236	灰土壁	坏	134	48	63	彝母、有壳、小粒、针状物	25YR5/6 明赤褐色	体部内外面クロロナダ/底部剥離へク切 り斜面削開型/一次焼成・底盤を中心化集No.16 灰土	No.6 PL59	
237	土器器	坏	136	35	63	白色、小薄、针状物	25YR5/6褐色 剥離物	体部内外面クロロナダ、内面ヘラミガキ 底盤色處理/底部剥離ヘラ切り後無溝發 現物ヘラミズリ	No.5 No.6 No.7 No.8 No.5 No.6 No.7 No.8	98% PL59
238	土舞器	坏	(14.9)	56	78	黑色、白色、5YR6/4 石英	5YR6/4 にぶい褐色	体部内外面クロロナダ、内面ヘラミガキ 底盤色處理/底部剥離ヘラ切り後無溝發 現物ヘラミズリ	No.6 No.6 No.7 No.8	70% PL60
239	土舞器	坏	(45)	(74)		黑色、白色、石英	5YR6/4 にぶい褐色	体部内外面クロロナダ、内面ヘラミガキ 底盤色處理/底部剥離ヘラ切り後無溝發 現物ヘラミズリ	3区1層 No.5 No.6	30% PL60
240	土器器 高台付坏	134	62	75		黑色、白色、针状物	25YR5/6 明赤褐色	体部内外面クロロナダ、内面ヘラミガキ 底盤色處理/底部剥離ヘラ切り後無溝發 現物ヘラミズリ/二次焼成	No.12	50% PL60
241	土器器 高台付坏		(32)	87		黑色、白色、石英	25YR6/4 にぶい白色	体部内外面クロロナダ、内面ヘラミガキ 底盤色處理/底部剥離ヘラミズリ/石英 内分離ロクロナダ/二次焼成	No.9 No.10	50% PL60
242	土器器	坏	(21.4)	(11.4)		黑色、白色、石英	5YR5/3 にぶい白色	體部外側剥離、内面ヘラミダ/口縁部内 外ヨコリ	No.2上層 4区櫻上	5% PL60
243	土器器	坏	(21.2)	(53)		彝母、黑色、石英	SY5/3 にぶい白色	體部外側剥離、内面ヘラミダ/口縁部内 外ヨコリ	No.9	5% PL60
244	土器器	坏	(19.8)	(33)		彝母、黑色、石英、针状物	25YR5/3 にぶい白色	體部外側剥離、内面ヘラミダ/口縁部内 外ヨコリ/底盤	タマド3/4 PL60	5% PL60
245	灰陶瓦器	坏		(12)	72	黑色、石头	75YR8/2 灰白色	体部外側下端・底部剥離ヘラミズリ/付 底盤、外外面クロロナダ/灰込み前面!	No.1	10% PL60

第36号住居跡（第77・78図、第36表、PL22・61）

位置：E調査区M3グリッド、標高54.9m地点にある。

規模・平面形：調査当初、火床面と砂質粘土ブロックの検出により住居跡の窓と断定したが、窓以外は確認できなかったため、詳細は不明である。

主軸方向：窓のみの判断によるため新定できないが、N-11°-Eと推測した。

残存壁高：削平されているため詳細は不明である。

壁溝：検出されていない。

床：検出されていない。

ピット：検出されていない。

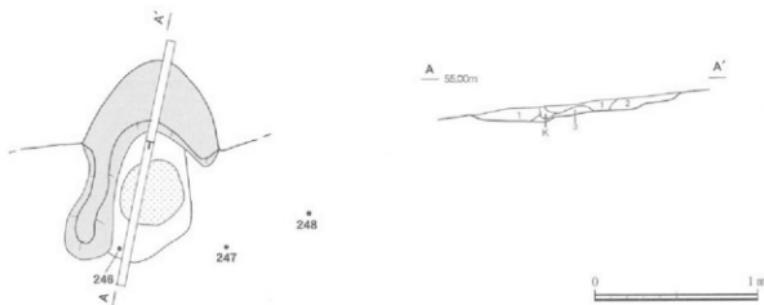
竈：径120前後の焼土が検出されたが、砂質粘土ブロックを含んでいたことや地山の逆U字形の掘り込みが認められたため、窓と判断した。火床面と推測される面は赤茶硬化しており、焼土のブロック化が認められた。また、煙道部は壁外へ50cmほど削り出して造られている。

#### 土質解説

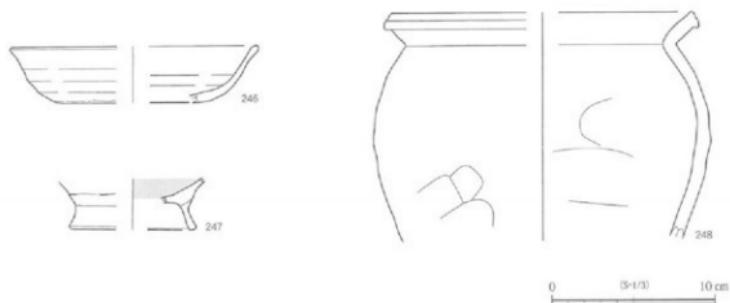
1. 塵 極 色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化物微量
2. 極 色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、焼灰バクス微粒
3. 墓赤褐色 烧土粒子中等、焼土ブロック少付、炭化物少付、炭化粒子少量

遺物：須恵器片1点（坏・高台付坏類）、土器器片17点（坏・高台付坏類5点、壺類12点）。これらの遺物はすべて窓火床部出土の遺物で火熱を受けしており、住居廃絶時に造棄されたものと考えられる。

所見：本跡の大半が削平されているため、十分に情報を得ることができず、時期も不明である。



第77図 第36号住居跡



第78図 第36号住居跡出土遺物

第36号住居跡（表36）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
246	須恵器	环	[15.2]	35	[9.4]	青母、黒色、白色、石英	SYR6-4 にぶい褐色	体部内外面クロナデ/底部凹板へラ切 り後無調整	No.8	25% PL61
247	土器器	高台付环		(2.7)	(7.8)	青母、黒色、白色、石英	SYR6-4 にぶい褐色	体部内外面クロナデ、内面ヘラタガキ 後黒色整理/付高台、外面部クロナデ	No.18	5% PL61
248	土器器	要	[19.4]	[14.3]		青母、白色、石英	SYR6-3 にぶい褐色	脚部外面ナデ、内面ヘラナデ/LI線部内 外面ココナデ	No.19	10% PL61

第37号住居跡（第79・80図、第37表、PL23・61）

位置：E調査区E2グリッド、標高57.2m地点にある。

規模・平面形：大半を削平されているため、その規模及び形状は把握できなかった。

主軸方向：竈と北壁部からN-0°と推測した。

残存壁高：覆土の大半が削平されているため詳細は不明である。

壁溝：検出されていない。

床：遺存部が少なく不明である。

ピット：遺存部からは、主柱穴、出入口ピットともに検出されていない。

竈：大半が削平され、火床面がほぼ露出した状態で北壁部から検出されたため、得られる情報は少なかったが、焚口部から煙道部までは96cmを測り、火床面はゴツゴツと赤変硬化しているのが一部認められた。なお、煙道部は壁外へ58cmほど削り出して造られている。

#### 土層解説

1. にじ赤褐色 混土ブロック微量、炭化粒子微量、焼まりあり
2. 断赤褐色 焙土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化物少量、炭化粒子少量
3. 赤褐色 焙土ブロック多量、炭化物微量、難消化ミス少量
4. 灰色 焙土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化物少量、炭化粒子少量

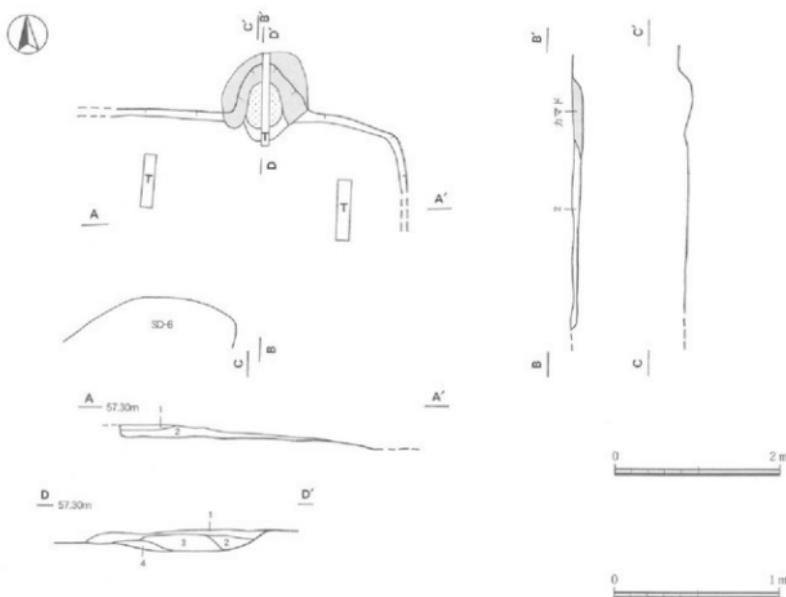
遺構埋没状態：覆土の層厚は薄く明確に把握することはできなかったが、遺存部はロームブロック主体の人为的な堆積状況を示している。

#### 土層解説

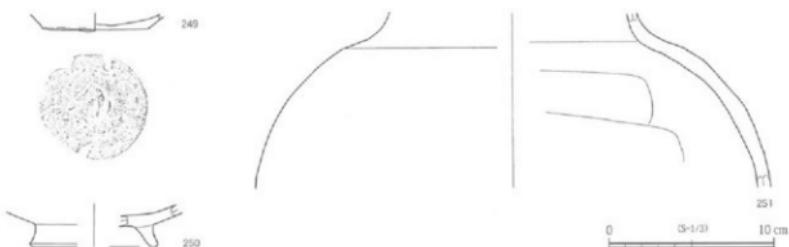
1. 灰褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
2. 灰色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化物少量

遺物：須恵器片59点（壺・高台付壺類54点、蓋1点、甕類4点）、土師器片107点（壺・高台付壺類28点、甕類79点）。竈前面とその東側を主体に確認されたが、床面から確認された遺物はなかった。

所見：本跡の大半が削平され、遺物も細片であるため、十分に情報を得ることができず、時期は不明である。



第79図 第37号住居跡



第80図 第37号住居跡出土遺物

第37号住居跡（表37）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
249	須恵器	环		(11)	64	青母、褐色、白色、石英、小理	25YR6/6褐色	体部内外面ロクロナデ/底部削輪ハラ切り旋無調整	1区	20% PL6
250	土師器	高台付环		(29)	(78)	青母、石英、小理	25YR6/6褐色	体部内外面ロクロナデ、内面ヘラミガキ/付高台、内外面ロクロナデ	4E	5% PL6
251	土師器	瓶		111		砂粒、白色	5YR6/4に、玉い褐色	巻き上げ/内面ヘラナデ/外面ナデ・一部ヘラナデ	No.1 2E裏土	15% PL6

第38号住居跡（第81図、第38表、PL61）

位置：E調査区F3グリッド、標高56.0m地点にある。

規模・平面形：調査中、火床面と砂質粘土ブロックの検出により住居跡の竈と断定したが、竈以外は確認できなかったため、詳細は不明である。

主軸方向：竈のみの判断によるため断定できないが、N-3~7°-Eと推測した。

残存壁高：削平されているため詳細は不明である。

盤溝：検出されていない。

床：検出されていない。

ピット：検出されていない。

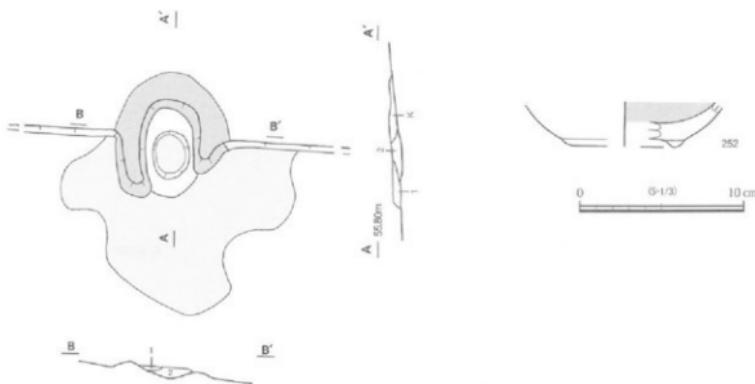
竈：径130cmの範囲で焼土が検出された。砂質粘土ブロックを含んでいることや地山の逆U字形の掘り込みが認められたため竈と判断した。火床面と推測される面は赤変硬化しており、焼土のブロック化が認められた。

## 土質解説

1. 單色 焼土粒子微量、炭化粒子微量、締まりあり  
 2. 赤褐色 焼土ブロック中量、焼土粒子中量、炭化粒子少量、炭化粒子微量、粘性・締まりともに弱い

遺物：土師器片3点（环・高台付环類2点、壺類1点）。これらの遺物はすべて竈内出土の遺物である。また細片が多く、図化できた遺物は1点のみである。

所見：本跡の大半が削平され竈のみの調査であったため、十分に情報を得ることができず、時期は不明である。



第81図 第38号住居跡・出土遺物

第38号住居跡（表38）

番号	性別	石椎	口径	高さ	底径	胎土	色調	手法の特徴	はか	出土位置	備考
282	土錐器	高台付环		(27)	(75)	黄母	25YRS/4 にぶい赤褐色	各部内外面クロナデ、内面ヘラミガキ 後黒色処理(竹高台、内外面クロナデ、 高台欠損復元成形し再利用	カマド裏土	5% PL61	

第40号住居跡（第82・83図、第39表、PL23・24・61・62）

位置：F調査区D4グリッド、標高520m地点にある。

規模・平面形：長軸3.84m、短軸3.44mで長方形を呈する。

主軸方向：N-38°-W

残存壁高：確認面から最大高40cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：検出されていない。

床：本跡は横断するように試掘トレンチによって壊されているが、遺存部はほぼ平坦で、竈前面部から住居中心部にかけて硬化している。また床面全体には砂質粘土ブロックが散在していた。

ピット：床面からは主柱穴、出入口ピットとともに検出されていない。

竈：北壁中央部にあり、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは112cmである。袖部は比較的良好に遺存しており、内壁は被然により赤変している。袖部の最大幅は約90cmである。火床部は床面から5cmほど掘りくぼめて火床面としており、ゴツゴツと赤く硬化している。煙道部は壁外へ66cmほど削り出して造られ、火床部から外傾して立ち上がる。

#### 土層解説

1. 海色 ロームブロック少量、炭化粒子微量、縫まりあり
2. 海色 ロームブロック微量、焼土粒子微量、炭化粒子微量、砂質粘土ブロック少量、粘性弱い
3. 断続色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、炭化粒子微量
4. 断続褐色 焼土粒子少量、炭化物少量、炭化粒子少量、縫まり弱い
5. 赤褐色 焼土ブロック中量、焼土粒子中量、炭化物少量、炭化粒子少量、縫まりあり

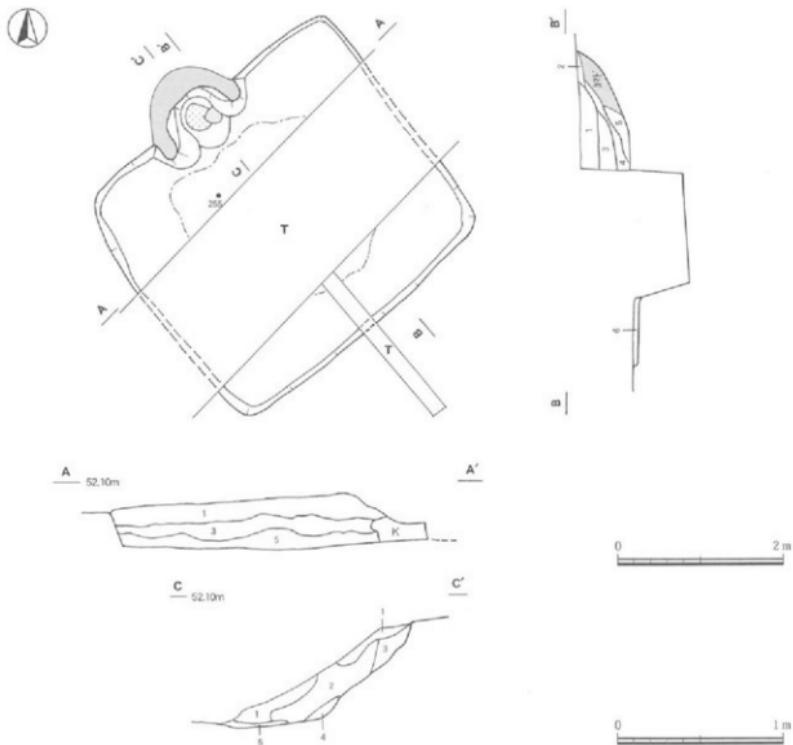
遺構埋没状態：ロームブロック主体の人为的な堆積状況を示している。第5・6層には竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックが確認されている。

## 土器解説

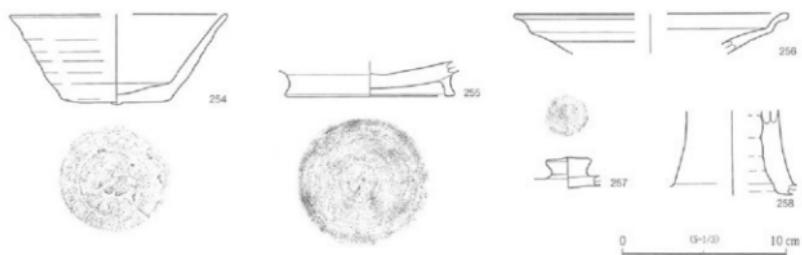
1. 極 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量、鹿沼バミス微量
2. 極 色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化物微量、鹿沼バミスブロック少量
3. 極 色 ロームブロック中量、ローム粒子少量
4. 極 色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、燒土ブロック少量
5. 灰褐色 色 ローム粒子少量、砂質粘土ブロック中量、燒土ブロック少量、燒土粒子少量、炭化物微量、縮まり細い
6. 灰黃褐色 色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック中量、燒土ブロック少量

遺物：須恵器片143点（坏・高台付坏類102点、蓋6点、盤8点、壺類27点）、土師器片118点（坏・高台付坏類10点、壺類108点）。住居廃絶後に投棄されたと推測される遺物が多く、大半が窓や床面に散在した砂質粘土ブロックの上から確認されている。なお、共膳具は須恵器製品で占めるが、煮炊具には土師器製品が多く、須恵器製品は客体的である。

所見：出土遺物は、住居跡廃絶後に投棄あるいは埋土中に混入したものであるため、明確な時期の特定には至らなかったが、遺物は主に9世紀中葉に比定されるものである。



第82図 第40号住居跡



第83図 第40号住居跡出土遺物

第40号住居跡（表39）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴	出土位置	備考
254	須恵器	壺	[13.4]	5.6	6.6	石英、小塵 オリーブ灰色	25GYS1 5G4/1	体部内外面ロクロナダ/底部回転ヘラ切 り後無調整	4E1層	30% PL61
255	須恵器	盤		(2.2)	10.4	白色、石英、 小塵	5G4/1 暗緑色	底部内外面ロクロナダ、底部回転ヘラケ ズリ付高台、内外面ロクロナダ	No.2	20% PL62
256	須恵器	盤	[16.8]	(2.5)		白色、石英、 小塵	25GYS1 オリーブ灰色	体部内外面ロクロナダ、外面ヘラ痕が沈 め込まれて周囲	4E1層 4E2層	20%
257	須恵器	蓋		(1.8)		黒色、白色、 石英、針状物	10GYS1 暗灰色	内外面ロクロナダ、つまみ部添付	4E1層	3%
258	須恵器	瓶		(5.2)		黒色、白色、 黒色のセルロ イド鉄の吹き 出し	5DG6/1 青灰色	内外面ロクロナダ	1E1層	3% PL62

第41号住居跡（第84・85図、第40表、PL24・62・63）

位置：F調査区E 5 グリッド、標高47.8m地点にある。

規模・平面形：本跡東部は削平されており明確に把握することはできなかつたが、当集落跡の住居跡形態からみて、長軸 [4.20] m、短軸4.00mで方形または長方形を基調としたプランが想定される。

主軸方向：N - 28° - W

残存壁高：遺存部では確認面から最大高34cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：北東隅で一部確認され、幅20 ~ 42cmで巡る。断面はU字形である。

床：ほぼ平坦で、竈前部から南壁際の範囲でよく硬化している。

ピット：床面からは主柱穴、出入口ピットとともに検出されていない。

竈：北壁部にあったものと推測されるが、後世の搅乱により壊されたものと考えられる。

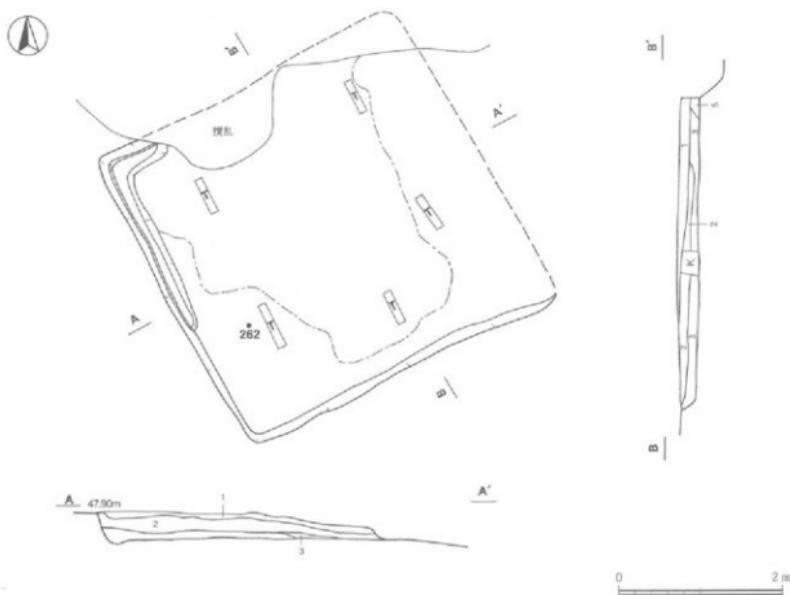
遺構埋没状態：ロームブロック主体の人为的な堆積状況を示している。第5層には竪構築材と考えられる砂質粘土ブロックが確認されている。

## 土層解説

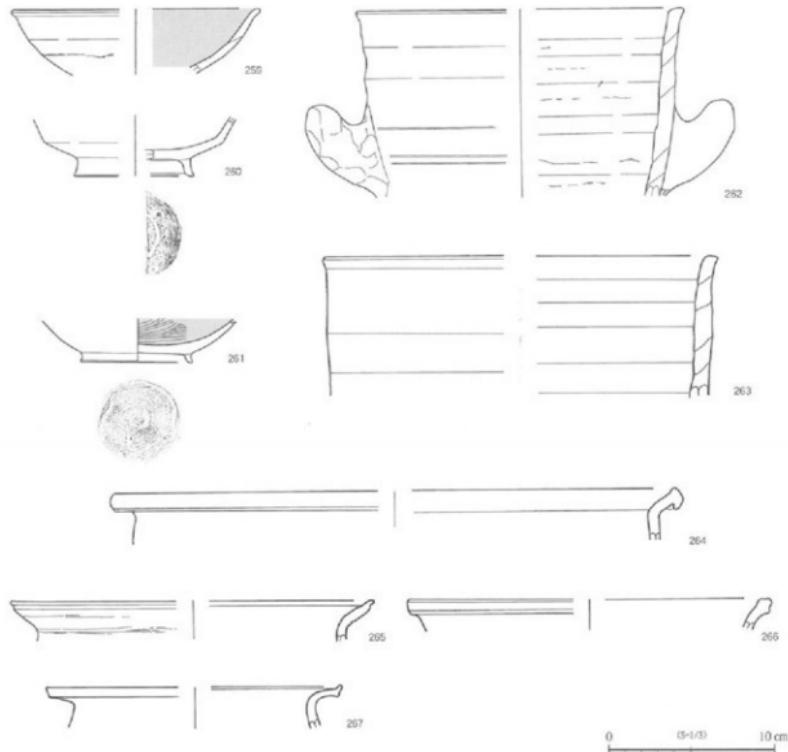
- |      |   |  |
|------|---|--|
| 1. 級 | 色 | ロームブロック少量、ローム粒子少量、鹿沼バミス少量                |
| 2. 級 | 色 | ロームブロック中量、ローム粒子少量、鹿沼バミスブロック少量            |
| 3. 級 | 色 | ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化粒子微量                 |
| 4. 級 | 色 | ロームブロック少量、炭化物少量                          |
| 5. 級 | 色 | ロームブロック少量、ローム粒子少量、砂質粘土ブロック中量、炭化粒子微量、粘性弱い |

遺物：須恵器片84点（坏・高台付坏類52点、蓋1点、盤1点、甕類30点）、土師器片209点（坏・高台付坏類26点、甕類182点、瓶1点）。床面から確認された遺物はなく、すべて覆土中からのものであり、埋め戻しの段階で投棄あるいは埋土中に混入したものである。262須恵器は中央部やや西寄りから出土したが、接合関係にある破片はなく、投棄されたものであろう。

所見：遺物はすべて住居跡発掘後の埋め戻しの段階で投棄あるいは埋土中に混入したものではあるが、大半が9世紀後葉に比定される遺物であることや、床面に主柱をもたない建物構造であることから、これらの遺物とほぼ同時期と推測される。



第84図 第41号住居跡



第85図 第41号住居跡出土遺物

第41号住居跡（表40）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴はか	出土位置	備考
259	土器部	坏	(15.2)	(4.2)		雲母、黒色、白色、石英、針状結晶物	25YR6/9橙色	体部内外面ロクロナデ、内面ヘラミガキ後黒色修理、体部外腹下端ヘラケズリ	3区覆土	5% PL62
260	須恵器	高台付坏		(3.9)	(7.4)	黒色、白色、石英、小礫	10Y4/2 オリーブ灰色	体部内外面ロクロナデ/底部凹部ヘラケズリ/付窓台、底部内外面ロクロナデ	覆土	30% PL62
261	土器部	高台付坏		(2.8)	6.8	雲母、白色、石英、小礫、針状結晶物	5YR6/6橙色	体部内外面ロクロナデ、内面ヘラミガキ後黒色修理、体部外腹下端ヘラケズリ/付窓台、内外面ロクロナデ	覆土	40%
262	須恵器	瓶	(20.0)	(12.0)		白色、石英、小礫、針状結晶物	5BG6/1 青灰色	脚部輪積み、内外面ロクロナデ/把手接合	No.1 4区 覆土	10% PL62
263	須恵器	瓶	(24.4)	(9.0)		白色、石英、小礫、針状結晶物	10G4/1 暗紫灰色	脚部輪積み、内外面ロクロナデ	2区 覆土	5% PL63
264	須恵器	甕	(34.6)	(3.2)		白色	5GR3/1 暗紫灰色	脚部・口縁部内外面ロクロナデ。脚部外面タキ靴	4区 覆土	5% PL63
265	土器部	甕	(22.4)	(2.5)		砂粒	5YR6/6橙色	脚部・口縫部輪積み、内外面ヨコナデ	4区 覆土	5% PL63
266	須恵器	甕	(21.8)	(2.0)		白色	10DG4/1 暗紫灰色	脚部・口縫部ロクロナデ、口縫部内外面及び口縫部斜面ヘラケズリ	4区 覆土	5% PL63
267	土器部	甕	(18.4)	(2.5)		砂粒、雲母	5YR5/6 明赤褐色	脚部内外面ヘラナデ/口縫部ヨコナデ	3区 覆土	5% PL63

## 第42号住居跡（第86・87図、第41表、PL24・25・63・64）

位置：E調査区F2グリッド、標高58.4m地点にある。

規模・平面形：住居跡東部が削平されているため明確な判断はできなかつたが、床部の硬化した範囲や遺存した壁部の状態から長軸4.56m、短軸4.50mで方形を呈するものと推測される。

主軸方向：N-17°-W

残存壁高：確認面から最大高14cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：検出されていない。

床：ほぼ平坦で、壁周辺から中央部にかけてよく硬化し、また中央部に火熱を受けた面が確認された。なお、床面中央部を中心に住居の上置構築材と考えられる炭化材が広がっている。

ピット：床面からは、主柱穴、出入口ピットとともに検出されていない。

竈：北壁部にあり、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは140cmである。また、覆土の最下層である第8層を除き、焼土ブロックや砂質粘土ブロック等の含有物は見当たらなかつた。以上から、廃棄時に崩落した構築材を排除していたとしか考えられず、天井部の崩落等も確認されなかつた。なお、覆土第7層には多量の炭化物が含まれているが、層位的に住居焼失時の痕跡と推測される。また、袖部は比較的良好に遺存しており最大幅は約110cmを測り、内壁は被熱により赤変している。火床面は床面とはほぼ同レベルとなっており、赤変している。煙道部は壁外へ50cmほど削り出して造られ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

## 土層解説

1. 灰褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少付、縫まりあり
2. 黄褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、焼土粒子微量、炭化物微量
3. 黄褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土粒子微量
4. 灰褐色 ローム粒子微量、炭化物微量、焼土粒子微量
5. 灰褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
6. 灰褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少付、炭化物微量、砂質粘土粒子少付
7. 黄褐色 ロームブロック微量、ローム粒子微量、炭化物微量、炭化粒子少付
8. 灰褐色 炭化物中量、炭化粒子多量、焼土ブロック中量、焼土粒子少量、縫まり弱い
9. 黄褐色 ロームブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量

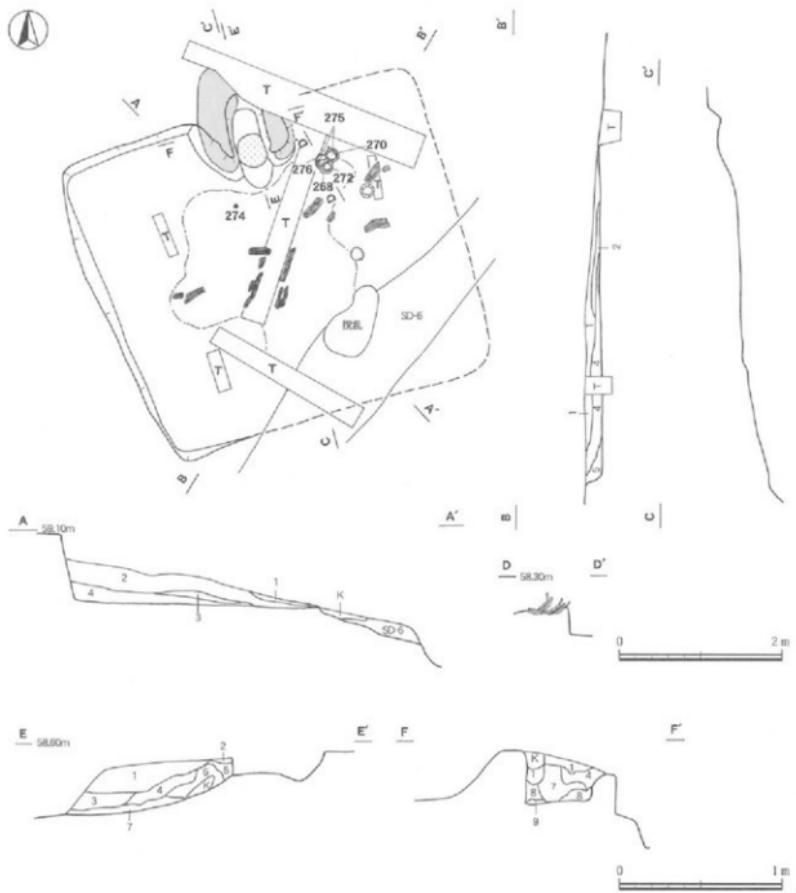
遺構埋没状態：ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示しているが、第4層には粘土ブロックや上屋の柱材と考えられる炭化材が確認されており、本跡焼失時に落下した堆積層と考えられる。また第5層のロームブロックは壁部の崩落土と推測される。

## 土層解説

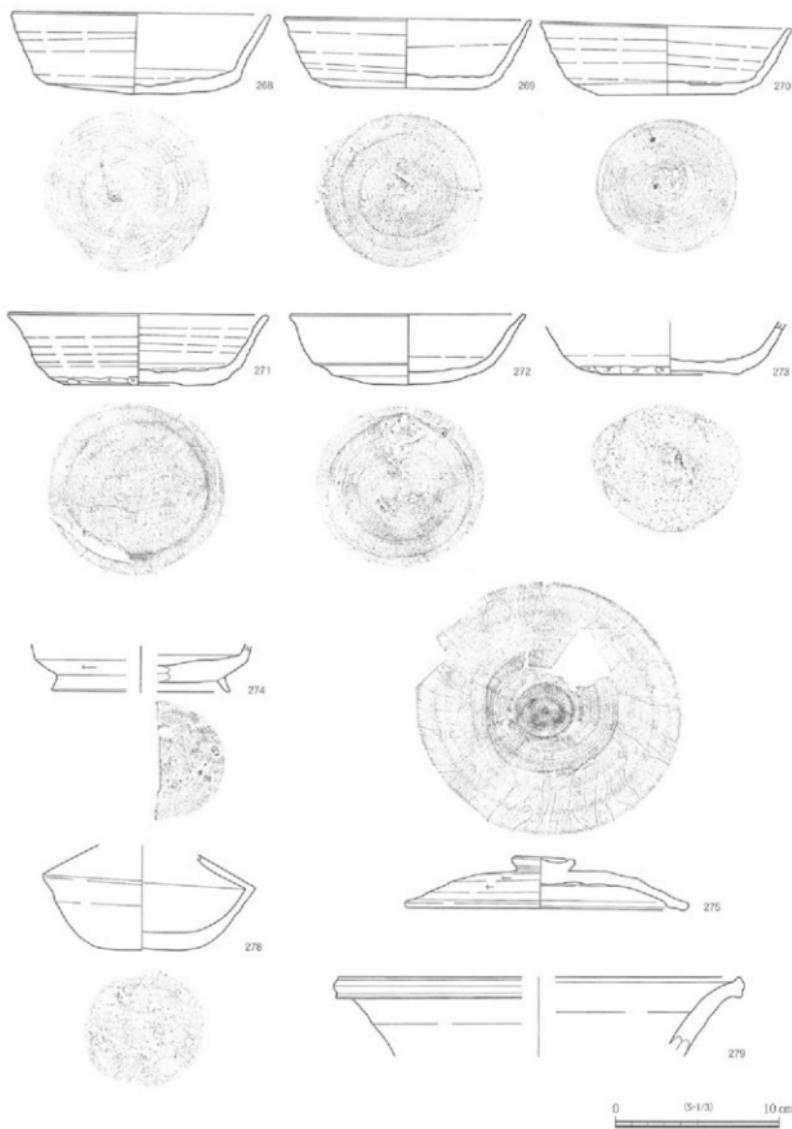
1. 黄褐色 ローム粒子少量、灰泥バニス少量
2. 灰褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量、灰泥バニスブロック微量
3. 棕褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量、灰泥バニスブロック少付、縫まり弱い
4. 灰褐色 ロームブロック少付、粘土ブロック中量、炭化物少量、炭化物微量、焼土ブロック中量、焼土粒子少量
5. 黄褐色 ロームブロック中量、炭化物微量、炭化物微量

遺物：須恵器片63点（环、高台付环頬38点、蓋5点、瓶1点、甕頬19点）、土師器片82点（环、高台付环頬3点、長頬瓶1点、甕頬78点）。焼失住居であるため、多量の炭化材が床面から確認された。また掲載した遺物の中で完形に近い須恵器环と蓋は、床上に積み重ねられた状態で出土していた。これらの遺物は、一部火熱を受けており、焼失されたものである。

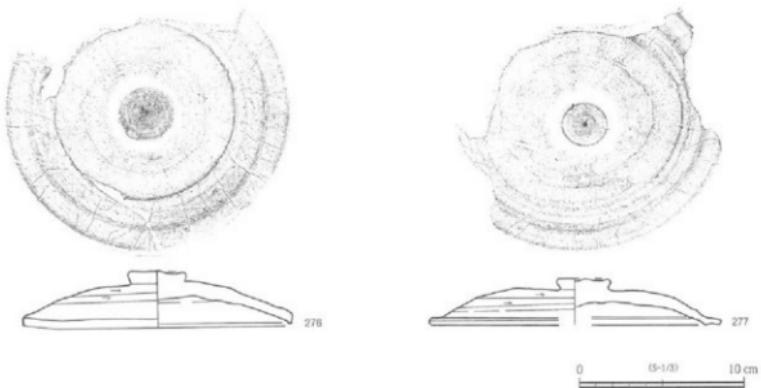
所見：焼失住居である。時期は、遺棄された遺物からみて8世紀前葉と考えられる。



第86図 第42号住居跡



第 87-1 図 第 42 号住居跡出土遺物①



第87-2図 第42号住居跡出土遺物②

第42号住居跡（表41）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
266	須恵器	环	15.6	5.3	10.3	白色、小繩、 針状鉢形、セ ルロイド状	2.5GY6/1 オリーブ灰	体部外面ロクロナデ/底部回転ヘラケ ズリ/口縁部や棱が磨滅	No.11	95% PL63
269	須恵器	环	15.2	4.5	9.6	白色、小繩、 针状鉢形	7.5Y5/2 灰オリーブ	体部外面ロクロナデ、体部下端及び底 部回転ヘラケズリ/口縁部内面擦付等	No.9	98% PL63
270	須恵器	环	15.2	4.7	8.4	白雲母、白色、 小繩、セロロ イド状	5GY6/1 オリーブ灰	体部外面ロクロナデ/底部回転ヘラ切 り後、回転ヘラケズリ	No.16-①	100% PL63
271	須恵器	环	15.6	4.7	8.4	雲母、白色、 小繩、セロロ イド状	5GY6/1 オリーブ灰	体部外面ロクロナデ、体部下端及び底 部手打ちヘラケズリ	No.1	98% PL63
272	須恵器	环	14.2	4.5	8.8	白色、石英、 小繩、セロロ イド状	5GS/1 緑灰	体部外面ロクロナデ/底部ヘラケズリ	No.10	98% PL63
273	須恵器	环	—	(3.3)	8.4	雲母、白色、 赤褐色、小繩、 セロロイド状	2.5GY5/1 オリーブ灰	体部外面ロクロナデ、体部下端手持ち ヘラクズリ/底部回転ヘラ切り後、手持 ちヘラケズリ	No.15	60% PL64
274	須恵器	高台付环	—	(2.9)	(10.8)	白色、小繩、 セロロイド状	10GY4/1 暗緑灰	体部外面ロクロナデ/底部回転ヘラケ ズリ/付高台、外面部ロクロナデ	No.6 1区	20% PL64
275	須恵器	蓋	16.2	3.7		白色、小繩、 セロロイド状	5GY6/1 青灰	体部外面回転ヘラケズリ、内面ロクロナ デ/天井部回転ヘラケズリ後ロクロナデ/ つまみ添付	No.13 No.16-2	95% PL64
276	須恵器	蓋	16.7	3.3		雲母、白色、 赤色粒子、セ ルロイド状	5GY5/1 オリーブ灰	体部外面回転ヘラケズリ。内面ロクロナ デ/天井部回転ヘラケズリ後ロクロナデ/ つまみ添付	No.12	85% PL64
277	須恵器	蓋	[17.6]	2.9		雲母、白色、 赤色粒子	2.5GY5/3 黄褐色	体部外面回転ヘラケズリ。内面ロクロナ デ/天井部回転ヘラケズリ後ロクロナデ/ つまみ添付	覆土	75% PL64
278	土器器	壺		(6.6)	4.5	雲母、白色、 赤褐色	5GY6/1 褐	体部外面ナデ	覆土 1区 4区	40% PL64
279	須恵器	夷	[24.8]	(5.0)		黒色、白色、 セロロイド状	10GY5/1 緑灰	体部外面ロクロナデ	1区	5% PL64

## 第43号住居跡（第88図、PL25）

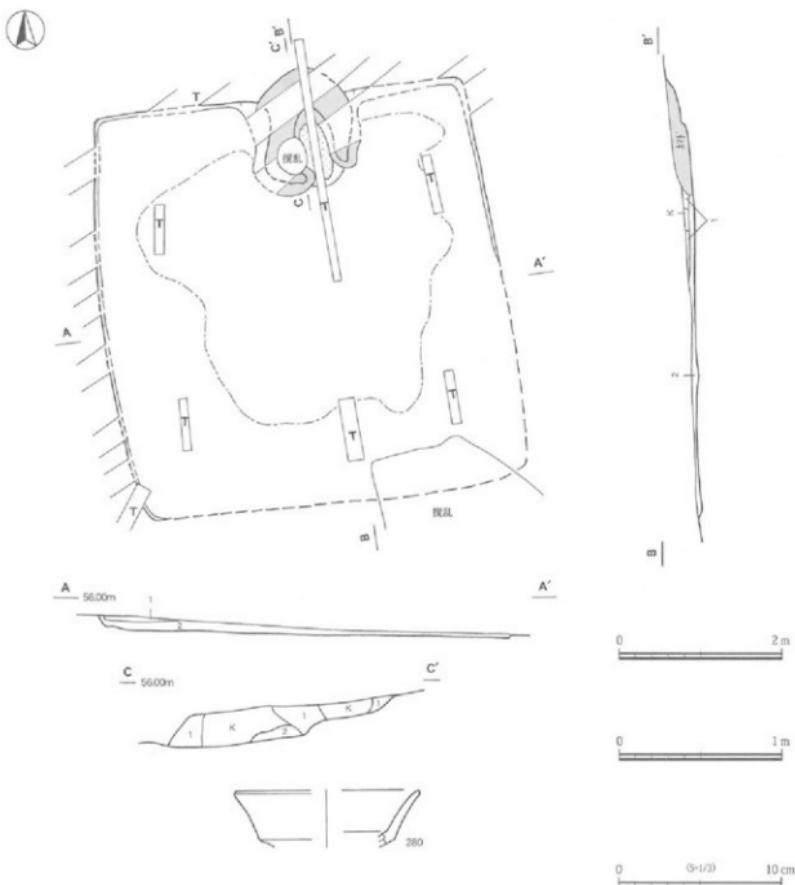
位置：E調査区E 2 グリッド、標高55.9m地点にある。

規模・平面形：耕作用トレンチャーによって破壊されており、また層厚が薄いため明確ではないが、遺存した床部の硬化面や壁部の状況から長軸5.06m、短軸4.86mで方形を呈するものと推測される。

主軸方向：N -6° - W

残存壁高：擾乱がひどく詳細は不明であるが、遺存部では確認面から最大高6cmを測る。

壁溝：検出されていない。



第88図 第43号住居跡・出土遺物

第43号住居跡（表42）

番号	種別	縦幅	口径	縦高	底径	粘土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	像考
280	須恵器	坏	(114)	(35)		白色、石英、 小砾、鉄状鉱物	2.5Y5/1 鐵灰青色	体感内外面クロロナテ、体感下端底部圓 鉛ヘラクスリ	3区1号	5% PL66

床：ほぼ平坦で、竈周辺から中央部にかけてよく硬化している。

ピット：床面からは、主柱穴、出入口ピットとともに検出されていない。

窓：北壁中央部やや東寄りにあり、砂質粘土で構築されているが、耕作用トレンチャーにより壊され、判然としない部分が多くあった。焚口部から煙道部までは約140cmほどであると推測されるが、煙道部もまた大きく破壊されている。袖部の最大幅は遺存した基部の最大範囲が約126cmである。煙道部は壁外へ20cm以上は削り出して造られていたと推測され、火床部から煙道部へは一旦段をなして緩やかに立ち上がる。

#### 土層解説

1. 黑褐色 炭化物多量、炭化粒子多量、焼土ブロック微量、焼土粒子微量
2. 灰褐色 砂質粘土ブロック少量、焼土ブロック少量

遺構埋没状態：搅乱や削平により遺存している土層は2層のみであるが、覆土に焼土粒子や炭化粒子が含まれており、入為的な埋没とみられる。

#### 土層解説

1. 黒褐色 ロームブロック中量、ローム粒子微量、焼土ブロック微量、瓦沼バニスブロック微量
2. 灰褐色 ロームブロック中量、炭化物微量、焼土ブロック微量、瓦沼バニスブロック微量、粘性高い

遺物：須恵器片11点（坏・高台付坏類6点、蓋2点、甕類3点）、土師器片11点（甕類）、鉄製品1点（不明）。

耕作用トレンチャーによって破壊されており、また層厚が薄いため遺物も少なく、固化できた遺物は1点のみであった。280の須恵器坏は本跡北東部の覆土中から確認されたものである。

所見：覆土の大半が削平されており遺物も少ないため、時期を特定するには至らなかったが、当遺跡の特徴として、住居の主軸がほぼ北を示す大型住居は9世紀代が多い傾向にある点や、須恵器の坏の形状から、9世紀代と推測した。

第44号住居跡（第89・90図、第43表、PL25・26・64～66）

位置：D調査区C4グリッド、標高57.0m地点にある。

重複関係：東部を第45号住居跡に掘り込まれている。

規模・平面形：西部は調査区外にあり、東部は第45号住居跡に壊され、また搅乱がひどいため、その規模は把握できなかつたが、遺存部の状況や当集落跡の住居跡形態からみて、北壁に竈が附設された方形または長方形を基調としたプランが想定される。

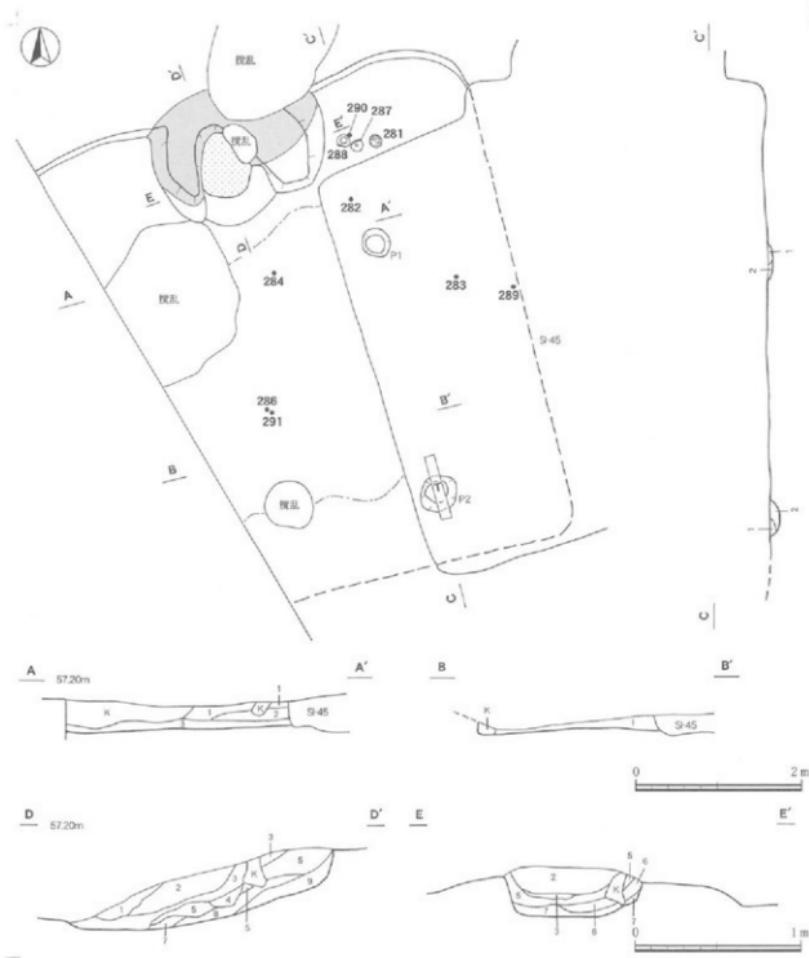
主軸方向：[N-18°-W]

残存壁高：確認面から最大高28cmを測り、ほぼ垂直に立ち上がる。

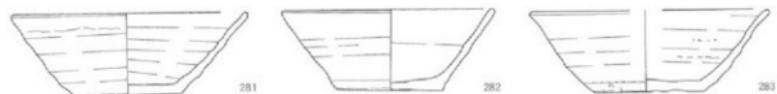
壁溝：検出されていない。

床：搅乱を受けていない本跡中央部では、ほぼ平坦で硬化している面が認められた。

ピット：2箇所確認され、いずれも主柱穴と考えられる。P1：32×30cm、深さ8cm、P2：44×44cm、深さ12cmである。



第89図 第44号住居跡



281

282

283



284



285



286



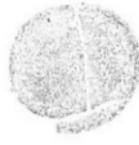
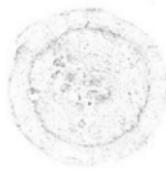
287



288



289



290



291



292



第 90-1 図 第 44 号住居跡出土遺物①



第90-2図 第44号住居跡出土遺物②

## P1土層解説

1. 黒褐色 ローム粒子微量、炭化物少量  
2. 紺色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、鹿沼バミスブロック少量

## P2土層解説

1. 紺色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化粒子微量、鹿沼バミス微量  
2. 單褐色 ロームブロック微量、炭化物微量、鹿沼バミス微量

竈：北壁部にあり、砂質粘土で構成されている。焚口部から煙道部までは164cmであるが、竈北東部は後世の搅乱により壊されている。天井部は崩落しており、竈土層断面図中、砂質粘土ブロックを含む第2層が崩落土と考えられる。袖部は比較的良好に遺存しており、袖部内面は被熱により赤変している。袖部の最大幅は約206cmである。火床面は床面とほぼ同レベルにあり、ゴツゴツと赤く硬化している。煙道部は壁外へ20cmほど削り出して造られ、火床部から緩やかに外傾し、最後にはほぼ垂直に立ち上がる。

## 土層解説

1. 單褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化粒子微量  
2. 褐色 炭化物少量、炭化粒子多量、燒土ブロック少量、砂質粘土ブロック少量、燒土粒子微量  
3. 單褐色 炭化物微量、炭化粒子少量、燒土粒子微量  
4. 黑褐色 ロームブロック少量、炭化物少量、炭化粒子少量、燒土ブロック微量、燒土粒子微量  
5. 單褐色 ロームブロック微量、燒土粒子ブロック微量、炭化粒子微量、鹿沼バミスブロック少量、縫まりあり  
6. 單褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、鹿沼バミスブロック少量  
7. 單赤褐色 燃土粒子中量、燒土ブロック少量、炭化物少量、炭化粒子少量、粘性あり、縫まり弱い  
8. にじみ褐色 燃土ブロック中量、燒土粒子中量、炭化物少量、炭化粒子少量、粘性・縫まりとも弱い  
9. 単褐色 燃土ブロック少量、燒土粒子中量、炭化物少量、炭化粒子少量

造構埋没状態：ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。第3層には窓構築材と考えられる砂質粘土ブロックが確認されている。

## 土層解説

1. 褐色 ロームブロック少量、鹿沼バミスブロック少量  
2. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化物少量、炭化粒子少量  
3. 單褐色 ローム粒子少量、砂質粘土ブロック微量、粘性弱い

遺物：須恵器片29点（环・高台付环類17点、蓋2点、盤2点、壺頭8点）、土師器片61点（环・高台付环類7点、壺類54点）。第45号住居跡と重複しているため蓮瓣部分は少なく、遺物は100点にも満たないが、完形に近い遺物が良好な状態で出土している。竈東側からは287・288の土師器杯がほぼ完形の状態で確認され、体部外面に墨書「七家」が認められた。ほかに壺上中からは鎌と刀子が出土しているが、これらの遺物は埋め戻しの段階で投棄あるいは埋土中に混入したものである。

所見：本跡発掘後に第45号住居跡へと建て替えられており、第45号住居跡より若干古い段階の9世紀後葉と考えられる。また土師器环2点の体部外表面からは墨書「七家」が記されている。

第44号住居跡（表43）

番号	遺跡名	断面	断面高	底径	粘 土	色 調	手 法 の 将 材 は か	出土位置	備 考
281	須恵器 环	14.6	52	6.5	白色、石英、小礫、黒色のセラロイド状の吹き出し	7SY5/2 オリーブ灰褐色	体部内外面クロロナダ/底部直筋ヘラ切 り後、一部手神ちハラケズリ、底部ヘラ 記号	No.3	100% PL64
282	須恵器 环	13.2	52	6.5	黒色、白色、石英、小礫	5GY6/1 オリーブ灰褐色	体部内外面クロロナダ/底部直筋ヘラ切 り後ナダ	No.4	90% PL65
283	須恵器 环	(14.8)	51	6.6	白色、石英、針状灰物	5GY6/1 オリーブ灰褐色	体部内外面クロロナダ/底部直筋ヘラ切 り後、底部無記号	No.6	50% PL65
284	須恵器 环	(13.9)	4.4	8.1	白色、石英、赤色、小礫、針状灰物	3BG4/1 暗青灰色	体部内外面クロロナダ/底部直筋ヘラ切 り後、一部手神ちハラケズリ、底部ヘラ 記号	No.10	50% PL65
285	須恵器 环	(13.8)	4.2	(8.7)	白色、石英、赤色	3BG5/1 古灰褐色	体部内外面クロロナダ/底部直筋ヘラ切 り後、無記号	K	30% PL65
286	須恵器 高台付环	(11.6)	4.9	(7.6)	白色、小礫	5HG5/1 青灰褐色	体部内外面クロロナダ/底部直筋ヘラ切 り後、合谷台、ロクロナダ	No.8	40% PL66
287	須恵器 环	(12.8)	51	(7.3)	白色、石英、小礫、セラロイド状	5HG5/1 古灰褐色	体部内外面ヘラケズリ/底部直筋ヘラ切 り後、合谷台、ロクロナダ	No.11	30% PL65
288	須恵器 环	(14.8)	50	(8.0)	白色、石英、小礫、針状灰物	5GY6/1 オリーブ灰褐色	体部内外面クロロナダ	3区1層灰土	20% PL66
289	須恵器 环	(2.9)	(3.8)	小	白色、石英、小礫	5HG5/1 青灰褐色	体部内外面ヘラケズリ/底部直筋ヘラ切 り後、底部無記号	2区2層灰土	5%
290	土師器 环	15.6	4.7	7.2	長石、白色、小礫、赤色絨毛、針状灰物	5YR6/6褐色	体部内外面クロロナダ、内面ヘラミガキ 後半色処理、体部外面墨書き「七家」、体 部墨書きヘラケズリ/底部直筋ヘラケ ズリ	No.2	85% PL66
291	土師器 环	14.5	4.4	7.8	長石、白色、小礫、赤色絨毛、針 状灰物	5YR6/6褐色	体部内外面クロロナダ、内面ヘラミガキ 後半色処理、体部外面墨書き「七家」/底 部墨書きヘラケズリ	No.1	90% PL66
292	土師器 环	(14.2)	3.6	8.0	白色、石英、小礫、赤色絨毛、針 状灰物	5YR6/6褐色	体部内外面クロロナダ、内面ヘラミガキ 後半色処理、体部外面墨書き「七家」/底 部墨書きヘラケズリ	No.7	60% PL66
293	土師器 环	(2.7)			青白、白色、小礫、赤色絨毛	2SY4/R6 帶色	体部外表面墨書き「七口」、内面墨色処理	3区1層灰土	5%
294	土師器 高台付环	(2.8)	(6.0)		青白、白色、小礫、赤色絨毛	5YR6/6褐色	体部内外面クロロナダ、内面ヘラミガキ 後半色処理、体部外面墨書き「七家」、体 部墨書きヘラケズリ/底部直筋ヘラケ ズリ	2区2層灰土	20% PL66
295	土師器 环	(3.3)	(6.4)		青白、白色、小礫、赤色絨毛	5YR7/4 にぶい優色	体部内外面クロロナダ、内面ヘラミガキ 後半色処理/合谷台、ロクロナダ	5区	20% PL65
296	土師器 高台付环	(4.0)	(9.0)		青白、白色、小礫、針状灰物	5YR5/6褐色	体部内外面クロロナダ、内面ヘラミガキ 後半色処理/合谷台、ロクロナダ	2区2層灰土	20% PL66
297	土師器 高台付环	(3.3)	(6.4)		青白、白色、小礫、赤色絨毛	5YR7/4 にぶい優色	体部内外面クロロナダ、内面ヘラミガキ 後半色処理/合谷台、ロクロナダ	5区	20% PL65
298	土師器 高台付环	(4.0)	(9.0)		青白、白色、小礫、針状灰物	5YR5/4 にぶい優色	体部内外面クロロナダ、内面ヘラミガキ 後半色処理/合谷台、ロクロナダ	5区	20% PL67
299	須恵器 壺蓋	(17.0)	3.7	8.8	黒色、白色、石英、小礫、赤色 セラロイド状の吹き出し	2SG7/4 リード灰褐色	体部内外面クロロナダ/底部直筋ヘラ切 り、底部ヘラ記号/合谷台、ロクロナダ	No.1	60% PL66
300	須恵器 壺蓋	(2.5)			黒色、白色、セラロイド状 の吹き出し	10HG6/1 青灰褐色	内面クロロナダ/透かしをヶ削ヘラで 穿つ	1区2層灰土	5%

番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	特 質	出上位置	備 考
291	壺	(11.8)	3.9	0.2	41.2	粘土	万部は泥状	No.8	PL66
300	刀子	11.5	1.2	0.3	14.3	粘土	底部に一部木質残存	No.6	PL67

## 第45号住居跡（第91・92図、第44表、PL25・26・67・68）

位置：D調査区C 4グリッド、標高57.0m地点にある。

重複関係：西部で第44号土坑を掘り込んでいる。

規模・平面形：長軸 [5.44] m、短軸5.07mで方形もしくは長方形を呈するものと推測される。

主軸方向：N - 22° - W

残存壁高：確認面から最大高45cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：検出されていない。

床：ほぼ平坦で、竪構築材と推測される砂質の粘土塊が床面に飛散していた。また住居中心部がよく硬化している。

ピット：4箇所確認され、いずれも主柱穴と考えられる。P1: 52×42cm、深さ66cm、P2: 62×54cm、深さ64cm、P3: 65×54cm、深さ72cm、P4: 56×56cm、深さ52cmである。また、柱抜き取りの痕跡がすべてのピットから確認された。

## P1土層解説

1. 褐色 ロームブロック中量、炭化物微量、縮まりあり
2. 褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量、縮まりあり
3. 黒褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量、焼土粒子微量
4. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量、焼土粒子微量
5. 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量、縮まりあり
6. 褐色 ロームブロック少量、炭化物微量、縮まりあり

## P2土層解説

1. 黑褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量
2. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量
3. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量、縮まり弱い（柱抜き取り痕）

## P3土層解説

1. 褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、焼土バニス微量
2. 灰褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量
3. 黑褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量、粘性・縮まりとともに弱い（柱抜き取り痕）

## P4土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量、焼土バニス微量
2. 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量
3. 黑褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量、粘性・縮まりとともに弱い（柱抜き取り痕）

電：北壁中央部やや東寄りにあり、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは129cmである。天井部は崩落しており、壇土層断面岡中、砂質粘土ブロックや粒子を比較的多量に含む第6層が崩落土と考えられる。袖部の最大幅は約200cmで比較的良好に遺存しており、袖部内面は被熱により赤変している。火床部は床面から12cmほど掘りくぼめて火床面としており、ゴツゴツと赤く硬化している。煙道部は床外へ94cmほど削り出して造られ、火床部から外傾して立ち上がる。

## 土層解説

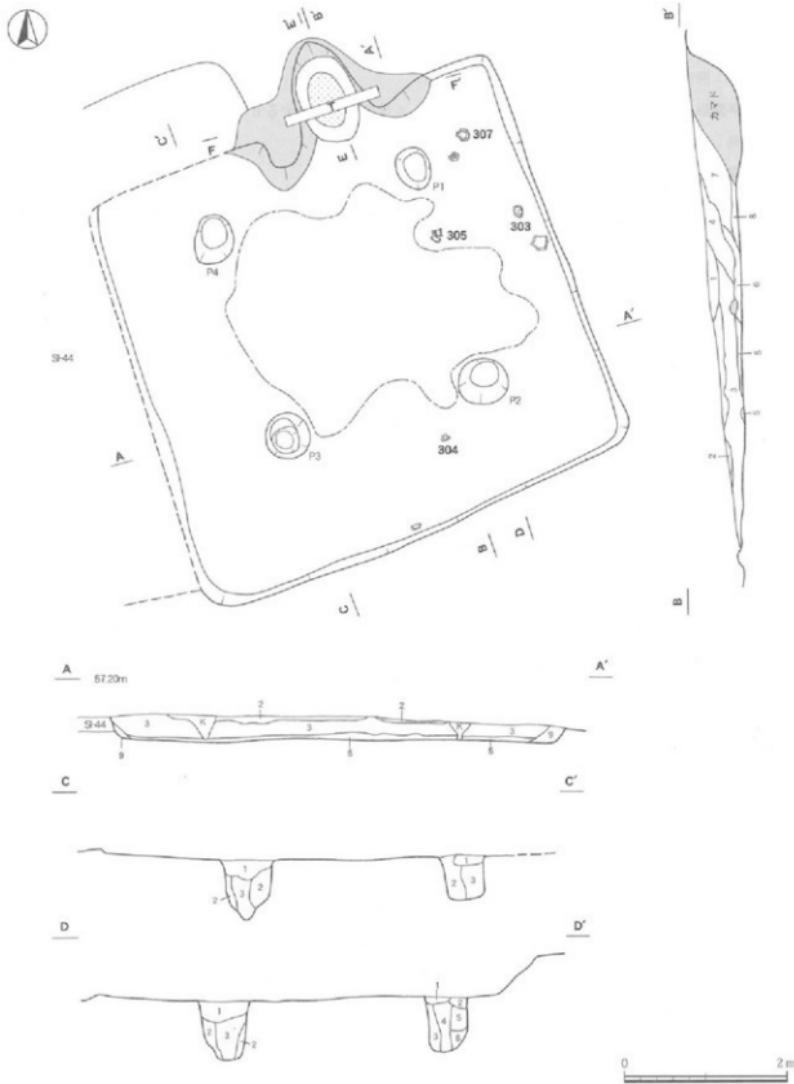
1. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、焼土ブロック微量
2. 灰褐色 炭化物少量、焼土粒子微量、焼土バニスブロック微量
3. 緩衝層 壕底付近は、炭化粒子少量、燒土粒子微量
4. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
5. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
6. 細赤褐色 炭化物微量、炭化粒子微量、焼土ブロック中量、焼土粒子微量
7. 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子少量、燒土粒子微量
8. 灰褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、焼土ブロック少量、焼土粒子微量、炭化物微量
9. 細赤褐色 焼土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化物少量、炭化粒子少量、粘性あり、縮まり弱い

遺構埋没状態：ロームブロック主体で粘土粒子や炭化粒子を含む人為的な堆積状況を示している。第

4・7層には竪構築材と考えられる砂質粘土ブロックが確認されている。

## 土層解説

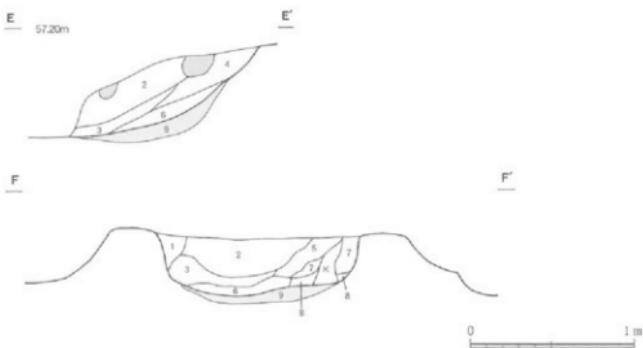
1. 褐色 ロームブロック中量、ローム粒子少量
2. 灰褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、焼土ブロック少量、焼土粒子微量、炭化物微量
3. 灰褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック少量、焼土粒子少量、炭化物微量、縮まり弱い
4. 灰褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、焼土ブロック少量、焼土粒子微量
5. 灰褐色 ローム粒子少量、炭化物微量
6. 灰褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量
7. 灰褐色 ロームブロック中量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック少量、焼土ブロック少量
8. 黒褐色 ロームブロック微量、炭化物微量、焼土ブロック微量、砂質粘土ブロック少量、粘性弱い
9. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量



第91-1図 第45号住居跡①

遺物：須恵器片47点（环・高台付环類38点、蓋3点、盤2点、高盤2点、壺類2点）、土師器片146点（环・高台付环類22点、皿1点、壺類123点）、灰釉陶器1点（長頸瓶）。竈内と竈東側及び中央部やや東寄りを主体に散見される。床面直上から出土した遺物は304の須恵器环で、中央部やや南寄りから伏せた状態で確認された。なお、底部にはヘラ記号が認められる。ほかの遺物は埋め戻しの段階で投棄あるいは埋土中に混入したものである。

所見：本跡は第44号住居跡を建て替えた住居である。また、本跡の廃絶時期は9世紀後葉に比定される第44号住居跡とさほど時期差がない、遺物からは判断するのが困難であったため、土層の断面観察を主にし新旧を判断した。

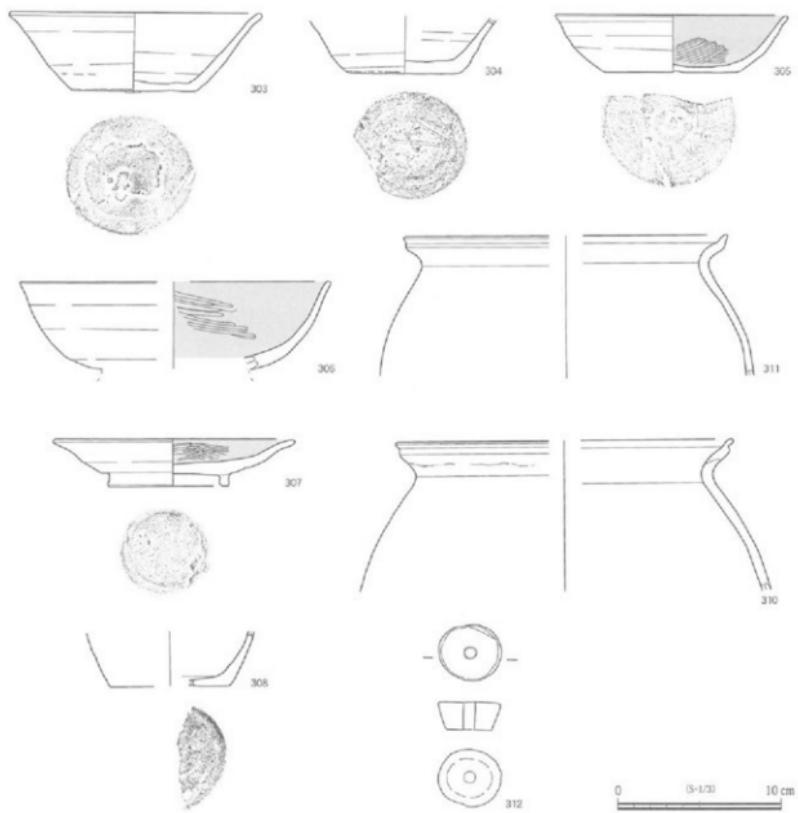


第91-2図 第45号住居跡(2)

第45号住居跡（表44）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
303	須恵器	环	15.2	5.0	7.3	長石、石英、 針状鉱物	7SY5/2 灰オリーブ色	体部内外面クロコナデ。外面不明墨書き。 底部回転ヘラ切り、作業台の圧痕あり	No.3	100% PL67
304	須恵器	环		(3.6)	6.8	白色、石英、 オリーブ色	7SY6/3	体部内外面クロコナデ/底部回転ヘラ切り、 底部へラ記号	No.6	40% PL67
305	土器器	环	(13.9)	3.7		雲母、白色、 石英、小穂	SYR6/6褐色	体部内外面クロコナデ。外下端ヘラタケ ズリ、内面ヘラミガキ後黒色処理/底部 回転ヘラケズリ	No.5	50% PL67
306	土器器	高台付环	(18.6)	5.5		雲母、白色、 石英、小穂	SYR7/4 にぶい褐色	体部内外面クロコナデ。外下端回転ヘ ラケズリ、内面ヘラミガキ後黒色処理/3E 付高台、ロコロナデ	3E	20% PL67
307	土器器	高台付环	13.6	3.05	7.3	長石、石英、 赤色粘子、針 状鉱物	SYR5/6 暗赤褐色	体部内外面クロコナデ。外下端回転ヘ ラケズリ、内面込み平行、受部堆積の ヘラミガキ後黒色処理/付高台、ロコロ ナデ	No.1	85% PL67
308	須恵器	壺		(3.6)	(7.2)	白色、石英、 小穂	SGG5/1 青灰色	明治内外面クロコナデ。内外面自然船/ 底部回転ヘラ切り	P1	10% PL67
310	土器器	壺	(30.2)	(9.9)		雲母、褐色、 白色、石英、 赤褐色	SYR4/6	削部輪積み、内外面ナデ/頭部ヨコナデ/ 口縁部ヨコナデ	4E	10% PL67
311	土器器	壺	(19.4)	(9.9)		雲母、褐色、 白色、石英、 小穂	SYR5/4 にぶい赤褐色	明治内外面及び外側上部ヘラナデ、外側中 部ナデ/頭部内外面ヨコナデ/口縁部ヨ コナデ	カマド覆土	10% PL68

番号	器種	径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	材質	特徴	出土位置	備考
312	粘鍍耳	3.8	1.8	0.7	32.3	流紋岩	ていねいに揃って整形	No.8	



第92図 第45号住居跡出土遺物

#### 第47号住居跡（第93図、PL46）

位置：D調査区C4グリッド、標高59.3m地点にある。

規模・平面形：調査当初、火床面と砂質粘土ブロックの検出により住居跡の竈と断定したが、竈以外は確認できなかったため、詳細は不明である。

主軸方向：竈のみの判断によるため断定できないが、N-2°-6°-Wと推測した。

残存壁高：削平されているため詳細は不明である。

壁溝：検出されていない。

床：検出されていない。

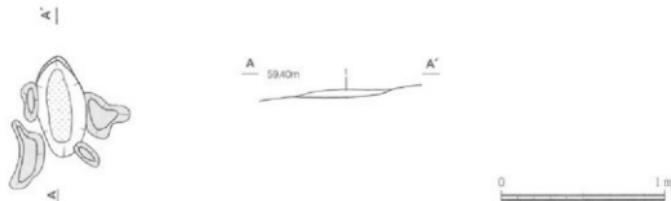
ピット：検出されていない。

竈：径80cmほどの焼土が検出されたが、砂質粘土ブロックを含んでいることや地山に逆U字形の掘り込みが認められたため、竈と判断した。火床面と推測される面は赤変硬化しており、焼土のブロック化が認められた。

土層解説  
上 赤褐色 焼土ブロック少量、焼土粒子少量、炭化物少量、炭化粒子少量、縛まり弱い

遺物：須恵器片2点（环・高台付环類）、土師器片2点（壺類）。これらの遺物はすべて竈内出土の遺物であるが、細片のため図化できず掲載していない。

所見：本跡の大半が削平され、竈のみの調査であったため十分に情報を得ることができず、時期は不明である。



第93図 第47号住居跡

#### 第48号住居跡（第94図、第45表、PL68）

位置：F調査区D4グリッド、標高52.4m地点にある。

規模・平面形：調査当初、火床面と砂質粘土ブロックの検出により住居跡の竈と断定したが、竈以外は確認できなかつたため、詳細は不明である。

主軸方向：竈のみの判断によるため断定できないが、N-3°-Wと推測した。

残存壁高：削平されているため詳細は不明である。

壁溝：検出されていない。

床：検出されていない。

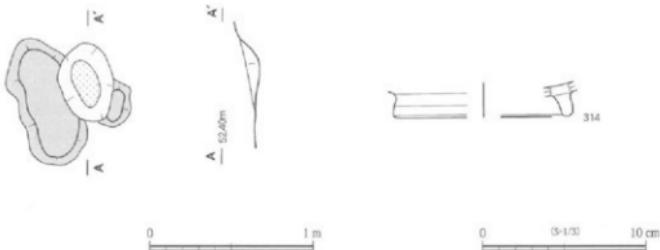
ピット：検出されていない。

竈：径60cmほどの焼土が検出されたが、砂質粘土ブロックを含んでいることや地山の逆U字形の掘り込みが認められたため竈と判断した。なお、火床面と推測される面は赤変硬化しており、焼土のブロック化が認められた。

土層解説  
上 亂れ帶 焼土ブロック少量、焼土粒子少量、炭化物微量、炭化粒子少量、縛まり弱い

遺物：須恵器片9点（环・高台付环類3点、蓋1点、盤1点、壺類4点）、土師器片7点（壺類）。これらの遺物はすべて竈内出土の遺物で、掲載した遺物は火床面から検出されたものである。

所見：本跡の大半が削平され竈のみの調査であったため十分に情報を得ることができず、時期は不明である。



第94図 第48号住居跡

第48号住居跡（表45）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴	はか	出土位置	備考
314	須恵器	高台付环		(2.2)	(0.6)	黒色・白色	10Y5/2 オリーブ灰色 ナゲ	体部内外面ロクロナデ/付高台、ロクロ	カマド	3% PL68	

第51号住居跡（第95図、第46表、PL68）

位置：D調査区B 3グリッド、標高62.7m地点にある。

規模・平面形：調査当初、火床面と砂質粘土ブロックの検出により住居跡の竈と断定したが、竈以外は確認できなかったため、詳細は不明である。

主軸方向：竈のみの判断によるため断定できないが、N-2°~4°-Eと推測した。

残存壁高：削平されているため詳細は不明である。

盤溝：検出されていない。

床：検出されていない。

ピット：検出されていない。

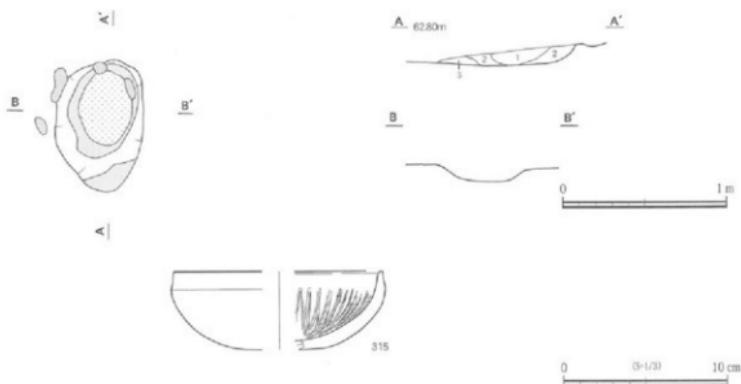
竈：径160cmほどの焼土が検出されたが、砂質粘土ブロックを含んでいたことや地山の逆U字形の掘り込みが認められたため竈と判断した。なお、火床面と推測される面は赤変硬化しており、焼土のブロック化が認められた。

#### 土層解説

- 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量
- 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化物少量、炭化粒子少量、粘性あり、繊維り弱い
- 灰褐色 焼土ブロック中量、焼土粒子中量、炭化物少量、炭化粒子少量、粘性・繊維りともに弱い

遺物：土器器片6点（环・高台付环類4点、壺類2点）。これらの遺物はすべて竈内出土の遺物で、掲載した遺物は火床面から検出されたものである。

所見：本跡の大半が削平され竈のみの調査であったため十分に情報を得ることができず、時期は不明である。



第95図 第51号住居跡・出土遺物

第51号住居跡（表46）

番号	棟 別	部 構	口 径	深 高	底 径	胎 土	色 調	手 法 の 特 徴 は か	出 土 位 置	標 号
315	土器器	环	[124]	48		雲母	SYRL/3 黒褐色	体部外側ハケズリ後ヘラナダ、内面致 射状ヘラミガキ/口縁部ヨコナダ	埴土	30% PL68

第52号住居跡（第96・97図、第47表、PL68）

位置：D調査区C 3グリッド、標高61.5m地点にある。

規模・平面形：本跡の東部は削平されており規模は明確に把握できなかったが、長軸〔3.60〕m、短軸〔3.28〕mで方形もしくは長方形を呈するものと推測される。

主軸方向：N -42° - W

残存壁高：層厚が薄く詳細は不明であるが、遺存部では確認面から最大高10cmを測る。

盤溝：検出されていない。

床：ほぼ平坦で、竈前面の住居中心部がよく硬化している。なお、北東部には砂質粘土ブロックや焼土が散在していた。

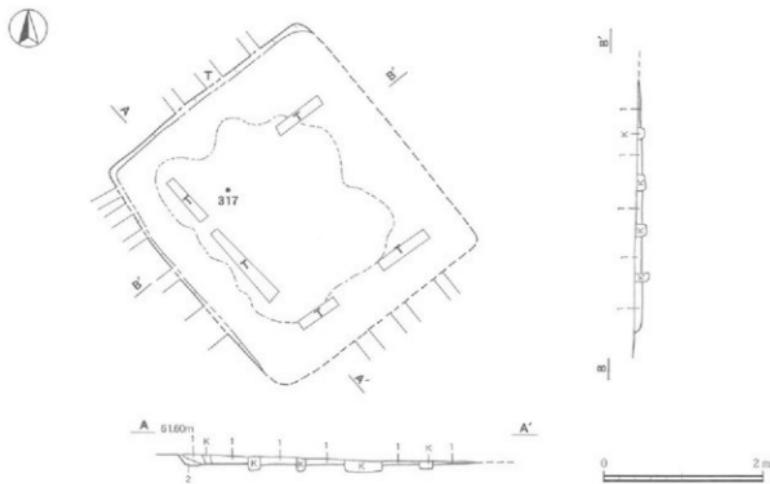
ピット：床面からは主柱穴、出入口ピットともに検出されていない。

竈：床面に広がる竈構築材や焼土の範囲から、竈は北東壁部に附設されていたと推測されるが、耕作用トレンチャーにより壊されている。

遺構埋没状態：層厚が薄く明確に捉えることはできなかった。

#### 土層解説

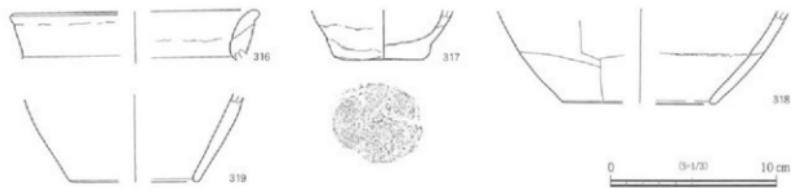
1. 喀 暗 褐 色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化粒子微量、焼土ブロック少量、砂質粘土ブロック少量
2. 喀 暗 褐 色 ロームブロック微量、炭化粒子微量



第96図 第52号住居跡

遺物：須恵器片12点（壺・高台付壺類4点、蓋4点、盤1点、甕類3点）、土師器片54点（壺・高台付壺類11点、瓶3点、甕類40点）。耕作用トレンチャによる搅乱を受けており、出土したこれら遺物が本跡に伴うものであるかどうかは判然としないが、床面からは317の土師器甕1点が確認された。その他はすべて覆土中から出土したものである。

所見：竈は耕作用トレンチャにより壊されており、床面に広がる竈構築材や焼土の範囲から、竈は北東壁部に附設されていたと推測し、また床面の一部が硬化していることも併せ、住居と判断し調査を行った。なお、覆土の大半が削平されており遺物も少なく細片であるため、時期を特定するには至らなかった。



第97図 第52号住居跡出土遺物

第52号住居跡（表17）

番号	種類	形様	口径	蓋高	蓋径	胎土	色調	手法の着葉ほか	出土位置	備考
316	土師器	甕	(15.2)	(3.5)	-	黒色、白石英 白色、石英	SVR4/6 SVR4/6	削面解像度、内外面ヨコナタ	1区	5% PL68
317	土師器	小形甕	-	(3.4)	4.8	青色、白色、石英 小甕、白灰	SVR4/6 SVR4/6	削面解像度、内外面ヨコナタ/底部ナタ・ 壁ヘリテラ	Re1	20% PL68
318	土師器	甕	-	(6.0)	(8.4)	青色、白色、石英 小甕、石英	SVR4/6 SVR4/6	削面外表面ヨコヘリテラ、内面解像度、焼付 のハーナグ、下部被覆位ヘリテラ	1区	5% PL68
319	土師器	甕	-	(6.0)	(7.0)	青色、白色、石英 小甕、石英	SVR4/3 SVR4/3	削面外表面ヨコヘリテラ、横筋のヘリタスリ後壁位のヘ カマド置土 ナタ、下部被覆ヘリテラ	-	5% PL68

第53号住居跡（第98・99図、第48表、PL27・28・68～70）

位置：D調査区C3、D3グリッド、標高61.9m地点にある。

規模・平面形：長軸6.60m、短軸6.00mで長方形を呈する。

主軸方向：N-35°-W

残存壁高：確認面から最大高60cmを測り、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝：削平されている東部は不明であるが、その他は全周し、幅24～40cmで巡る。断面はじ字形である。

床：ほぼ平坦で、堅膜を除く全域で硬化している。東壁寄りには焼土が固まって確認されたが、床面は火熱を受け取れず、住居跡施設時に投棄されたものと推測される。

ピット：5箇所確認され、P1～P4は柱穴でP5は出入口ピットと考えられる。P1：62×60cm、深さ76cm、P2：54×54cm、深さ68cm、P3：68×56cm、深さ66cm、P4：72×62cm、深さ42cm、P5：28×26cm、深さ12cmである。なお、P4で柱抜き取りの痕跡が、全てのピットで柱当たりの痕跡が確認された。

#### P1土層解説

- 1. 黒褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量
- 2. 黑褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量、縮まり弱い

#### P2土層解説

- 1. 黑褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量
- 2. 黑褐色 炭化物少々、炭化粒子微量

#### P3土層解説

- 1. 黑褐色 ローム粒子微量、炭化物微量、炭化粒子少量、粘性、縮まりともに弱い
- 2. 黑褐色 ローム粒子微量、炭化物微量

#### P4土層解説

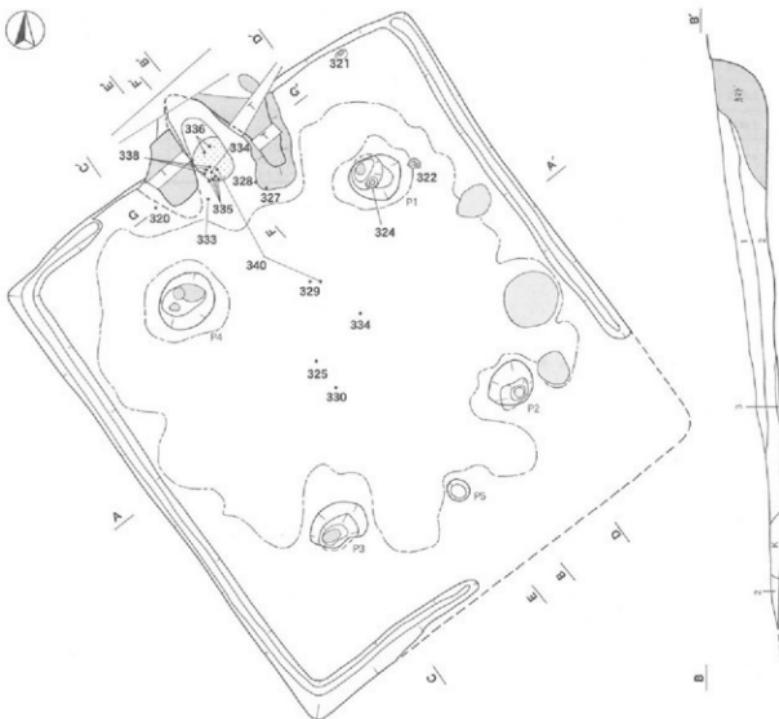
- 1. 黑褐色 炭化物少々、炭化粒子微量
- 2. 黑褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量、縮まり弱い（柱抜き取り底）
- 3. 黑褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量

#### P5土層解説

- 1. 黑褐色 ローム粒子微量、炭化物微量、縮まり弱い
- 2. 黑褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、燒土粒子微量

窓：北壁中央部にあり、砂質粘土で構築されている。耕作用トレレンチャによって壊されている部分があったが、焚口部から煙道部までは160cmと推測される。天井部は崩落しており、竪土層断面図中、砂質粘土ブロックを含む第2・3層が崩落層と考えられる。また同様に砂質粘土ブロックを含む第7層は、内壁が崩落したものと推測される。袖部の最大幅は約180cmで比較的良好に保存しており、内面は被熱により亦変色している。また袖部の基礎は粘土ブロックで構築されたもので、火床部は床面からわずかに掘りくぼめて火床面としており、ゴツゴツと赤く硬化している。煙道部は壁外へ74cmほど削り出して造られ、火床部からほぼ垂直に立ち上がる。

A

A<sub>62.10m</sub>

A'

C



C'

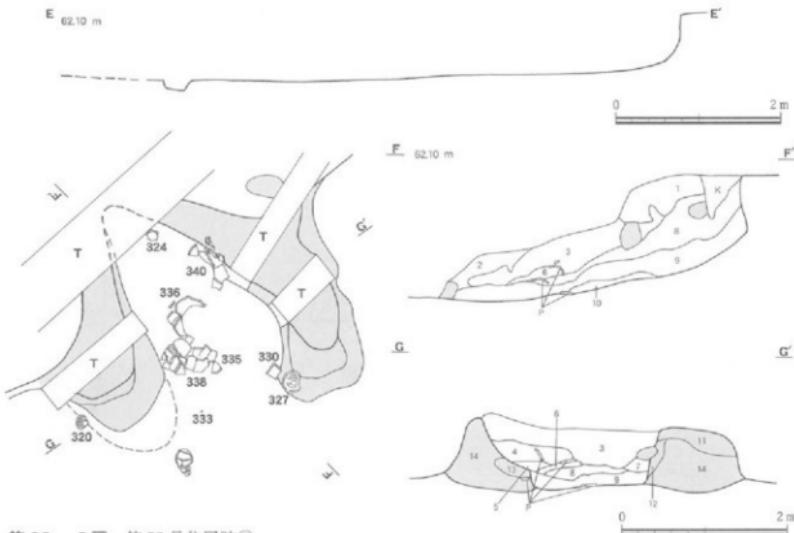
D



D'

0 2 m

第98-1図 第53号住居跡①



第98-2図 第53号住居跡②

## 土層解説

1. 極 黒 色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、焼土ブロック微量、焼土粒子微量
2. 極 灰 黒 色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック少量、焼土粒子少量、炭化物微量
3. 喧 開 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量、砂質粘土ブロック少量
4. 開 色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
5. 喧 開 色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化物微量
6. 開 色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化物微量
7. 開 色 炭化物微量、焼土ブロック少量、砂質粘土ブロック少量
8. 黒 開 色 炭化物中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量、砂質粘土ブロック少量
9. 喧炭開 色 ロームブロック微量、炭化物中量、炭化粒子少量、焼土ブロック微量、焼土粒子微量
10. 黑 開 色 炭化物少量、炭化粒子少量、燒土粒子少量、粘性・締まりとともに弱い
11. 灰 開 色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、焼土ブロック少量、砂質粘土ブロック中量
12. 灰 開 色 ロームブロック微量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、炭化物微量
13. 極 灰 黒 色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、砂質粘土ブロック少量
14. 灰 開 色 ローム粒子少量、焼土ブロック少量、焼土粒子少量、炭化物微量、締まり弱い

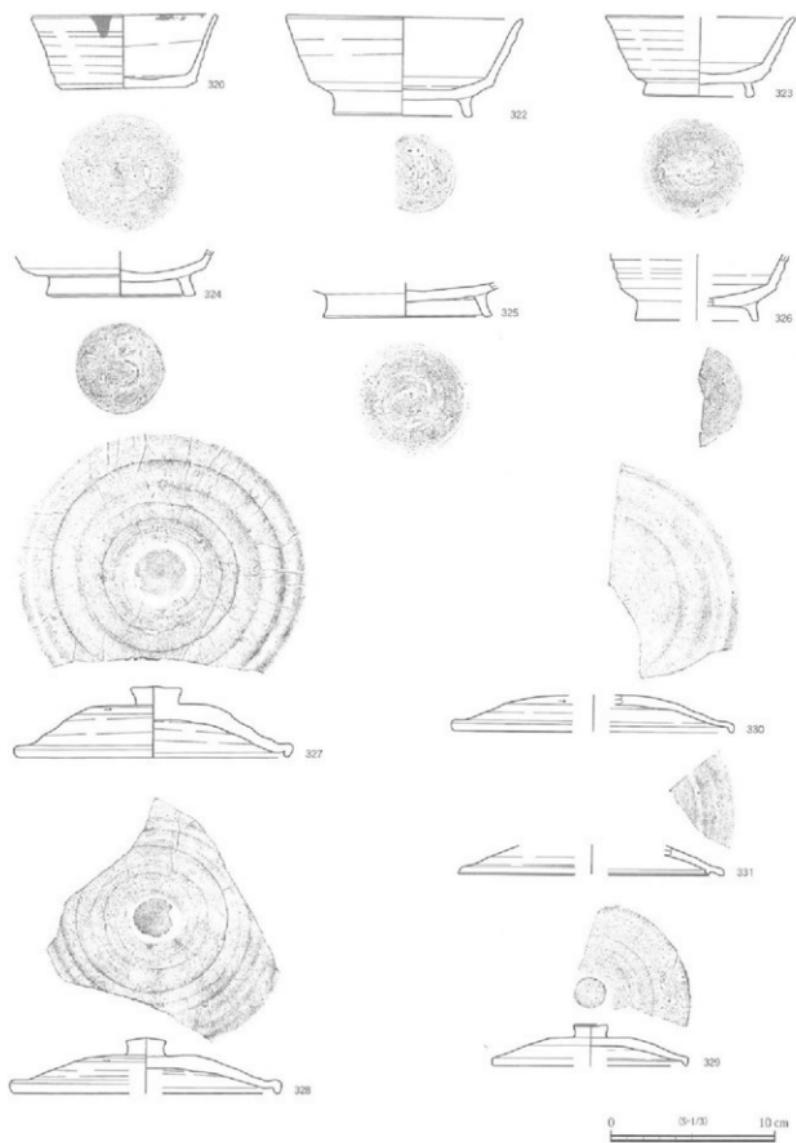
**遺構埋没状態**：覆土下層（第2・3層）はロームブロック主体の人为的な堆積状況を示しているが、覆土上層（第1層）は粒子が細かく均一的な堆積状況を示しており、山頂側からの自然堆積である。

## 土層解説

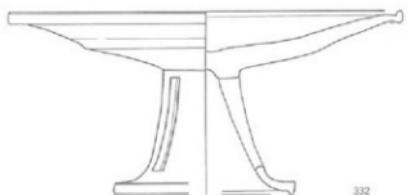
1. 極 黒 色 ローム粒子微量、炭化粒子少量、締まり弱い
2. 極 黒 色 ロームブロック中量、ローム粒子少量
3. 喧 開 色 ロームブロック微量、ローム粒子少量

**遺物**：須恵器片243点（环・高台付环類90点、蓋55点、壺31点、高盤17点、瓶1点、甕類49点）、土師器片585点（环・高台付环類7点、甕類578点）。竈内には遺棄された335・336の土師器壺に混じり投棄された324の須恵器环、327の須恵器蓋が確認された。また竈天井部崩落後にも投棄された遺物が散見される。その他、住居跡全域に投棄あるいは遺棄された遺物が認められるが、特に中央部と竈東側に遺物が集中していた。なお、東壁周辺の床面には焼土塊が認められたが、床面は火熱を受けておらず、投棄されたものと考えられる。

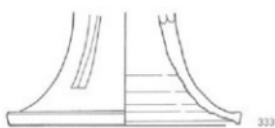
**所見**：竈内から大量の土器片が確認されたが大半は投棄されたもので、天井部崩落土の上にも須恵器环や蓋が認められた。時期は遺物からみて8世紀中葉～後葉と考えられる。



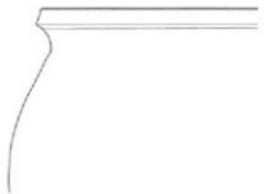
第99-1図 第53号住居跡出土遺物①



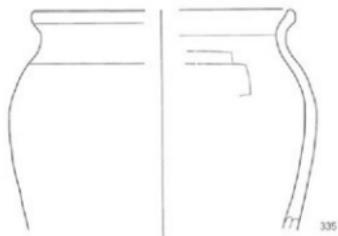
332



333



334



335



336



337



338

0 (5-1/3) 10 cm

第 99-2 図 第 53 号住居跡出土遺物(②)



第99-3図 第53号住居跡出土遺物③

第53号住居跡（表48）

番号	種別	器種	口径	呑高	底種	胎土	色調	手法の等級	出土位置	備考
320	須恵器	环	11.2	4.6	7.4	黑色、白色、石英、小理、針状部物	SG4/1 暗緑灰色	体部内外面クロロナデ/口唇部磨滅/底部付着、欠損部にも焼付着	No8	98% PL69
322	須恵器	高台付环	14.1	6.3	8.3	白色、長石、小理、針状部物	25GY5/1 オリーブ灰色	体部内外面クロロナデ/底部回転ヘラクズリ、底部ヘラ記号(二)付高台、内外面クロナデ/腹付き磨滅	No2	80% PL69
323	須恵器	高台付环	[11.4]	5.0	6.7	白色	5GY4/1暗オリーブ灰色	体部内外面クロロナデ/底部回転ヘラクズリ、底部ヘラ記号(二)付高台、内外面クロロナデ	No2	50% PL69
324	須恵器	高台付环	(2.8)	8.8		白色、小理	10Y6/2 オリーブ灰色	体部内外面クロロナデ/底部回転ヘラクズリ/付高台、内外面クロロナデ	No3	40% PL68
325	須恵器	高台付环	(2.2)	10.0		白色、小理、針状部物	10BG5/1 青灰色	体部内外面クロロナデ/底部回転ヘラクズリ/付高台、内外面クロロナデ	No11 3E1層	20% PL68
326	須恵器	高台付环	(4.2)	(7.4)		白色、白色、小理	10BG5/1 青灰色	体部内外面クロロナデ/付高台、内外面クロロナデ	H11層 4E1層	20%
327	須恵器	蓋	16.9	4.5		砂粒、黑色、白色、長石、小理	5BG6/1 青灰色	体部内外面クロロナデ/天井部回転ヘラクズリ/つまみ部添付後クロロナデ/体部内面シラ記号(一)内外面とも重ね焼きによる変色	No1	90% PL69
328	須恵器	蓋	[16.3]	3.5		黒色、白色、長石、石英、針状部物	10BG5/1 青灰色	体部内外面クロロナデ/天井部回転ヘラクズリ/つまみ部添付後クロロナデ	No2	55% PL69
329	須恵器	蓋	[11.8]	2.6		白色、小理	5DG6/1 青灰色	体部内外面クロロナデ/天井部回転ヘラクズリ/つまみ部添付	No9	25% PL69
330	須恵器	蓋	[17.0]	(2.3)		白色、石英、小理	5G4/1 暗緑灰色	体部内外面クロロナデ/天井部回転ヘラクズリ	No12	25% PL69
331	須恵器	蓋	[16.8]	(1.7)		黒色、白色、石英	10BG5/1 青灰色	体部内外面クロロナデ/天井部回転ヘラクズリ	龍方	5% PL69
332	須恵器	高臺	24.2	11.5	[11.2]	白色、白色、石英	5BG6/1 青灰色	体部内外面クロロナデ/窓を4ヶ所ヘラカマド糊方	カマド糊方	60% PL70
333	須恵器	高臺	(7.2)	14.0		黒色、白色、石英	10BG6/1 青灰色	体部内外面クロロナデ/窓を4ヶ所ヘラカマド糊方	カマド糊方	20% PL70
334	須恵器	甕	[28.4]	(11.6)		砂粒、長石、石英、小理、針状部物	5BG4/1 暗青灰色	内外面クロロナデ/銅部外面にへら先による接痕	No10	5% PL70

番号	棟別	基盤	L/W	高さ	底径	軸	色	手法の特徴	出土位置	参考
335	土陣器	裏	(162)	(138)	高台、白色、 小柄、 赤褐色	SYRS/6	横腹内面ヘラチグ、外面ナゲ/輪部ヨコ ナゲ/口縁部ヨコナゲ/二次焼成を受ける	カマドNo30	20% PL70	
338	土陣器	裏	(210)	(120)	高台、白色、 スワリ	SYBS/2	横腹内面ヘラチグ、 に赤い赤褐色	カマドNo10	20% PL70	
337	土陣器	裏	(172)	(60)	高台、白色、 石英	2SY3S-6C	横腹内面ヘラチグ、外面ナゲ/輪部ヨコ ナゲ/口縁部ヨコナゲ	2区1層	10% PL70	
338	土陣器	裏	(228)	(72)	高台、白色、 石英、小柄	SYR4/4	横腹内面ヘラチグ、外面ナゲ/輪部ヨコ ナゲ/口縁部ヨコナゲ	カマド湯舟	10%	
339	土陣器	裏	(24)	(8.4)	高台、白色、 石英、小柄	2SY4/4-6	横腹内面ナゲ、外面ヨコケメリ/底部丸 穴	カマド湯舟	5%	
340	土陣器	裏	(222)	(165)	素母、砂粒	SYBS/3	口縁部・瓶部内外面ヨコナゲ/横部内面 ヘラチグ/外面ナゲ	カマドNo.8 10、1区1層	20% PL70	

## 第55号住居跡（第100・101図、第49表、PL28・70）

位置：D柵査区C 3 グリッド、標高62.8m地点にある。

規模・平面形：長軸 (350) m、短軸3.12mで長方形を呈する。

主軸方向：N -43° -W

残存壁高：確認面から最大高18cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：検出されていない。

床：ほぼ平坦で、貼り床が施されている。各壁コーナー部以外でよく硬化している。

ピット：床面からは、主柱穴、出入口ピットとともに検出されていない。

竈：北壁中央部にあったと推測されるが、擾乱によって壊されており、発掘材である砂質粘土ブロックが散在し、火床部の一部が確認されただけである。火床面は床面から14cmほど掘りくぼめた地点にあったが、擾乱により赤く硬化したブロック状の焼土が一部認められただけで、本跡土層断面図中、第5層が相当する。

## 土層解説

3. 塗抹褐色 桃土ブロック少量、桃土粒子微量、炭化粒子少量、焼き弱い（本跡土層断面図5幅）

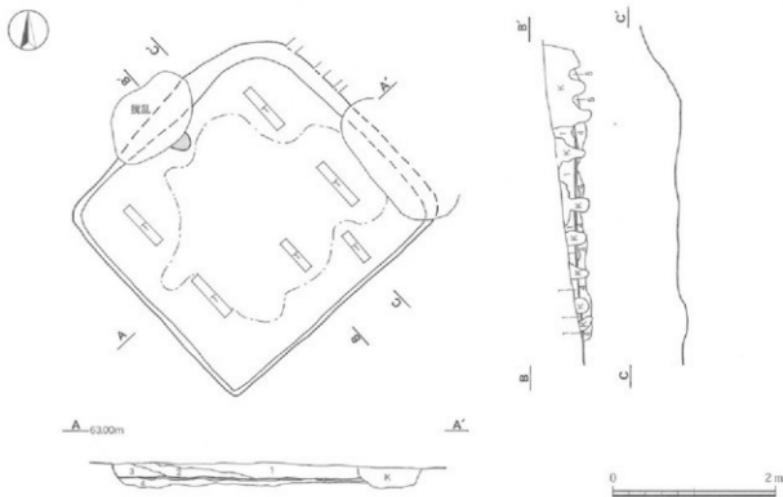
遺構埋没状態：ロームブロック主体の人为的な堆積状況を示している。第3層のロームブロックは壁部の崩落上と考えられる。第4層は住居床下の堆積層で、ロームブロック主体であるが、一部焼土ブロックが混じっている層となっている。

## 土層解説

1. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化物微量
2. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量
3. 灰褐色 にムブロック少量、ローム粒子微量、焼土ブロック少量、桃土粒子微量、炭化物微量
4. 灰褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化物微量、焼き弱い（焼り方）
5. 塗抹褐色 焼土ブロック少量、焼土粒子微量、炭化粒子少量、焼き弱い（本跡土層）

遺物：須恵器片42点（坏・高台付坏類26点、蓋4点、高盤1点、壺類11点）、土師器片85点（坏・高台付坏類4点、壺類81点）。東部は削平されており覆土層厚も薄いため、遺物数は少なく、また耕作用トレレンチャーで壊されているため大半が細片である。341の須恵器坏と342の須恵器壺類は、いずれも覆土中から確認されており、埋め戻しの段階で投棄あるいは焼土中に混入したものである。

所見：耕作用トレレンチャーによって遺物は細かく壊されているため時期は断定できないが、埋土中の須恵器坏片を見ると8世紀後葉に比定されるものが大半を占めた。また、床上に主柱をもたない建物構造であることや、隣接する第18号住居跡と規模や構造、当種方向が酷似していることを併せ、時期は8世紀後葉頃と推測した。



第100図 第55号住居跡



第101図 第55号住居跡出土遺物

第55号住居跡（表49）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴はか	出土位置	備考
341	頭窓器	壺	[13.4]	4.9	(8.6)	滑母、黑色粒子 子、白色粒子	10GY7/1 明緑灰色	内外面ロクロナデ/底部粗軸ヘラ切り	2区覆土	15% PL70
342	頭窓器	長圓瓶	(9.6)	(1.9)		砂粒	7.5GY6/1 緑灰色	内外面ロクロナデ/底部粗軸ヘラ切り	2区1層	5%

## 第56号住居跡（第102・103図、第50表、PL29・30・71・72）

位置：D調査区C 3、D 3グリッド、標高61.0m地点にある。

規模、平面形：長軸5.66m、短軸5.34mで方形を呈する。

主軸方向：N - 30° - W

残存壁高：確認面から最大64cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：検出されていない。

床：ほぼ平坦で、窓構築材と推測される砂質の粘土塊が床面に残散していた。また、竈の前直から住居中心部にかけて硬化している。

ピット：5箇所確認され、P1～P4は主柱穴でP5は出入口ピットと考えられる。P1：56×50cm、深さ52cm、P2：64×60cm、深さ68cm、P3：66×66cm、深さ70cm、P4：66×64cm、深さ44cm、P5：42×38cm、深さ12cmである。またP1～P3で柱抜き取りと柱当たりの痕跡が、P4では柱当たりの痕跡が認められた。

## P1土層解説

1. 砂 色 ローム粒子少、風落バミス微粒
2. 黒 色 腐化物微量、炭化粒子少、縫まり細い（柱抜き取り坑）
3. 黑 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

## P2土層解説

1. 砂 色 ロームブロック微量、ローム粒子少、風沼バミス微量
2. 黑 色 ローム粒子微量（柱抜き取り坑）
3. 黑 色 ローム粒子微量、炭化粒子微量、縫まり細い
4. 黑 色 腐化物中量、炭化粒子微量、燒土粒子微量

## P3土層解説

1. 砂 色 ローム粒子微量、炭化粒子微量
2. 黒 色 ローム粒子微量、炭化粒子微量、縫よりともに弱い（柱抜き取り坑）
3. 黑 色 ロームブロック中量、ローム粒子少、縫よりあり

## P4土層解説

1. 砂 色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、縫よりあり
2. 黑 色 ロームブロック微量、燒土粒子微量、炭化粒子微量、縫よりあり
3. 黑 色 ロームブロック微量、炭化粒子微量
4. 黑赤褐色 深土粒子中量、燒土ブロック少、炭化粒子少、縫より弱い
5. 黑赤褐色 烧土粒子中量、焼土ブロック少、炭化物少、炭化粒子少

## P5土層解説

1. 砂 色 ロームブロック微量、ローム粒子少
2. 黑 色 ロームブロック少、ローム粒子少

竈：北壁中央部やや東寄りにあり、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは122cmである。天井部は崩落しており、竈土層断面図中、砂質粘土ブロックを多量に含む第3・7層が崩落土と考えられる。袖部は良好に遺存しており、袖内部内面は被熱により亦変色している。袖部の最大幅は約194cmである。火床部は床面から10cmほど掘りくぼめて火床面としており、ゴツゴツと赤く硬化している。煙道部は壁外へ74cmほど削り出して造られ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

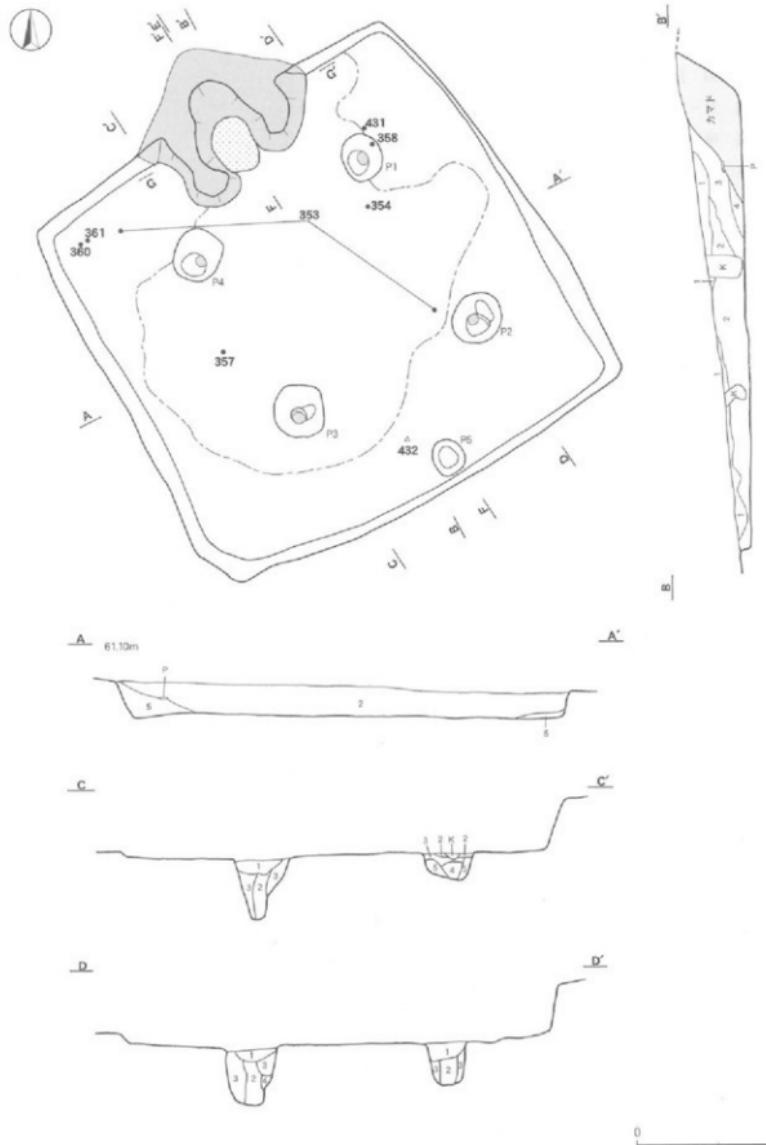
## 土層解説

1. 黑 色 ロームブロック中量、ローム粒子中量、焼土ブロック微量、縫よりあり
2. 黑 色 ロームブロック少、ローム粒子少、燒土ブロック微量
3. 灰黄褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック多量、燒土ブロック中量、縫よりあり
4. 黑 色 腐化物中量、炭化物少、燒土ブロック微量
5. 黑 色 腐化物少、炭化物少、炭化粒子少、燒土ブロック微量
6. 黑 色 ロームブロック微量、燒土粒子微量、炭化粒子微量
7. 灰 色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック多量、縫よりあり
8. 黑赤褐色 烧土ブロック少量、炭化粒子微量、粘性弱い

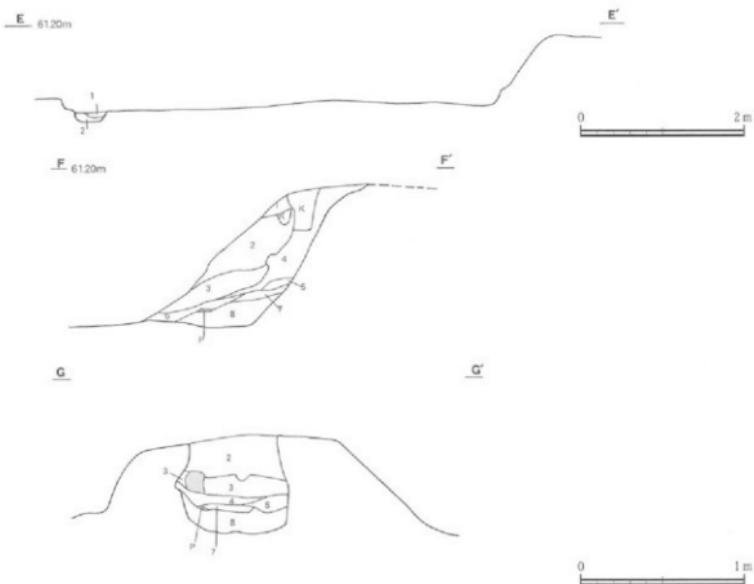
遺構埋没状態：ロームブロック主体の入為的な堆積状況を示している。第3・4層には窓構築材と考えられる砂質粘土ブロックが確認されている。

## 土層解説

1. 黑 色 ローム粒子少、炭化粒子微量
2. 黑 色 ロームブロック微量、ローム粒子少
3. 灰黄褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック中量、燒土ブロック少量
4. 黑 色 ロームブロック少、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック少量、燒土ブロック少量
5. 黑 色 ロームブロック中量、ローム粒子微量



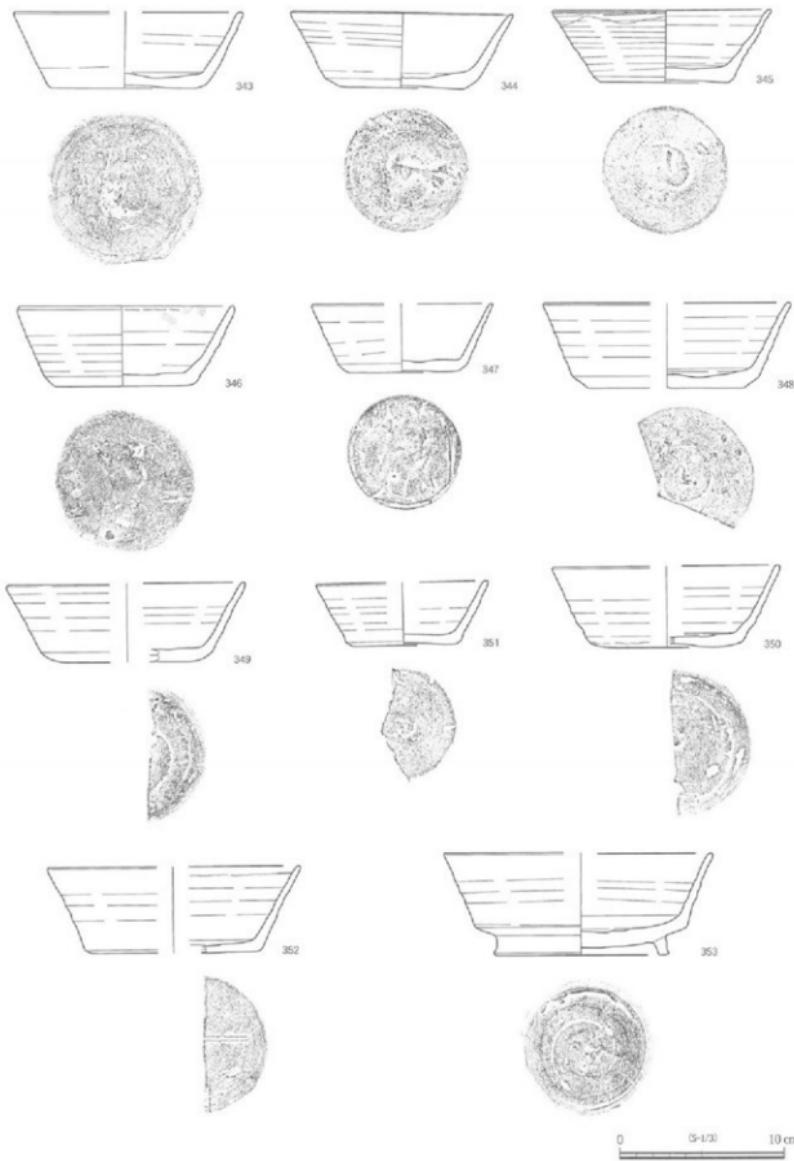
第 102-1 図 第 56 号住居跡①



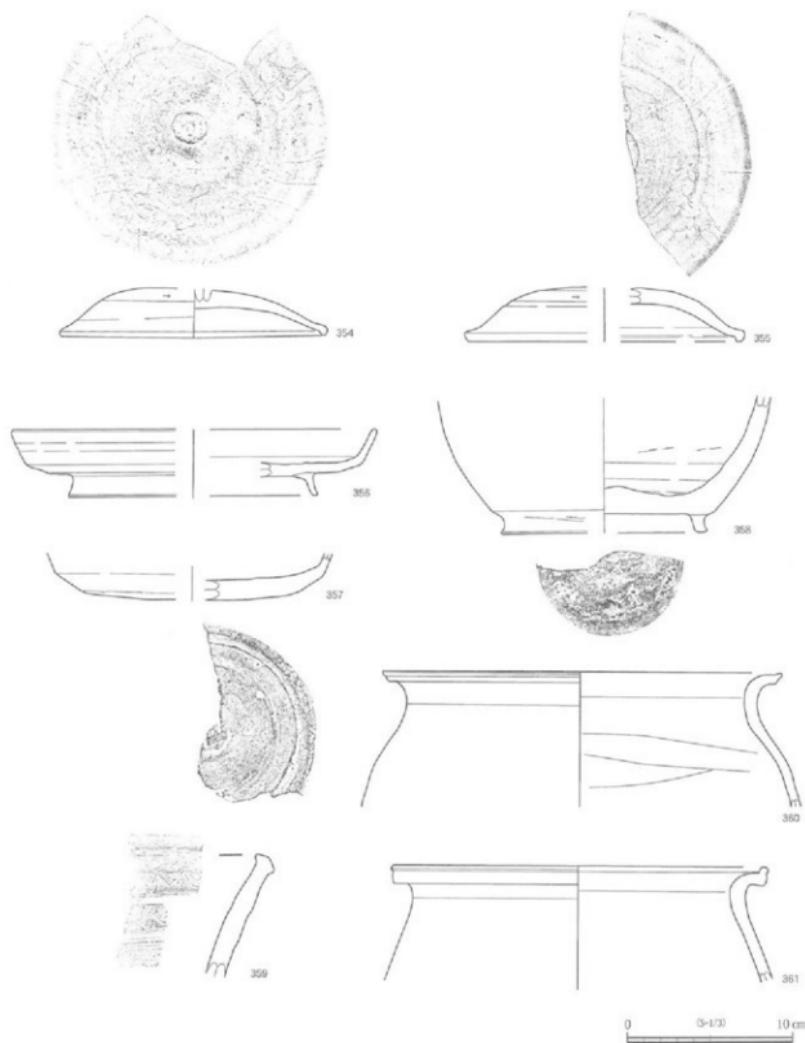
第102-2図 第56号住居跡②

**遺物：**須恵器片484点（环・高台付环類355点、蓋66点、盤16点、高盤4点、壺類43点）、土師器片221点（环・高台付环類17点、壺類204点）、石製品1点（砥石）。竈内のほか、床面一体から遺物が散見される。なお、床面や床面近くから遺物が多数認められるが、完形で出土した遺物ではなく、また破片が接合して完形になる遺物も見当たらなかったため、住居廃絶後まもなく投棄された遺物が多いと推測される。投棄された353の須恵器高台付环は中央部とP2付近及び竈西側から出土した破片が接合したものである。また竈内からは須恵器环（349・352）が出土しているが、竈構築材である砂質粘土ブロック内から見つかったもので、火熱を受けた痕跡もないことから、竈を人為的に壊している最中に、遺物を投棄した可能性がある。

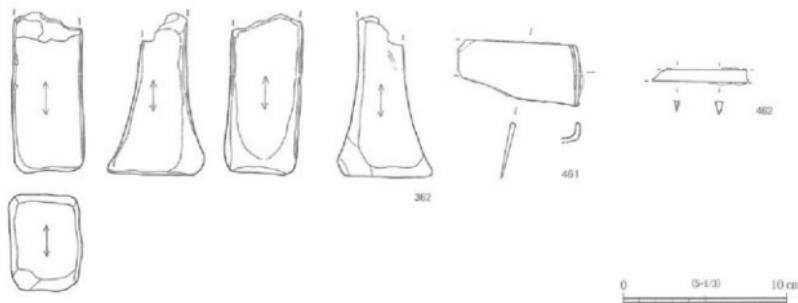
**所見：**時期は、廃絶後まもなく投棄された遺物から8世紀後葉と考えられる。なお、本跡周辺には、本跡も含め床上に4本の主柱をもつ比較的大型でしっかりとした造りの住居が目立ち、あたかも鬼高期の掘りの深い、どっしりとした住居様式が引き継がれたかの印象を受ける。



第 103-1 図 第 56 号住居跡出土遺物①



第 103-2 図 第 56 号住居跡出土遺物②



第103-3図 第56号住居跡出土遺物③

第56号住居跡（表50）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
343	須恵器	坏	[138]	47	8.7	白色粘土、小 礫、針状鉱物	10GYS/1 緑灰色	内外面クロナダ/底部削輪へラケズリ [左]/底部へラ記号(二)	No.26	80% PL71
344	須恵器	坏	134	46	7.4	小礫、石英、 針状鉱物	10G5/1緑灰色	内外面クロナダ/底部削輪へラケズリ 一部手持ちへラケズリ	No.5 カマド塵土	80% PL71
345	須恵器	坏	131	45	7.6	小礫、石英	5G6/1緑灰色	内外面クロナダ/底部削輪へラケズリ 一部手持ちへラケズリ	No.6	80% PL71
346	須恵器	坏	131	49	7.9	長石、石英	10GYS/1 緑灰色	内外面クロナダ/底部削輪へラケズリ [右]	No.24	70% PL71
347	須恵器	坏	[10.8]	4.3	6.6	小礫、石英、 針状鉱物、セ ルロイド状の 吹き出し	10G5/1緑灰色	内外面クロナダ/底部削輪へラケズリ	No.17	50% PL71
348	須恵器	坏	[14.9]	5.2	[9.4]	小礫、石英、 セルロイド状 の吹き出し	5GGS/1 青灰色	内外面クロナダ/底部削輪へラケズリ	1区	40% PL71
349	須恵器	坏	[14.4]	4.8	[8.0]	黒色粘土、白 色粘土、石英	10GY6/1 緑灰色	内外面クロナダ/底部削輪へラケズリ	カマド崩クタ 内	40% PL71
350	須恵器	坏	[13.6]	5.0	[9.2]	黒色粘土、白 色粘土、小礫	5GYS/1 白灰色	内外面クロナダ/底部削輪へラケズリ	No.19	40% PL72
351	須恵器	坏	[10.4]	3.8	[6.0]	小礫、石英、 黒色粘土、白 色粘土	5GGS/1 青灰色	内外面クロナダ/底部削輪へラケズリ 一部手持ちへラケズリ	1区	40% PL71
352	須恵器	坏	[15.4]	5.3	[10.6]	石英、黒色粘 土、白色粘土	5GGS/1 青灰色	内外面クロナダ/底部削輪へラケズリ [左]/底部へラ記号(-)	カマド崩クタ 内	20% PL71
353	須恵器	高台付坏	[16.1]	6.2	10.4	小礫、石英、 針状鉱物	10G5/1緑灰色	内外面クロナダ/底部削輪へラケズリ [右]/高台接合後周 削輪へラケズリ	No.1129	60% PL72
354	須恵器	蓋	16.0	(3.1)		長石、石英、 小礫、セルロ イド状の吹き 出し	10G5/1緑灰色	内外面クロナダ/天井部削輪へラケズ リ[右]/つまみ付後周削輪にクロナ ダ	No.6	80% PL72
355	須恵器	蓋	[16.6]	(3.2)		小礫、黒色粘 土、白色粘土、 セルロイド状 の吹き出し	5GGS/1青 灰	内外面クロナダ/天井部削輪へラケズ リ[右]/つまみ付後周削輪にクロナ ダ	3区ベルト1層	40% PL72
356	須恵器	盤	[21.8]	4.1	[14.8]	小礫、白色粘 土、セルロイ ド状の吹き出 し	SB G4/1青 灰	内外面クロナダ/高台接合後周削 輪へラケズリ[右]クロナダ	1区 1区1層 4区ベルト1層	30%
357	須恵器	盤			(3.0)	小礫、石英、 針状鉱物	10G5/1灰 色	内外面クロナダ/底部削輪へラケズ リ[右]/高台接合後周削 輪にクロナダ/高台接合後周に用	No.21	30%
358	須恵器	長颈瓶		(8.3)	[12.4]	小礫、白色粘 土、セルロイ ド状の吹き出 し	5BG4/1青 灰	内外面クロナダ/底部削輪へラケズ リ[右]/高台接合後周削 輪にクロナダ	No.5 1区	20%
359	須恵器	甕		(7.6)		白色粘土	5BG4/1 青灰色	内外面クロナダ/外面に堆積文(上位 に灰状2重底、下部に平行線文1単線)	1区1層 4区	5% PL72
360	土師器	甕	21.0	(8.5)		蓋母、白色粘 土、小礫、石 英	5YR5/4 赤褐色	口縁部・頭部内外面ヨコナダ/底部内面 ヘラナダ/外面ナダ	No.31 4区1層 カマド崩クタ 内	15% PL72

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
361	土師器	壺	22.6	(7.5)		雲母、白色粒子、赤褐色粒子、小穢、石英	SYRS/4 に赤褐色	口縁部・瓶部内外面ヨコナデ/瓶部内面へ ラナデ/外側ナデ(内面に押さえの圧痕)	No.31 1区1層	10% PL72
番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質		特徴	出土位置	備考
362	紙石	18.6	8.0	7.5	270	鐵状岩	支脚に軸用か。		カマド覆土	
番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質		特徴	出土位置	備考
461	鍬	(7.2)	4.4	0.3	37.9	鉄	先端欠損/身はやや厚味がある		No.2	
462	刀子	(5.9)	(0.8)	0.25~ 0.4	4.4	鉄	両端欠損		No.13	

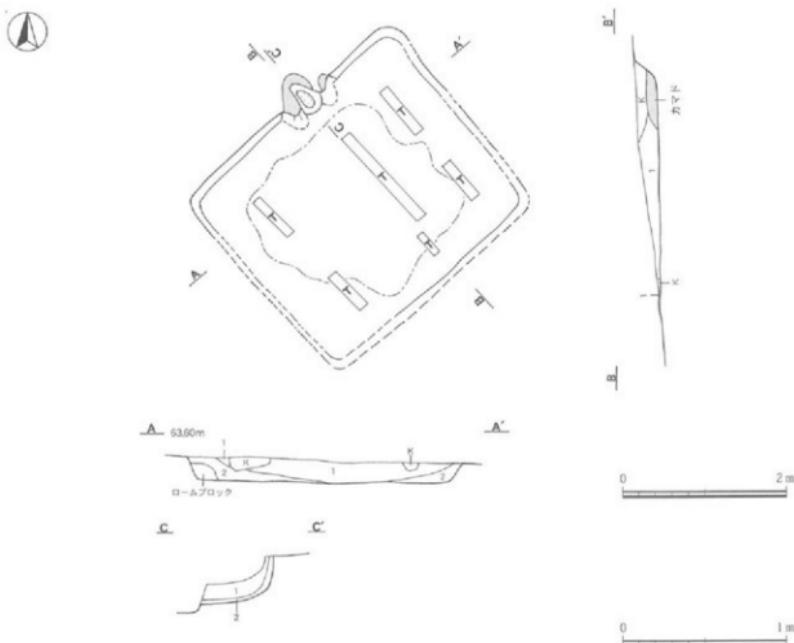
## 第57号住居跡（第104・105図、第51表、PL30・72）

位置：D調査区C3グリッド、標高63.4m地点にある。

規模・平面形：長軸3.34m、短軸2.90mで長方形を呈する。

主軸方向：N-42°-W

残存壁高：確認面から最大高18cmを測り、外傾して立ち上がる。



第104図 第57号住居跡

壁溝：検出されていない。

床：ほぼ平坦で、住居中心部がよく硬化している。

ピット：床面からは主柱穴、出入口ピットとともに検出されていない。

竈：北壁中央部やや東寄りにあり、砂質粘土で構築されているが、袖部は耕作用トレンチャーによって壊されている。また焚口部から煙道部までは [70] cmである。火床面は床面とほぼ同レベルの位置にあり、赤く硬化している。煙道部は壁外へ30cmほど削り出して造られ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

#### 土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量
2. 褐色 煙土ブロック少量、煙土粒子少量、炭化物少量、炭化粒子少量、練まり弱い

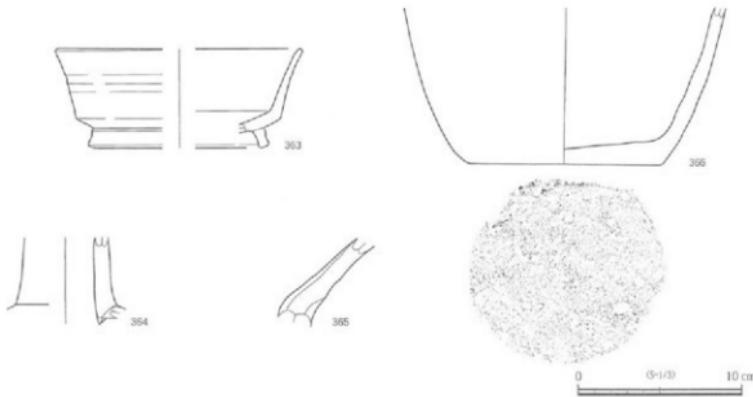
遺構埋没状態：ロームブロック主体の人为的な堆積状況を示している。

#### 土層解説

1. 褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化物微量、練まり弱い
2. 褐色 ロームブロック中量、ローム粒子少量

遺物：須恵器片52点（壺・高台付壺類29点、蓋8点、盤5点、甕類10点）、土師器片117点（壺・高台付壺類7点、甕類110点）。耕作用トレンチャーによって遺物の大半が破壊されており、本跡に伴う遺物か否かは判然としなかった。

所見：遺物は耕作用トレンチャーによって碎かれ時期を特定することはできなかったが、覆土中の須恵器片の中には9世紀後葉に比定されるものが含まれていた。



第105図 第57号住居跡出土遺物

第57号住居跡（表51）

番号	種別	基盤	口径	器種	底径	胎土	色調	手 法 の 特徴 は か	出土位置	緒 号
363	灰窓器	高台付	(14.8)	6.1	(10.8)	白色粒子、小 黒、灰色、針 状結晶	1GDG4/1 ロクロナグ	内外面クロロナグ/高台結合時に窓間に ロクロナグ	1区1層	10%
364	灰窓器	肩頭部		5.2		白色粒子、白 色粒、セラ ロイド状の灰 色土	5HN05/1 青灰色	頭部複合/ロクロナグ	1区1層	5% PL72
365	灰窓器	足		(5.7)		白色粒子、小 黒	5BC4/1 暗青灰色	内外面クロロナグ/外面に平行模範文	覆土	3%
366	土器	足		(9.6)	11.7	青母、白色粒 子、赤褐色粒 子、石英	5TRB-3 に赤い紫色	内面ナグ/外曲き入り後ナグ	覆土	10%

## 第58号住居跡（第106・107図、第52表、PL30・31・73～75）

位置：D調査区D2、D3グリッド、標高61.0m地点にある。

重複関係：第60号住居跡を掘り込んでいる。

規模・平面形：長軸7.26m、短軸6.36mで長方形を呈する。

主軸方向：N-28°-W

残存壁高：確認面から最大高70cmを測り、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝：削平された南訛を除きほぼ全周し、幅28～44cmで巡る。断面は逆台形状またはU字形である。

・検出されていない。

床：ほぼ平坦で、本跡西部と中央部がよく硬化している。

ピット：4箇所確認され、いずれも主柱穴で、P1：76×48cm、深さ50cm、P2：60×56cm、深さ52cm、P3：100×72cm、深さ74cm、P4：60×52cm、深さ50cmである。なお、各主柱穴には柱抜き取りの痕跡が認められた。

## P1土層解説

1. 黄褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、鐵沼バムシ微量、縫まり弱い
2. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量（柱抜き取り痕）
3. 黑褐色 炭化物少量、炭化粒子微量

## P2土層解説

1. 黄褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量
2. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量、縫まり弱い（柱抜き取り痕）
3. 黑褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量

## P3土層解説

1. 粉褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量
2. 暗褐色 ロームブロック微量、コーム粒子少量
3. 黑褐色 炭化ブロック微量、炭化粒子微量、縫まり弱い（柱抜き取り痕）
4. 黑褐色 ローム粒子微量、炭化物微量

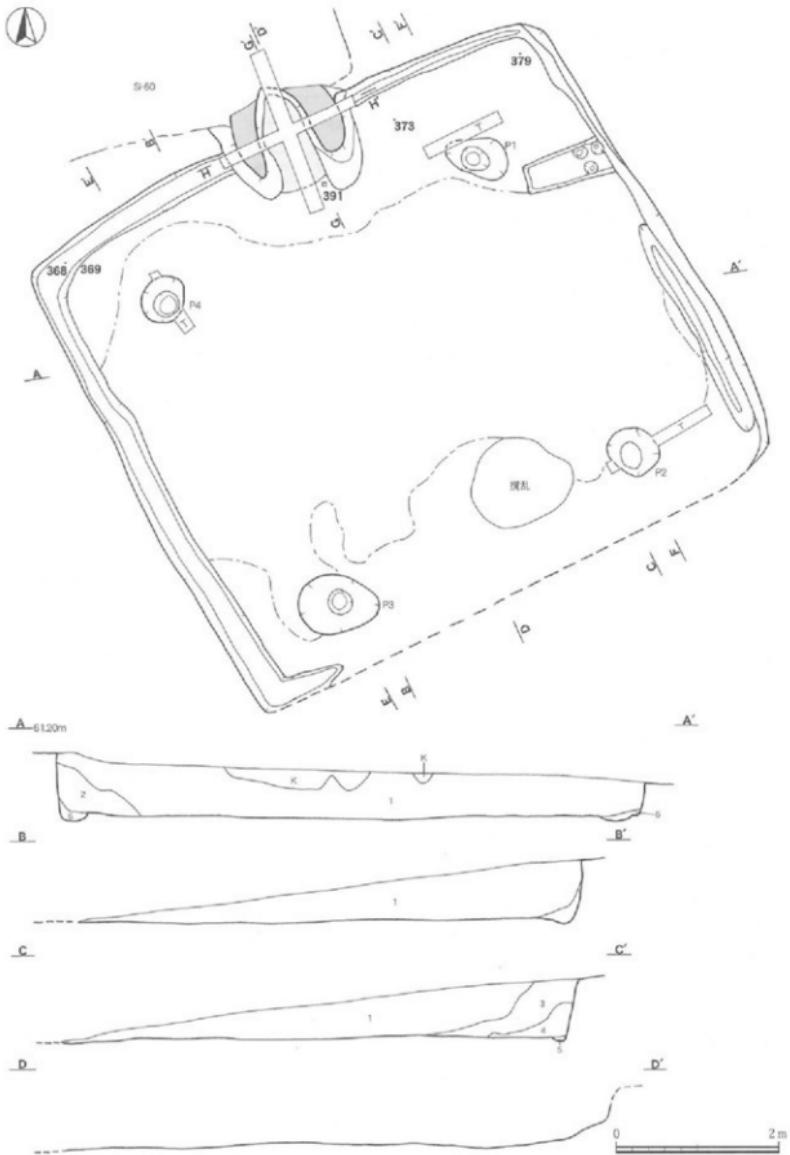
## P4土層解説

1. 粉褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量、縫まり弱い（柱抜き取り痕）
2. 黑褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量

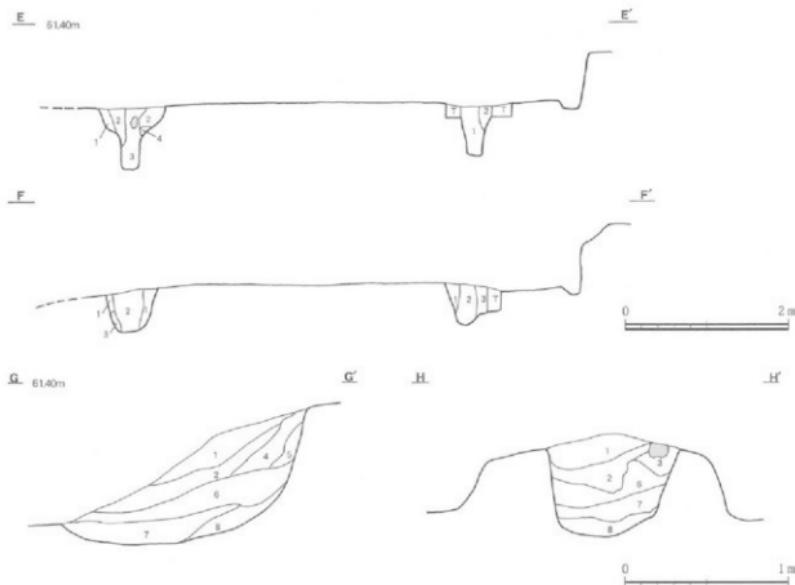
窓：北端中央部からやや東寄りにあり、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは132cmである。天井部は崩落しており、竈上層断面同様、砂質粘土ブロックや粒子を比較的多量に含む第3・4層が崩落したと考えられる。袖部は比較的良好に遺存しており、袖部内面は被熱により赤変している。袖部の最大幅は約154cmである。火床部は床面から15cmほど掘りくぼめて火床面としており、ゴツゴツと赤く硬化している。煙道部は壁外へ〔80〕cmほど削り出して造られ、火床部から外傾して立ち上がる。

## 土層解説

1. 黄褐色 ロームブロック少、炭化粒子微量
2. 黑褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、縫まり弱い
3. 黑褐色 ロームブロック少、ローム粒子微量、燒土ブロック微量、砂質粘土ブロック少、炭化物微量



第 106-1 圖 第 58 号住居跡①



第106—2図 第58号住居跡②

4. 灰褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック少量、焼土ブロック中量、炭化物微量  
 5. 黒褐色 炭化物少量、炭化粒子中量、焼土粒子微量  
 6. 暗赤褐色 炭化物少量、炭化粒子少量、焼土ブロック中量、焼土粒子少量  
 7. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化物微量、焼土ブロック少量  
 8. 暗赤褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化粒子微量、焼土ブロック少量、焼土粒子少量、繩まり弱い

遺構埋没状態：ロームブロック主体の人为的な堆積状況を示している。断面図中、第6層は盤溝の土層である。

#### 土層解説

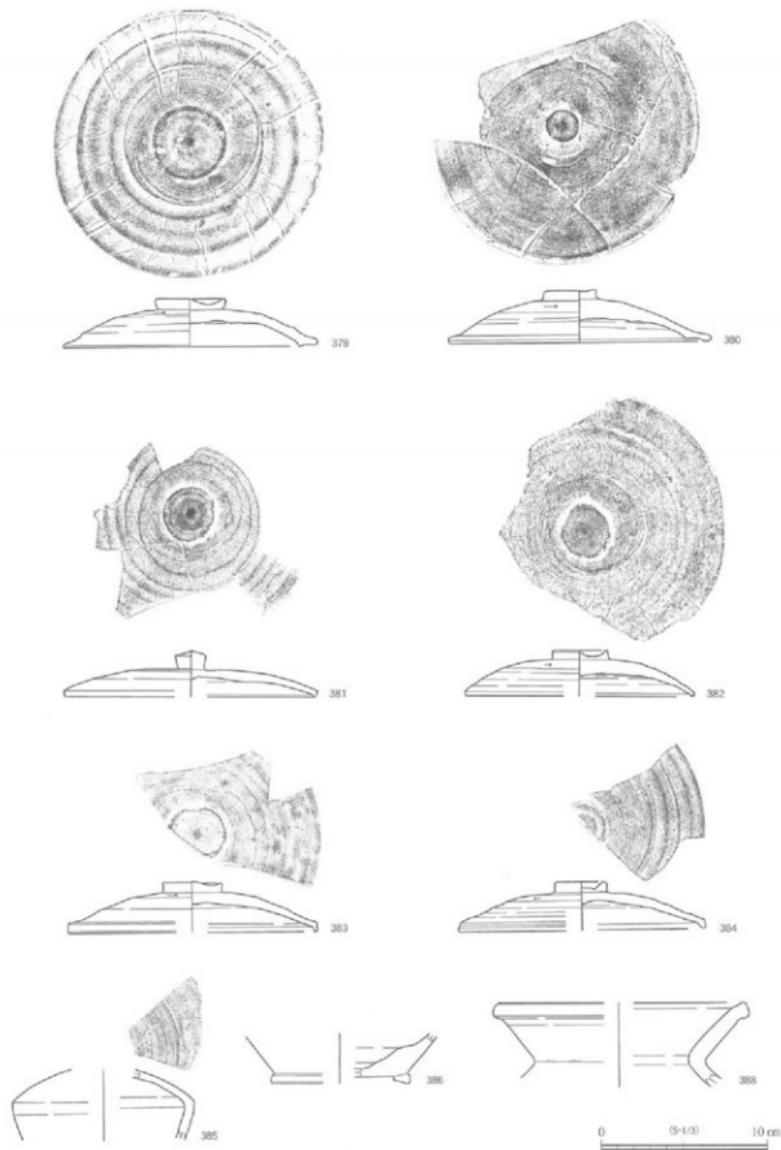
1. 褐色 ロームブロック中量、ローム粒子微量、焼土ブロック微量
2. 褐色 ロームブロック中量、炭化物微量、焼土ブロック微量
3. 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
4. 褐色 ローム粒子少量
5. 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量、炭化粒子微量
6. 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物：須恵器片432点（环・高台付环類306点、蓋79点、盤6点、高盤7点、甕類34点）、土師器片940点（环・高台付环類32点、甕類908点）、鉄製品1点（不明）、土製品1点（支脚）、石製品1点（軽鍤車）。遺物の大半は埋め戻しの段階で投棄されたものと埋土中に混入していたものであるが、379の須恵器蓋は北東隅の床面から出土している。

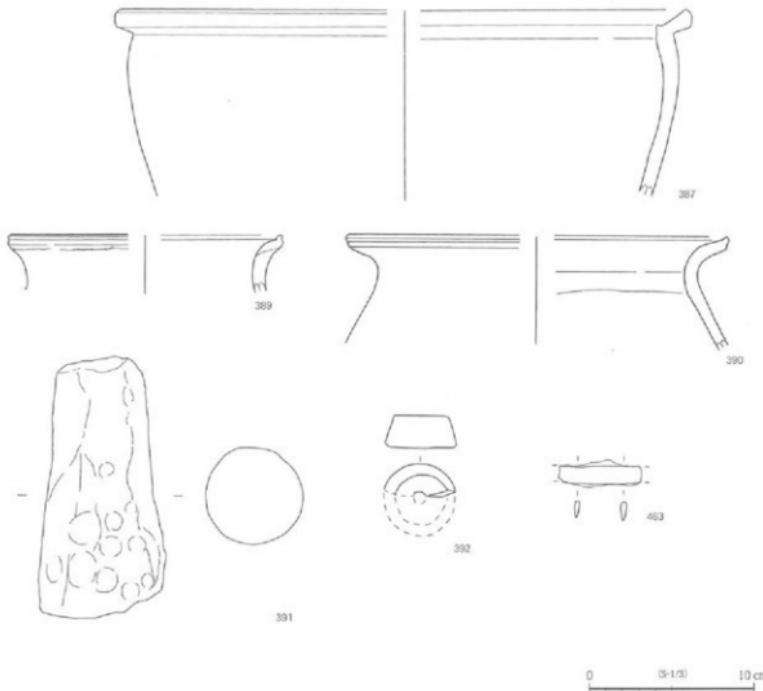
所見：7世紀代の様式を引き継ぐ大型住居である。遺物から住居廃絶時期は8世紀前葉と考えられるが、竈の使用頻度の高さからみても、長期間営まれた住居と推測される。



第 107-1 圖 第 58 号住居跡出土遺物①



第 107-2 図 第 58 号住居跡出土遺物②



第107-3図 第58号住居跡出土遺物③

第58号住居跡 (表52)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
367	須恵器	环	[140]	51	82	黑色粒子、白色粒子	5BG5/1 青灰色	内外面口クロナゲ/底部削輪ヘラ切り	4区1層 3区ベルト 4区ベルト	60% PL73
368	須恵器	环	[144]	53	94	黑色粒子、白色粒子、小繩、針状植物	5BG5/1 青灰色	内外面口クロナゲ/底部削輪ヘラケズリ (左)	No.10	50% PL73
369	須恵器	环	[146]	47	11.2	白色粒子	10G6/1緑灰色	内外面口クロナゲ/底部削輪ヘラケズリ (右)	No.11 6区ベルト	30% PL73
370	須恵器	环	[146]	41	[98]	黑色粒子、白色粒子	10Y7/1 灰白色	内外面口クロナゲ/底部削輪ヘラ切り後 削輪ヘラケズリ(右)	4区1層 2区ベルト覆土	30% PL73
371	須恵器	环	[118]	40	[64]	黑色粒子、白色粒子、小繩	5BG5/1 青灰色	内外面口クロナゲ/底部削輪ヘラ切り後 削輪ヘラケズリ(左)	1区1層 2区ベルト覆土 6区2層 7区 ベルト7区	30%
372	須恵器	环	[144]	47	8.6	黑色粒子、白色粒子	2.5G6/1 オリーブ灰白色	内外面口クロナゲ/底部削輪ヘラケズリ (右)	3区1層	30% PL73

番号	器 別	器種	口径(cm)	高さ(cm)	底径(cm)	粘 土	色 調	手 法 の 特 徴 は か	出 土 位 置	備 考
373	灰陶器	杯	[124]	42	39.2	白色粒子、小 塊、針状物 青灰色	10BG6/1 564/1	内外面でいねいなクリア/底部凹部 ヘラクズリ(右)	No.4 PL.73	20% PL.73
374	灰陶器	杯	[124]	34	[8.8]	黑色粒子、白 色粒子、セラ ロイド様の吹 き出し	25GY7/1開口 59BG5/1	内外面にクリア/底部凹部ヘラクズリ	3区1層 3区1層 6区1層	30% PL.73
375	灰陶器	杯	[106]	39	65	黑色粒子、白 色粒子、赤褐色 粒子、石粉	25GY7/1開口 59BG5/1	内外面にクリア/底部凹部ヘラクズリ後 端部に凹部ヘラクズリ(左)	ペルト7区	40% PL.73
376	灰陶器	杯	[102]	39	[6.1]	白色粒子、石 粉	59BG5/1	内外面クロロナメ(内部に青にていねい な波を添す)、底面銀鏡ヘラクズリ	5区1層	30% PL.73
377	角窓器	高台付杯	[144]	44	[9.8]	白色粒子、白 色粒子、小塊、 針状物、セ ラロイド様の 吹き出し	59BG5/1 59BG4/1 59GY6/1	内外面クロロナメ/底部凹部ヘラクズリ 内外面ヘラクズリ(右)、右台面合時に開 口部にクロロナメ	6区1層 6区1層 6区1層	30% PL.73
378	角窓器	高台付杯	[176]	66	[108]	白色粒子	59BG4/1 59BG3/1	内外面クロロナメ/底部凹部ヘラクズリ (右)、底台面合時に開口部にクロロナメ	6区1層	10%
379	須恵器	蓋	[159]	30		瓦石、セラ ロイド様の吹 き出し	10GY7/1 59GY6/1 オリーブ灰灰	内外面クロロナメ/天津台面合ヘラクズ リ(右)、つまみ添付部に開口部にクロロナメ 天津台面に消化化してから(左)に底板 時の取り扱い跡部分には施釉の跡有	No.1 No.1	100% PL.74
380	須恵器	蓋	[159]	34		瓦石、瓦石、 錐母	10GY7/1 明緑灰色	内外面クロロナメ/天津台面合ヘラクズ リ(左)、つまみ添付部に開口部にクロロナメ 天津台面に消化化してから(右)に底板 時の取り扱い跡部分には施釉の跡有	No.9 No.9	70% PL.74
381	須恵器	蓋	[156]	28		黑色粒子、白 色粒子、小塊、 針状物	10GY5/1灰 色	内外面クロロナメ/天津台面合ヘラクズ リ(左)、つまみ添付部に開口部にクロロナメ 天津台面に消化化してから(右)に底板 時の取り扱い跡部分には施釉の跡有	3区1層	50% PL.74
382	須恵器	蓋	[140]	28		黑色粒子、白 色粒子、針状 物	59BG6/1 青灰色	内外面クロロナメ/天津台面合ヘラクズ リ(右)、つまみ添付部に開口部にクロロナ メ	1区1層 6区1層	30% PL.74
383	須恵器	蓋	[152]	32		黑色粒子、白 色粒子、針状 物	10GY6/1 灰灰	内外面クリア/天津台面合ヘラクズ リ(右)、つまみ添付部に開口部にクロロナ メ	No.2 ペルト7区	30% PL.74
384	須恵器	蓋	[151]	30		黑色粒子、白 色粒子、赤褐色 粒子	7.5Y7/2 灰灰	内外面クロロナメ/天津台面合ヘラクズ リ(左)、つまみ添付部に開口部にクロロナ メ	1区3層	30% PL.74
385	須恵器	長颈瓶		[5.3]		黑色粒子、白 色粒子、セラ ロイド様の吹 き出し	10GY6/1 10GY6/1 10GY6/1 綠灰色	内外面クロロナメ/外側凹部ヘラクズ リ(左)、つまみ添付部に開口部にクロロナ メ	ペルト7区	10% PL.74
386	須恵器	長颈瓶		[3.1]	[8.4]	黑色粒子、白 色粒子	59GY6/1 綠灰色	内外面クロロナメ/外側凹部ヘラクズ リ(左)、つまみ添付部に開口部にクロロナ メ	6区1層	5% PL.74
387	須恵器	蓋	[346]	[11.4]		白色粒子、白 色粒子	59GY6/1 青灰色	身き上り/下り(外面開口部、内面あて つけは付きに右の底面)	カマド瓶土	10% PL.74
388	須恵器	蓋	[168]	[5.6]		白色粒子、小 塊	59BG6/1 青灰色	内外面クロロナメ	1区3層	10% PL.74
389	土器	蓋	[164]	[3.2]		麥粒、白色粒子	25YR5/6 明緑灰色	口部塞、断面内外面ヨコナメ	2区1層	5% PL.75
390	土器	蓋	[231]	[6.9]		青粒、石英、 白色粒子、白 色粒子	SYR5/5 青灰色	口部塞、颈部内外面ヨコナメ/割部内面 ヘラクズリ/外側ナメ	3区1層	10% PL.75

香 槩	器種	肩小径(cm)	最大径(cm)	底各(cm)	重量(g)	粘 土	特 質	出 土 位 置	備 考
391	丸脚	5.3	(7.7)	159	625	5Y15/6 青灰色	SYR5/5 青灰色	No.6	100% PL.75

香 槩	器種	径(cm)	厚さ(cm)	孔深(cm)	底盤(cm)	重量(g)	材 質	特 質	出 土 位 置	備 考
392	纺锤形	[4.4]	2.0	[0.7]	22.1	22.1	灰被素	中央から欠損	復元	40% PL.75

香 槩	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材 質	特 質	出 土 位 置	備 考	
463	刀子	(4.9)	1.7	0.3	5.3	5.3	灰被素	質堅欠損	復元	

第59号住居跡（第108・109図、第53表、PL11・12・75）

位置：D調査区C3グリッド、標高63.4m地点にある。

重複関係：西部で第12号土坑を掘り込んでいる。

規模・平面形：耕作用トレンチャーによって壊され正確な規模は把握できなかったが、長軸4.00m、短軸〔3.80〕mで方形を基調としたプランが想定される。

主軸方向：N-40°-W

残存壁高：確認面から最大高24cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：検出されていない。

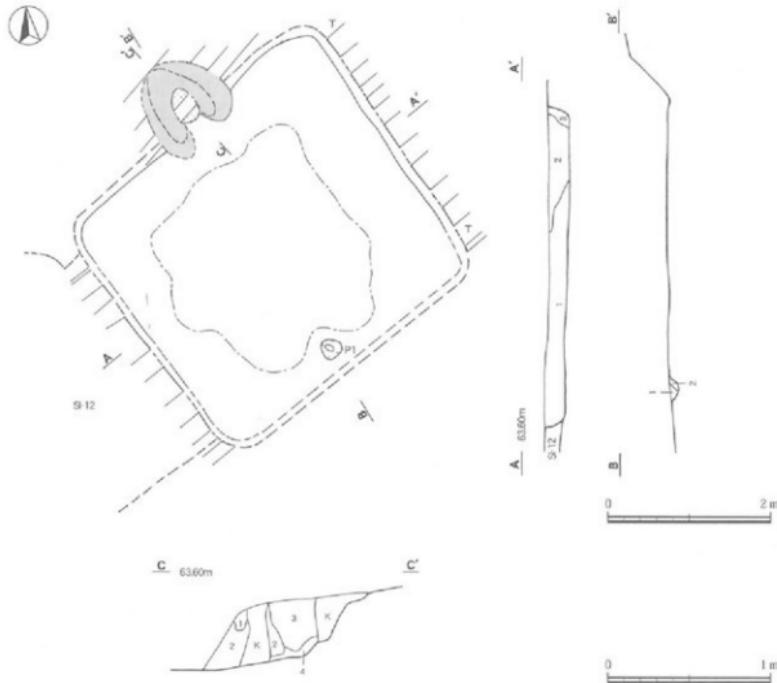
床：ほぼ平坦であったと推測されるが、擾乱によって壊され詳細は不明である。

ピット：1箇所確認され、出入口ピットと考えられる。P1：22×22cm、深さ11cmである。

P1土壠解説

- 1. 壁 色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、鹿沼バミス微量、縫まり弱い
- 2. 掘 色 ロームブロック微量、ローム粒子少量

竈：北壁中央部やや東寄りにあり、砂質粘土で構築されている。耕作用トレンチャーにより大半が壊され、火床部と煙道部の一部が遺存しているのみである。火床面は床面とほぼ同レベルの位置にあったと推測され、その位置に焼土ブロックが多く認められた。煙道部は窓外へ〔70〕cmほど削り出して造られているが、擾乱により壊され規模や形状は不明である。



第108図 第59号住居跡

## 土層解説

1. 鷺色 ロームブロック中量、ローム粒子少量
2. 嫩褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量
3. 嫩褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化粒子微量、粘性あり
4. 嫩赤褐色 焼土ブロック多量、焼土粒子中量、炭化物少量、炭化粒子

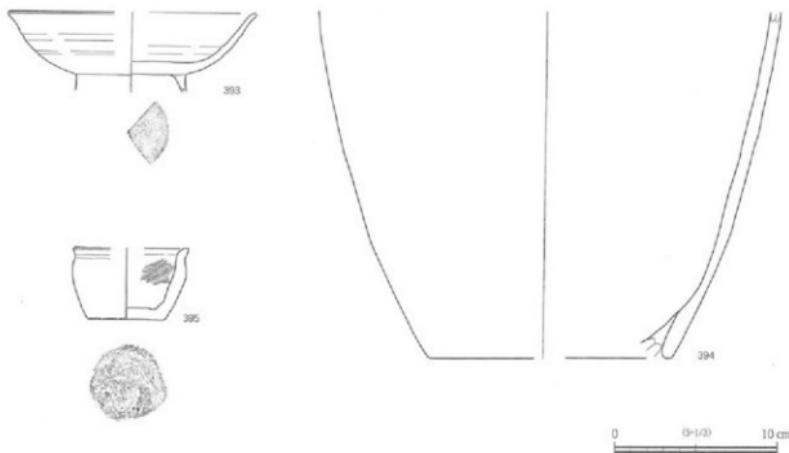
遺構埋没状態：ロームブロック主体の人为的な堆積状況を示している。第3層には窓構築材と考えられる砂質粘土ブロックが確認された。

## 土層解説

1. 鷺色 ローム粒子微量、炭化物微量、炭化粒子少量
2. 鷺色 ロームブロック中量、ローム粒子少量
3. 鷺色 ロームブロック微量、砂質粘土ブロック少量

遺物：須恵器片16点（坏・高台付坏類8点、蓋3点、盤2点、甌2点、壺類1点）、土師器片24点（坏・高台付坏類8点、壺類16点）、ミニチュア土器1点。耕作用トレンチャーより遺物は碎かれ、すべて細片である。393の土師器高台付坏は覆土中から、394の須恵器瓶と395のミニチュア土器は甌内から出土している。

所見：本跡に伴う遺物がなく時期は特定できなかったが、遺物は9世紀中葉から10世紀前半に比定されるものと様々である。



第109図 第59号住居跡出土遺物

第59号住居跡（表53）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法	特徴ほか	出土位置	備考
393	土師器	高台付坏	(15.0)	(4.5)		墨母、赤褐色 粒子	25YR6-6駆色	内外面クロナデ/外面部下半圓板へ ラケズリ/高台接合部周囲にロクロナデ	覆土	20%	PL75
394	須恵器	瓶	(21.0)	(14.8)		墨母、長石、 石英、小礫	25YR6-6駆色	内外面ナデ/底部はヘラ状工具により孔 を穿つ	No. 3 カマ下覆土	15%	PL75
395	土師器	ミニチュア 土器	(7.0)	4.4	5.6	墨母、白色粒 子、石英、小 礫	SYR5/4 にぶい赤褐色	内面ヘラナデ・黒色処理/外面部 底部ナ	カマ下覆土	50%	PL75

## 第60号住居跡（第110・111図、第54表、PL31・32・76）

位置：D調査区D2、D3グリッド、標高616m地点にある。

重複関係：南部で第58号住居跡に掘り込まれている。

規模・平面形：長軸4.78m、短軸4.20mで長方形を呈する。

主軸方向：N-15° W

残存壁高：確認面から最大高50cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：南壁以外で確認でき、幅16～24cmで巡る。断面はU字形である。

床：ほぼ平坦で、礎構築材と推測される砂質の粘土塊が床面に散在していた。また、壁際を除く全域がよく硬化している。

ピット：4箇所確認され、P1～P4は主柱穴で、P1：50×40cm、深さ46cm、P2：46×42cm、深さ22cm、P3：48

×44cm、深さ56cm、P4：42×42cm、深さ42cmである。なお、P3で柱抜き取りの痕跡が認められた。

### P1土層解説

1. 砂 褐 色 ローム粒子少量、炭化バミス微量
2. 灰 色 炭化物微量、炭化粒子少量
3. 灰 灰 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

### P2土層解説

1. 灰 褐 色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化バミス微量

### P3土層解説

1. 灰 褐 色 ローム粒子微量、炭化粒子微量
2. 黑 海 色 ローム粒子微量、炭化粒子微量、粘性・締まりともに弱い（柱抜き取り痕）

### P4土層解説

1. 灰 褐 色 ロームブロック微量、炭化粒子微量
2. 灰 灰 色 煙土ブロック微量、炭化粒子微量、締まりあり
3. 灰 黄 色 ロームブロック微量、炭化粒子微量

轍：北壁中央部東寄りにあり、砂質粘土で構成されている。焚口部から煙道部までは130cmである。大井部は崩落しており、竈上層断面図中、砂質粘土ブロックや粒子を比較的多量に含む第5層が崩落土と考えられる。袖部は比較的良好に保存しており、袖部内面は被熱により赤変している。袖部の最大幅は約150cmである。火床部は床面から6cmほど掘りくぼめて火床面としており、ゴツゴツと赤く硬化している。煙道部は壁外へ50cmほど削り出して造られ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

### 土層解説

1. 灰 褐 色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化物微量
2. 灰 灰 色 ロームブロック微量、ローム粒子微量
3. 灰 灰 色 ロームブロック微量、ローム粒子少量
4. 灰 黑 色 ロームブロック微量、ローム粒子微量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量
5. 灰 黑 色 ロームブロック微量、ローム粒子微量、焼土ブロック微量、炭化物微量
6. 灰 黑 色 ロームブロック微量、ローム粒子微量、焼土ブロック少々、炭化物微量
7. 灰 灰 色 烧土粒子少量、焼土ブロック少々、炭化物少々、炭化粒子少量、粘性あり、締まり弱い
8. 灰 灰 色 烧土粒子中量、炭化物少々、炭化粒子少量、粘性・締まりともに弱い

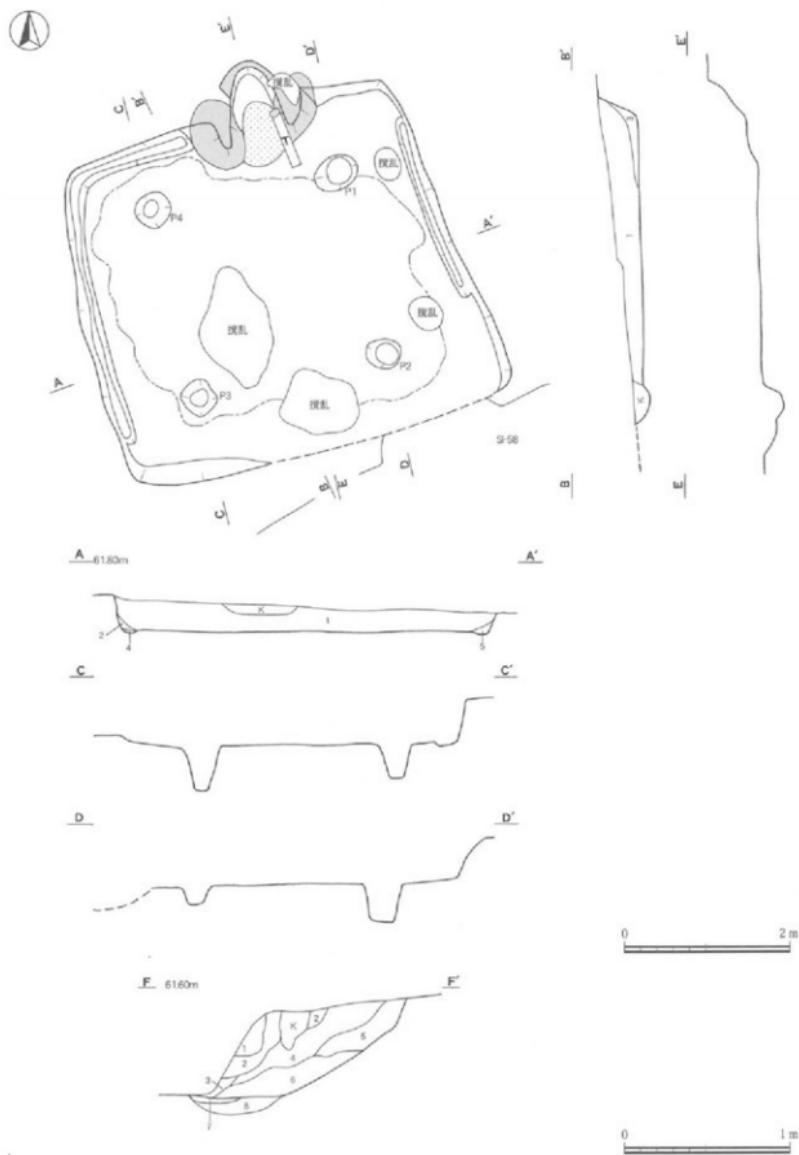
遺構埋没状態：ロームブロック主体の人为的な堆積状況を示している。第3層には竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックが確認されている。また、第4・5層のロームブロックは、竈部の崩落土と考えられる。

### 土層解説

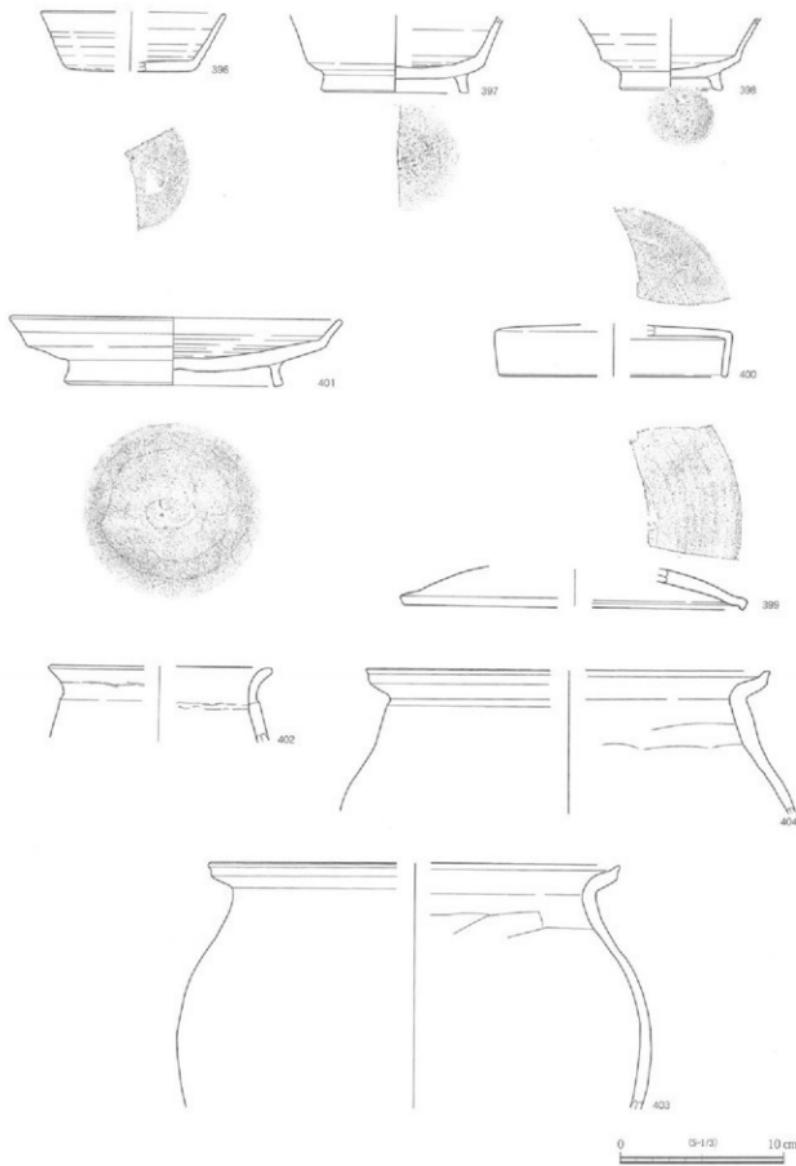
1. 灰 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
2. 灰 色 砂質粘土ブロック少量、ロームブロック少量、炭化物少量、炭化物微量
3. 灰 灰 色 ローム粒子少量、砂質粘土ブロック少量、砂質粘土粒子多々、焼土ブロック微量
4. 灰 色 ロームブロック少量、炭化物微量
5. 灰 色 ロームブロック少量、炭化物微量

遺物：須恵器片122点（环・高台付环78点、蓋19点、盤3点、高盤1点、甕類21点）、土師器片290点（环・高台付环24点、甕類266点）、鉄製品1点（不明）。竈内と竈周辺を主体に散見され、396の須恵器环や397の須恵器高台付环が相当する。しかし、火熱を受けておらず、住居廃絶後に投棄されたと考えられる。また401の須恵器盤は、西竈際から出土したものである。

所見：共譜具は須恵器製品で占め、煮炊具は土師器が主体的である。第53・56号住居跡とは近接しており、同時期に営まれていた住居であると考えられるが、本跡はやや小振りの住居である。



第 110 図 第 60 号住居跡



第 111 図 第 60 号住居跡出土遺物

第60号住居跡（表54）

番号	種別	基盤	口径	深度	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考		
396	須恵器	耳	[11.2]	3.7	(7.4)	白色粒子、小 古次色	10906/1 内外面クロナデ/底部凹部へラ切り後 ヘラナデ		カマド1/2 20% PL76			
397	須恵器	高台付杯			(4.8)	88 黑色粒子、白 色粒子、小素 材状物、セ ルカイト状の 焼き出し	5G6/1縁灰色 内外面クロナデ/底部凹部へラケズリ [右]/高台板合後周囲にロクロナデ	No.7		30% PL76		
398	須恵器	高台付杯	[11.2]	4.7	62	黑色粒子、白 色粒子、小素 材状物、セ ルカイト状の 焼き出し	10YR5/2 内外面クロナデ/高台板合後周囲にロ クロナデ	覆土		40% PL76		
399	須恵器	車	[20.8]	(2.4)		5B5/1青灰色	5B5/1青灰色 内外面クロナデ/天井部凹部へラケズ リヘナデ		1区2層 10%	PL76		
400	須恵器	車	[13.8]	(3.1)		白色粒子、赤 褐色粒子	5B6/1 内外面クロナデ		2区2層 10%	PL76		
401	須恵器	盤	201	4.2	131	妙松	5C6/1縁灰色 5C6/1縁灰色	内外面クロナデ/底部豆新部へラ切り後 底部へラケズリ(右)/高台板合後周囲 にロクロナデ/底部ハラヒ子等(+)	No.5		90% PL76	
402	土師器	小形壺	[13.4]	(4.7)		5YR4/2 灰褐色	口縁部・須恵器内外面ヨコナデ/斜部为面 ヘナナデ/外縁ナデ		3区2層 10%	PL76		
403	土師器	甕	[21.6]	(11.6)		5YR6/4 灰英 石英 にぶい橙色	口縁部・須恵器内外面ヨコナデ/斜部为面 ヘナナデ/外縁ナデ		1区2層 20%	PL76		
404	土器	甕	[24.2]	(8.8)		露母、白色粒 子、赤褐色粒	2B5/6/6橙色	口縁部・須恵器内外面ヨコナデ/斜部为面 ヘナナデ/外縁ナデ	No.3		10% PL76	

第61号住居跡（第112・113図、第55表、PL32・77）

位置：D調査区D3グリッド、標高59.3m地点にある。

重複関係：中央部を第9号溝跡に掘り込まれている。

規模・平面形：本跡は中央部を第9号溝跡に掘り込まれ南部が削平されているため、その規模は把握できなかった。しかし当時の住居跡形態からみて、北壁に竪が付設された方形または長方形を基調としたプランが想定される。

主軸方向：N-33° - W

残存壁高：確認面から最大高67cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：遺存部では全範囲で確認でき、幅16~24cmで巡る。断面はU字形である。

床：竪の前部分がよく礎化している。

ピット：遺存している床面からは三柱穴、出入口ピットともに検出されていないが、大半を第9号溝跡に埋められているため不明である。

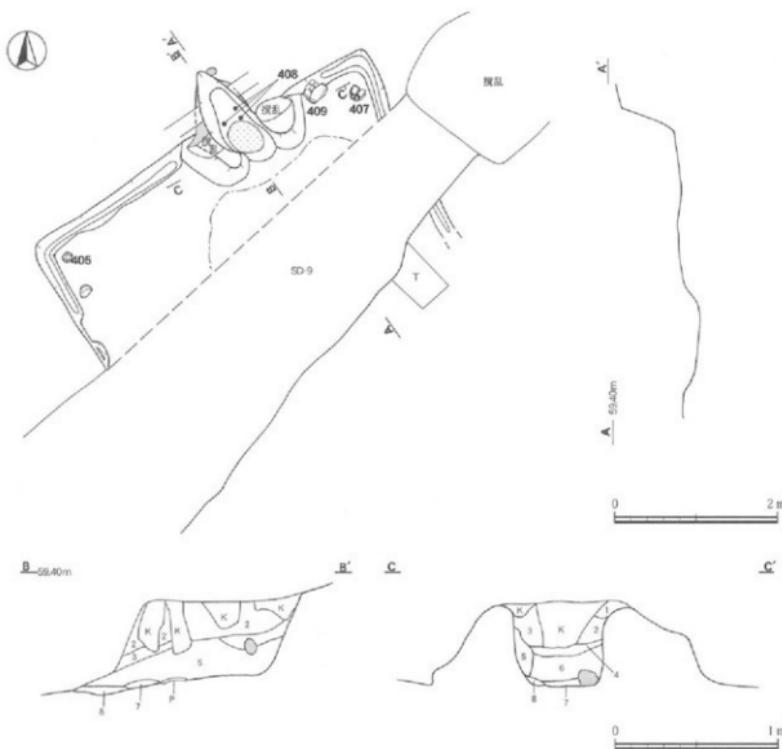
竪：北壁中央部東寄りにあり、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは140cmである。天井部は崩落しており、竪上層断面図中、砂質粘土ブロックを含む第6層が崩落土と考えられる。また煙道部の最大幅は約150cmで比較的良好に遺存しており、袖部内面は被熱により赤変している。火床部は床面から5cmほど掘りくぼめて火床面としており、ゴツゴツと赤く硬化している。煙道部は壁外へ60cmほど削り出して造られ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

### 土層解説

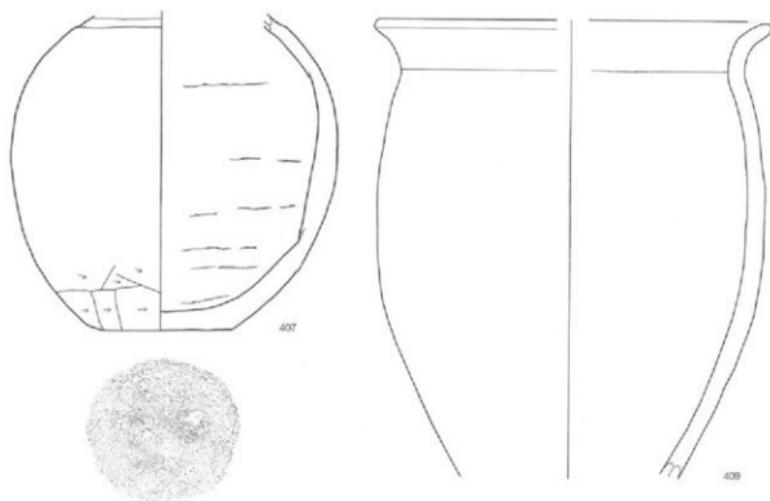
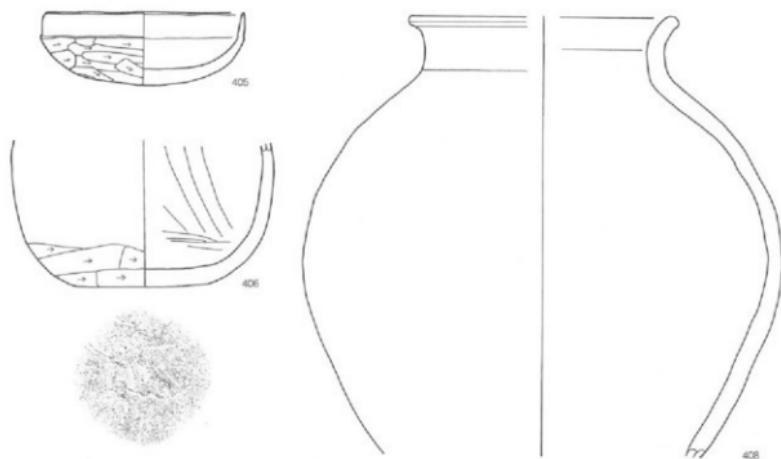
1. 黒褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、鹿沼バミスブロック少量
2. 黒褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、鹿沼バミスブロック微量
3. 黑褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量
4. 灰褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、炭化物微量
5. 灰褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック少量、焼土ブロック少量
6. 灰黃褐色 ローム粒子微量、砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック少量
7. 雜赤褐色 焼土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化物少量、炭化粒子少量、燒土ブロック微量
8. 赤褐色 燃土ブロック微量、燒土粒子中量、炭化物微量、炭化粒子微量、繩まり弱い

遺物：須恵器片15点（环・高台付坏類3点、蓋3点、瓶1点、甕類8点）、土師器片32点（环・高台付坏類8点、臺類24点）。405の土師器坏は北西隅の床面から、407の土師器壺は北東隅の床面から出土している。

所見：本跡は第9号溝跡によって接されている。時期は床面から出土した遺物からみて7世紀後葉と考えられる。



第112図 第61号住居跡



0 5-1/2 10 cm

第113図 第61号住居跡出土遺物

第61号住居跡（表55）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴はか	出土位置	備考
405	土師器	环	125	4.5		長石、石英、赤褐色粒子	25YR4/6 赤褐色	口縁部内外面、底部内面ヨコナデ/底部 外面手持ちヘラケズリ	No.4	80% PL77
406	土師器	鉢		(9.0)	8.3	長石、石英	5YR5/6 明るい赤褐色	脚部内面ヘラナデ/外面ナデ/下端にヘラ ケズリ	覆土	50% PL77
407	土師器	甕		(19.3)	8.6	雲母、黒色粒子、白色粒子、赤褐色粒子、小窓	5YR5/3 にぶい赤褐色	脚部内面ナデ/外面下端に手持ちヘラ ケズリ・輪様み跡が残る	No.2 カマド覆土	30% PL77
408	土師器	甕	(15.4)	(27.0)		雲母、黒色粒子	25YR5/6 明赤褐色	口縁部・脚部内外面ヨコナデ/脚部内面 ヘラナデ/外面ナデ	No.5 No.6 No.7 カマド覆土	40% PL77
409	土師器	甕	(22.0)	(28.0)		雲母、白色粒子、黒色粒子、小窓	7.5YR6/4 にぶい橙色	口縁部・脚部内外面ヨコナデ/脚部内面 ヘラナデ/外面ナデ	No.1	30%

## 第62号住居跡（第114・115図、第56表、PL32・33・77・78）

位置：D調査区C2グリッド、標高66.5m地点にある。

重複関係：南部を第63号住居跡に掘り込まれている。

規模・平面形：一部削平されており、また南部を第63号住居跡に壊されているため明確ではないが、長軸6.64m、短軸6.20mの方形と推測される。

主軸方向：N-49°-W

残存壁高：確認面から最大高62cmを測り、垂直に立ち上がる。

塗溝：検出されていない。

床：ほぼ平坦で、住居中心部がよく硬化している。焼失家屋であるため、床面には炭化材や焼土塊が認められる。

ピット：4箇所確認された。いずれも主柱穴で、P1：50×42cm、深さ68cm、P2：64×58cm、深さ56cm、P3：60×56cm、深さ62cm、P4：44×40cm、深さ50cmである。なお、これらのピットからは柱抜き取りの痕跡が認められた。

## P1土層解説

- 1 黒褐色 炭化物少量、炭化粒子微量
- 2 剥離色 ロームブロック微量、ローム粒子少量
- 3 剥離色 ローム粒子微量、炭化粒子微量、縫まり弱い（柱抜き取り痕）

## P2土層解説

- 1 剥離色 ロームブロック微量、ローム炭化粒子微量
- 2 剥離色 ローム粒子微量、炭化粒子微量、縫まり弱い（柱抜き取り痕）

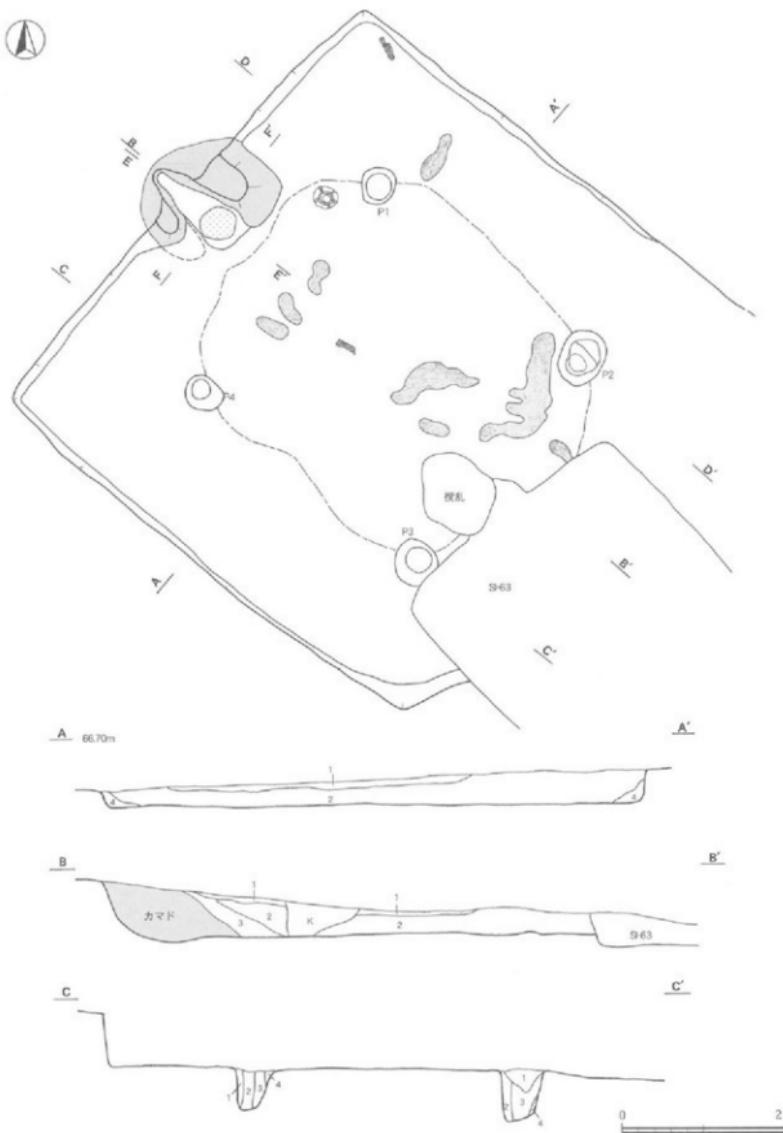
## P3土層解説

- 1 黒褐色 炭化物微量、炭化粒子微量
- 2 剥離色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化粒子少量、縫まり弱い
- 3 剥離色 ローム粒子微量、炭化粒子微量、縫まり弱い（柱抜き取り痕）
- 4 黄褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、塵泥バミスブロック少量、やや縫まりあり

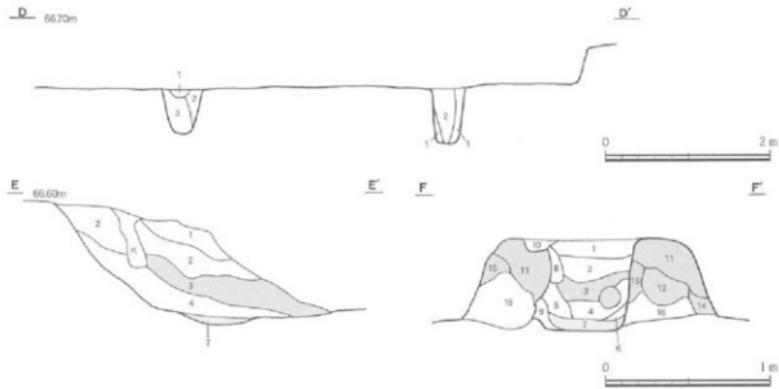
## P4土層解説

- 1 剥離色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化粒子微量、縫まり弱い
- 2 黑褐色 炭化粒子微量、縫まり弱い（柱抜き取り痕）
- 3 剥離色 炭化物少量、炭化粒子微量
- 4 黄褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

竈：北壁中央部にあり、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは126cmである。天井部は崩落しており、竈土層断面図中、砂質粘土ブロックを含む第3層が崩落土と考えられる。袖部の最大幅は約160cmで比較的良好に遺存しており、袖部内面は被熱により赤変している。袖部の基礎はロームブロックを芯材と



第 114-1 図 第 62 号住居跡①



第114-2図 第62号住居跡②

し周囲を砂質粘土で構築されたもので、土層断面図中、第16層が相当する。また火床部は床面から10cmほど掘りくぼめて火床面としており、ゴツゴツと赤く硬化している。煙道部は壁外へ40cmほど削り出して造られ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

#### 土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量
2. 灰褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、焼土ブロック少量、燒土粒子微量、炭化物微量
3. 灰褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック中量、燒土ブロック少量、炭化物微量
4. 褐褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、砂質粘土粒子少量、燒土ブロック少量、炭化物微量
5. 灰褐色 砂質粘土ブロック多量、燒土ブロック少量
6. 灰褐色 砂質粘土ブロック多量、燒土ブロック微量、炭化物微量
7. 暗赤褐色 燃土ブロック多量、炭化物微量、炭化粒子少量、締まり弱い
8. 灰褐色 砂質粘土ブロック多量、炭化粒子少量、締まりあり
9. 黒褐色 ロームブロック多量、ローム粒子中量、焼土ブロック微量、締まりあり
10. 灰褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック多量、締まりあり
11. 灰褐色 ロームブロック少量、砂質粘土ブロック多量、締まりあり
12. 灰褐色 ロームブロック少量、砂質粘土ブロック多量、締まりややあり
13. 褐褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、砂質粘土ブロック少量、炭化物微量
14. 灰褐色 ローム粒子微量、砂質粘土ブロック中量
15. 灰褐色 ローム粒子微量、砂質粘土ブロック中量、炭化粒子少量
16. 黑褐色 ロームブロック多量、ローム粒子中量、焼土ブロック微量、締まりあり

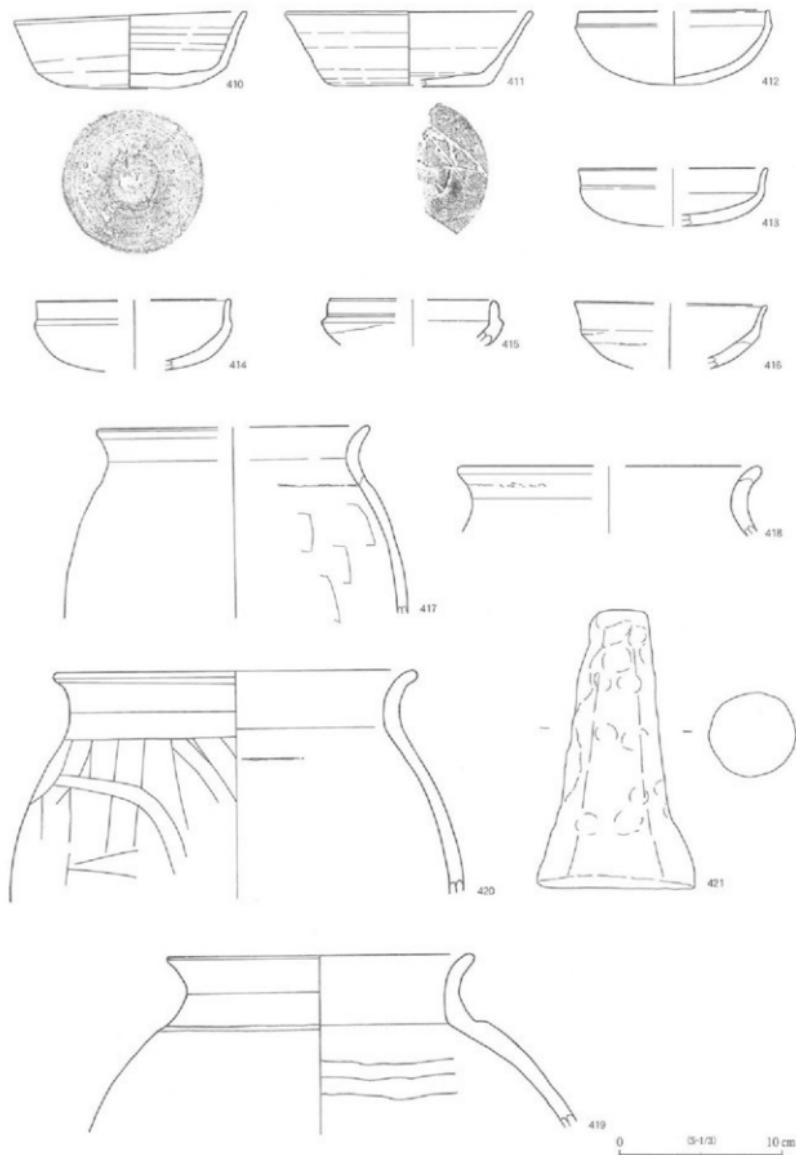
遺構埋没状態：ロームブロック主体の人为的な堆積状況を示している。第3層には甕構築材と考えられる砂質粘土ブロックが確認されている。

#### 土層解説

1. 黒褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
2. 黑褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
3. 褐褐色 ローム粒子微量、炭化物微量、炭化粒子少量、砂質粘土ブロック少量、粘性弱い
4. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量

遺物：須恵器片19点（壺・高台付壺類11点、蓋2点、甕類6点）、土師器片443点（壺・高台付壺類53点、甕類390点）、土製品1点（支脚）。甕内及び甕周辺には、焼失後に投棄された遺物が出土しており、417・420の土師器窯が相当する。また中央部の床面には住居構築材や焼土塊が認められた。

所見：焼失家屋である。時期は遺物からみて7世紀後葉と考えられる。なお、当遺跡は7世紀後葉段階から集落が営まれているが、その多くは標高が高いD区内から確認されている。また、住居の規模はいずれも大型であるが、主軸方向に統一性はない。



第 115 圖 第 62 号住居跡出土遺物

第62号住居跡（表56）

番号	地 点	断面	口径	高さ	底径	材 材	色 底	手 法 の 特徴 は か	出土位置	備 考
410	須恵器	环	14.2	47	8.3	黄瓦	10GS/1謎灰色 (左)	内外面クロコナテ/底部底輪へラクズリ 内外面クロコナテ/底部底輪へラクズリ(右) 内外面クロコナテ/底部底輪へラクズリ(二)	No.1	100% PL77 50% PL77
411	須恵器	环	[14.8]	45	(9.2)	赤瓦粒子	SYR6/1 灰黑色	口沿部内面赤、底部内面・中ヨコアマ/内面 内面下部ノリ/内面内面手神らバケズリ	土壌	25% PL77 7%
412	土師器	环	[11.6]	45	-	青緑、白色粒子	SYR5/2 灰黑色	口沿部内面赤、底部内面・中ヨコアマ/内面 内面下部ノリ/内面内面手神らバケズリ	土壌	25% PL77 30% PL77
413	土師器	环	[11.6]	46.0	-	青瓦	SYR3/1 黒褐色	口沿部内面赤ヨコナテ/底部内面ベラミ ガラ/底部外面ベラミ(ナメ)	1区土壌	25% PL77
414	土師器	环	[11.4]	35.0	-	白色粒子	SYR3/1 黒褐色	口沿部内面赤ヨコナテ/底部内面ベラミ ガラ/底部外面ベラミ(ナメ)	No.3	25% PL78
415	土師器	环	[10.6]	(2.4)	-	青瓦	SYR3/1 黒褐色	口沿部内面赤ヨコナテ/底部内面ベラミ ガラ/底部外面ベラミ(ナメ)	2区2層 土壌	5% 10%
416	土師器	环	[11.8]	(4.1)	-	白色粒子	SYR5/4 灰黑色	口沿部内面赤ヨコナテ/底部内面ミガキ/ 内面ケラズノリナメ	1区2層	5% 10%
417	土師器	小形器	[16.6]	(11.9)	-	青瓦、白色粒子	SYR5/4 灰黑色	口沿部内面赤ヨコナテ/底部内面ミガキ/ 内面ケラズノリナメ	1区2層	10% PL78
418	土師器	小形器	[18.6]	(4.1)	-	青瓦、白色粒子	SYR6/3 灰黑色	口沿部・底部内面ヨコナテ/底部内面 内面ヨコナテ/外側ヨコナテ	1区2層	10% PL78
419	二輪器	裏	18.4	(11.1)	-	抛物粒子、小便	SYR5/4 灰黑色	口沿部・底部内面ヨコナテ/底部内面 内面ヨコナテ/外側ヨコナテ	No.8	45% PL78
420	土器	裏	[21.4]	(14.0)	-	青瓦、石英、赤瓦粒子	SYR7/6底轮 SYR5/4 灰黑色	口沿部・底部内面ヨコナテ/底部内面 内面ヨコナテ/外側ヨコナテ	No.11 No.9	25% PL78

第63号住居跡（第116・117図、第57表 PL32・33・78）

位置：D調査区C2グリッド、標高66.0m地点にある。

重複関係：第62号住居跡の南部を掘り込んでいる。

規模・平面形：住居跡南端が削平されているため形状は不明であるが、長軸3.32m、短軸(2.36)mで方形もしくは長方形を呈するものと推測される。

主軸方向：N-45°-W

残存壁高：確認面から最大高10cmを測り、垂直に立ち上がる。

壁溝：検出されていない。

床：ほぼ平坦で、全体的によく硬化している。

ピット：床面からは主柱穴、出入口ピットとともに検出されていない。

竈：北西壁中央部にあり、砂質粘土で構築されている。竈北西部が焼乱により破壊されている。焚口部から煙道部までは80cmである。袖部の最大幅は約92cmで比較的良好に遺存しており、袖部内面は被燃により赤変している。また火床部は、床面から4cmほど掘りくぼめて火床面としており、ゴツゴツと赤く硬化している。煙道部は壁外へ25cmほど削り出して造られ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

## 土層解説

1. 灰褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量
2. 黄褐色 土上ブロック少々、焼土粒子少量、炭化粒子少量、鉄物少量

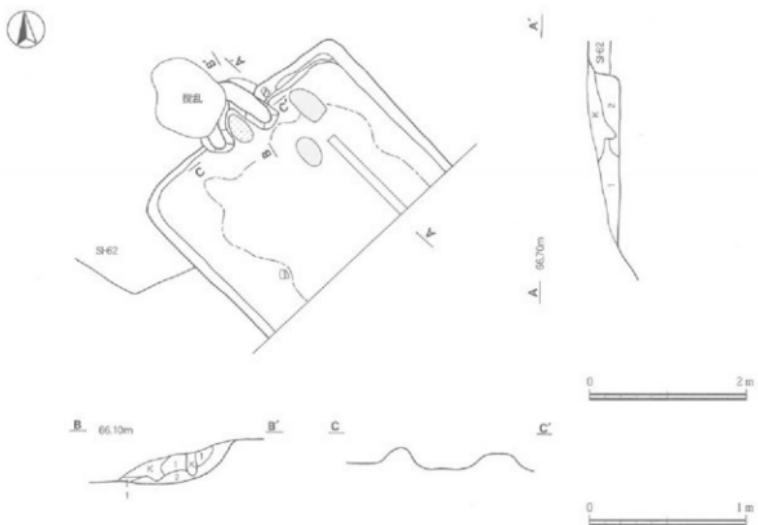
遺構埋没状態：ロームブロック主体で各層に焼土粒子や炭化粒子を含む人為的な堆積状況を示している。

## 土層解説

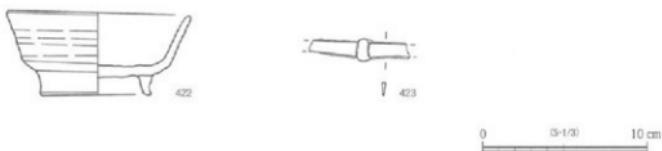
1. 灰褐色 ロームブロック少々、ローム粒子少量、焼土粒子少量、炭化粒子少量、鉄物少量
2. 黄褐色 ロームブロック少量、焼土粒子少量、炭化粒子少量

遺物：須恵器片31点（环・高台付环類16点、蓋6点、甕類9点）、土師器片96点（环・高台付环類2点、甕類94点）、鐵製品1点（不明）、土製品1点（支脚）。床面から出土した遺物ではなく、住居廃絶後の埋め戻し時に投棄あるいは埋土中に混入したものである。422の須恵器高台付环は竈内から、423の刀子は覆土内から確認されたものである。

所見：本跡は第62号住居跡の南部を焼して造られている。また遺物が少なく明確ではないが、時期は須恵器片の形状から8世紀中葉と推測される。



第116図 第63号住居跡



第117図 第63号住居跡出土遺物

第63号住居跡（表57）

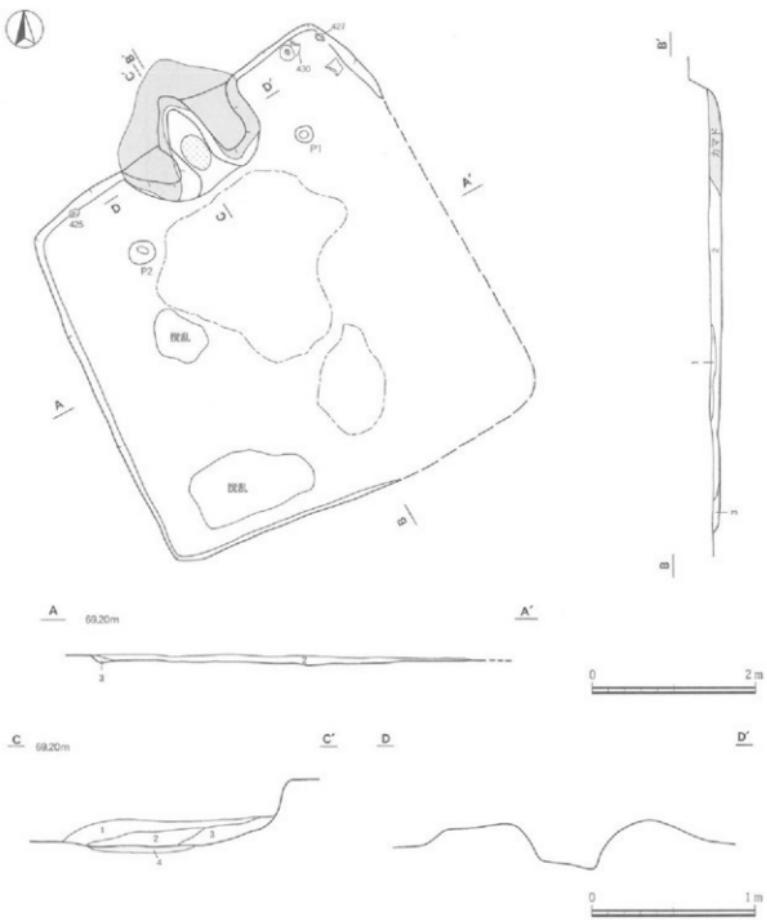
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
422	埴生器	高台付环	11.0	5.3	7.2	長石・小礫、白色粒子、黒色粒子	SBG5/1 青灰褐色	内外面ロクロナデ/底部凹軸へらヶゼリ (右)/高台接合後開口にロクロナデ	カマツ1/2覆土 No.1	70% PL78

番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	特徴	出土位置	備考
423	刀子	[6.0]	0.9		7.1	鉄		覆土	PL78

第64号住居跡（第118・119図、第58表、PL33・79）

位置：D調査区C2グリッド、標高69.0m地点にある。

規模・平面形：東部が削平され、明確ではないが、長軸4.96、短軸4.90mで方形もしくは長方形を呈するものと推測される。



第 118 図 第 64 号住居跡

主軸方向：N - 24° - W

残存壁高：礎面から最大高8cmを測るが、層厚が薄いため立ち上がりの傾斜角度は把握できなかった。

壁溝：検出されていない。

床：ほぼ平坦で、住居中心部がよく硬化している。

ピット：2箇所確認され、P1：20×18cm、深さ12cm、P2：32×30cm、深さ18cmである。主柱は床上にないプランが想定される住居であるため、これらのピットの性格は不明である。

窓：北西壁中央部にあり、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは108cmである。袖部の最大幅は約180cmで比較的良好に遺存しており、袖部内面は被熱により赤変している。火床部は床面から4cmほど掘りくぼめて火床面としている。また火熱を受けて赤変しているが、硬化はしていない。窓道部は窓外へ40cmほど削り出して造られ、火床部から外傾して立ち上がる。

## 土層解説

1. 塗 薄 色 ロームブロック微量、ローム粒子少量
2. 薄 色 灰化粒子微量、炭化粒子微量、燒土粒子少量、粘性・繊維とともに多い
3. 暗灰 黑 色 灰化粒子微量、焼土ブロック微量、砂質粘土ブロック少量、繊維あり
4. 暗赤褐色 焼成ブロック微量、焼土粒子中量、炭化粒子微量、繊維あり

遺構埋没状態：層厚が薄く堆積状況は不明である。なお、土層断面図中、第3層は壁部の崩落土である。

## 土層解説

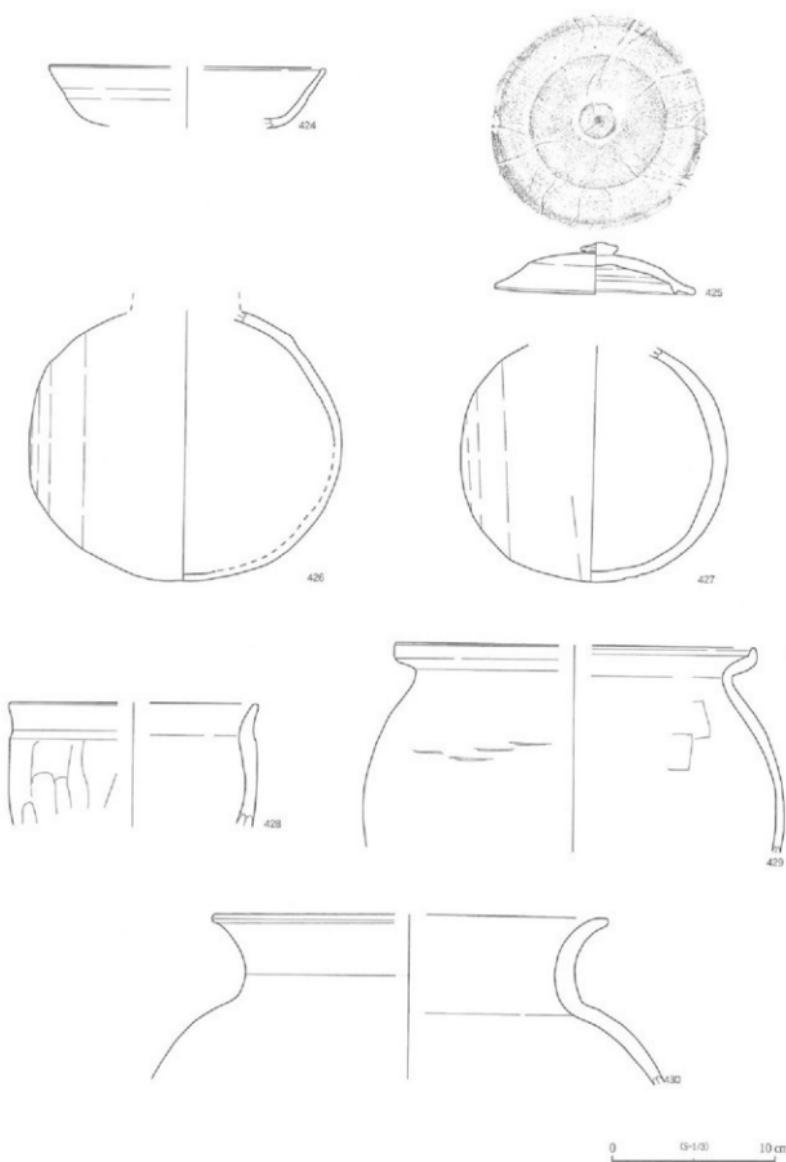
1. 褐 色 ロームブロック中量、コーム粒子微量、焼土ブロック微量
2. 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量、焼土ブロック微量
3. 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

遺物：須恵器片13点（壺・高台付壺類3点、蓋6点、長颈瓶2点、壺瓶2点）、土師器片76点（甕類）。遺物は少ないものの、東北隅の床面から426・427の須恵器フラスコ瓶と430の土師器甕が出土している。

所見：本跡は遺構確認時にプランを明確に把握できず、主軸方向を見間違った状態で調査を行ってしまった。そのため西壁を捉えきれず掘りすぎてしまう結果となってしまった。時期は、遺物が少なくしかも遺物に時期差があり判然としないが、7世紀後葉～8世紀代の遺物が混じって出土している。

第64号住居跡（表58）

番号	性 別	着性	口径	蓋高	底径	胎 土	色 国	手 法 の 特 徴 は か	出土位置	備 注
421	須志器	壺	(16.7)	(3.7)		黑色粒子、白色粒子	SCYS/1 オフ・ゾーン底色	内外面クロロナデ/内外面上部ナデ/天井部底板ヘラグリズミナデ/つまみ蓋	3区覆土 PL79	10% PL79
425	須志器	蓋	122	32		黑色粒子、白色粒子、小標	SGCS/1 古灰色	内外面クロロナデ/内外面上部ナデ/天井部底板ヘラグリズミナデ/つまみ蓋	No.5 PL79	10% PL79
426	須志器	長颈瓶			(16.2)	黑色粒子、白色粒子	OGYB/1 練灰色	内外面クロロナデ/盖形部の下部側に瓦飾ヘラグリズミナデ/天井部上部に蓋をして蓋さらしにロクナデ	No.1 PL79	90% PL79
427	須志器	長颈瓶			(14.6)	黑色粒子、白色粒子	SGCS/1 古灰色	内外面クロロナデ/盖形部の下部側に瓦飾ヘラグリズミナデ/天井部上部に蓋をして蓋さらしにロクナデ	No.3 PL79	30% PL79
428	土師器	小形甕	(15.2)	(7.5)		黑色粒子、白色粒子、小標	SYB6/4 にぶい褐色	口縁部・頭部内外面コナダ/断面部内面ナジア避ケズリ	3区覆土 PL79	10%
429	土師器	甕	(22.2)	(12.5)		黑色、白色粒子、小標	SYB6/3 にぶい赤褐色	口縁部・頭部内外面コナダ/断面部内面ヘラナデ/外縁ナデ（一部ヘラナデ）	カマド2/2屋上 PL79	20%
430	土師器	甕	(24.3)	(10.9)		黑色、白色粒子、小標	GTY6/4 にぶい褐色	口縁部・頭部内外面コナダ/断面部内面ヘラナデ/外縁ナデ	No.2 PL79	10% PL79



第119図 第64号住居跡出土遺物

## 第2節 構列

F区の南西部、標高47.4m地点から1列確認された。平成23年度調査区も含め、当遺跡で検出された構列は本跡のみである。

### 第1号構列（第120図、PL35）

位置：F調査区F5グリッド、標高47.4m地点にある。

規模：直線上に4カ所のピットが検出された。

P1: 92×48cm、深さ6cm、P2: 64×40cm、深さ8cm、

P3: 72×70cm、深さ12cm、P4: 84×60cm、深さ16cm

である。

方向：N=0°

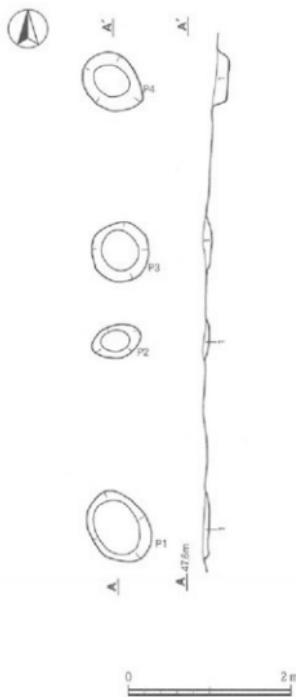
覆土：いずれのピットの覆土も單一層で、粘土に砂粒を混ぜており、突き固めたかのような非常に緻密な土である

P1土層解説  
L 壁 色 粘土粒子多量、砂粒多量、緻密あり

遺物：検出されていない。

所見：当遺跡で確認された構列は本跡のみである。掘り込みがあるためピットとしたが、覆土はちょうど古民家の土間を彷彿とさせる土であり、礎石を据える前の基礎固めとして掘り詰め構築したものかも知れない。しかし、遺構確認時には礎石となるような板状の石は検出されていない。また周辺に遺構もないためどのような意図で、いつ構築されたかは不明である。

なお、表土中から検出された瓦塔は、本跡から北方向へ約58m、祭祀土坑は北東方向へ約82mの距離にあるが、得られた情報が少なく、相互の関係は不明である。



第120図 第1号構列

### 第3節 溝 跡

8条の溝跡が確認されたが、そのうち3条は自然流路（落ち込み）である。ここでは人为的に構築された5条の溝跡のうち、昭和40年代に掘られたことが明らかになった1条を除いた4条を掲載する。

#### 第5・6号溝跡（第121図、PL34）

位置：F調査区F2グリッド、標高57.9～59.6m地点にある。

重複関係：第37号居跡南部と第42号住居跡中央部を掘り込んでいる。

規模・平面形：上幅60～110cm、下幅20～32cm、全長約38mで、確認面からの深さは9～36cmである。断面はU状を呈し、壁は外傾して立ち上がる。溝の底面からはピット等の掘り込みは確認されていない。

方向：N-41°～Eの方向には直線的に延びる。

遺構埋没状態：3層からなり、自然堆積と考えられる。

##### 土質解説

1. 種	色	ローム粒子微量、緑色ありなし
2. 種	色	ローム粒子微量、灰化物微量
3. 種	色	灰化粒子微量、緑色ありなし

遺物：須恵器片7点（杯・高台付環頸1点、蓋1点、甕頸5点）、土師器片12点（甕頸）、鉄砲玉。出土した遺物はすべて混入したものと推測される。鉄砲玉は径1.26cm、重量10.6gの鉛製である。

所見：遺構確認時、第5号溝跡と第6号溝跡を別の溝跡と判断し調査を行ったが、第6号溝跡が南西方向へ直線的に延びていることが判明し、同一の溝跡であることが明らかとなった。流水の痕跡はなく、根切り溝と推測される。木跡に伴う遺物は認められず時期は不明である。

#### 第7号溝跡（第122・123図、第59表、PL34・79）

位置：F調査区E2・F2グリッド、標高53.5～56.3m地点にあり、北端と南端は調査区外へと延びている。

重複関係：第32号居跡東部、第36号住居跡中央部を掘り込み、第33号土坑に掘り込まれている。

規模・平面形：上幅36～42cm、下幅14～20cm、全長37.5mで、確認面からの深さは40～76cmである。断面は箱蓋研状を呈し、壁は外傾して立ち上がる。溝の底面からはピット等の掘り込み等は確認されていない。

方向：北部はN-44°～Wの方向に延び、南部でクランク状にU字曲する。

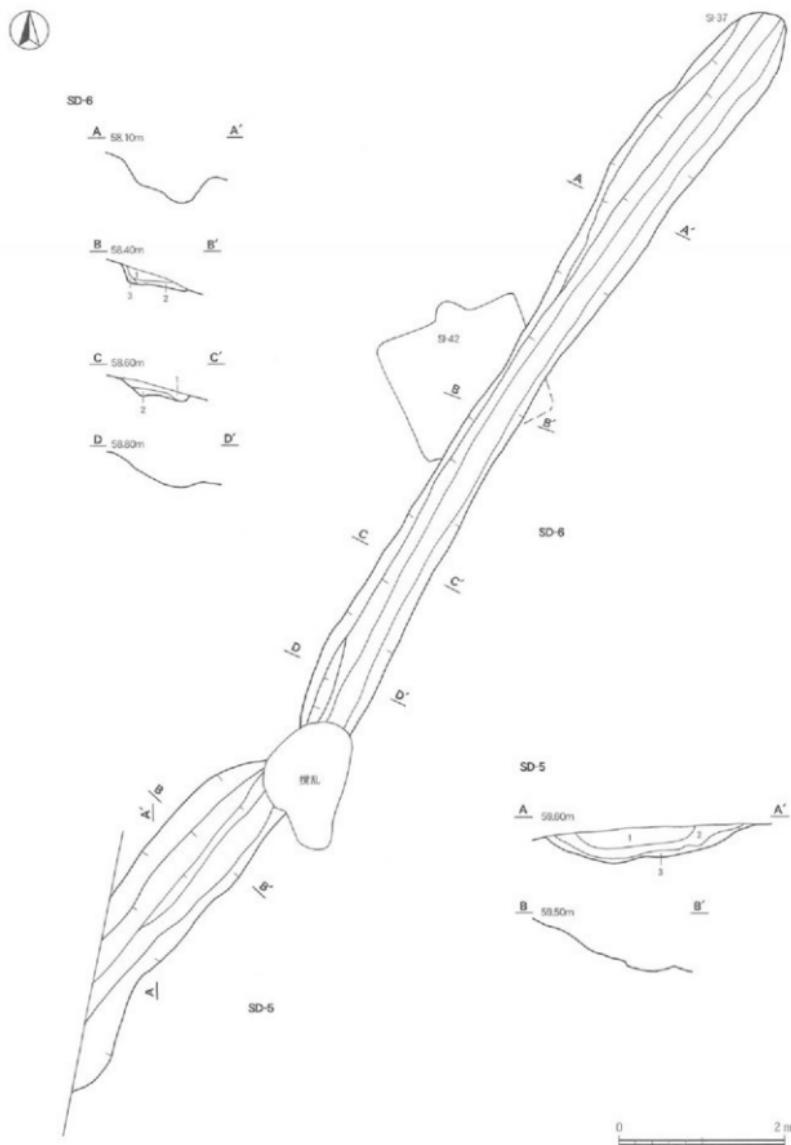
遺構埋没状態：2層からなり、自然堆積と考えられる。

##### 土質解説

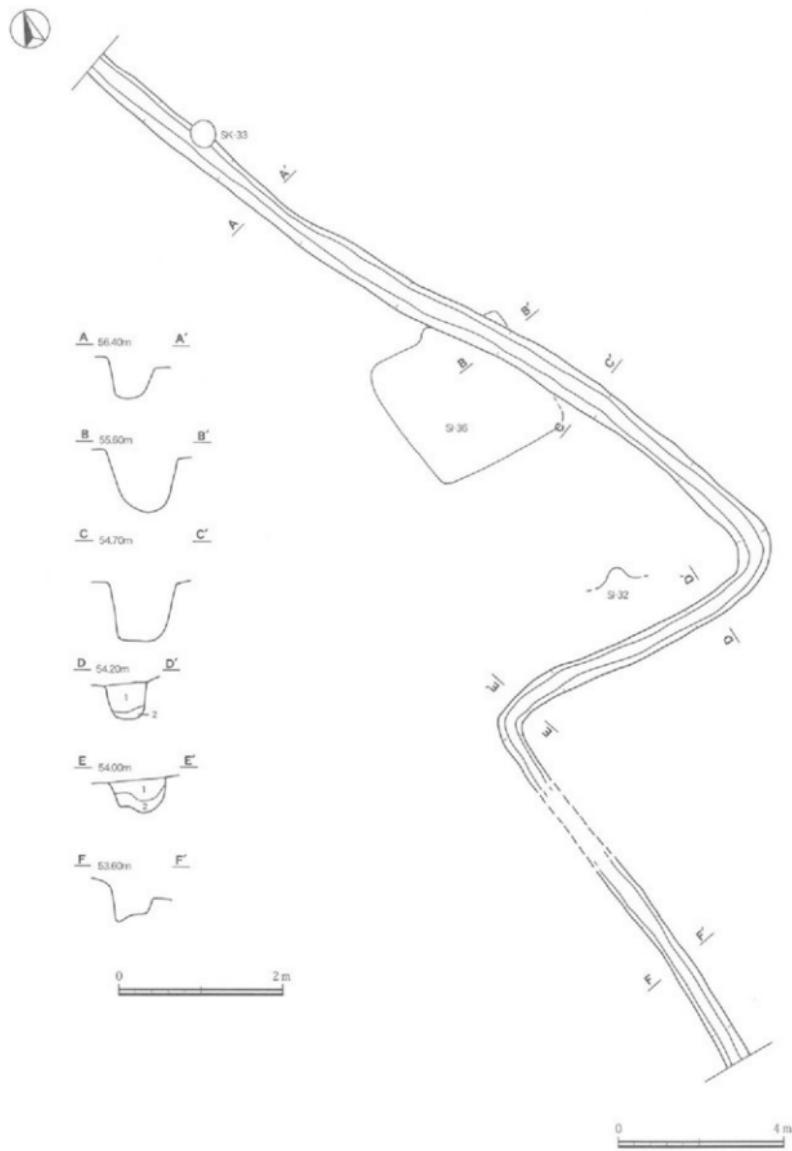
1. 種	色	ローム粒子微量
2. 種	色	ローム粒子微量、緑色あり

遺物：須恵器片32点（杯・高台付環頸18点、蓋3点、甕頸31点）、土師器片92点（杯・高台付環頸32点、甕頸60点）、陶器片2点（振鉢）、磁器片11点（碗頸）、古銭1点。出土した遺物はすべて混入したものと推測される。

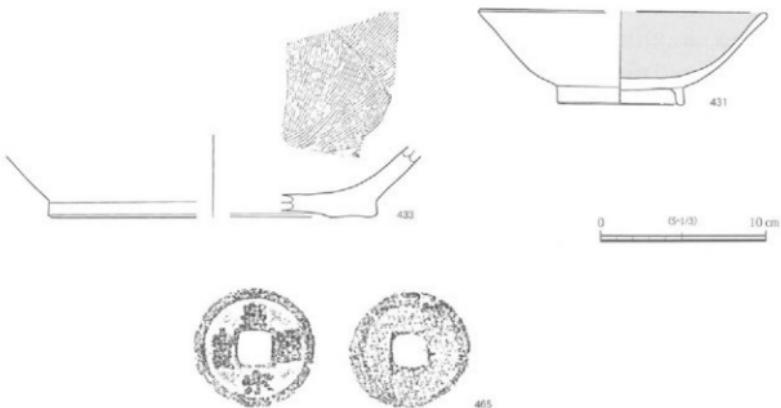
所見：流水の痕跡は認められないため、区画溝としての役割があったものと推測される。出土した遺物にはコンクリートを使用した敷地も見られるため、埋没した時期は近代以降と考えられる。



第121図 第5・6号溝跡



第122図 第7号溝跡



第123図 第7号溝跡出土遺物

第7号溝跡（表59）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	加土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
431	土制器	高台付环	(17.2)	5.7	7.6	雲母、黒色粒子、白色粒子、小球。	5YR6/6褐色	内面ハラミガキ・黒色処理/外面は削減して観察不可/高台接合後周間にロクロナゲ	覆土	40%
433	陶器	寸り鉢		(4.2)	(19.8)	砂粒	7.5YR5/4 に赤い褐色	頂部外面褐色施す軸/高台はケズリだし・外面露胎/蓋み付きから底部乳白色	D区覆土	5% PL.79

番号	器種	径 (cm)	孔径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	材質	特 徴	出土位置	備 考
465	銅貨	2.485	0.650	0.145	2.8	銅	○発掘實	No.1	PL.79

### 第9号溝跡（第124、PL34）

位置：D調査区D 3グリッド、標高53.9m地点にあり、東端は調査区外へと延びている。

重複関係：第61号住居跡中央部を掘り込んでいる。

規模・平面形：上幅45～120cm、下幅8～40cm、全長14.8mで、確認面からの深さは32cmである。断面は直状を呈し、壁は外傾して立ち上がる。溝の底面からはピット等の掘り込みは確認されていない。

方向：N-45°-Eの方向にはば直線的に延びる。

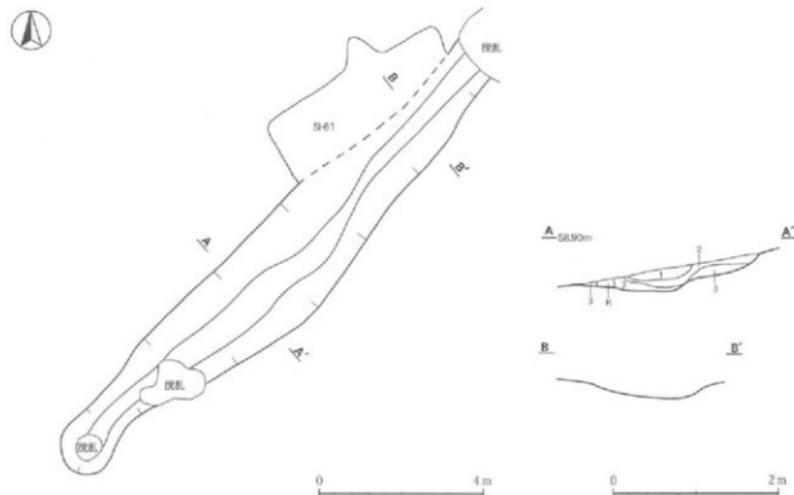
造構埋没状態：3層からなり、自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

- |    |   |   |                         |
|----|---|---|-------------------------|
| 1. | 褐 | 色 | ロームブロック微量、ローム粒子少量、締まりなし |
| 2. | 褐 | 色 | ローム粒子微量、炭化物微量           |
| 3. | 褐 | 色 | ローム粒子微量                 |

遺物：須恵器片49点（环・高台付坏類28点、蓋4点、甕類17点）、土師器片78点（坏・高台付坏類14点、甕類64点）。出土した遺物はすべて混入したものと推測される。

所見：流水の痕跡はなく、性格は不明であるが、確認された遺物はすべて7世紀から9世紀に比定されるもので占めており、埋没時期は平安時代と考えられる。



第124図 第9号溝跡

## 第4節 土 坑

今年度の調査では52基の土坑が確認された。D区で48基、E区で4基である。時期を特定できる遺構は少ないが、第1号土坑は8世紀前葉に廃絶されたものであることが明らかとなり、多数の遺物が出土している。

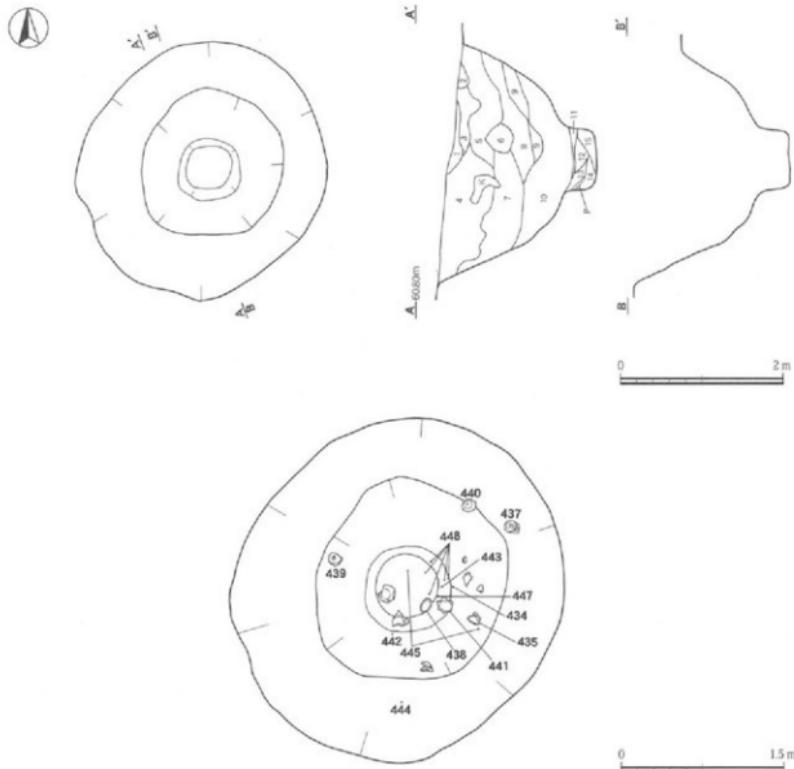
なお、個別に掲載できなかった土坑については一覧表と図で一括して掲載した。

第1号土坑（第125・126図、第60表、PL35・80・81）

位置：D調査区B4グリッド、標高60.6m地点にある。

規模・平面形：長径3.15m、短径2.88mの円形で、深さ1.48mの漏斗状を呈する。底部の中心部に径約60cm、深さ30cmほどの窪みをもつ。

壁面：底部の小円形状の窪み部分ではほぼ垂直に立ち上がり、その後は外傾して上端に至る。



第125図 第1号土坑

覆土：発鉢後、多数の土器片とともに一括して埋め戻されている。特に第4・10層から遺物の検出が多く、第10層の焼土塊は投棄されたものと考えられる。

#### 土器解説

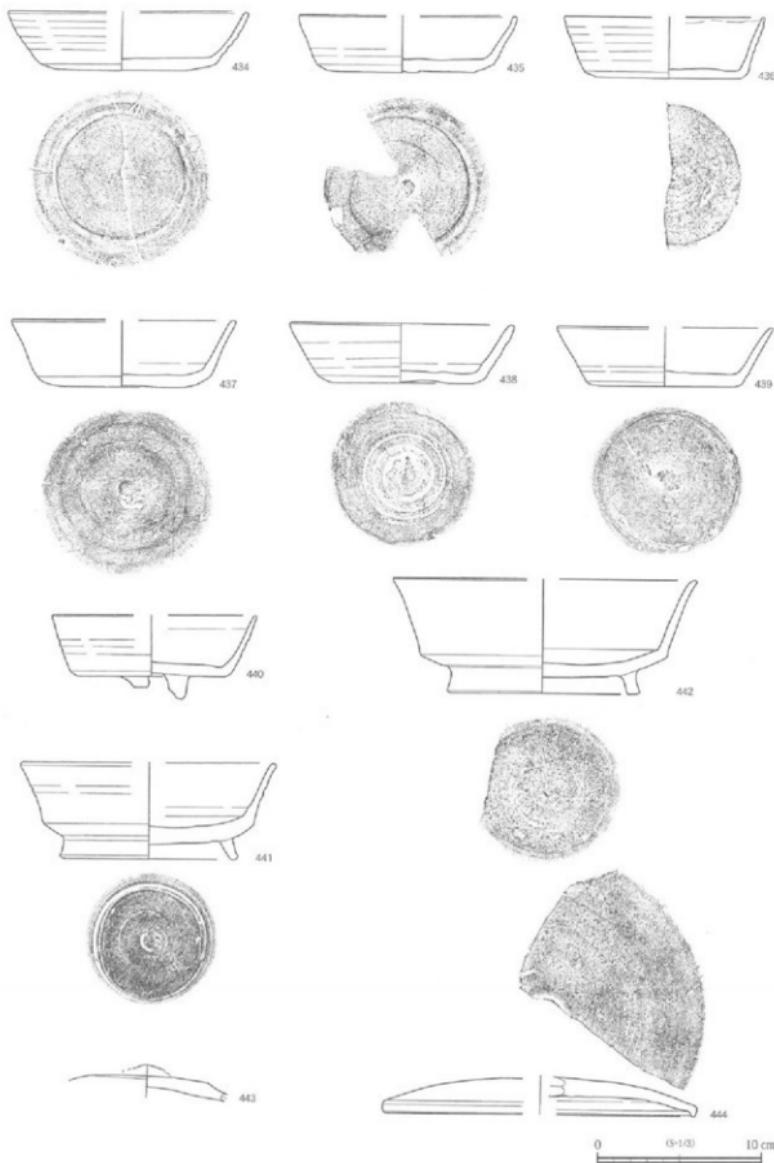
1. 磁器色 ロームブロック中等、炭化粒子微量
2. 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、疊まりあり
3. 灰褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量
4. 呈褐色 炭化物少量、炭化粒子少量、粘性あり、疊まり弱い
5. 赤褐色 炭化物少々、炭化粒子少々、粘性あり、疊まり弱い
6. 灰褐色 ロームブロック少々、ローム粒子微量、燒土粒微量、炭化物微量
7. 灰褐色 ローム粒子少量、炭化物微量、疊まり強
8. 灰質褐色 ロームブロック少々、ローム粒子微量
9. 灰褐色 ローム粒子少々、焼土粒子微量
10. 暗赤褐色 燃土粒子中等、焼土ブロック少々、炭化物少量、炭化粒子少量、粘性あり、疊まり弱い
11. 鹿色 炭化物少々、粘性、疊りともに弱い
12. 灰褐色 ロームブロック微量、ローム粒子微量、炭化物微量
13. 灰褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少々
14. 鹿色 ロームブロック微量、ローム粒子微量、疊まり弱い
15. 桐色 ロームブロック中等、炭化物微量、粘性弱い

遺物：須恵器片132点（坏・高台付坏類108点、蓋7点、甕17点）、土師器片167点（坏・高台付坏類8点、壺類159点）。埋め戻しの段階で投棄された遺物が大半を占め、特に第4層と第10層で多数検出されている。なお、これらは7世紀後葉から8世紀前葉までに比定されるもので、残存率50%を超える遺物が多い。また445の須恵器蓋や448の土師器壺のように覆土下層と上層の破片が接合関係にある遺物も見られ、埋め戻し作業が一気に行われたようである。

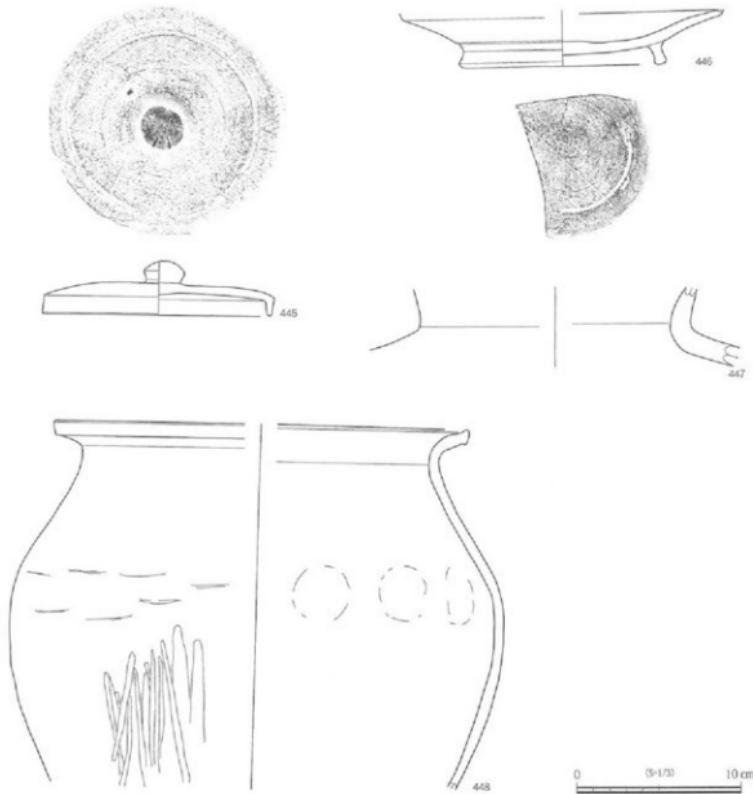
所見：本跡は所謂「水室状土坑」で、本郷で確認された水室状土坑の中では古い段階のものである。なお、出土遺物の中には、覆土下層と上層の破片が接合関係にあるものが認められており、本跡発鉢後に一括して埋め戻されていることが示唆される。

第1号土坑跡（表60）

番号	種別	器種	口径	深さ	地土	色調	手 古 の 特徴 は か	出土位置	備考
434	須恵器	坏	Φ143.3	36	7.6	白色松了、白 い紅粒子	10G5/1味灰角 内斜面クロナデ/底部圓盤ヘラクズリ (右)	覆土 2E1.4層 No.42	70% PL80
435	須恵器	坏	Φ131.1	35	8.6	白色松子	5C16/2 内斜面クロナデ/底部圓盤ヘラクズリ (左)	覆土 No.6	60% PL80
436	須恵器	坏	Φ122.6	38	8.6	黑色松子、白 い紅粒子	5A11/3灰角 外斜面クロナデ/底部圓盤ヘラクズリ後 部面	2E1.4層 No.2	30% PL80
437	須恵器	坏	Φ134.1	41	7.5	白色松子	BBG5/1 内斜面クロナデ/底部圓盤ヘラクズリ (右)	覆土 No.2	50% PL80
438	須恵器	坏	Φ134.1	36	8.4	白色松了、小 細鳥足、浅口 小腹	75Y7/1 外斜面クロナデ/底部圓盤ヘラカチ 底 灰角	No.38	90% PL80
439	須恵器	坏	Φ128.6	37	8.6	白色松子、白 い紅粒子	25G7/1.1肘 リーフ灰角 SDS5/1 外斜面クロナデ/底部圓盤ヘラカチ 底 灰风角	No.20	40% PL80
440	須恵器	坏	Φ123.0	37	8.8	白色松了、白 い紅粒子	SDS5/1 外斜面クロナデ/底部圓盤ヘラカチ 底 灰风角	2E2.4層 No.1	50% PL80
441	須恵器	高台付坏	Φ158.8	59	10.6	白色松子、小 細鳥足	SDG6/1 内斜面クロナデ/底部圓盤ヘラカチ後 部面	No.3	60% PL80
442	須恵器	高台付坏	Φ182.0	70	11.4	白色松子、小 細鳥足	SHG4/1 内斜面クロナデ/底部圓盤ヘラカチ 底 灰风角 急ヘラ25mm (+)	No.21	40% PL80
443	須恵器	盖	Φ20.0	-	-	白色松子、小 細鳥足	75GY5/1 内斜面クロナデ/水部圓盤ヘラカズ リ(右) /つまみ沿付後周間にロクロナ デ	No.42	20% PL81
444	須恵器	盖	Φ19.0	2.0	-	白色松子、白 い紅粒子	75GY6/1 内斜面クロナデ/水部圓盤ヘラカズ リ/つまみ沿付後周間にロクロナデ	No.18	20% PL81
445	須恵器	盖	Φ13.8	3.3	-	白色松子、白 い紅粒子	75GY7/1 内斜面クロナデ/水部圓盤ヘラカズ リ(右) /つまみ沿付後周間にロクロナ デ	No.26.39	30% PL81
446	須恵器	盖	Φ12.4	-	-	白色松子、小 細鳥足	10G4/1 (高台付接合後周間にロクロナデ/底 部面記号 (-))	No.13	20% PL81
447	須恵器	盖	Φ5.5	-	-	白色松子	SDH6/1 内斜面クロナデ	No.11	5% PL81
448	土師器	盖	Φ25.2	22.0	-	青色、白色松 子、小腹	SYR6/4 口縁部、裏面内側面凹コナデ/騎馬外側 上半ヘラカチ/内側押さ板/側部外側下 半ヘラカチ	No.12.45.50.52.53	40% PL81



第 126-1 図 第 1 号土坑出土遺物 (1)



第126-2図 第1号土坑出土遺物（2）

第2号土坑（第127・128図、第61表、PL35・81）

位置：D調査区B4グリッド、標高60.6m地点にある。

重複関係：西部を第6号土坑に掘り込まれている。

規模・平面形：長軸3.34m、短径2.80mの不整形で、深さ46cmである。

壁面：外傾して立ち上がる。

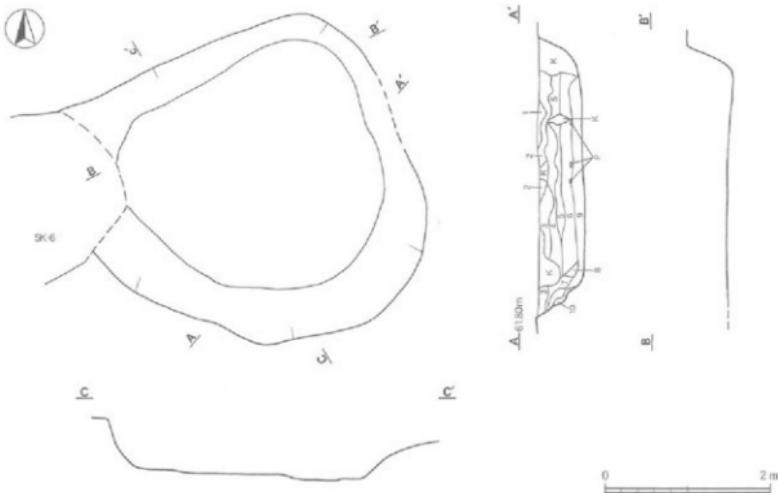
覆土：ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

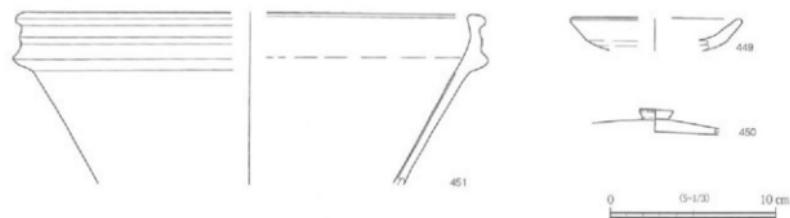
1. 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	6. 暗褐色	ロームブロック少量、ローム粒子微量
2. 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	7. 暗褐色	ローム粒子少量、炭化物微量
3. 暗褐色	ロームブロック微量、炭化粒子微量	8. 暗褐色	ロームブロック微量、ローム粒子微量、縛まりあり
4. 暗褐色	ロームブロック少量、炭化物少量、炭化粒子少	9. 暗褐色	ロームブロック微量、炭化粒子微量
量、粘性あり		10. 暗褐色	ロームブロック微量、炭化物微量、縛まり弱い
5. 暗褐色	炭化物少量、炭化粒子少量、粘性あり		

遺物：須恵器片68点（坏・高台付坏類13点、蓋5点、甕類50点）、土師器片54点（坏・高台付坏類2点、甕類52点）、陶器片4点（擂り鉢）、磁器片11点（碗）。埋土中に混入していたもので、特に覆土下層から中層にかけて多く認められた。

所見：遺構確認時には、隣接する第6号土坑と併せて、その形状から地下式坑を想定し調査を開始したが、まったく別の土坑であることが判明した。性格は不明であるが、埋土中から確認された磁器片などから、近代以降の遺構と考えられる。



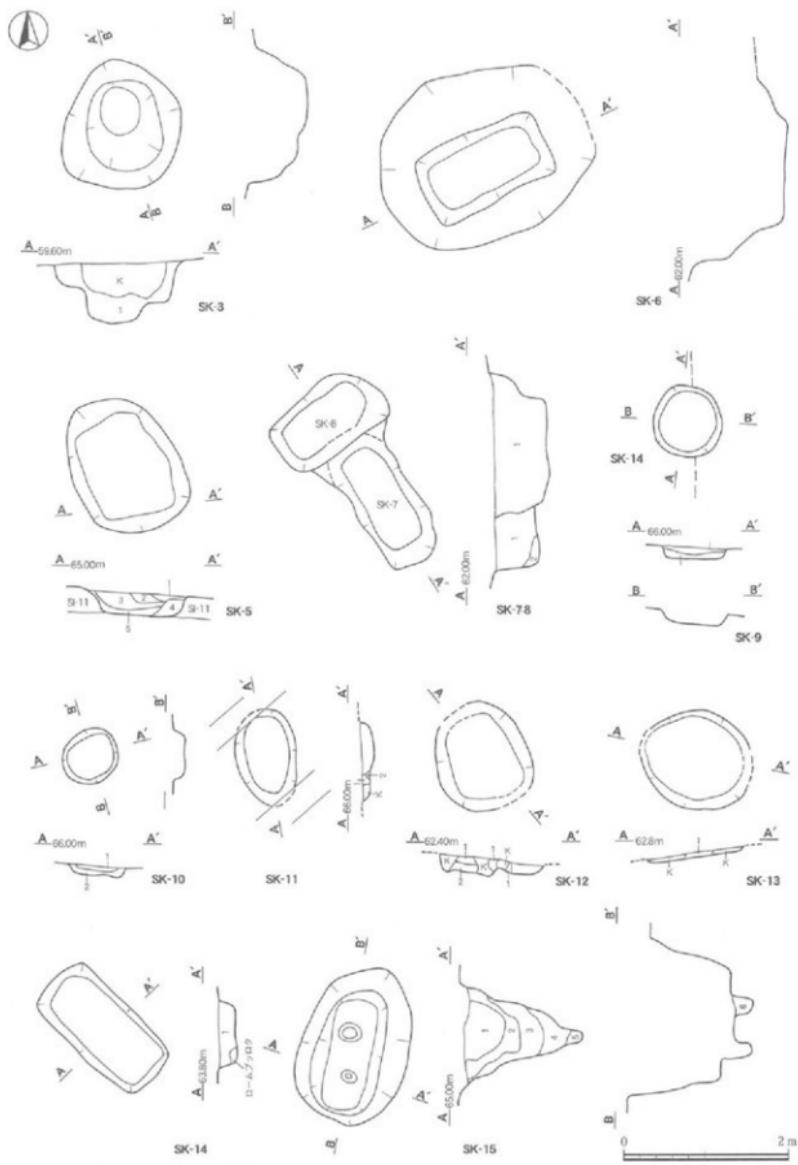
第127図 第2号土坑



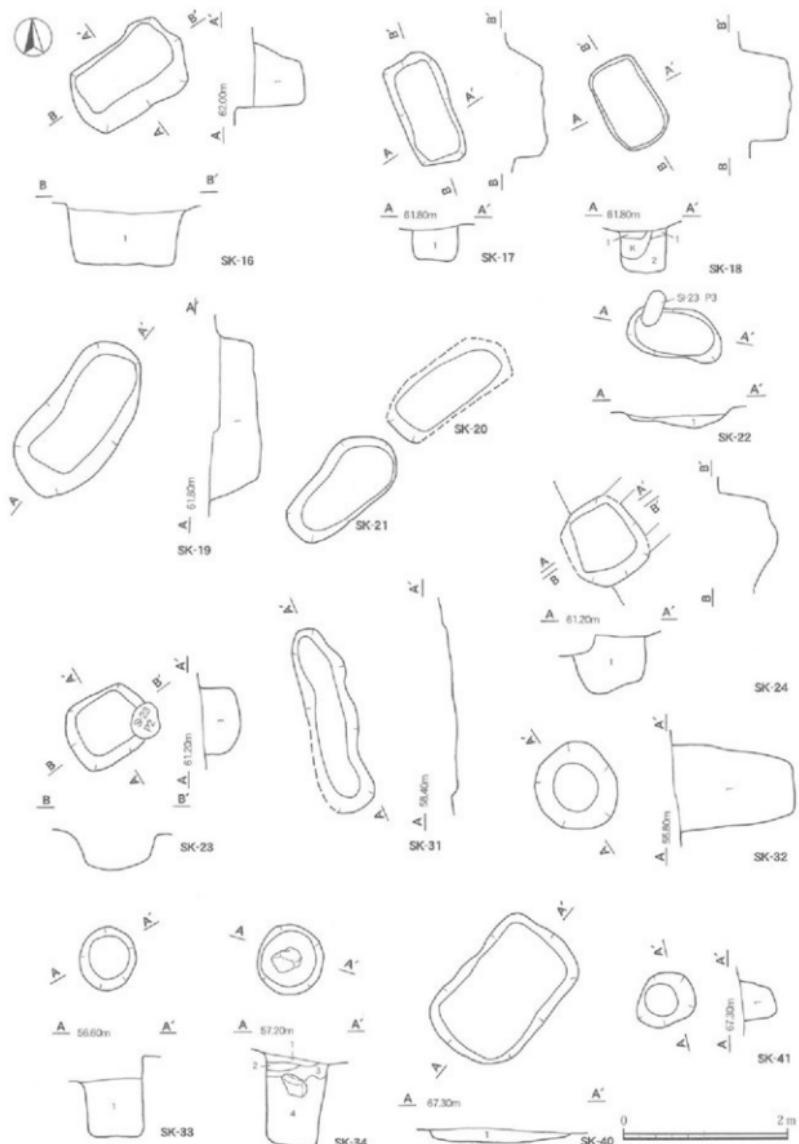
第128図 第2号土坑出土遺物

第2号土坑跡（表61）

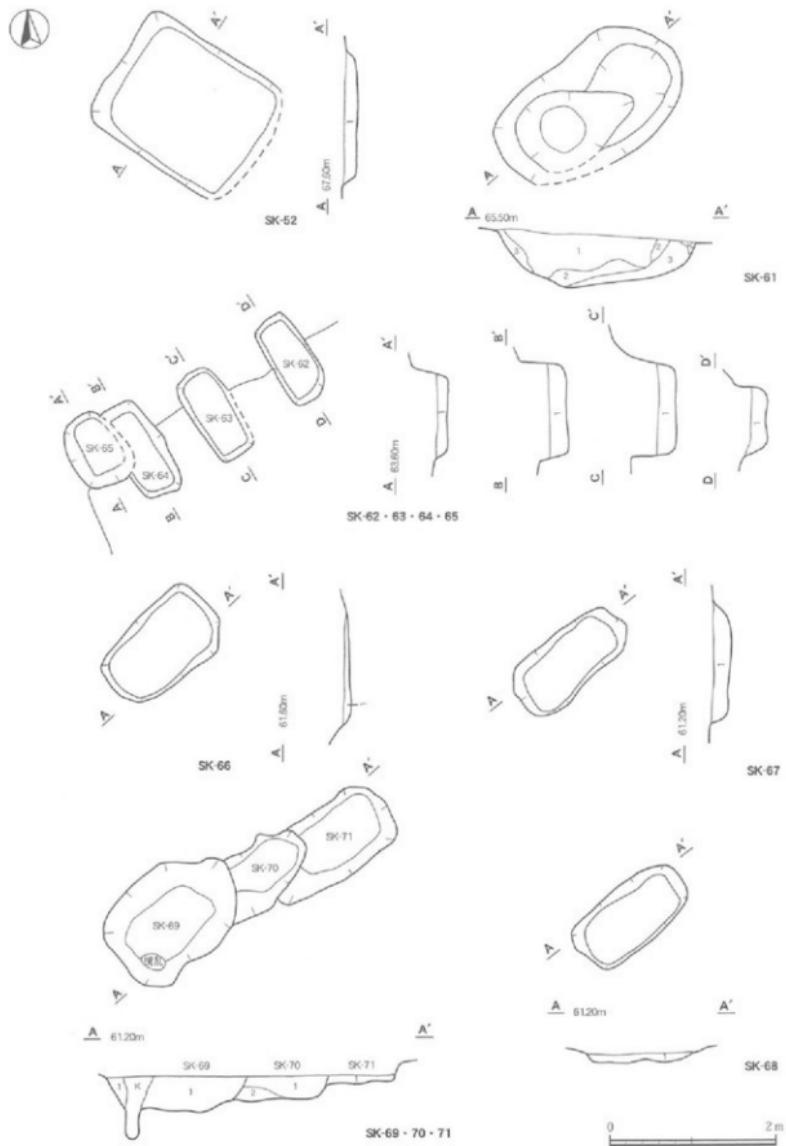
番号	種別	器種	口径	器高	底種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
449	陶器	壺	[10.2]	(2.0)		圓形	SGY7/八明 オ リーブ灰色	外面下端に落胎部分/瓶には細かい質乳	ペルト3層	5% PL81
450	陶器	蓋		(1.4)			10GYR3/2 黒褐色	天井部トピカンナによる装飾/つまみ柱	下層	10% PL81
451	陶器	擂鉢	[28.4]	(10.4)	白色粒子	ISYR4/4褐色	底部内面から外面全体に施釉		4区下層	20% PL81



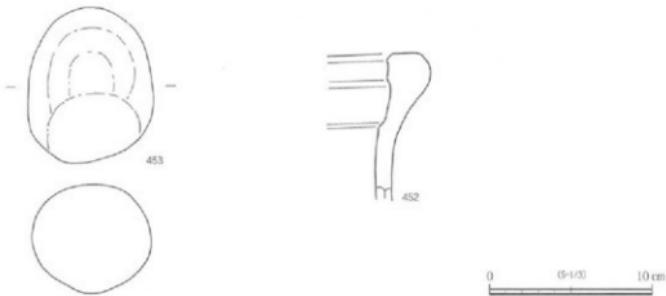
第129-1図 その他の土坑①



第129-2図 その他の土坑②



第129-3図 その他の土坑(③)



第130図 第6号土坑出土遺物

第6号土坑跡(表62)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴	出土位置	備考
452	陶器	火鉢		(9.8)		白色粒子、小 孔	SVB2/1 褐色	内面ヨコナギ・口縁部下部に幅2.7cm・深 さ2.3mmのヘラケズリ・外面部ミザキ	覆土	5%

番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	特徴	出土位置	備考
453	砾石	9.8	7.5	6.8	625	砂岩		覆土	PL8

## 第3号土坑土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム炭化粒子微量
2. 第5号土坑土層解説
3. 褐褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量
4. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量
5. 黒褐色 ロームブロック微量

## 第6号土坑土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子微量
2. 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量

## 第7号土坑土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量、締まりあり
2. 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量
3. 暗褐色 炭化粒子微量、炭化粒子微量

## 第10号土坑土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量、鹿沼バニス微量
2. 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量

## 第11号土坑土層解説

1. 黒褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量、炭化粒子微量
2. 暗褐色 炭化粒子微量、鹿沼バニス微量

## 第12号土坑土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量
2. 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、鹿沼バニス  
微量

## 第13号土坑土層解説

1. 暗褐色 ローム炭化粒子微量

## 第14号土坑土層解説

1. 黑褐色 炭化物微量、炭化粒子微量

## 第15号土坑土層解説

1. 黑褐色 炭化物微量、炭化粒子微量
2. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム炭化粒子微量
3. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量
4. 黑褐色 ロームブロック微量、ローム粒子微量、やや締  
まりあり

## 第16号土坑土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子微量、炭化粒子  
微量

## 第17号土坑土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量

## 第18号土坑土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量
2. 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、鹿沼バニス  
微量

## 第19号土坑土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量

## 第22号土坑土層解説

1. 黒褐色 炭化物少量、炭化粒子微量
2. 第23号土坑土層解説
3. 黒褐色 炭化物微量、炭化粒子微量

## 第24号土坑土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子微量、炭化粒子  
微量

## 第32号土坑土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量、締まりあり

## 第33号土坑土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量

## 第34号土坑土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量、鹿沼バニス微量

## 第40号土坑土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量

## 第41号土坑土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量

## 第52号土坑土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量、鹿沼バニス微量

## 第61号土坑土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量

## 第62号土坑土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量

## 第63号土坑土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量

## 第64号土坑土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量、鹿沼バニス微量

## 第65号土坑土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子微量

## 第66号土坑土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量

## 第67号土坑土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量、鹿沼バニス微量

## 第68号土坑土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量

## 第69号土坑土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量

## 第70号土坑土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック微量、締まり弱い

## 第71号土坑土層解説

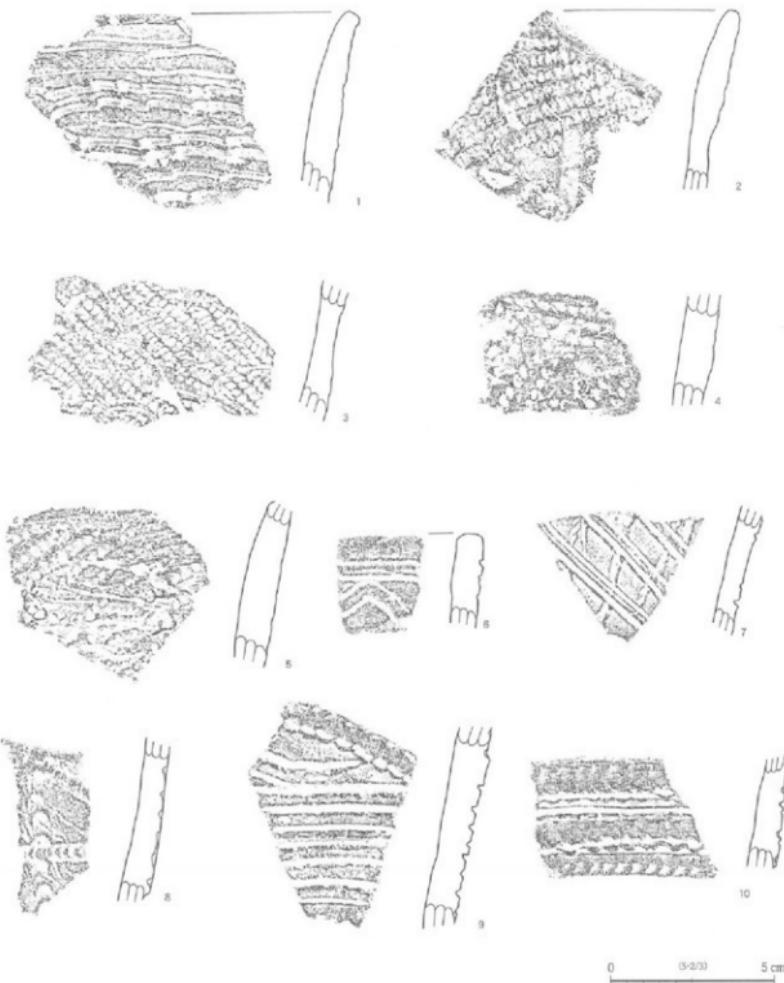
1. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量、締まりあり

その他の土坑一覧表（表63）

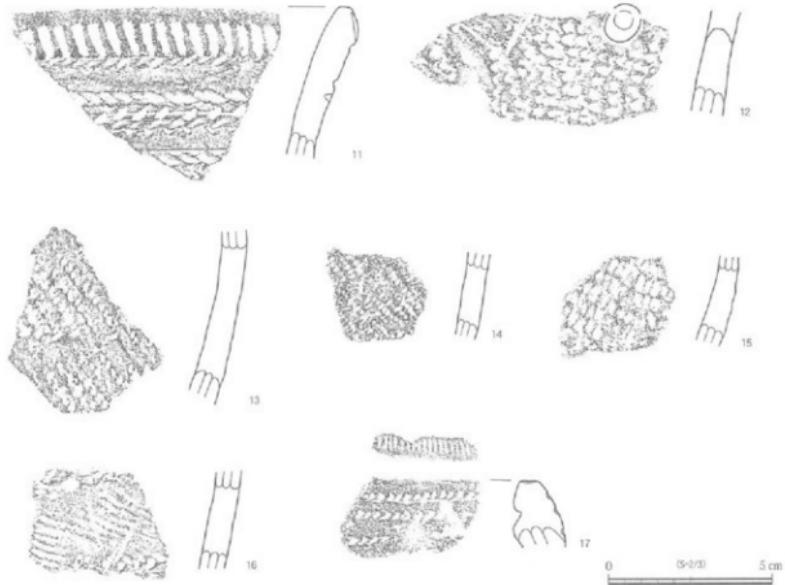
番号	位置	基盤方向	規 模		空 壁 高 度	半 壁 上 鉢 物	記 考 重複與削（古→新）
			長さ×幅さ(m)	深さ(cm)			
1	D区B4	N-0°	円形	3.15×2.88	148	外傾 (平傾) (直傾)	頭骨碎片1点(斜), 磨合骨片4点(2・度17・度7), 下顎骨片1点(45・度5), 齒15枚
2	D区B4	N-20°-E	不規則形	3.34×2.80	50	傾斜 平傾	頭骨碎片66点(度13・度60・度6, 千悔器片5点, 54点(度2・度25), 丸骨土器1点, 頭骨11点(度), 木柱4点
3	D区B4	N-0°	椭円形	1.54×1.40	60	傾斜 凹凸	頭骨碎片2点(3・度4), 上頸器片8.5点(度), 皮 膚1点(度2.5点)
3	D区A2	N-20°-W	椭円形	1.88×1.30	26	傾斜 平傾	
6	D区B1-B2	N-60°-E	円形	(2.60)×2.12	60	傾斜 平傾	頭骨3点(度)
7	D区B3	N-30°-W	椭丸長方形	1.58×0.80	50	直立 平傾	
8	D区D3	N-60°-E	椭丸長方形	1.45×0.84	68	傾斜 凹凸	
9	D区A2	N-0°	円形	0.84×0.80	16	外傾 平傾	上頸器片2点(度)
10	D区A3	N-6°-W	円形	0.74×0.64	16	外傾 凹凸	
11	D区C3	N-3°-W	椭円形	1.30×0.70	8	傾斜 平傾	頭骨碎片1点(度), 土師器片1点(度)
12	D区C3	N-15°-W	椭円形	1.30×1.14	16	外傾 凹凸	
13	D区C3	N-45°-W	円	1.38×1.18	6	傾斜 平傾	頭骨器片1点(度)
14	D区C3	N-45°-W	椭丸長方形	1.66×0.82	20	外傾 平傾	頭骨碎片2点(度), 下頸器片3点(度), 五年1点 (昭代丸)
15	D区A3	N-15°-E	椭円形	1.94×1.30	120	外傾 平傾	
16	D区B3	N-30°-E	椭丸長方形	1.52×1.00	72	外傾 平傾	
17	D区D3	N-37°-W	椭丸長方形	1.42×0.70	42	外傾 凹凸	頭骨碎片1点(度), 土師器片1点(度)
18	D区B3	N-32°-W	椭丸長方形	1.12×0.70	60	直立 凹凸	頭骨器片1点(度), 上頸器片3点(度)
19	D区B4	N-34°-E	椭円形	2.10×0.98	60	外傾 凹凸	
20	D区B4	N-30°-E	椭円形	(1.61)×(0.70)			
21	D区D4	N-45°-E	椭円形	1.64×0.84			
22	D区C3	N-82°-W	椭円形	1.16×0.60	12	傾斜 直立	
23	D区C3	N-88°-E	椭丸長方形	1.05×0.66	45	外傾 直立	
24	D区C3	N-40°-W	椭丸長方形	1.00×0.92	60	外・傾 直立	頭骨碎片23点(度19・度3・度1), 上頸器片 3点(度1・度35)
31	E区E2	N-17°-W	椭円形	2.32×0.62	8	傾斜 凹凸	頭骨碎片1点(度), 下頸器片1点(度), 五年1点 (昭代丸・度26)
32	E区E2	N-0°-W	円形	1.66×0.94	130	直立 平傾	頭骨器片7点(度1・度3・度1), 十字器片5点(度)
33	E区E2	N-0°	円形	0.76×0.66	100	直立 平傾	土師器片1点(度)
34	E区E2	N-0°	円形	0.84×0.80	112	直立 平傾	頭骨碎片1点(度)
40	D区C2	N-42°-E	椭丸長方形	1.90×1.20	16	直・傾 平傾	
41	D区C2	N-45°-E	椭円形	0.76×0.66	40	直立 平傾	
52	D区B2	N-60°-W	椭丸長方形	2.10×1.66	16	傾斜 平傾	
64	D区B2	N-50°-E	椭円形	2.50×1.44	66	直・傾 直立	
62	D区B3	N-35°-W	椭丸長方形	1.12×0.58	12	直・傾 空傾	
63	D区B3	N-35°-W	椭丸長方形	1.18×0.58	24	直・外 平傾	
64	D区B3	N-30°-W	椭丸長方形	1.34×0.58	24	直立 平傾	
65	D区B3	N-30°-W	椭丸長方形	0.94×0.74	22	直・傾 空傾	
66	D区B3	N-58°-E	椭丸長方形	1.56×0.96	10	傾斜 平傾	
67	D区B4	N-48°-E	椭丸長方形	1.58×0.78	20	傾斜 平傾	
68	D区B4	N-50°-E	椭丸長方形	1.58×0.72	12	傾斜 凹凸	
69	D区B4	N-50°-E	椭円形	1.80×1.20	94	外傾 凹凸	
70	D区B4	N-50°-E	(椭円形)	(1.10)×0.76	30	外傾 凹凸	
71	D区B4	N-52°-E	椭丸長方形	1.54×0.90	10	外傾 凹凸	

## 第5節 遺構外出土遺物

今回の調査で、遺構に伴わない遺物が出土している。ここでは、これらの出土遺物のうち特徴的なものについて掲載する。



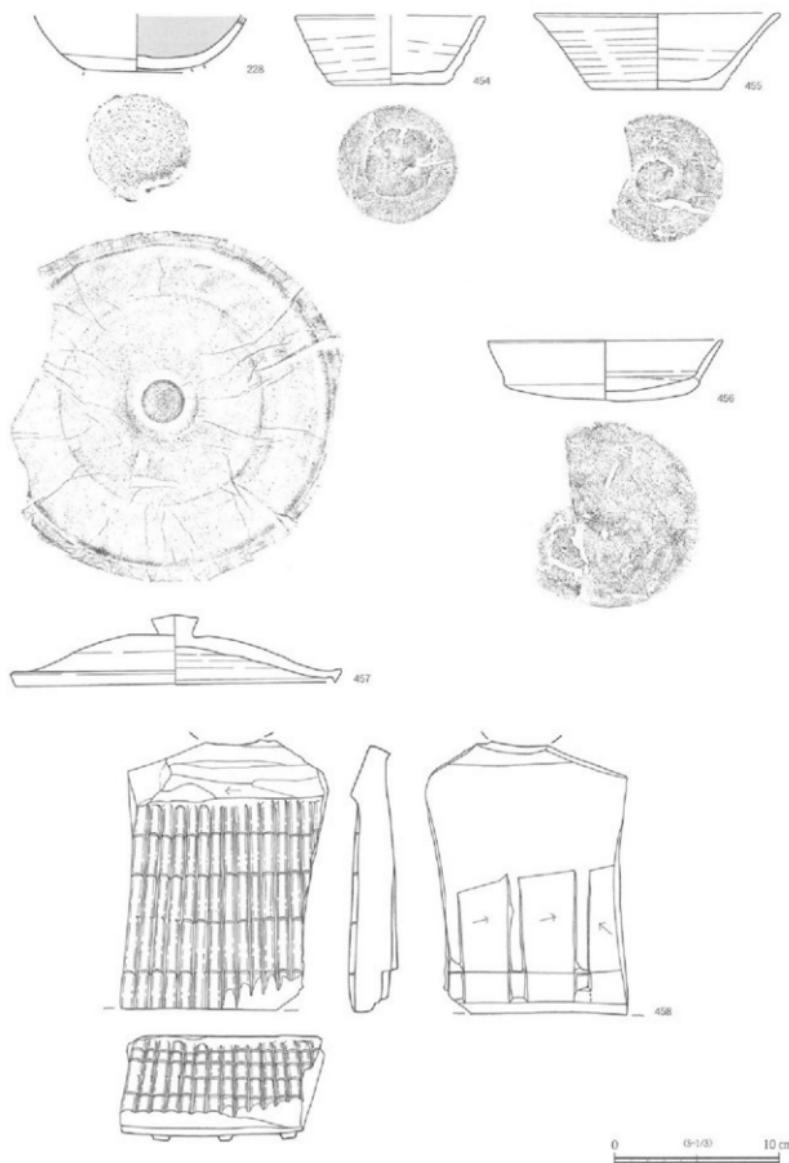
第131-1図 遺構外出土遺物①縄文時代（1）



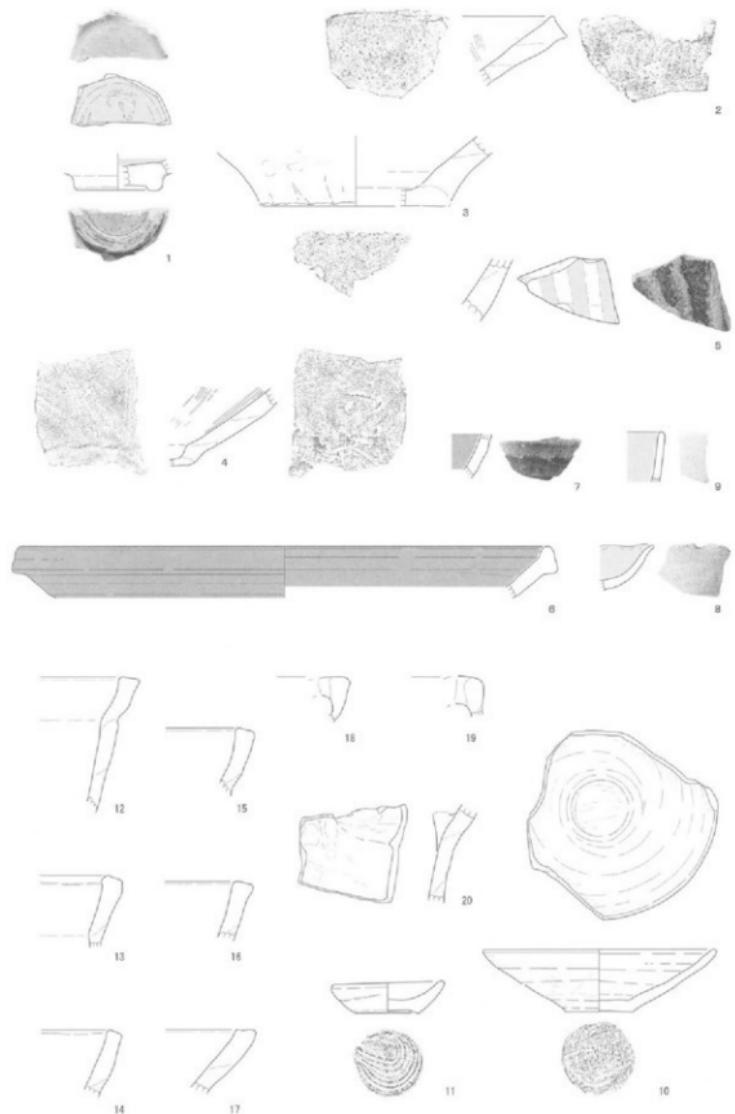
第131-2図 遺構外出土遺物①縄文時代(2)

遺構外出土遺物（縄文時代）（表64）

番号	出土地点 通称	種別	器種	部位	文様・調査	胎土	色調	焼成	備考
1	SI 1.5	縄文土器	深鉢	口縁部	横走する波状文を描く。	織維、角閃石、 白色鉄 白色鉄	10YR2/3 明褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色	普通 PLK3 普通 PLK3	前期・黑浜式 PLK3
2	SI 6.2	縄文土器	深鉢	口縁部	波状の口縁部に半周RL縄文を横位に施す。	織維、角閃石、 白色鉄 白色鉄	10YR4/3 にぶい黄褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色	普通 PLK3 普通 PLK3	前期・黑浜式 PLK3
3	SI 2	縄文土器	深鉢	胴部	半周RL縄文を全面に横位に施す。	織維、白色粘 織維、石英	7.5YR5/8 明褐色 10YR2/3 白色粘	普通 PLK3 普通 PLK3	前期・黑浜式 PLK3
4	SI 6.2	縄文土器	深鉢	胴部	半周RL縄文を横位に施す。	織維、石英	7.5YR5/8 明褐色	普通 PLK3	前期・黑浜式 PLK3
5	SK 6.1	縄文土器	深鉢	胴部	半周RL縄文を全面に横位に施す。	織維、石英白 色粘	10YR2/3 白色粘	普通 PLK3	前期・黑浜式 PLK3
6	SK 1.3	縄文土器	深鉢	口縁部	横走沈縄文と波状文を描く。	石英、砂紋白 色粘	7.5YR5/8 明褐色 白色粘	普通 PLK3 普通 PLK3	前期・浮島工式 PLK3
7	SK 1	縄文土器	深鉢	胴部	まろらかな横巻文の施文上に斜位の平行沈縄文を施す。	石英、白色粘	7.5YR5/6 明褐色	良好 PLK4	前期・浮島工式 PLK4
8	SK 1	縄文土器	深鉢	胴部	波前部から網状文が垂下し、幅狭の水波文を施す。施文上の黒点文。	石英、白色粘	7.5YR5/8 明褐色	普通 PLK5	前期・浮島工式 PLK5
9	SI 4.2	縄文土器	深鉢	胴部	やや暗緑の施貝形爪文による要形モチーフと横走沈縄文を施す。	角閃石、石英、 白色粘	10YR2/4 にぶい黄褐色	普通 PLK3	前期・浮島工式 PLK3
10	SI 4.0	縄文土器	深鉢	胴部	横走沈縄文と変形爪形文を施す。	石英、赤鉄、 白色粘	7.5YR5/6 明褐色 白色粘	良好 PLK3	前期・浮島工式 PLK3
11	SI 2.7	縄文土器	深鉢	口縁部	口縁部に斜位の刷目を付し、以下に幅広の変形爪形文を施す。	角閃石、石英、 白色粘	10YR2/3 明褐色 白色粘	普通 PLK3	前期・浮島工式 PLK3
12	SI 2.7	縄文土器	深鉢	胴部	胴部全面に波状貝體文を施す。飾孔あり。	砂粒、白色粘	10YR4/3 にぶい黄褐色	普通 PLK3	前期・浮島工式 PLK3
13	SK 1	縄文土器	深鉢	胴部	半周RL縄文を横位に施す。	角閃石、チコリ 上、石英、白色粘	10YR2/3 明褐色	普通 PLK3	前期・黒浜台式 PLK3
14	SI 1.6	縄文土器	深鉢	胴部	半周RL縄文を全面に横位に施す。	砂粒、白色粘	7.5YR5/6 明褐色	普通 PLK3	前期・黒浜台式 PLK3
15	SI 1.3	縄文土器	深鉢	胴部	半周RL縄文を全面に横位に施す。	石英、石英白 色粘	10YR5/4 にぶい黄褐色	普通 PLK3	前期・黒浜台式 PLK3
16	SI 2.8	縄文土器	深鉢	胴部	半周RL縄文を横位に施し、結節軌文を加える。	角閃石、石英、 白色粘	7.5YR5/6 明褐色 白色粘	普通 PLK3	前期・黒浜台式 PLK3
17	SI 1.6	縄文土器	深鉢	口縁部	底内面の外側に斜位による斜列突文を3条、内面には花 文鏡を1条施す。口縁部は外側N字状を呈し、刷目を付す。色粘	石英、石英白 色粘	10YR4/3 にぶい黄褐色	普通 PLK3	中期・五須ヶ台式 PLK3

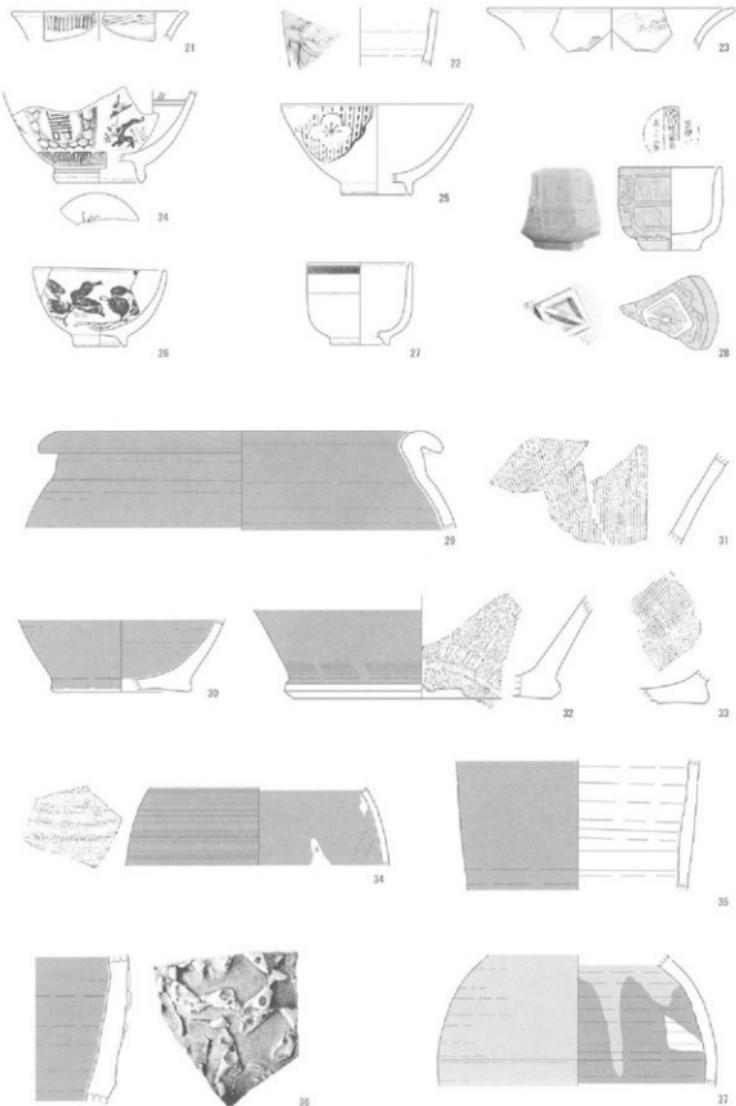


第132図 遺構外出土遺物②古代



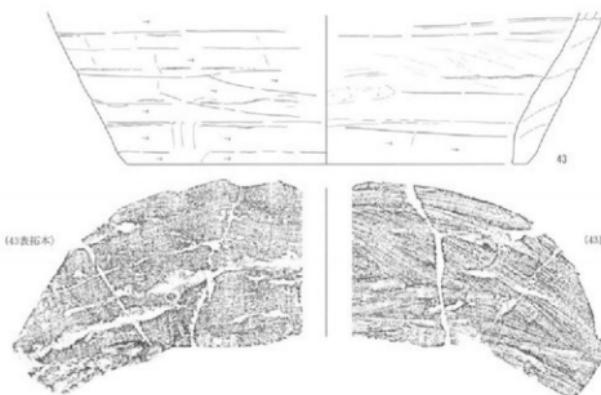
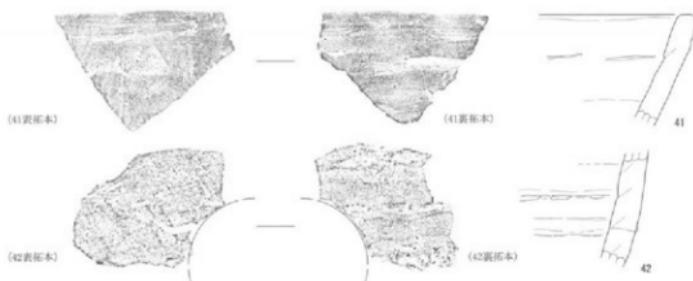
第 133-1 図 造構外出土遺物③中・近世 (1)

0 10 cm  
(3-1/3)



第 133-2 図 遺構外出土遺物③中・近世 (2)

0 10 cm  
(5-1/3)



0 10 cm  
0 10 cm

第 133-3 図 造構外出土遺物③中・近世 (3)

遺構外出土遺物（表65）

番号	種別	形態	口径	縦長	底径	胎土	色調	手 法 の 特徴 は か	出土位置	備考
225	二峰型 高台河環	环	(3.0)	—	—	黄褐色、白色、黑色、石英、小砾石、小颗粒、针状物等	25YR5/6褐色 表面色、片側が焼成時に焼けている	底部内面にクロコナデ、四隅にラミガキを施す。底部色焼成、部端にベーケズリ有り	D区 表示	60% PL82
454	原形器	环	[11.4]	43	66	—	—	—	D区 表示	40% PL82
455	頭頂部	环	14.8	47	77	黄白、石英、小砾石	SGYB5/1 オリゾン灰白色	内外面にクロコナデ、底部内面にラミガキ(右)	D区 表示	50% PL82
456	土器器	环	14.2	35	112	—	5YR6/1 褐色	口縁部に外面にコナデ/底部内面にナガマジ 部外側手揉むハラガリ	SK-1 No. 43	60% PL82
457	横忍器	环	19.2	43	—	黄白、白色粒子、黑色粒子、小砾石、セリロ イド状の噴出物	10YR6/1灰褐色	内外面にクロコナデ/底部内面にラミガキ (右) /つまみ付延後周間にコクコナ デ	D区 表示	90% PL82
458	頭部器	瓦器	16.6	以降	30	精(126) 白、黄白、小砾石	10Y6/1灰白色	底盤部に瓦表現に瓶底(真押し引き)、重 本表現にヘタ削り出し・斜裏はへた削り F区 出し・ヘラナツ	表表示	PL82

番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	特徴	出土位置	備考
459	石器	18	21	0.4	0.8	黑曜石	ほぼ透明なガラス質で部分的に黒色を呈する	SK-37覆土	表土のみ焼成 PL82

遺構外出土遺物（中世以降）（表66）

番号	種別	器種	胎土	底形・表形・調査	产地	時期	特考
1	組合	碗	-	瓶底古面/内面認み難新文/内外面青釉施塗(呉付、古面 内面2枚脚)	中國・能登窯系	12c 後	大型堅物丁領 PL83
2	周器	碗	石英、長石(多)	球形有孔器内外面青釉コナデ、研磨工具ナデ(内面研磨、 外側2枚脚位、下位脚位)	常滑系	14c 後~ 15c 前	青白器~ 9世纪式、 片口器 II類
3	周器	碗	石英、長石、小砾石(多)	球形有孔器内外面青釉コナデ、研磨研磨、下滴研磨工具 ナデ(内面研磨による擦痕/底部砂目痕)	常滑系	14~ 15c	片口器 II類 PL83
4	周器	碗	石英、白色粒子(少)	球形有孔器外側底部青釉(日本式) 貝(一承物)本邦式、使用による擦痕/底部砂目痕	常滑系	15c 後~ 16c 初	第8~ 11世纪式、 片口器 II類
5	周器	碗	長石(少)	球形形/朝鮮外層自然釉流下/内面コナデ	常滑系	12~ 13c	—
6	周器	碗	-	ロココ形/内外面も釉面施(てかり強い)	瀬戸燒造窯	—	PL83
7	周器	天目茶碗	-	内外面青釉施塗	瀬戸燒造窯	16~ 17c 後	—
8	周器	碗	-	口絞部輪花状/内外面灰釉施塗	肥前系	17c 初	肥前 III~ IAI PL83
9	周器	碗	-	内外面青釉施塗	肥前系	17c 後~ 18c 初	[兵器手鏡]
10	土師質二 器	瓶	—	青白釉、白化粒子、 石灰(多)、紫斑、赤褐色粒子(少)	—	—	15c 中~ 後
11	土師質二 器	瓶	—	青白釉、石英、白色 粒子(少)、角門柱、轉 石(少)	—	—	—
12	土師質二 器	瓶	—	青白釉、青白釉 石灰(多)、白色粒子、 赤褐色粒子(少)、白色 粒子(少)、角門柱、轉 石(少)	—	—	15~ 16c
13	土師質二 器	瓶	—	青白釉、石英、青白 釉、赤褐色粒子(少)、白色 粒子(少)、角門柱(少)	—	—	12~ 13世紀、同一 器体
14	土師質二 器	瓶	—	内肉元、括石、石灰、 灰石(多)、赤褐色粒子、 白色粒子(少)	—	—	15~ 16c
15	土師質二 器	瓶	—	内肉元コナデ、口加部外壁は赤いコナデ(工具ナデ)、 内側外壁青釉	—	—	15~ 16c
16	土師質二 器	瓶	—	内肉元コナデ、研磨して調査不明瞭	—	—	15~ 16c
17	土師質二 器	瓶	—	青白釉、括石(少)、 内肉元、針状物質、 赤褐色粒子(少)	—	—	—
18	土師質二 器	瓶	—	青白釉、括石、石灰、 灰石(多)、針状物質、 白色粒子、赤褐色粒子(少)	—	—	15~ 16c
				内外面コナデ/耳貼付	—	—	外側輪付器、胎土 白色地強い

番号	様式	模様	形	成形・装形・調整	生	期	期	備考
19	上須賀上 唇	角閃石、石英(多)、 白色粒子、赤褐色 (少)	角	内面高ココナデ/耳貼付	-	15 ~ 16c		外側黒付(シ、能二 白色底付)
20	土師質 土器	砂	角閃石、石英(多)、 針状物質、白 色粒子(少)	内面上位ココナデ/下位肩部、真ツダ・耳貼付後、ナギ、括 弧状痕留まる/外側滑流し、残壁不明瞭	-	16 ~ 16c		外側黒付(シ、能二 白色底付)
21	粗器	砂	-	内外面施釉、柔付け(外側施れた花弁文、内面施れた四方都 文等)	江戸美濃系	19c 中		「雄瓦鏡」
22	粗器	砂	-	内外面施釉、外側空付け	尾張系	19c 初		伊藤V稱・「そば 銘口」
23	粗器	砂	-	内外面施釉、柔付け(内面山水文)	浜戸美濃系	19c 后 - 中		
24	粗器	砂	-	内外面施釉、柔付け/高台付背筋、高台内裏微あり	-	20c 前 (2Q)		飯綱
25	粗器	砂	-	内外面施釉、柔付け(ソム印瓶)/高台裏台滑筋	-	20c 前 (1Q ±)		飯綱直前段
26	粗器	砂	-	豊型形成△/内外面施釉、上縁付(墨・ピンク)/高台 滑付點	-	20c 後		子川茶碗
27	粗器	砂	-	内外面施釉、柔付け	-	20c 後		泥香み瓶
28	粗器	砂	-	一部糊地影△/内側施釉、外縁一高台内、糊化クロム要痕 跡、外側全体に浮来状の文様/高台部忌房形に作る、背付部 露筋(底内面見出筋朱長「三脚町」兄弟合→延喜〇五番)	-	20c 後 (20 ~ 30)		丸腰墨渦△変形
29	陶器	草	黑色粒子(多)、白色 粒子(少)	内外面洗(棒)施付	尾張益子系	19c 後 -		
30	陶器	笠	黑色粒子(多)、石英	内外面洗(棒)角山形、高台部化粧張付	尾張益子系 (笠附)	19c 後 -		
31	陶器	模付	黑色粒子、石英(多)	内面模目(一章位25本以上)、外面洗(棒)施付	安濃益子系 (笠附)	19c 後 -		
32	陶器	模付	黑色粒子、石英(多)	内面模目、外面洗(棒)施付、高台部化粧張付	安濃益子系 (笠附)	19c 後 -		
33	陶器	通付	白色粒子(少)	内面模目、外面洗(棒)施付	安濃益子系 (笠子)	19c 後 -		
34	陶器	土瓶カ	石英(少)	体部中位を圓錐的に削ます/内面洗	笠岡益子 系	19c 後 -		「糸吉土瓶」カ
35	陶器	不評 (植木 跡)	黑色粒子、白色粒子、 赤褐色粒子(少)	外面洗(棒)培接前、内面新化粧	笠岡益子系	19c 後 -		
36	陶器	不評 (植木 跡)	黑色粒子(多)、白色 粒子(少)	内面洗(棒)培接前、外側灰垢下地に支撑柱付	笠岡益子系	19c 後 -		
37	陶器	利付	-	内面供給下底とし、灰垢洗れ込み、外側灰垢除	笠岡益子系	19c 後 -		
38	土師質 土器	直立第	白色粒子、赤褐色粒 子、砂(多)、石英、 角閃石、石英、美石 (少)	内面底残渣しく調整不詳	-			
39	土師質 土器	直立第	角閃石、石英、 白色粒子、赤褐色粒 子(多)、石英(少)	造形△/底部網脱する「土瓶」形/内面下位ココナデ、上位薄 い泡筋ナギ、内凹ナギ(斜・深) /上部膨化	-	19c ~		同一個体、胎土白 色底付
40	土師質 土器	直立第	角閃石、石英、石英、 長石、白色粒子、赤 褐色粒子(多)、石英、 砂(少)	-	19c ~			
41	土師質 土器	切羽無	-	-	-			同一個体、胎土白 色底付
42	土師質 土器	切羽無	-	-	-	19c ~		
43	土師質 土器	切羽無	-	-	-			

## 第6節 総括

寺上遺跡は平成22年度に第一次調査が行われ、先行して刊行された『寺上遺跡』によれば、竪穴住居跡88軒、掘立柱建物跡14棟、溝跡4条、土坑14基、井戸跡1基が確認されている。今回の調査では、竪穴住居跡61軒、横列1列、溝跡8条、土坑41基が確認され、当遺跡は7世紀後半～10世紀の間に計149軒もの竪穴住居を主体とする集落が営まれていたことが明らかとなった。

ここでは2年間に渡る調査の結果を踏まえ、住居跡の変遷を中心に当集落跡の特徴及び性格について追っていきたいと思う。

### (1) 7世紀

12軒の住居跡が確認された。A区2軒、C区2軒、D区8軒である。これらは当集落では最も古い年代の住居であり、当集落の最盛期である8世紀～9世紀へと移行する前段階となる。当該期住居は、すべて標高の高い地点(50～67m)の斜面部に立地しており、標高50m以下の低い地点には8世紀以降の住居や掘立柱建物が占有している。また当該期の住居はすべて7世紀後半に比定され、住居内に4本の主柱穴を持ったやや大型の建物である。しかし住居の主軸方向は一様ではなく、真北軸から西に大きく振れるもの(A区21、C区13、D区6・62・64)、わずかに西に振れるもの(C区21・13・D区15・16・25・27・61)、東に振れるもの(A区2)など様々である。当該期は集落の萌芽期で住居数は少なく閑散としており、まだ集落としての機能は確立されていない。その結果、他地域から集落が移動する際に建物の規模や構造等の住居形態は引き継がれているが、住居の主軸方向の差違に関しては地理的要因が優先されるため、規制は生じていないためであろう。つまり当集落は起伏が激しい山間部にあるため、住居跡の主軸方向は地理的要因により大きく左右されると考えられる。しかし付け加えるのであれば、各地点にまばらに立地する当該期住居の主軸方向は、近接する8世紀代の住居へと引き継がれているようで、当該期を経て住居形態のひとつの特徴として主軸の方向が加味され始めたと考えられる。



第134図 「寺上遺跡の住居配置」(7世紀)

### (2) 8世紀

57軒の住居が確認された。A区16軒、B区3軒、C区17軒、D区19軒、E区2軒である。この中には、鬼高様式とも言われる、床にローム土を厚く貼った大型住居が多数含まれるが、これらは7世紀後葉～8世紀初頭に建てられ8世紀前葉頃に廃絶された住居と推測される。しかし8世紀前葉に比定される住居はまだ少ない

なお、当遺跡の南側の谷を介し対峙する行者遺跡は、古墳時代前期～中期を主体とした集落であるが、8・9世紀代に住居はほとんど見あたらない。逆に当遺跡は8・9世紀代には多くの住居が建ち並ぶ最盛期を迎えるが、古墳時代前期～後期にかけての住居は1軒(B区4号住居)しか検出されていない。以上を踏まえ、また双方の位置的な関係から見ても、行者遺跡から当遺跡へと集落が移行した可能性もあるが判然とはせず、周辺遺跡の今後の調査が待たれるところである。

当該期の出土遺物は7世紀の第3四半期以降のものが大半を占め、8世紀以降の住居跡覆土からも埋土中に混入した土師器非ロクロ坏が認められる。また平成23年度の報告書によれば、山田窯製品より古く東海村馬頭窯窯製品よりも新しいもので、胎土に海綿骨針が含まれる須恵器蓋(A区7)が報告されており、笠間市周辺に在地窯による須恵器生産が行われていたものと推測される。

(A区14、B区4、C区3・17・23・29・33、D区7・11・58、E区42)。8世紀中葉以降になると住居数は増え、特に遺跡西部に位置するA区では掘立柱建物群を伴い急激な増加傾向を示している。また住居形態にも大きな変化がある時期で、住居内に主柱穴を持つ大型住居跡と、住居規模はやや小さく竪穴外柱を有するタイプには二分されるが、大型住居にいくつかの小型住居と掘立柱建物が付帯する配置形態は認められていない。

また当該期の住居の主軸方向は一様ではなく、A区は主に真北方向に、C区南部はやや北西方向寄りに、D区北部はやや北東寄りあるいは真北方向に、D区西部は南西方向に向いている。

想像の域を出るものではないが、その理由として2点想定した。まず最初の理由としては、地形を強く意識した配置となっている点であり、標高が比較的高いエリア（A区北部・D区）では、山頂部を意識して建てられていると推測され、北方向に山頂部があるA区はほぼ真北に主軸を向け、D区西部は山頂部が北西方向にあるため主軸はやや北西方向に主軸を向いていると推測される。しかし集落を構成している都合上、すべての住居が山頂方向を向いているのではなく、当然集落の端部エリアでは集落の中心や比較的標高の低いエリアに対しても意識せざるを得ないため、D区北部のような真北方向に主軸を向いている住居も存在する。つまりD区北部の住居配置から、当エリアは当集落の東北端に位置し、東側には当該期の住居跡はなかったとも推測できる。

2点目の理由としては、標高が比較的低いエリアでは、集落の外側を意識した配置にならざるを得ないということである。当遺跡の南側は谷部となっており、湿地帯が広がっていたと推測される。当該期以降のC区南部が掘立柱建物跡を配置したエリアとなっていることからも、このようなエリアは、水田耕作、物流拠点等の経済的理由による建物配置が重要となるであろうし、対外的にも集落の玄関の役割を担っていたと推測されるからである。

遺物を見ると胎土に海綿骨針を含む地窓須恵器製品を主体にし、8世紀前半代の住居からは一部雲母を含む新治産製品が混じっており、また土師器甕は口縁部を摘み上げる常緑型系統の在地甕と、県央、県北に残存している口縁部が外反する長胴甕が見られる。なお、当遺跡からは窯の溶解壁が付着した須恵器製品が2点出土している。B区4号住居跡の長頭瓶とD区第1号土坑出土の坏である。他にも焼き歪みの激しい坏なども多く確認されている。製品として遠域に流通しない不良製品の继续的利用が見られるところから、遺跡周辺に新たな窯跡の存在が指摘される。また、当遺跡からは刀子や鎌などの鉄製品や石製紡錘車等が住居跡から出土している。

第135図 「寺上遺跡の住居配置」(8世紀)

### (3) 9世紀

52軒の住居が確認された。A区11軒、B区9軒、C区16軒、D区8軒、E区4軒、F区4軒である。これらの住居は8世紀代の大型住居が9世紀初頭に廃絶されたものと、新たに8世紀後葉以降に出現した竪穴外柱建物に分けられるが、この床上に主柱を持たない住居が主体となる。また竪穴外柱建物にも大型のものと小型のものに細分されるが、大型住居跡の主軸方向はほぼ北を向き、その周辺に小型の住居が見られる。また、東壁部に窓を持つ住居も出現する（A区1、C区15・40、E区33）。

なお、遺跡南東部のC区南部では掘立柱建物群が認められるが、平成23年度刊行の「寺上遺跡」ではC区39号住居とともに村落内寺院の可能性を示唆している。現在、茨城県内出土の瓦塔は数点確認されているが、土浦市・根鹿北遺跡からは、130点を超える瓦塔片が出土しており、池田敏宏氏によって根鹿北遺跡における瓦塔及び仏具関連遺物の出土状況の検討が行われている。池田敏宏氏によれば根鹿北遺跡の仏堂関連遺構は側柱掘立柱建物跡4棟、竪穴住居跡5軒、火葬墓1基であり、墓壇状遺構は確認されていない。また仏具関連遺物





第136図 「寺上遺跡の住居配置」(9世紀)

9世紀前半段階で少量見られ、9世紀後半以降須恵器の供膳具と数量が逆転する。また、上記の鉄鉢型須恵器は形狀に若干の相違はあるが、笠間市内の遺跡では塙谷遺跡、寺崎台地遺跡等で数点確認されている。なお、墨書き土器は9世紀後葉頃に見られる。



第137図 「寺上遺跡の住居配置」(10世紀)

として鉄鉢形須恵器や土師器小皿（灯明具）が出土しており、瓦塔は掘立柱建物跡内に安置され、鉄鉢形須恵器や土師器小皿（灯明具）は、第2号掘立柱建物跡で行われたであろう仏事に使用されたものとしている。これら村落内寺院または仏教的な様相を示唆する特徴的遺物は当遺跡からも多数出土している。刀子、円面鏡、鉄鉢型土器、墨書き土器、瓦塔等である。瓦塔は屋蓋部破片で、C区西端部の耕作土中から出土したものである。屋蓋部は幅0.7cm、深さ0.4cmの竹管状工具によるもので丸瓦のみを表現している。これらの遺物の大半は、住居の覆土中や表土中に混入していたものであるが、当村落内での村落内寺院の可能性を十分に示唆する遺物として大いに注目されるであろう。なお、当遺跡での村落内寺院についての詳細は、先行する報告書「寺上遺跡」（松田ほか2012）を参照されたい。

当該期の出土遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器、土製品、金属製品がある。土師器の供膳具は8世紀後半から

#### (4) 10世紀

8軒の住居が確認された。C区7軒、D区1軒である。当集落の消滅期であり、山頂部周辺エリアでは住居の形跡はまったくなくなり、村落内寺院の存在が示唆されるC区の掘立柱建物群周辺に散見される程度である。

また住居形態はすべて竪穴外柱建物となっており、竈や床の造りも簡略化されている。また、C区43・44号住居跡は東壁部に竈を持つ構造となっている。なお、当集落内の最終期遺構は、1・2号祭祀土坑で、遺物年代は10世紀第3四半期としているが、この時期をもって当集落は消滅する。

当遺跡の性格については、墨書き土器や刀子の存在等から郡衙関連遺跡としての特徴とも一部合致するが、住居構造に古墳時代後期の影響が継続して窺われる点や倉庫としての掘立柱建物が少ない点、劫錆車に鉄製のものが見られないことなど、未だ不明瞭な点も多く、どちらかと言えば「郷」単位の一般集落に近い様相を示していると言え

るだろう。また、当集落内の最終期は10世紀第3四半期頃であるが、小田出現段階も含め、中世の遺物が表される、同時に、当遺跡が所在する小原地区には小原城が新たに出現するなど、中世以降も継続して小原地域の人々の足跡は残されていくのである。

なお、当遺跡の調査では村落寺院の存在が明らかになったが、遺跡名でもある「寺上」は遺跡が所在する小字名であり、また谷を挟んで対峙する「行者」や南方向にある「寺寺」など、当地域には寺院に関する地名が多い。しかし確認された墨書き器には「寺」や「佛」などの直接的に寺院の存在を示唆する文字は記されていない。言い換れば、村落寺院自体は郷レベルの一般集落には付設されているものであり、当集落もまた特別な存在ではないのだろう。しかし、寺院に関する地名が多いことを考えれば、但像の城は出ないものの当集落内にある「村落寺院」消滅後、10世紀以降新たに「山寺」的施設が造られ始めた可能性もある（群馬県・墨俣中西遺跡、静岡県・大知波神寺跡、石川県・淨水寺遺跡等 池田敏宏2003）。また12世紀以降全国的に広がっていた「中世寺院」へと変貌を遂げていった可能性もあり、その結果、これらの地名が新たに生まれたとも考えられるのではないだろうか。

（宮田）

#### ○寺上遺跡出土の墨書き

現文	出土遺構名	現文	出土遺構名
「家」	A区9号住	「右後」カ	C区40号住
「ち」？	A区19号住	「井」カ	C区2号掘立
「口」	C区 4号住	墨痕	C区4号掘立
「口」	C区 9号住	「家」	D区30号住
墨痕	C区12号住	「七家」2点	D区44号住
墨痕	C区19号住	「七口」	D区44号住
「山入」	C区39号住	墨痕	D区45号住

#### 参考文献

- ・川井正一ほか2011「茨城県域における文字資料集成12」『押藏文化財部年報』30
- ・平川甫2000「墨書き土器の研究」吉川弘文館
- ・池田敏宏1994A「関東地方瓦塔編年と他地域瓦塔編年の比較・検討－関東地方瓦部祭例編年の検証作業を中心に－」『研究紀要』第7号 駒野木系文化振興事業団関東文化財センター
- ・池田敏宏1995「仏堂施設群における瓦塔出土状態(墨書き)－上浦市・根糸北造跡出土十五塔の検討を中心に－」『上浦市立博物館紀要』第9号 茨城県土浦市立博物館
- ・今泉潔はか1993「埼玉県鬼王郡美里町東山遺跡出土瓦塔、瓦堂解体修復報告書」埼玉県教育委員会
- ・小林修はか2006「奈良県指定史跡・三原御跡上遺跡瓦塔設置仏教道場出土瓦塔・瓦堂 調査報告書」新潟県浜川市教育委員会
- ・財团法人次世代教育財團・奈良・平安時代研究班1991「8世紀～9世紀前半の西都構成について」『研究ノート創刊号』財团法人次世代教育財團
- ・浅井洋介1994「東都の古代の集落」『茨城県歴史叢書』72集 茨城県立歴史館
- ・小笠原好章1989「古墳時代の盤穴住居集落にみる単位収量の移動」『国立歴史民俗博物館研究報告』第22集
- ・山中敏史2000「省方官衙と本宿支配」『茨城県考古学年鑑会誌』第12号
- ・松村重司1998「律令国家の水道支配と集治」『律令国家の地方水道支配機構をめぐって－研究集会の記録－』奈良国立文化財研究所
- ・松村恵司1995「古代東国集落の諸相……村と都の悉らしぶり」『都の向山遺跡と同様古代集落 しもつけのムラとその生活』 桐木崇立・しもつけ風土記の丘資料館編
- ・浅井哲也1992「茨城県内における奈良・平安時代・平安時代の土器（Ⅰ）」『研究ノート』創刊
- ・浅井哲也 1993「茨城県内における奈良・平安時代・平安時代・平安時代の土器（Ⅱ）」『研究ノート』2号
- ・佐々木義則2009「武井遺跡群における平安時代土器器形・小皿編年」『要須岐考古』第31号 妻須岐考古同人会
- ・笛生寅1998「古代集落と仏教信仰」『仮のすまう区間－古代竈ヶ浦の仏教信仰－』上高津川・深ふるさと歴史の広場
- ・富永則之1994「村落内寺院の発展－地方に於ける仏教の受容」（上）『神奈川考古学30分野奈川考古同人会
- ・松山政基ほか2012「寺上遺跡」笠間市教育委員会(右)毛野考古学研究所
- ・土生剛治ほか2011「行者遺跡－豊岡市教育委員会(右)毛野考古学研究所
- ・大貫義はか2010「長崎西遺跡」笠間市教育委員会・有隣庄玉工房
- ・土生剛治はか2011「筋羅遺跡」笠間市教育委員会(右)毛野考古学研究所
- ・高野浩2008「磨谷遺跡」笠間市教育委員会・御池城文化財コンサルタント
- ・土生剛治2010「新峰東遺跡」笠間市教育委員会・(右)毛野考古研究所
- ・古田秀はか2005「小原遺跡」安部町小原遺跡調査会・大成エンジニアリング株式会社

## 第V章 行者遺跡2

## 第1節 竪穴住居跡

竪穴住居跡は3軒確認された。2軒は弥生時代に、1軒は古墳時代に比定される住居跡である。

## 第1号住居跡（第139・140図、第67表、PL84・86）

位置：C0・C1グリッド、標高50.4m地点にある。

規模・平面形：長軸32.0m、短軸2.96mの長方形である。

主軸方向：N-39°-W

残存壁高：確認面から最大高12cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：検出されていない。

床：平坦で、硬化はしていない。しかし、炭化粒子や焼土粒などの生活面としての汚れが見える。

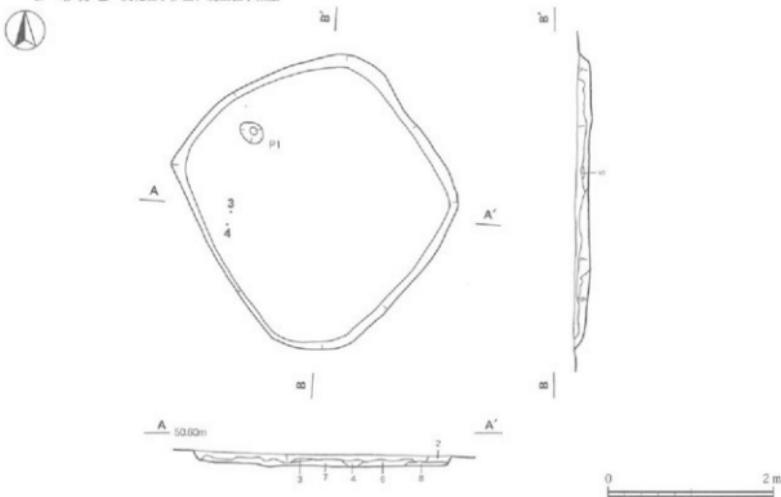
ピット：本跡北西部の壁際から1箇所確認されたが、本跡に伴うものかどうは明確には分からなかった。28×24cm、深さ49cmで、覆土は暗褐色土の單一層である。

炉：検出されていない。

遺構埋没状態：覆土は浅く、埋没状況は不明である。

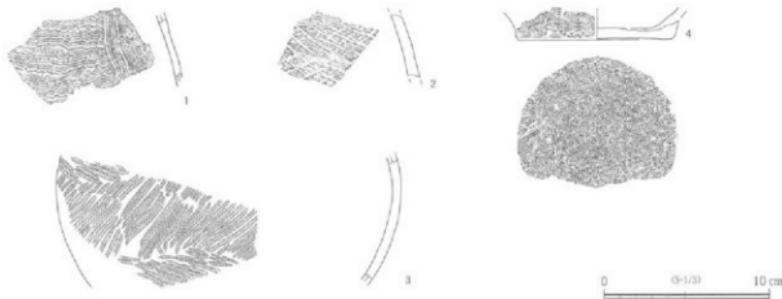
## 土層解説

1. 暗褐色	ロームブロック微量、ローム粒子少量	6. 暗褐色	ロームブロック少量、炭化物少量、炭化粒子少量
2. 断褐色	ロームブロック微量、炭化粒子微量	7. 暗褐色	ロームブロック微量、炭化粒子少量、燒土粒子微量
3. 褐色	ロームブロック微量、燒土粒子微量、炭化粒子微量	8. 暗褐色	ローム粒子中量、炭化物少量、炭化粒子少量
4. 断褐色	ロームブロック微量、炭化粒子微量	9. 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
5. 暗褐色	炭化粒子少量、燒土粒子微量		



第139図 第1号住居跡

遺物：弥生土器片（壺）5点。1・2の胴部片は北壁際から重なった状態で、3の胴部片と4の底部片は床面からやや浮いた状態で出土している。これらはすべて十王台式土器で、1は縦位の4条の区画文内に5条単位の櫛痕波状文を描いており、2は胴部下位に5本以上の櫛痕波状文による区画文を描き、以下に付加条2種を施している。3は無節縄文R、L、Rを羽条に施し、4は底面に細かい布目痕が見える。  
所見：出土遺物数は少なくかんら検出されていないため、住居とするには十分ではないが、床面に焼土粒子や炭化粒子が見えたため、わずかな生活の痕跡と捉え住居跡とした。時期は弥生時代後期の十王台式期と考えられる。



第140図 第1号住居跡出土遺物

第1号住居跡出土遺物観察表（表67）

番号	種別	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	文様・調整	胎土	色調	焼成	出土位置	残存	備考
1	弥生土器	壺	胴部				縦位の4条の区画文内に5条単位の櫛痕波状文を描く。	素母、糞紋、赤色粒、白色粒	10YR3/1 黒褐色	普通	NO.1		十王台式 PL86
2	弥生土器	壺	胴部				胴部下位に5本以上の櫛痕波状文による区画文を描き、以下に付加条2種LR+RL+Rを施す。	角門石、チート、石英、白色粒	10YR3/3 暗褐色	普通	覆土下層		十王台式 PL86
3	弥生土器	壺	胴部				無節縄文R、L、Rを羽条に施す。	角門石、チート、石英、白色粒	10YR3/3 暗褐色	普通	NO.3	10%	十王台式 PL86
4	弥生土器	壺	底部			95	胴部は外傾して立ち上がる。底面に細かい布目痕。	素母、石英、白色粒	10YR5/3 沙粒、赤色粒 に少い青褐色	普通	NO.4	10%	十王台式 PL86

第2号住居跡（141・142図、第68表、PL84・86）

位置：C 0・C 1 グリッド、標高50.1m地点にある。

規模・平面形：東半分が調査区外にあるため明確ではないが、長軸（4.4）m、短軸（4.2）mほどの方形と推測される。

主軸方向：N - [27]° - W

残存壁高：確認面から最大高42cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：検出されていない。

床：ほぼ平坦で、炉跡周辺はやや硬化している。

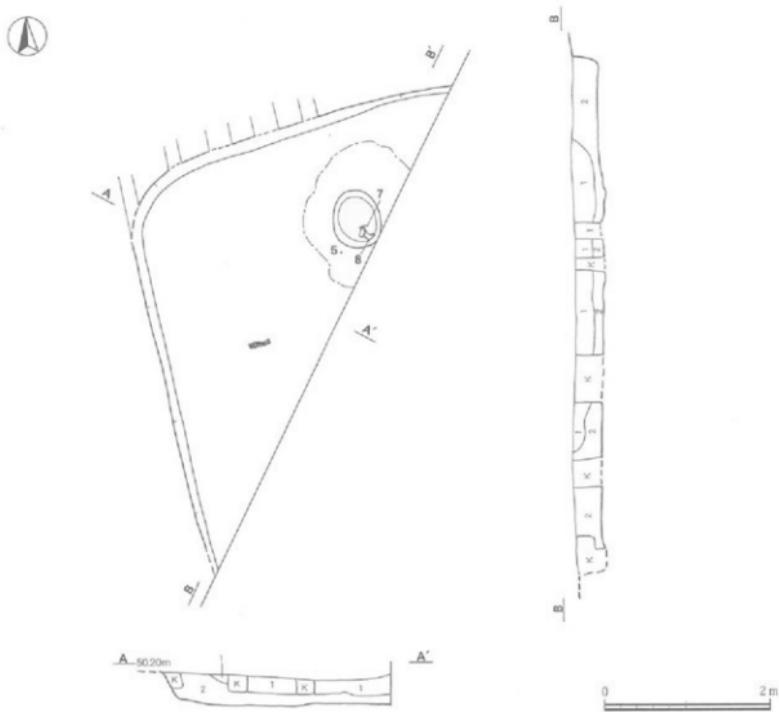
炉：調査エリアの境界線上にあり、長径76cm、短径60cmの楕円形を呈し、深さは6cmほどである。被熱は顯著でゴツゴツしている。また、炉の中央南西寄りに炉器台が横位で確認された。

遺構埋没状態：覆土下層ではロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。

## 土層解説

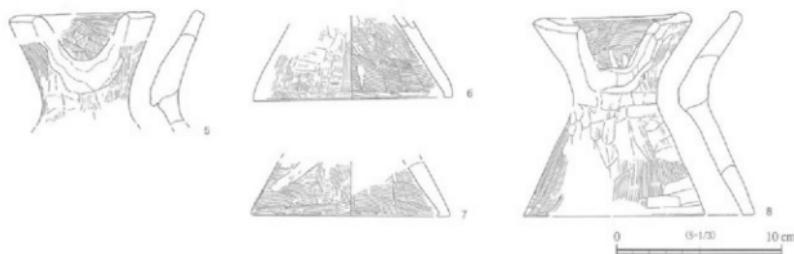
1. 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子少量、粘性あり、綿まりなし
2. 断続色 ロームブロック少量、ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子少量、粘性、綿まりとともにあり

遺物：土師器片7点（炉器台4点、高坏1点、不明細片2点）、炭化材1点。固化した遺物はすべて炉器台片で、5は炉の西側から、6～8は炉内から出土したもので、8は倒れた状態で確認されている。



第141図 第2号住居跡

所見：時期は炉内出土の遺物からみて古墳時代前期と考えられる。なお、行者跡からは古墳時代前期から中期にかけて5軒の住居が検出されているが、大型住居1軒を除き他は小型で主柱を竪穴床面上にもたない建物構造となっており、本跡もその特徴をもつ住居である。



第142図 第2号住居跡出土遺物

第2号住居跡出土遺物観察表(表68)

番号	種別	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	文様・調整	胎土	色調	焼成	出土位置	残存	備考
5	土壙器	鉢器	口縁部	88			口縁は脚部上位から外傾して立ち上がる。脚部は下方に向く。口縁内面に縱位のハケナメ、内面に横位のハケナメ、口縁下部にU字状の抉り込みを付す。	墨色、石英、砂粒、赤色粒	SYR5/6 明赤褐色	普通	NO.1	30%	古墳時代前期 PL86
6	土壙器	鉢器	脚部	120			脚部はハの字状に開き、底部は平型に作出される。脚外側に縱位のハケナメ、内面に横位のハケナメを施す。	角閃石、 チャート、石英、白色粒	TSYR7/6 碧色	普通	NO.3	5%	古墳時代前期
7	土壙器	鉢器	脚部	120			脚部はハの字状に開き、底部は平型に作出され、内側に突出する。脚外側に縦位のハケナメ、内面に横位のハケナメを施す。	角閃石、 チャート、石英、赤色粒	TOYRS/4 に赤褐色	普通	NO.2	5%	古墳時代前期
8	土壙器	鉢器	口縁 脚部	96	124	110	口縁は脚部上位から外傾して立ち上がる。脚部はハの字状に開く。口縁外側に縦位のハケナメ、内面に横位のハケナメ、口縁下部にU字状の抉り込みを付す。脚外側に縦位のハケナメ、内面に横位のハケナメを施す。	角閃石、 チャート、石英、赤色粒	TOYRS/4 に赤褐色	普通	NO.4	80%	古墳時代前期 PL86

第3号住居跡（第143・144図、第69表、PL84～87）

位置：C 0 グリッド、標高60.4m地点にある。

規模・平面形：長軸5.60m、短軸4.80mの楕円形を呈する。

主軸方向：N -12° - W

残存壁高：確認面から最大高24cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：検出されていない。

床：耕作用トレンチャーによって壊されているが、ほぼ平坦であったものと推測される。

ピット：6箇所確認されており、北東部を除き壁柱穴のように壁際を巡っているが、本跡に伴うかどうかも含め不明である。深さはP1: 8cm、P2: 9cm、P3: 10cm、P4: 29cm、P5: 22cm、P6: 19cmとなっており、大きさも深さも一定ではない。

炉：中央部やや北寄りにあり、長径56cm、短径(28)cmの楕円形で深さ14cmである。土壙観察の結果、火熱を受けて炉床が厚く焼土化しているのが確認された。

## 土層解説

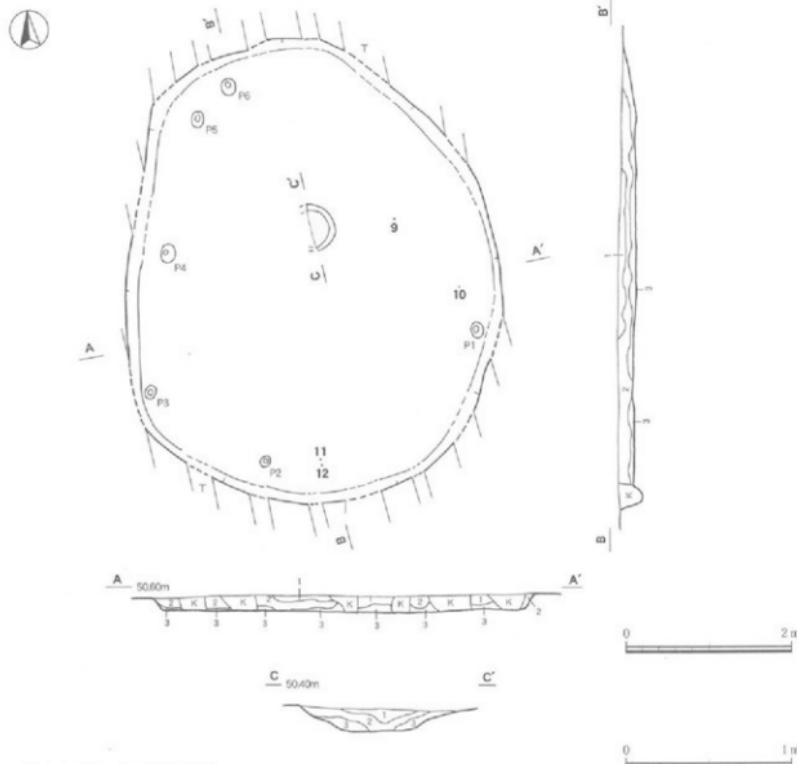
1. 赤褐色 桧土ブロック多量、炭化物少量、粘性弱い
2. 赤褐色 桧土ブロック多量、炭化物少量、炭化粒子微量、縮まりあり
3. 暗赤褐色 桧土ブロック多量、ロームブロック微量、縮まりあり、粘性弱い

遺構埋没状態：覆土が浅く、堆積状況は不明である。

## 土層解説

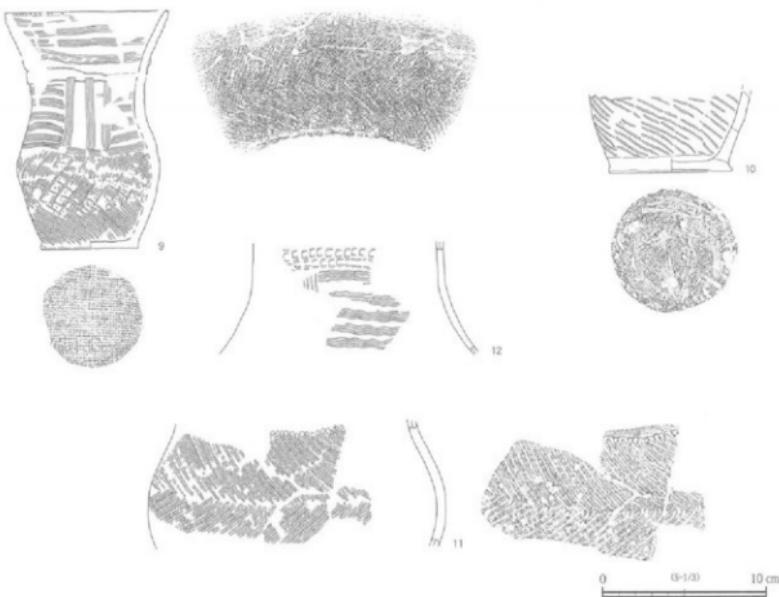
1. 黒褐色 ローム粒子微量、燒土粒子微量
2. 暗褐色 ローム粒子微量、燒土粒子微量、炭化粒子微量
3. 棕褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、燒土ブロック微量、炭化粒子微量

遺物：弥生土器78点（壺）。9は中央部東寄りの床面から、10は東壁際の床面から、11は南壁際の床面からそれぞれ出土している。これらはすべて十王台式土器で、9は口唇部に刻目を付し、5条単位の4段の横走文、以下に2条の縦線をめぐらし、頸部には5条単位3列の縦位区画文を3単位施し、区画内に櫛描波状文を充填している。また胴部下位に5条単位の横走文をめぐらし、胴部上位に付加条2種LR+LR、下位には付加条1種RL+Rを施している。10は胴部に付加条2種LR+LとRL+Rを羽条に施している。11は胴部上位に付加条2種RL+R、下位に付加条1種LR+Lを施している。



第143図 第3号住居跡

所見：本跡は耕作用トレッサによって大きく壊され、建物のプランを明確には把握できなかった。時期は弥生時代後期の十王台式と考えられる。



第144図 第3号住居跡出土遺物

第3号住居跡出土遺物観察表（表69）

番号	種別	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	文様・調整	胎土	色調	焼成	出土位置	残存	備考
9	弥生土器	壺	口縁～底部	100	145	60	小型広口壺。口部等に削目を付し、口縁は縫部からゆるやかに外傾して開く。腹部ゆるくくびれ、胴部上段で少し狭り、平底に至る。口縁は5条単位の4段の削目文。以下に2条の細い削目文を付す。腹部等には5条単位の3列の横行区割文を3單位化し、側部下部に5条単位の横行文を充填する。側部下部に付加条2種LR-LR、下部に付加条1種RL-Rを付す。底面に布目加え。	角閃石、 チャート、石 英	10YE3/3 暗褐色	普通	NO.1	80%	十王台式 PL87
10	弥生土器	壺	肩～底部		75		縦縁に付加条2種LR-LとRL-Eを羽根に施す。表面には布目加え、その上に素地工具で円形モチーフや斜線の沈透文と割れ文を加える。	角閃石、 チャート、砂 粒、白色粒	10YE5/3 にぶい黄褐色	普通	NO.2	30%	十王台式 跡として再利 用PL97
11	弥生土器	壺	胴部				縦縁に斜形削文を2列施し、以下、縫合区割文内に4条単位の横行区割文を充填する。	角閃石、 チャート、砂 粒、白色粒	10YE3/3 暗褐色	普通	NO.3A	10%	十王台式 PL87
12	弥生土器	壺	胴部				縫合に斜形削文を2列施し、以下、縫合区割文内に4条単位の横行区割文を充填する。	墨母、石英、 砂粒、白色粒	10YE7/4 にぶい黄褐色	普通	NO.3B	5%	十王台式 PL87

## 第2節 溝 跡

2条の溝跡が確認されたが、そのうち1条は、平成21年度に先行して調査が行われた1号堀との関係が窺われる。

### 第1号溝跡（第145・146図、第70表、PL85・87）

位置：B 0・C 0グリッド、標高50.0m地点にある。

規模・平面形：上幅270～360cm、下幅60～140cmで、確認面からの深さは120～140cmである。断面は椎葉研状を呈し、壁はRを描いて立ち上がる。また、壁面からは5カ所でピット状の穴が、西部の底面からは、長径140cm、短径4cmの橢円形状の痕みがそれぞれ確認されている。

方向：N-40°～Wの方向に延び、中央部で南西方向へ大きく屈曲する。

ピット：壁面からは5カ所でピットが穴が確認されているが、樺利や建物柱としては十分な深さや企画性に乏しく、用途は不明である。

#### P1土層解説

1. 黒褐色 ローム粘土少量、やや袖まりあり

#### P2土層解説

1. 黑褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

#### P3土層解説

1. 黑褐色 ロームブロック少量

#### P4土層解説

1. 黑褐色 ローム粘子微量

#### P5土層解説

1. 黑褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量、袖まり弱い

遺構埋没状態：6層からなる。中層までは人为的な堆積状況を示しているが、その後は徐々に埋没しており、自然堆積の様相を示している。

#### 土層解説

1. 黒褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化粒子微量

2. 灰褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、施土粒子微量、炭化物微量

3. 灰褐色 ロームブロック微量、ローム粒子微量、施土粒子微量、炭化粒子微量

4. 灰褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、炭化粒子少量、炭化粒子少量

5. 灰褐色 炭化物微量、炭化粒子微量

6. 明褐色 ロームブロック微量、ローム粒子微量、施土粒子微量

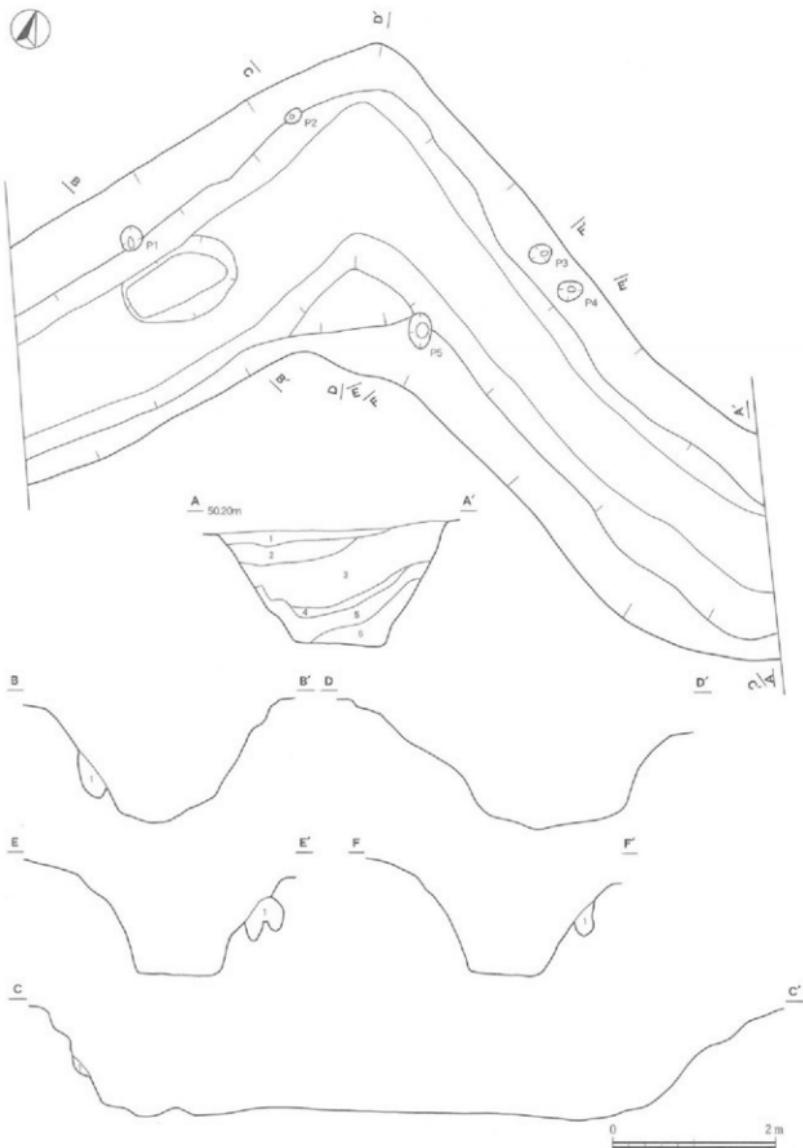
遺物：須恵器片4点（环・高台付坏類2点、甕2点）、土師器片78点（环・高台付坏類12点、甕類66点）、カララケ1点、馬齒骨。出土した遺物は埋め戻し段階で投棄あるいは壇土に混入していたものと推測される。馬齒骨は、東部の覆土中層から出土している。

所見：覆土にカララケ、馬齒骨などが出土しており16世紀の所産と考えられる。形状は平成21年度の調査で確認された1号堀と酷似しているが、1号堀もまた16世紀に掘られたものと考えられており、双方はほぼ同時期に機能していた可能性が高い。また先行して報告された「行者遺跡」（土生ほか2011）では、1号堀について、16世紀に掘られた防衛のための掘り削りと指摘している。当該期は南西方向に小原城の主郭があり、また木跡は外郭の虎口と想定される十石堂からもほど近い距離にあり、城下の集落を北東方向からの敵襲から防衛するための施設であったと推測される。なお、本跡の東側は平成21年度調査区に延びていると考えられるが、検討されたという報告はなされていない。

### 第2号溝跡（第147図、PL85）

位置：C 0グリッド、標高50.4m地点にある。

規模・平面形：上幅210～240cm、下幅160～224cmで、確認面からの深さは12～18cmである。断面は直状を呈する。壁の傾斜角度は遺存部分が少なく不明である。溝の底面からは6カ所でピット状の掘り込みが確認された。



第145図 第1号溝跡

方向：N-10°-Wの方向には直線的に延びる。

ピット：規模や形状に一致は見られず、不規則な並びであるため、性格は不明である。

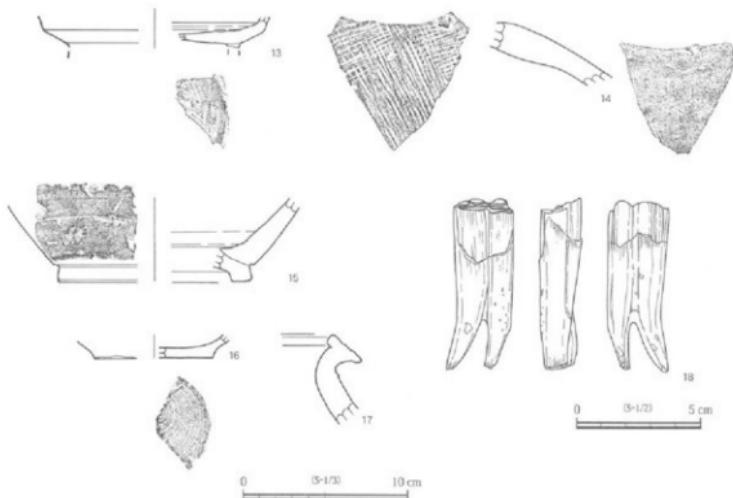
遺構埋没状態：単層である。層厚は薄く、堆積状況は不明である。

土層解説

1. 極 色 ローム粒子微量、締まりなし

遺物：遺物は検出されていない。

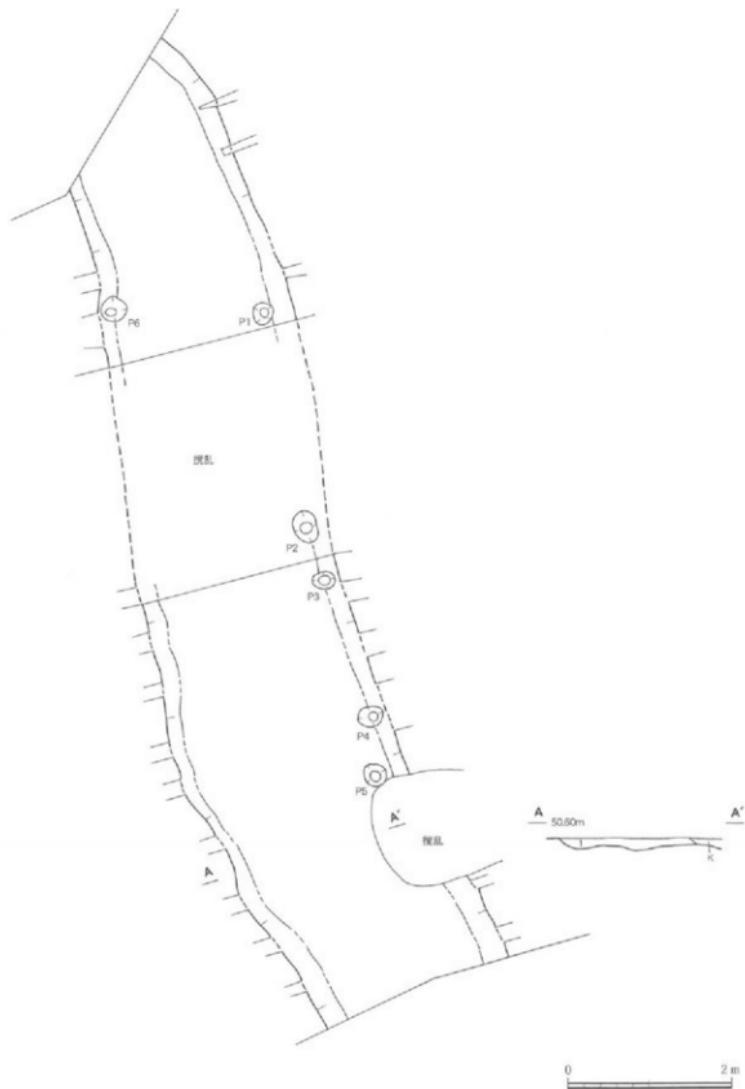
所見：覆土が浅く遺構のプランがかろうじて確認できた状態であった。出土遺物はなくまた平成21年度調査区では確認されていないため、本跡の性格や時期は不明である。



第146図 第1号溝跡出土遺物

第1号溝跡出土遺物観察表（表70）

番号	種類	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	文様・調整	胎土	色調	焼成	出土位置	残存	備考
13	須恵器	高台付壺	底部			(1.9)	内・外面クロナナ。高台部欠損。	白色・小織針状紋物	10YR5/2 灰青褐色	普通	覆土中	10%	PL87
14	須恵器	壺	肩部			(4.0)	体部外縁横位の叩き後、縦位の叩き自然崩。	白色・セルロイド状の吹き出し	2.5Y5/1 黄褐色	良好	覆土中	-	PL87
15	須恵器	長颈壺	底部	[11.6]	(5.2)	内面クロナナ。外縁回板へラケズリ。	白色・小織 セルロイド状 の吹き出し	2.5Y6/2 灰青色	良好	覆土中	10%	PL87	
16	土師質土器	カワラケ	底部	[7.0]	(1.4)	(1.4)	体部クロナナ。底部外縁右回板斜め滑走。	石美・蓋等 井状紋物	7.5YR7/4 にぶい褐色	良好	覆土中	15%	PL87
17	陶器	甌	底部			55.0	内面ヨコナナ。	白色・小織	5YR4/3 にぶい褐色	良好	覆土中	5%	PL87
18	馬骨齒						下顎臼齒部。歯冠部のセメント質一部剥離。歯根部良好に遺存。歯長71mm、歯幅27mm、重さ284g			覆土中	5%		



第147図 第2号溝跡

### 第3節 土 坑

今年度の調査では1基の土坑が確認された。

#### 第2号土坑（第148図、PL85）

位置：C Oグリッド、標高50.20m地点にある。

規模・平面形：長軸1.20m、短軸1.08mの方形で、深さ32cmである。

壁面：外傾して立ち上がる。

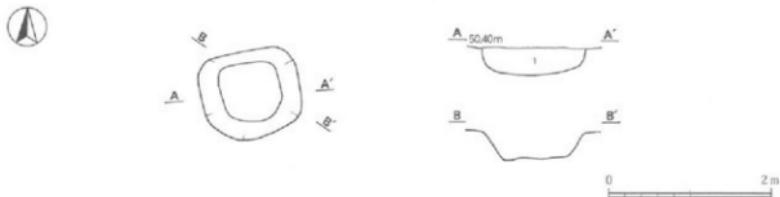
覆土：単層である。ロームブロック主体の人为堆積である。

##### 土層解説

1. 砂 褐 色 ロームブロック少量、ロームブロック少量、焼土粒子微量

遺物：検出されていない。

所見：遺物は検出されておらず、時期は不明であるが、芋穴等の埋土に見られるようなロームブロックの混じり具合から、比較的新しい土坑の印象を受けた。



第148図 第2号土坑

## 第4節 総括

行者遺跡は、笠沢市小原地区内の標高45.5m～51mの丘陵斜面上にあり、平成21年度から調査が開始された。先行して平成22年度に刊行された『行者遺跡』によれば、竪穴住居跡11軒、古墳5基、溝跡4条、土坑9基、堀跡1条、溝跡5条、井戸3共が確認されている。今回の調査では、竪穴住居跡3軒、溝跡2条（堀跡1条・溝跡1条）、土坑1基が確認された。ここでは2年間に渡る調査の結果を踏まえ、時代ごとに当集落跡の変遷を追っていきたいと思う。

### 旧石器時代

遺構は検出されなかつたが、表土中からナイフ形石器が出土している。また当遺跡から東へ400m地点にある長峰西遺跡では珪質頁岩製のナイフ形石器が、北東へ870m地点にある塙谷遺跡では数十点のナイフ形石器や石核、不定形剥片が集中するユニットが確認されており、小原地区の丘陵や台地上には旧石器時代の人々の生活の跡が窺われる。

### 縄文時代

縄文時代の遺構はなかつたが、前期前半の黒浜式土器、後期の堀之内式土器、加曾利B式土器が数点出土している。また当遺跡の北側の谷を挟んで対峙する寺上遺跡からは、草創期～後期の土器が出土しており、特に黒浜式と浮島式の土器が総数の70パーセントを占めている。また長峰東遺跡からは前期中葉の関山II式土器や黒浜式が、塙谷遺跡からは前期中葉の住居跡が確認されている。以上から、遺構は確認できなかつたものの、縄文時代の特に前期には当遺跡周辺に集落が営まれていたことが想定される。

### 弥生時代

今回の調査では、弥生時代の住居跡が2軒（1・3）、遺跡全体では3軒の住居跡が確認され、いずれも後期後半の十手台式期の住居跡と考えられる。今回の調査で確認された第1号住居跡は、床面上にわずかではあるが焼土粒子や炭化粒子等の生活面の汚れが見られ、第3号住居跡からは火熱を受けて炉床が厚く焼土化しているのが確認されている。また平成21年度調査で確認された1号住居跡からは、炭化した椎の実が出土している。

なお、当遺跡周辺を見渡すと、近接する塙谷遺跡からも後期後半の十三台式期に比定される住居跡が79軒確認されている。他には同じく近接する長峰東遺跡から同時期の住居跡11軒が確認されており、当該期には広範囲で集落が営まれていたと推測され、大洗町鰯等遺跡や土浦市原田遺跡群同様、周辺の規模を要する地域であると言える。

### 古墳時代

今回の調査では、炉の上面にはほぼ完形のままの炉器台が積石で出土している。古墳時代前期の住居跡1軒（2）が確認された。平成21年度の調査では、住居跡5軒、古墳5基が確認されているが、古墳の内訳は、前期が径12mほどの小円墳2基、後期が径20mほどの円墳2基、時期不明1基となっている。特に後期の円墳2基（1・2）は埴輪を伴っており、先に造られた2号墳からは赤褐色を呈する2条3段の円筒埴輪が出土している。続いて造られた1号墳は3条4段の円筒埴輪のほか、形象埴輪（人・馬）が出土している。これらの古墳は、近接する高寺古墳群を構成していたものと推測される。

### 奈良・平安時代

今回の調査では確認されていないが、前回の調査では3軒の住居跡が確認され、時期は9世紀前葉～10世

紀前葉頃のものである。なお、隣接する寺山遺跡では、当該期に比定される住居跡だけでも60軒前を数える集落が展開しており、これらの住居跡もまたこの集落に所属していたのかもしれない。

中世以降

今後の調査では、前回の調査で確認された1号堀と酷似した第1号溝跡が確認され、1号掘跡様、16世紀頃の掘削と考えられる。当該期は單見氏が小原城を構えていた時期で、16世紀前半頃に單見義良が小原城と城下を整備している（友部町史）。宍戸氏による单見氏が、江戸氏や佐竹氏を意識し防衛を目的とした整備に力を注いでいたのである。想像の域を出ないが、これらの施設もその防御施設のひとつだったのかもしれない。なお、当遺跡とその周辺地域を取り巻く中世～近世初頭の情勢については、「中世の小原城と小原地区に関する」を参照されたい。

（加藤）

#### 参考文献

海老澤渉 2000『茨城県における弥生後期の土器編年』

『東日本弥生時代後期の土器編年』第2分冊 茨城県文化財研究会

茨城県考古学協会・十王町教育委員会 1999『茨城県における弥生時代研究の到達点～弥生時代後期の集落構成から～』

大賀健ほか 2010『長峰西遺跡』笠間市教育委員会・有限会社勾玉工房Mogi

鈴木素行 2010『弥生時代後期「十王台式」の集落構造』『武田遺跡群 総括・補遺編』ひたちなか市教育委員会

高野清之 2008『湧谷遺跡』笠間市教育委員会・御地域文化財コンサルタント

土生治郎 2010『長峰東遺跡』笠間市教育委員会・柳毛野考古学研究所

吉田寿ほか 2005『小原遺跡』友部町小原遺跡調査会・大成エンジニアリング株式会社

土生治郎ほか 2011『行者遺跡』笠間市教育委員会・柳毛野考古学研究所

茨城県教育委員会 1985『重要遺跡調査報告書Ⅰ：（城館跡）』

大賀健ほか 2010『長峰西遺跡』笠間市教育委員会・有限会社勾玉工房Mogi

笠間市史編さん専門委員会 2011『新・笠間市の歴史』笠間市教育委員会

芳賀友博ほか 2009『小幡城跡 前新堀遺跡 前新堀B遺跡 漢訪山塚群 薩山塚』東関東自動車道水戸線（茨城IC～茨城JCT）建設事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ 茨城県教育財團文化財調査報告第314集・財团法人茨城県教育財團

市村高男 2007『内海論からみた中世の東国』『中世東国の内海世界』高志書院

茨城中世考古学研究会 2005『茨城県の中世層』『茨城県考古学協会誌 第17号』茨城県考古学協会

岩間町史編さん委員会 2002『岩間町史』岩間町

内原町史編さん委員会 1996『内原町史 通史編』内原町

## 『中世の小原城と小原地区に関して』

行者遺跡において今回の調査で検出された第1号溝跡が、第1次調査で確認された1号堀（土生ほか2011）と関連するものと思われる。これらの遺構の小原城との関係を検討し、それが構築された背景を、城主里見氏の系譜なども含め文献資料を援用して分析したい。また、小原地区の中世的景観を過去の発掘調査成果と文献資料から素描してみたい。

### 1. 小原城の立地と構造（第1図）

小原城は、行者遺跡の南西500mに位置する。丘陵部の西端に位置し、西側は漁沼前川の低地部に面し、三方向は平地である。低地部との比高は2m前後である。現在御城稻荷社が鎮座する方50m四方の曲輪が主郭と推定され、周縁を取り巻く水堀の跡と、長さ26m、高さ3mの土塁が残存している。ここを中心とした東西400m、南北350mほどが城域と考えられており、随所に折を設け主に北東方向に三重に曲輪を連ねていたと推定され、断片的に土塁や空堀、水堀が残っている。地名としては、館・精進場・堀・木戸橋・堀向・竹の下（館の下と推定される）などがあり、北に古宿、新宿、北西に久保宿があり、城下集落と思われる。北側500mには城主里見氏が建立した普洞宗廣慶寺が位置し、その北方の小屋越と東方の坂場に館があったという。また、現在の国道50号線に沿った北東15kmの和尚塚、北西10kmの坂塚、そして、現在の県道193号線に相当する道路筋が、北東方向から來て低地を越え、小原地区の台地に上がる地点に相当する北東600mの橋場の三か所に見張り場を置いていたという（友都部1990、笠間市2011）。

全体的に、現在の国道50号線の通る北側と、北東方向に対する警戒が嚴重であるが、これは仮想敵の方向を暗示している可能性と、西側から南にかけてはかつて広大な湿潤帯であり、この方面的防御はあまり重要ではなかった地形的な要因も考えられる。

### 2. 行者遺跡検出遺構の構造

第1号溝は、南東から北西に7m延び、90°南東に折れて7m調査区外に続いている。上幅2.7～3.6m、下幅0.6～1.4m、深さ1.2～1.4mを測り、縦面に不規則にピットが穿たれている。カワラケ、銭貨、馬銭などが出土しており、16世紀の所産と考えられる。

1号堀は、確認された範囲では、北西から南東方向に全長93mにわたり掘削されており、調査区外南東方向にさらに続いているものと思われる。幅は25から27m、深さは2m内外を測る。断面形は、底幅の狭い要研堀である。北西端は丘陵部の裾近くにまで延びており、この堀が丘陵下の緩斜面部の区画が目的であったことは明確である。また、北西端から45mの地点に、クランク状に堰を屈折させた折が設けられている。この折より南東方向の部分では、堀が半ば近くまで埋没した時点で、葦茂木のようなものが構築されていたと推定されるピット群が検出されている。

主な出土遺物は、洪武通宝や内耳鉢、古瀬戸鉢皿などである。形状や出土遺物から、16世紀に掘られた防備のための掘り削りと考えられる（土生ほか前掲書）。

共に断片的な検出であり、軸方向及び断面構造も違うため、この二つの遺構が同一河時期のものと判断するのは拙速であるが、共通点として16世紀代の遺物を持ち、横欠掛けを意図した折れ構造を取っている。そして第1号溝跡は、現在は盛土されているが、北側にあった東の低地から西の廣慶寺に向けて入り込んでいた谷津方向に偏えており、同様に東から北東の低地方向に偏えていた1号堀との関連性を想起させる。

### 3. 小原城と周辺遺跡発見の羽跡

第1号溝跡と1号堀は、小原城の主郭より北東に500m、外郭の虎口と想定される下丁壹付近からも300mと、いわゆる小原城の城内とされる範囲の外側に位置している。このことから、これらの堀は、廣慶寺や城下の集落を北東方向からの敵襲から防護するための施設と考えられる。遺構自体は断片的な検出に過ぎないため、この堀が直ちに小原の城下集落を包摵する悲構を形成していたとは断定できない。しかし先述のように、小原城そのものが、主に北東方向に対して幾重にも防御線を形成していた点を踏まえるならば、集落の防護方



第149図 小原城と周辺の堀

向も同様であったと考えるのが妥当であろう。

また、行者遺跡より東の低地を挟んだ対岸900mに位置する塙谷遺跡では、東側の低地部から台地に上がってきた地点において同様の遺構が確認されている（常深ほか2011）。

南北方向に延びる5、8・9号溝がそれに相当する。前者が長さ60m、上面幅0.4～1.3m、下面幅0.3～1m、深さ20cm以下で、底面に不規則なピットが多数穿たれている。後者は、8号溝を9号溝が埋める新旧関係ではあるが併走し、長さ66～70m、上面幅が1～2m、下面幅が0.3～1m、深さが36～91cmを測る断面逆台形の大溝で、底面にはやはり不規則にピットが穿たれる。5号溝南端と8・9号溝北端との間に、4mほどの幅で地山が掘り残された部分があり、そこに対して東側の低地から延びる7号溝が取りついていた。この7号溝は、全長29.4m、上面幅2～28m、下面幅0.3～15m、深さ10～65cmを測り、底面が厚く硬化していたことから、道路としての利用が想定されている（常深ほか前同書）。遺物については、7号溝の覆土中より13世紀後から14世紀前半の常滑窯の口縁部片が出土している。

これらの遺構は、行者遺跡の堀と比較すると規模は劣るもの、その立地や方向、逆戻木の構築も想定できる点などを含めて、同様の意図を持った構築物である可能性が考えられる。構築時期については、断面形などから1号堀に先行する可能性があるものの、小原城と城下集落の前衛防衛線的な位置付けをできるのではないだろうか。

近年、主に鹿児島地方の戦国期の城館において、城郭より離れた位置に単独で所在する堀切や土塁などが多く報告されている（石崎2006・2007・2012、芳賀ほか2009など）。これらは、街道を閉塞・遮断する他、城下集落の防衛線などの目的があったものと推定されているが、1号堀や塙谷遺跡の溝群についても同様の機能があった可能性がある。

#### 4. 小原地区の中世的景観

鹿島神宮造営費用調達のため、常陸国内の財力のある者（富裕仁）75名を書き上げた、永亨7年（1435）8月9日付の「常陸國中富裕仁等入数注文」に、「志多利柳郷 右衛門三郎 里見四郎知行」と記述がある。「志多利柳郷」は小原地区に比定されており、当地域に「富裕仁」が存在していたことがわかる。「右衛門三郎」なる者がどのような階層の人物かは判然としないが、当時の「有徳人」或いは「富裕仁」と呼ばれた人々は、金融業や水運業者、有力農民、官途名を名乗るような有力武士や役人、僧侶や神官などが多くいたという（友部町2000、笠間市2011）。また「富裕仁」の居住地が霞ヶ浦を中心とした「常海の内海」やそこに繋がる河川流域とかなり重複している点から、流通経済の担い手であった「海夫」（漁労・舟運など多角的経営を行なう海の民）の有力者から成長したものが含まれていた可能性が高い（市村2007）。

小原地区は、現在でも北に国道50号線、南に常磐線が通過する交通の要衝であり、中世段階では、陸路のみならず、西北方向以外は全て低湿地に囲まれた半島状の地形であるという立地から、沼澤前川を中心としたかつての湿地帯から下流で沼沢に至り、太平洋とも繋がる水運のネットワーク上に位置していたと想像される。「右衛門三郎」は、こうした環境の中で富を蓄積したのではないかと思われる。

小原神社所蔵の室町時代の作とされる宝塚印塔8基なども、当該期の活発な経済活動を物語るものとして捉えられる（笠間市前同書）。

発掘調査において中世の痕跡が確認された事例としては、行者遺跡の東方対岸400mに位置する長峰西遺跡があげられる。ここでは地下式坑や土坑、ピット、溝などが検出され、カワラケ、内耳鍬、陶器器、茶臼などが出土した（大賀ほか2010）。

また先述の堀谷遺跡では、前記の滝のほか、地下式坑7基、土坑2基、井戸3基などが検出され、カワラケや内耳鍬、古瀬戸や常滑の陶器類が出土した（常深ほか2011）。

行者遺跡の北西上の丘陵に位置する寺上遺跡では、土師質土器や陶器が出土した（松田ほか2012）。

このように、小原盆地では、低地に面した台地先端部に沿って中世の遺構が比較的多く確認されている。水田耕作の便と、交通の要衝であったことがその背景にあると思われる。

この小原を15世紀前半に押領したのが、里見氏であった。

#### 5. 小原城主里見氏について

里見氏は、新田義宗の庶長子義俊を祖とし、上野国郡永郡里見郷を本貫地とする新田氏の一族である。その末裔は、上野を始め越後や美濃に広がり、新田氏に従い南朝方として行動するが、一方で北朝方に属する者たちもいた（館山市立博物館2000）。常陸守柳郷（高萩市）の地頭であった里見刑部少輔家基もその系統であり、鎌倉公方足利持氏の奉公衆として、反持氏方の山入一揆の鎮圧に活躍した。特に依上城（大子町）の攻略の功により、永亨元年（1429）那珂西郡に所領を与えられた。当時、小原は志多利（柳）郷と呼ばれて那珂西郡に属していたが、家基は、弟（叔父とも）の民部少輔満俊（致）をこの地に置いて支配に当たらせたという（『新編常陸國誌』、高萩市1969ほか）。

因みにこの家基は、同11年の水戸の乱において、持氏に殉じて鎌倉に死すとも、嘉吉元年（1441）の結城合戦において討死したともいうが、その逸児が安房に逃れて同地を平定。戦国大名房総里見氏の祖となった義実と言われている（館山市立博物館前同書）。

小原城主の里見氏は、演後以降の動向は不明確であるが、永亨7年（1435）8月9日付の「常陸國中富裕仁等入数注文」に、「志多利柳郷 右衛門三郎 里見四郎知行」とあり、この「里見四郎」が満俊（致）かその次代であろう。

文亀2年（1502）（或いは大永5年（1525）とも）、里見七朗義俊が、豪堂社を崩山として曹洞宗住吉山小原院慶慶寺を創建したという（『内原町史』『新笠間市史』）。そしてこの頃、館を中心とした小原城の整備を行い、坂場、和尚塚、橋場（不戸場）の三か所に見張り場を置いたという。この義俊は、宍戸大田町の豪福守仁王像の文明12年（1480）2月付胎内墨書き紙片に「源義俊、子息二郎義治、並に三郎里景、豊正元殿」とあり、宍戸氏の当主で豊那の持里、持久ら宍戸一族に次いで記載されている（『友部町史』）。

このことから、嫡流は安房里見氏や常陸佐竹氏と同様に「義」の字を通字としている一方、二男以下の「甲」

の字は、宍戸持里よりの偏諱と思われ、宍戸氏との一定の主従関係もうかがうことができる。いずれにせよ、寺社の建立・修築や、城館の整備など、義後の時代が小原里見氏の盛期であったことは間違いないであろう。

この後の里見氏の動向は不明である。『友部町史』では、後年の作ではあるが、天文年間（1532～1555）の宍戸氏の軍事編成を知る手がかりとして『小田一門家風記』を引用している。これによると、宍戸城主宍戸政家の旗下に、岩間、真家、市原らの館主が列記されているが、その中に小原、長兎路などの館（城）主の記載がみられない点から、「小原のほか、長兎路、仁古田、柏井あたりはこの頃勢力を拡大しつつあった江戸氏の支配下にくみいれられていたことによるのではなかろうか」としている。

また『内原町史』所収の「江戸氏旧臣録」という後年の史料には「二百貫 小原村 飯島伊豆」という記載があり、小原村内に江戸氏の家臣飯島氏の知行地が設定されている。これは、拡大しつつある江戸氏の勢力が宍戸氏の領域にも及び、同氏を併呑する勢いを示している（『岩間町史』）と思われる。里見氏については、後年のものではあるが、江戸氏旧臣鈴木家所蔵文書の家臣団書き上げ中に「小原 里見四郎殿」とある（『内原町史』）。同史料にある他の江戸氏家臣と違い、「殿」付けで敬称されている点からみて、元々古河公方の直臣たる奉公衆であったという家格の高さをうかがわせ、また依然として小原に在城していたことを示すものと理解される。慶長3年（1598）10月、江戸重時は亡命先の結城で自害するが、その際に殉死した16名の江戸旧臣中に「里見阿波守」が存在する（『前同書』）。

これらの点から、典拠は明確ではないが天正19年（1591）秋に佐竹氏により滅ぼされた（茨城県教育委員会1985）とされる里見氏は、おそらく16世紀に入り、主家の宍戸氏に江戸氏の影響が強く及ぶに従い、江戸領と境目であるという立地からも、次第にその支配下に入ったものと思われる。そして、天正末年の江戸氏滅亡に伴って佐竹氏の掃討を受け、小原城で滅亡ないし同地を追われたものと推測されるが、詳しい史料はなく詳細は不明である。いずれにせよ、小原城はこれ以後廃城となつたものと思われる。

#### 6. 周辺諸勢力との関係と小原城の位置付け（第2図）

第2図で示したように、宍戸城を中心とした15世紀代の宍戸氏領国の中において、規模構造や立地からいつても、小原城は北から東にかけての「境目の城」として位置付けられる。

そして小原地区の北東に位置するのは、水戸の江戸氏、そして佐竹氏である。小原里見氏が属する宍戸氏は、この両者とある時は緊張状態にあり、後に同盟、姻戚、そして被官化という道筋を辿る。15世紀末から16世紀半ばにかけては、共に拡大政策をとる小田氏と江戸氏の対立が深刻であり、小田支族の宍戸氏としては、宗家と共に行動している。以下、歴史的事例を抽出する（友部町1990、内原町1996、岩間町2002、笠間市2011など）。



第150図 宮戸荘と主な城館（友部町 1990年に加筆）

文明13年（1481）5月、南下する江戸通長は小幡城を攻め、小幡氏は同族である小田成治に援軍を委請。成治は宍戸、笠置、小栗、貞壁、大塚氏などの連合軍3千で小幡原（茨城町）において合戦に及んだ。双方に死傷者多数を出したが、結局小幡氏は江戸氏に従属した。この戦いにおいて、宍戸持久は、小田方の主代を務めたという。

享禄4年（1531）2月、鹿子原（石岡市）において、小田政治は江戸通雅を破る。

天文15年（1546）5月、小田政治は、府中大塚慶幹の攻撃に出陣。江戸氏の救援を得た大塚氏に鬼塚坂（石岡市）で敗退される。宍戸持里も小田方に出陣するが、家老以下多数の死者を出す。

永禄5年（1562）10月、小田氏治の後北条氏彌を受け、佐竹義昭は宍戸氏との所領境へ出兵し圧力をかけた。これ以降、宍戸氏は佐竹方に帰属する。

このように、宍戸氏は小田氏を支える一方で、台頭著しい江戸氏と大きく境を接している以上、同氏との友好路線を模索する必要があり、16世紀に入り宍戸政家、政里の2代にわたり江戸氏と姻戚関係を結び、自家の保全を図っていた。特に、政里の養子となった義綱は、江戸一族で小原にも近接する羅源氏から迎えられており、天正18年（1590）12月の江戸氏滅亡に際しては、佐竹軍に急襲された同氏の援軍として出兵し、勝倉（ひたちなか市）において戦死している。

宍戸氏そのものは、佐竹方であった一族の義利が維持存続しているが、江戸氏や義綱と関係が深かった小原見氏は追討を受けたのではないかと思われる。

先にみたように、16世紀の前半ごろ里見義俊が小原城と城下を整備したのは、小幡原合戦前後の拡大する江戸氏に対し、宍戸領の北東「境目の城」として備えるためであったと考えられる。しかしこれ以降、宍戸氏及び城主の里見氏が、佐竹氏とそれに「一家同位」である江戸氏に従属していく過程において、「境目の城」としての役割は失っていったものと考えられる。いずれにせよ、最終的には齊戸方向であった佐竹氏により小原城と里見氏の命運は立たれてしまった。

（小野）

#### （参考文献）

- 石崎勝三郎 2006 「鹿行地方の程切状遺構と新堀・大堀」（茨城城郭研究会 2006『図説茨城の城郭』国書刊行会）  
2007 「地名の向こうに遺構が見えた」（『茨城県考古学協会誌 第19号』 茨城県考古学協会）  
2012 「常陸合地上の堀切遺構」（『中世城郭研究』第26号 中世城郭研究会）
- 古村高男 2007 「内海論からみた中世の東北」（『中世東北の内海世界』 高志書院）
- 茨城県教育委員会 1985 「重要遺跡調査報告書Ⅱ（城館跡）」  
茨城県中世考古学研究会 2006 「茨城県の中世居館」（『茨城県考古学協会誌 第17号』 茨城県考古学協会）  
岩間町史編さん委員会 2002 『岩間町史』・岩間町  
内原町史編さん委員会 1996 『内原町史 通史編』 内原町  
大賀健はか 2010 『長峰峠遺跡』 笠間市教育委員会 有限会社勾玉工房Mogi  
笠間市史編さん専門委員会 2011 『新 笠間市の歴史』 笠間市教育委員会  
芳賀友博 須賀川正一 杉澤季展 2009 『小幡城跡 前新堀遺跡 前新堀B遺跡 訓訪山塚群 藤山塚』 東茨城自動車道水戸線（茨城IC～茨城JCT）建設事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ 茨城県教育財團  
査報告第314集・財团法人茨城県教育財團  
高萩市史編纂専門委員会 1969 『高萩市史 上巻』 高萩市役所  
館山市立博物館 2000 『さとみ物語 戰国の房総に君臨した里見氏の歴史』  
常深尚はか 2011 『猪谷遺跡2』 笠間市教育委員会 有限会社毛野考古学研究所  
友部町史編さん委員会 1990 『友部町史』・友部町  
土生明治はか 2011 『行者遺跡』 笠間市教育委員会 有限会社毛野考古学研究所  
宮崎報恩会 1976 『新編常陸國志』・滝書房  
松川政基はか 2012 『守上遺跡』 笠間市教育委員会 有限会社毛野考古学研究所

# 写 真 図 版

PL1  
寺上遺跡



調査区全景

PL2

寺上遺跡



D区全景



E区全景



F区全景



第1号住居跡完掘状況（南東から）



第1号住居跡土層（南から）



第1号住居跡竪穴状況（南東から）



第1号住居跡ピット2土層（北東から）



第2号住居跡完掘状況（南から）



第2号住居跡遺物出土状況（南から）



第2号住居跡土層（南東から）



第2号住居跡竪穴状況（南東から）

PL4

寺上遺跡



第2号住居跡竪土層（南東から）



第2号住居跡竪断ち割り（南東から）



第2号住居跡ピット5土層（東から）



第2号住居跡ピット3土層（東から）



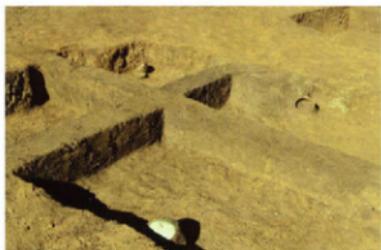
第3号住居跡完掘状況（南から）



第3号住居跡出土状況（南から）



第3号住居跡出土状況（南東から）



第3号住居跡土層（南西から）



第3号住居跡竪坑完掘状況（南から）



第3号住居跡竪坑遺物出土状況（南から）



第3号住居跡竪坑土層（南東から）



第4号住居跡竪坑完掘状況（南から）



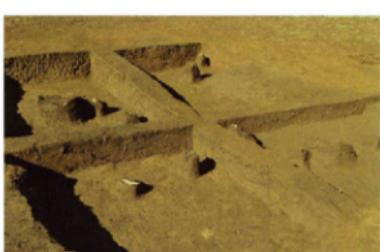
第4号住居跡竪坑遺物出土状況（南から）



第4号住居跡竪坑遺物出土状況（北西から）



第4号住居跡竪坑遺物出土状況（南から）



第4号住居跡土層（南西から）



第4号住居跡方土層（南から）



第5号住居跡完掘状況（南東から）



第5号住居跡遺物出土状況（南から）



第5号住居跡遺物出土状況（南東から）



第5号住居跡土層（南から）



第5号住居跡竪完掘状況（南東から）



第5号住居跡竪土層（南東から）



第5号住居跡竪方土層（南から）



第6号住居跡完掘状況（南東から）



第6号住居跡竈土層（南東から）



第6号住居跡ピット1土層（東から）



第7号住居跡完掘状況（南から）



第7号住居跡遺物出土状況（南から）



第7号住居跡遺物出土状況（南から）



第7号住居跡遺物出土状況（南から）



第7号住居跡土層（南東から）



第8号住居跡完掘状況（南から）



第8号住居跡遺物状況（南から）



第8号住居跡遺物出土状況（北から）



第8号住居跡遺物出土状況（南から）



第8号住居跡遺物出土状況（北から）



第8号住居跡遺物出土状況（南東から）



第8号住居跡土層（東から）



第8号住居跡土層（南東から）



第8号住居跡竪完掘状況（南から）



第8号住居跡竪遺物出土状況（南から）



第8号住居跡竪土層（南東から）



第8号住居跡竪土層（南から）



第9号住居跡完掘状況（南から）



第9号住居跡ピット1土層（北東から）



第9号住居跡ピット2土層（北東から）



第9号住居跡竪完掘状況（南から）

PL10

寺上遺跡



第10号住居跡完掘状況（南から）



第10号住居跡遺物出土状況（南から）



第10号住居跡遺物出土状況（南西から）



第10号住居跡土層（南から）



第11号住居跡完掘状況（南東から）



第11号住居跡遺物出土状況（南東から）



第11号住居跡遺物出土状況（北東から）



第11号住居跡遺物出土状況（北東から）



第11号住居跡土層（南から）



第11号住居跡ピット1土層（北東から）



第11号住居跡ピット3土層（北東から）



第11号住居跡竈完掘状況（南東から）



第11号住居跡遺物出土状況（南東から）



第11号住居跡竈土層（南東から）



第12・59号住居跡完掘状況（南東から）



第12・59号住居跡土層（東から）

PL12

寺上遺跡



第59号住居跡竪完掘状況（南から）



第13号住居跡完掘状況（南東から）



第13号住居跡土層（南東から）



第14号住居跡完掘状況（南から）



第14号住居跡ピット1土層



第14号住居跡竪完掘状況（南から）



第15号住居跡完掘状況（南東から）



第15号住居跡土層（南西から）



第15号住居跡竈完掘状況（南東から）



第16号住居跡完掘状況（南東から）



第16号住居跡土層（南東から）



第16号住居跡遺物完掘状況（北東から）



第16号住居跡竈完掘状況（南東から）



第17号住居跡完掘状況（南東から）



第17号住居跡遺物出土状況（南東から）



第17号住居跡遺物出土状況（北東から）

PL14

寺上遺跡



第17号住居跡土層（北東から）



第17号住居跡ピット2土層（北東から）



第17号住居跡ピット3土層（北東から）



第17号住居跡竪坑完掘状況（南東から）



第17号住居跡竪坑土層（西から）



第17号住居跡竪坑方土層（南東から）



第18号住居跡完掘状況（南東から）



第18号住居跡土層（北東から）



第18号住居跡竪完掘状況（南東から）



第18号住居跡竪土層（南から）



第19号住居跡遺物出土状況（南東から）



第19号住居跡土層（西から）



第19号住居跡遺物出土状況（南東から）



第19号住居跡遺物出土状況（南東から）



第19号住居跡土層（西から）



第20号住居跡完掘状況（南東から）

PL16

寺上遺跡



第20号住居跡遺物出土状況（南東から）



第20号住居跡土層（南西から）



第21号住居跡完掘状況（南東から）



第21号住居跡竪坑完掘状況（南から）



第21号住居跡土層（南から）



第22号住居跡完掘状況（南から）



第22号住居跡遺物出土状況（南東から）



第22号住居跡遺物出土状況（南から）



第22号住居跡土層（西から）



第22号住居跡竪完掘状況（南から）



第22号住居跡土層（南から）



第23・24号住居跡完掘状況（南東から）



第23・24号住居跡掘方完掘状況（南から）



第23・24号住居跡土層（南西から）



第23号住居跡完掘状況（南南東から）



第23号住居跡土層（北東から）



第23号住居跡ピット2（北東から）



第23号住居跡ピット3土層（北東から）



第24号住居跡竪穴状況（南西から）



第24号住居跡竪穴層（南東から）



第24号住居跡竪穴層（西から）



第25号住居跡完掘状況（南東から）



第25号住居跡土層（南東から）



第25号住居跡ピット4土層（北東から）



第25号住居跡完掘状況（南東から）



第25号住居跡遺土層（東から）



第26号住居跡遺物出土状況（南南東から）



第26号住居跡土層（北東から）



第28号住居跡完掘状況（東から）



第28号住居跡遺物出土状況（南東から）



第28号住居跡遺物出土状況（南東から）



第28号住居跡土層（北東から）



第29号住居跡完掘状況（南西から）



第29号住居跡土層（南東から）



第29号住居跡ピット3土層（北東から）



第29号住居跡ピット4土層（北東から）



第29号住居跡土層（西から）



第29号住居跡竈完掘状況（南西から）



第29号住居跡竈土層（南から）



第30号住居跡完掘状況（南東から）



第30号住居跡土層（東から）



第30号住居跡竪完掘状況（南東から）



第30号住居跡竪土層（南東から）



第31号住居跡遺物出土状況（南から）



第31号住居跡遺物出土状況（南東から）



第32号住居跡完掘状況（南から）



第32号住居跡竪完掘状況（南から）



第32号住居跡竪土層（南から）



第33号住居跡完掘状況（南から）



第33号住居跡土層（東から）



第35号住居跡完掘状況（西から）



第35号住居跡遺物出土状況（西から）



第35号住居跡遺物出土状況（南東から）



第35号住居跡土層（南から）



第35号住居跡竈完掘状況（西から）



第35号住居跡竈土層（南西から）



第36号住居跡完掘状況（南から）



第36号住居跡竪完掘状況（南から）



第36号住居跡遺物出土状況（南から）



第36号住居跡竪土層（東から）



第37号住居跡遺物出土状況（南から）



第37号住居跡土層（南から）



第38号住居跡完掘状況（南西から）



第40号住居跡遺物出土状況（南から）



第40号住居跡土層（東から）



第40号住居跡遺物出土状況（南東から）



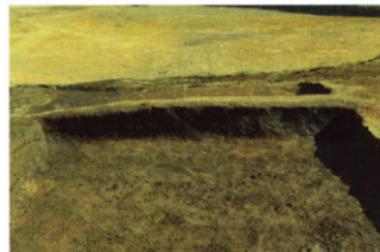
第40号住居跡土層（東から）



第41号住居跡遺物出土状況（南から）



第41号住居跡遺物出土状況（東から）



第41号住居跡土層（西から）



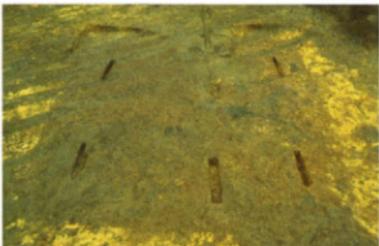
第42号住居跡遺物出土状況（南西から）



第42号住居跡遺物出土状況（北東から）



第42号住居跡遺物出土状況（南東から）



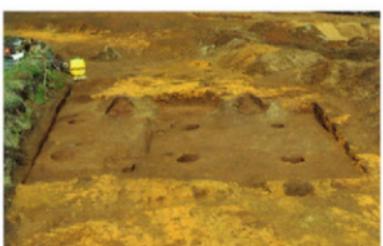
第43号住居跡完掘状況（南から）



第43号住居跡土層（東から）



第43号住居跡竪完掘状況（南から）



第44・45号住居跡完掘状況（南東から）



第44・45号住居跡遺物出土状況（南東から）



第44号住居跡遺物出土状況（南東から）



第44号住居跡遺物出土状況（東から）



第44号住居跡遺物出土状況（北から）



第44号住居跡遺物出土状況（北東から）



第44号住居跡遺物出土状況（北から）



第45号住居跡遺物出土状況（南東から）



第45号住居跡遺物出土状況（東から）



第45号住居跡土層（南から）



第45号住居跡遺物出土状況（南東から）



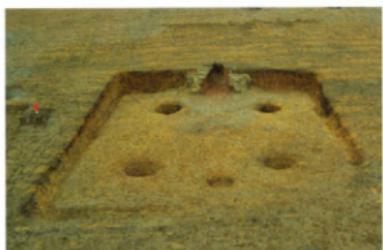
第45号住居跡土層（南から）



第52号住居跡完掘状況（南から）



第52号住居跡土層（東から）



第53号住居跡完掘状況（南から）



第53号住居跡遺物出土状況（南東から）



第53号住居跡遺物出土状況（南東から）



第53号住居跡遺物出土状況（東から）



第53号住居跡土層（南東から）



第53号住居跡土層（南東から）

PL28

寺上遺跡



第53号住居跡ピット4土層（北東から）



第53号住居跡竪坑完掘状況（南から）



第53号住居跡竪坑遺物出土状況（南から）



第53号住居跡竪坑土層（南東から）



第53号住居跡竪坑方土層（北西から）



第54号住居跡完掘状況（南東から）



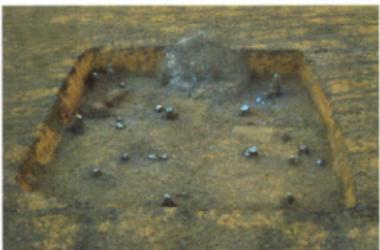
第55号住居跡完掘状況（北東から）



第55号住居跡土層（南東から）



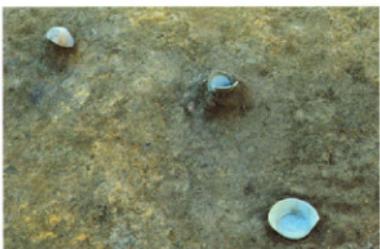
第56号住居跡完掘状況（南から）



第56号住居跡遺物出土状況（南東から）



第56号住居跡遺物出土状況（東から）



第56号住居跡遺物出土状況（東から）



第56号住居跡遺物出土状況（東から）



第56号住居跡遺物出土状況（北東から）



第56号住居跡土層（南東から）



第56号住居跡ピット2土層（北東から）

PL30

寺上遺跡



第56号住居跡ピット3土層（北東から）



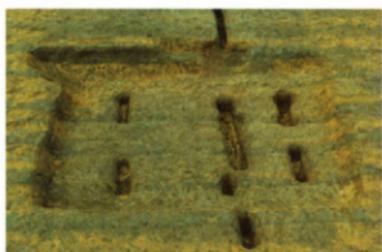
第56号住居跡竪坑完掘状況（南から）



第56号住居跡竪坑土層（南東から）



第56号住居跡竪坑方土層（西から）



第57号住居跡完掘状況（南から）



第57号住居跡土層（南東から）



第57号住居跡竪坑完掘状況（南東から）



第58号住居跡完掘状況（南から）



第58号住居跡遺物出土状況（南から）



第58号住居跡遺物出土状況（南西から）



第58号住居跡土層（南東から）



第58号住居跡ピット2（南東から）



第58号住居跡竪穴掘状況（南から）



第58号住居跡土層（北東から）



第60号住居跡完掘状況（南から）



第60号住居跡土層（東から）



第60号住居跡竪坑完掘状況（南から）



第60号住居跡遺物出土状況（南から）



第60号住居跡竪坑土層（北東から）



第61号住居跡完掘状況（南東から）



第61号住居跡遺物出土状況（南から）



第61号住居跡遺物出土状況（南から）



第61号住居跡竪坑完掘状況（南東から）



第62・63号住居跡完掘状況（南から）



第62・63号住居跡遺物出土状況（南から）



第62号住居跡遺物出土状況（南から）



第63号住居跡竪掘方状況（南東から）



第64号住居跡完掘状況（南東から）



第64号住居跡遺物出土状況（北西から）



第64号住居跡遺物出土状況（北東から）



第64号住居跡竪掘状況（南東から）



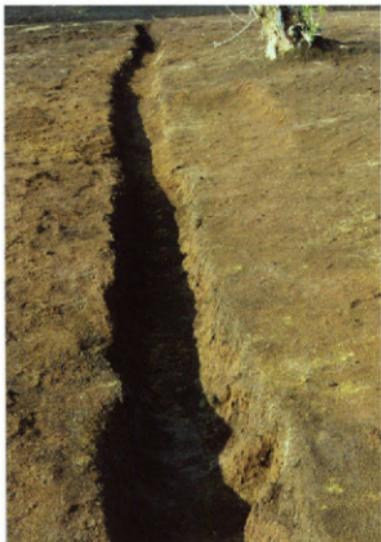
第64号住居跡土層（東から）



第5・6号溝跡完掘状況（東から）



第5号溝跡土層（南から）



第7号溝跡完掘状況（北から）



第9号溝跡完掘状況（南西から）



第7号溝跡土層（東から）



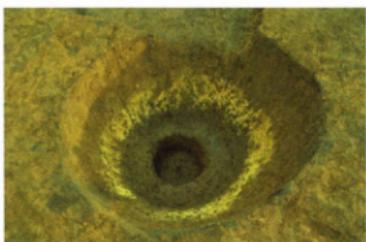
第9号溝跡土層（北東から）



第1号柵列完掘状況（東から）



第1号柵列ピット1土層（東から）



第1号土坑完掘状況（北から）



第1号土坑遺物出土状況（南西から）



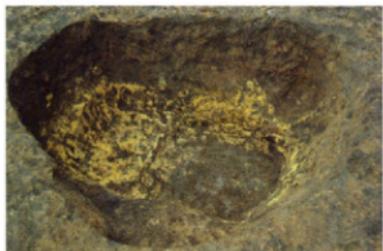
第1号土坑遺物出土状況（南から）



第1号土坑土層（西から）



第2号土坑完掘状況（西から）



第3号土坑完掘状況（南東から）



第6号土坑完掘状況（南から）



第7・8号土坑完掘状況（北から）



第9号土坑完掘状況（東から）



第11号土坑完掘状況（南東から）



第34号土坑完掘状況（南東から）



第34号土坑土層（南から）



第36号土坑完掘状況（北から）



1 (1住)



2 (1住)



3 (2住)



4 (2住)



5 (2住)



6 (2住)



7 (2住)



8 (2住)



9 (2住)



10 (2住)



11 (2住)



14 (3住)



12 (2住)



9 (2住)



16 (3住)



13 (2住)



17 (3住)



18 (3住)



19 (3住)



20 (3住)



21 (3住)



22 (3住)



21 (3住)



25 (4住)



24 (3住)



26 (4住)



27 (4住)

PL40

寺上遺跡



28 (4住)



29 (4住)



30 (4住)



32 (4住)



35 (4住)



36 (5住)



33 (4住)



34 (4住)



37 (5住)



38 (5住)



39 (5住)



40 (5住)



41 (5住)



42 (5住)



43 (5住)



44 (5住)



46 (5住)



47 (5住)

PL42

寺上遺跡



48 (5住)



49 (5住)



50~52 (5住)



53 (5住)



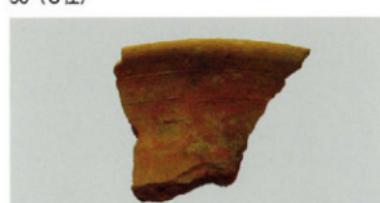
54 (6住)



56 (6住)



58 (6住)



57 (6住)



60 (7住)



63 (7住)



64 (7住)



65 (7住)



66 (7住)



67 (8住)



68 (8住)



69 (8住)



70 (8住)

PL44

寺上遺跡



71 (8住)



72 (8住)



74 (8住)



75 (8住)



77 (8住)



78 (8住)



79 (8住)



80 (8住)



81 (8住)



82 (8住)



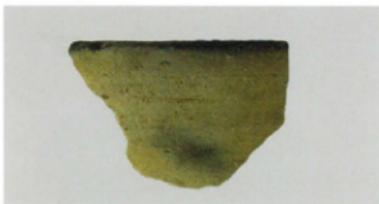
86 (9住)



87 (10住)



88 (10住)



89 (10住)



90 (10住)



91 (10住)



92 (10住)

PL46

寺上遺跡



93 (10住)



94 (10住)



95 (10住)



96 (11住)



98 (11住)



97 (11住)



99 (11住)



102 (11住)



100 (11住)



105 (11住)



106 (11住)



107 (12住)



108 (12住)



111 (13住)



112 (13住)



110 (12住)



113 (14住)



114 (14住)

PL48

寺上遺跡



115 (14住)



116 (15住)



117 (15住)



118 (15住)



119 (16住)



120 (16住)



121 (16住)



122 (16住)



123 (17住)



124 (17住)



125 (17住)



128 (17住)



126 (17住)



129 (17住)



127 (17住)



132 (18住)



130 (17住)



131 (17住)

PL50

寺上遺跡



133 (18住)



135 (18住)



136 (18住)



137 (18住)



138 (18住)



139 (18住)



142 (18住)



140 (18住)



141 (18住)



148 (19住)



144 (18住)



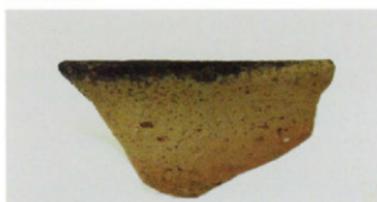
143 (18住)



147 (19住)



149 (19住)



146 (19住)

PL52

寺上遺跡



150 (20住)



151 (20住)



152 (20住)



153 (20住)



156 (22住)



154 (21住)



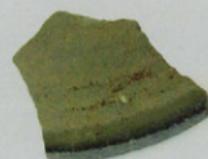
157 (22住)



158 (22住)



159 (22住)



160 (22住)



PL54

寺上遺跡



176 (23住)



177 (23住)



178 (23住)



166 (24住)



167 (24住)



168 (24住)



179 (25住)



181 (25住)



182 (25住)



183 (25住)



186 (26住)



187 (26住)



188 (26住)



189 (26住)



191 (26住)



192 (26住)



193



194 (26住)



197 (27住)



195 (26住)



198 (27住)



195 (26住)



199 (27住)



200 (27住)



201 (28住)



202 (28住)



204 (28住)

206 (28住)



205 (28住)



208 (29住)



209 (29住)



210 (29住)



211 (29住)



212 (29住)



214 (30住)



213 (29住)



215 (30住)



216 (30住)



217 (30住)



218 (31住)



219 (31住)



220 (31住)



221 (31住)



222 (31住)



223 (31住)



224 (31住)



225 (31住)



226 (32住)



227 (32住)



229 (32住)



230 (32住)



229 (32住)



231 (32住)



233 (33住)



234 (34住)



235 (34住)



236 (35住)



237 (35住)

PL60

寺上遺跡



238 (35住)



239 (35住)



240 (35住)



241 (35住)



243 (35住)



244 (35住)



242 (35住)



245 (35住)



245 (35住)



246 (36住)



248 (36住)



249 (37住)



250 (37住)



251 (37住)



252 (38住)



253 (40住)



254 (40住)

PL62

寺上遺跡



255 (40住)



259 (41住)



255 (40住)



258 (40住)



262 (41住)



262 (41住)



263 (41住)



268 (42住)



264 (41住)



269 (42住)



265 (41住)



270 (42住)



266 (41住)



271 (42住)



267 (41住)



272 (42住)



273 (42住)



275 (42住)



274 (42住)



276 (42住)



274 (42住)



277 (42住)



278 (42住)



281 (44住)



279 (42住)



281 (44住)



280 (43住)



282 (44住)



285 (44住)



283 (44住)



286 (44住)



284 (44住)



286 (44住)



284 (44住)



291 (44住)



292 (44住)

PL66

寺上遺跡



287 (44住)



墨書「七家」



288 (44住)



289 (44住)



290 (44住)



墨書「七



290 (44住)



293 (44住)



296 (44住)



297 (44住)



298 (44住)



300 (44住)



303 (45住)



304 (45住)



305 (45住)



304 (45住)



306 (45住)



307 (45住)



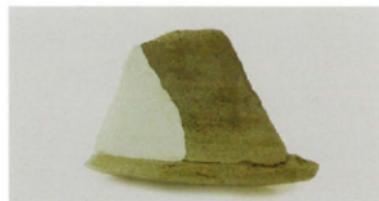
308 (45住)



310 (45住)



311 (52住)



313 (45住)



314 (48住)



315 (51住)



316 (52住)



317 (52住)



318 (52住)



324 (53住)



319 (52住)



325 (53住)



320 (53住)



327 (53住)



320 (53住)



328 (53住)



321 (53住)



329 (53住)



322 (53住)



330 (53住)



323 (53住)



331 (53住)



332 (53住)



333 (53住)



334 (53住)



335 (53住)



336 (53住)



337 (53住)



339 (53住)



340 (53住)



339 (53住)



341 (55住)



343 (56住)



344 (56住)



345 (56住)



346 (56住)



347 (56住)



348 (56住)



349 (56住)



352 (56住)



351 (56住)



352 (56住)



350 (56住)



354 (56住)



353 (56住)



355 (56住)



363 (57住)



360 (56住)



359 (56住)



361 (56住)



364 (57住)



367 (58住)



368 (58住)



369 (58住)



370 (58住)



372 (58住)



373 (58住)



374 (58住)



375 (58住)



376 (58住)



377 (58住)



379 (58住)



380 (58住)



381 (58住)



382 (58住)



383 (58住)



384 (58住)



385 (58住)



387 (58住)



386 (58住)



388 (58住)



389 (58住)



390 (58住)



392 (58住)



391 (58住)



392 (58住)



393 (59住)



394 (59住)



395 (59住)



396 (60住)



397 (60住)



398 (60住)



399 (60住)



400 (60住)



401 (60住)



402 (60住)



403 (60住)



404 (60住)



405 (61住)



406 (61住)



408 (61住)



407 (61住)



410 (62住)



411 (62住)



412 (62住)



413 (62住)



414 (62住)



418 (62住)



417 (62住)



419 (62住)



420 (62住)



421 (62住)



422 (63住)



423 (63住)



424 (64住)



425 (64住)



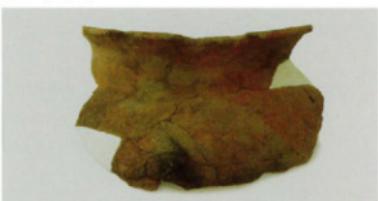
426 (64住)



427 (64住)



429 (64住)



430 (64住)



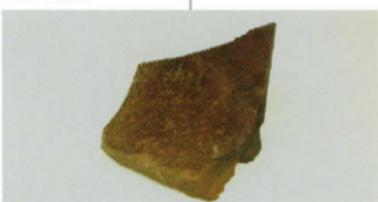
464 (5溝)



433 (7溝)



465 (7溝)



433 (7溝)

PL80

寺上遺跡



434 (1 土坑)



435 (1 土坑)



436 (1 土坑)



437 (1 土坑)



438 (1 土坑)



439 (1 土坑)



440 (1 土坑)



441 (1 土坑)



440 (1 土坑)



442 (1 土坑)



443 (1土坑)



444 (1土坑)



445 (1土坑)



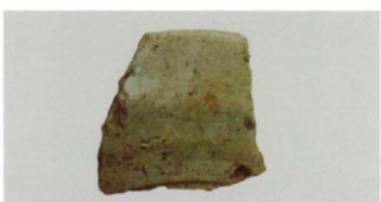
446 (1土坑)



447 (1土坑)



448 (1土坑)



449 (2土坑)



450 (2土坑)



451 (2土坑)



453 (6土坑)

PL82

寺上遺跡



454 (遺構外)



455 (遺構外)



456 (遺構外)



457 (遺構外)



458 (遺構外)



458 (遺構外)



459 (遺構外)



463 (遺構外)



遺構外（絵文 1～17）



中・近 1



中・近 3



中・近 1



中・近 6



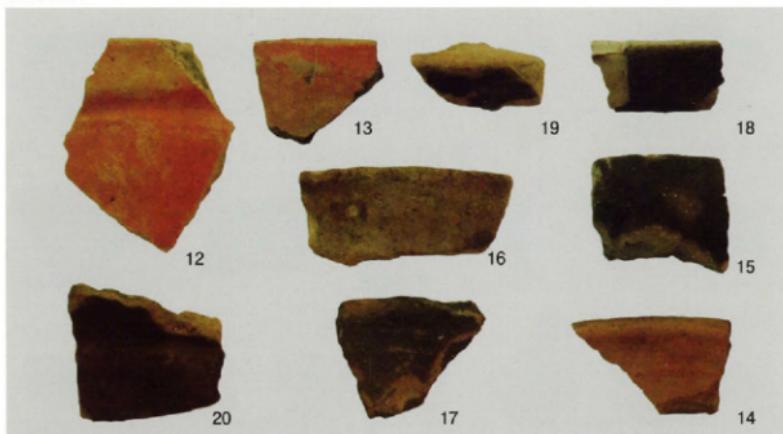
中・近 1



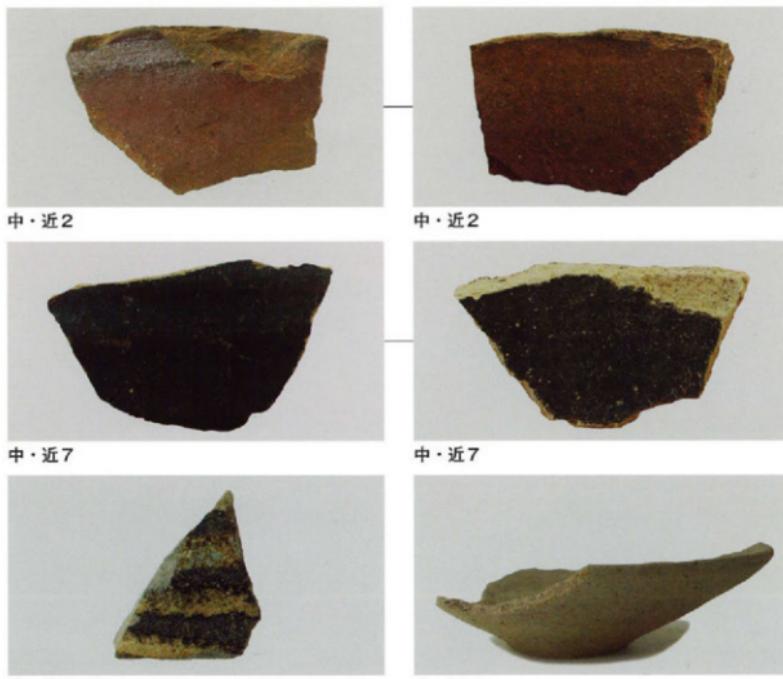
中・近 8

PL84

寺上遺跡



遺構外[鍋類] (中・近12~20)







第1号住居跡遺物出土状況（南から）



第1号住居跡層（南西から）



第1号住居跡遺物出土状況（南西から）



第2号住居跡層（北東から）



第2号住居跡層（北から）



第2号住居跡遺物出土状況（北から）



第2号住居跡遺物出土状況（北から）



第3号住居跡遺物出土状況（南から）



第3号住居跡層（南東から）



第3号住居跡遺物出土状況（西から）



第3号住居跡遺物出土状況（東から）



第1号溝跡完掘状況（西から）



第1号溝跡層（西から）



第1号溝跡ピット完掘状況（南から）



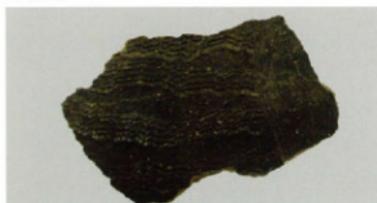
第2号溝跡完掘状況（西から）



第2号土坑完掘状況（南西から）

PL88

行者遺跡



1 (1住)



2 (1住)



3 (1住)



4 (1住)



5 (2住)



4 (1住)



8 (2住)



10 (2住)



10 (2住)



9 (3住)



11 (3住)



12 (3住)



9 (3住)



14 (1満)



15 (1満)



16 (1満)



17 (1満)



16 (1満)

## 報告書抄録

ふりがな	てらがみいせき2
書名	寺上遺跡2
副書名	県営畠地帯総合整備事業に伴う発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	笠間市文化財調査報告書
シリーズ番号	
権著者名	宮田和男、小野麻人、鹿島直樹
編集機関	関東文化財振興会株式会社
所在地	〒308-0846 茨城県筑西市布川1012
発行機関	笠間市教育委員会
所在地	〒309-1792 茨城県笠間市中央三丁目2番1号
発行年月日	平成25年3月15日

所取遺構名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
		市町村	遺跡番号						
寺上遺跡	笠間市小原 2331番地外	0832194		36° 22° 04°	140° 19° 23°	2011.10.25 ~ 2012.03.15	17.000 m <sup>2</sup>	県営畠地帯 総合整備事業	
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項				
寺上遺跡	集落	縄文時代 古墳時代 奈良・平安時代 中世・近世 不明	堅穴住居跡 堅穴住居跡 溝跡 土坑 溝跡 壙列 土坑 溝跡	8軒 53軒 1条 2基 2条 1列 39基 5条	土師器、須恵器、 土製品、鉄製品 土師器、須恵器、 灰陶陶器、瓦塔、 刀子、鐵矛 土師質土器、陶器 磁器、銭貨	獨立柱建物跡を伴う奈 良・平安時代の集落遺跡 で、三脚継斜面に立地 する。7世紀に集落が誕 生し、9世紀頃に最盛期 を迎え、10世紀に消滅す る。9世紀代には瓦塔の 瓦蓋部や墨書き器、刀 子等が出土している。			

## 報告書抄録

ふりがな	ぎょうじやいせき2								
書名	行者遺跡2								
副書名	県営畠地帯総合整備事業に伴う発掘調査報告書								
巻次									
シリーズ名	笠間市文化財調査報告書								
シリーズ番号									
権著者名	加藤忠、佐々木藤雄、小野麻人								
編集機関	関東文化財振興会株式会社								
所在地	〒308-0846 茨城県筑西市布川1012								
発行機関	笠間市教育委員会								
所在地	〒309-1792 茨城県笠間市中央三丁目2番1号								
所取遺構名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
		市町村	遺跡番号						
行者遺跡	笠間市小原 2299番地外	08321093		36° 23° 49°	139° 52° 44°	2011.10.25 ~ 2012.03.15	1.200m <sup>2</sup>	県営畠地帯 総合整備事業	
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項				
行者遺跡	集落	弥生時代 古墳時代 中世・近世 不明	堅穴住居跡 堅穴住居跡 土坑 溝跡 溝跡	2軒 1軒 1基 1条 1条	弥生土器(壺) 土師器(戸器台) 土師質土器、陶器 馬骨塗	弥生時代後期の住居跡内 から十石台式土器が出 している。第1号溝跡は 江戸時代中期には埋没し ている。埴土からは馬骨 塗や土師質土器、陶器が 出土している。			

茨城県笠間市

寺 上 遺 跡 2  
行 者 遺 跡 2

県営畠地等総合整備事業に伴う発掘調査報告書

平成25年3月10日 印刷

平成25年3月15日 発行

編集 関東文化財振興会株式会社  
〒308-0846 茨城県筑西市布川1012  
電話 0296-28-7737 FAX 0296-28-7551

発行 笠間市教育委員会  
〒309-1792 茨城県笠間市中央一丁目2番1号  
電話 0296-77-1101

印刷 山三印刷株式会社  
〒311-4153 茨城県水戸市河和田町4433-33  
電話 029-252-8481

